2014
No.397
10

Tokyo Dental College Alumni Association













東京歯科大学同窓会会報

東京歯科大学同窓会会報　第397号

目　　次

グラビア　ふるさと自慢
　　会員往来
巻 頭 言……1
お知らせ……2～11
重点事業へのアプローチ……12～14
東京歯科大学同窓会創立120周年記念 ……15～20
会　　務……21～32
理事会のうごき……33～35
渉　　外……36
事業推進部……37～40
母校だより……41～43
準会員のページ……44～48
父兄会だより……49
追　　悼……50～51
支部のうごき……52～64
クラス会だより……65～69
OB 会・グループ・サークルだより ……70～71
庶務日誌……72～74
逝去会員……75
投稿規定……76
へんしゅうこうき……77

表紙写真の説明

東京歯科大学同窓会創立120周年記念　吉田東伍記念博物館
十二期会　　摩周湖
横浜南支部　　金沢区主催の花火大会
神奈川県支部連合　払沢（ほっさわ）の滝

東京歯科大学同窓会会報　第397号

目　　次

グラビア　ふるさと自慢
　　会員往来
巻 頭 言……1
お知らせ……2～11
重点事業へのアプローチ……12～14
東京歯科大学同窓会創立120周年記念 ……15～20
会　　務……21～32
理事会のうごき……33～35
渉　　外……36
事業推進部……37～40
母校だより……41～43
準会員のページ……44～48
父兄会だより……49
追　　悼……50～51
支部のうごき……52～64
クラス会だより……65～69
OB 会・グループ・サークルだより ……70～71
庶務日誌……72～74
逝去会員……75
投稿規定……76
へんしゅうこうき……77

表紙写真の説明

東京歯科大学同窓会創立120周年記念　吉田東伍記念博物館
十二期会　　摩周湖
横浜南支部　　金沢区主催の花火大会
神奈川県支部連合　払沢（ほっさわ）の滝

ふるさと自慢　～私のお気に入り～

昭和の雰囲気漂う階段と路地の街「荒木町」

四　谷　牛　込



現在の新宿区は昭和22年にかつての四谷・牛込・淀橋の３区が統合し新宿区として発足しました。当時の区分が引き継がれ新宿区の本学同窓会は，歯科医師会と同様に新宿支部(旧淀橋)・四谷牛込支部の２つの支部があります。四谷牛込支部はJR新宿駅から飯田橋駅付近の北側のエリアで，神宮外苑・防衛省・新宿御苑・神楽坂・新宿三丁目など都内でも沢山の人が集う場所がある地域です。私の住む荒木町は，その中にあっても昭和の街並みが残るすり鉢型の地形の中に個性ある飲食店が密集



写真１：四谷三丁目の交差点。角にある消防博物館は日中の毎正時には「からくり時計」が時間を知らせます。

し，テレビや雑誌でも時々取り上げられています。荒木町の入口は東京メトロの四谷三丁目，交差点にはヘリコプターをいただく消防博物館があり親子で楽しめるスポットです（写真１）。荒木町は新宿通りの南側で，旧松平摂津守の上屋敷があった地域です。その屋敷内には小さな谷を堰き止めて造った庭園と池があったそうですが，その池を底地として階段と細い路地でつながった街が広がります。池は宅地として埋め立てられながらも弁財天を有した「策（むち）の池」として残り，子供たちの遊び場になっています（写真２）。明治末，この池の界隈は高級な客を相手とする三業地として栄えました。三業地とは料理屋・待合（茶屋）・置屋（芸者屋）の三業が揃った遊興地を言います。当時13軒あった料亭はその姿がマンションに変っている所も多い中，その名残がある細い迷路のような路地に特徴ある飲食店が軒を連ね（一見では入りにくいかも…），夜は隠れ家的スポットとして賑わいを見せています。街のあちこちには昭和の面影がうかがえます。小道に使われている敷石は新宿通りを走っていた都電の敷石だったものです（写真３）。階段の多いことでも有名で写真の階段は「仲坂」と呼ばれ，その上の道は当時の池の堰だったところです。その階段の向こうにはすぐ防衛省の大きな電波塔が見える独特の風景です（写真４）。

坂が多いこの地域で，私の歯科医師会，保健センターへの移動や買い物に電動自転車は欠かせません。　（昭和63年卒　片倉孝子）



写真２：津の守弁財天がある「策（むち）の池」。今でも子供たちがザリガニ釣りをしています。



写真３：石畳の路地に小料理屋さんや個性的なスナックやバーが軒を連ねます。お値段は少々高めかも。



写真４：池に向かって長く伸びる「仲坂」。右下に見える定礎石に昭和８年敷設と記されています。正面には防衛省の電波塔がそびえ立ちます。

会　員　往　来

100マイルの世界

大多和　昌　彦（平成元年卒）

みなさまは100マイルと聞いて何を想像されるでしょうか？

１マイルが約1.6キロメートルですので，おおよそ160キロになり，東京からだと軽井沢を軽く越えてしまうほどの距離になります。

山の登り降りを繰り返しながら，この距離で合計では9,000メートルほどの高さを登るようなレース（もっと長くきついものも）が世界にはいくつかあります。足で走ることについてはマラソンなどと一緒ですが最近，日本でもブームのトレイルランニングとして紹介される種目です。

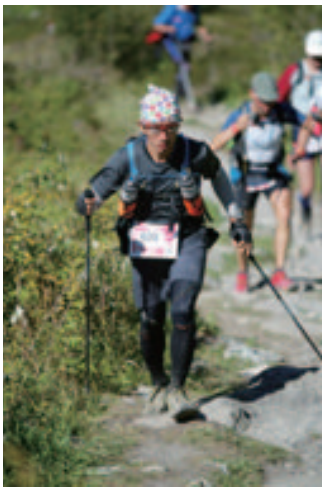
今回はヨーロッパアルプスにありますモンブランをぐるりと１周（166キロ，制限時間46時間でフランスからイタリア，スイスと周り再びフランスまで戻る）まわるウルトラ・トレイル・ド・モンブラン（一般的にはUTMBと呼ばれることが多いです）に２年にわたり参加した時のことなどについて書かせていただきます。

自分がこのレースの存在を知ったのは2008年頃に雑誌で見たのが最初でしたが，自分が参加することなど夢にも想いませんでした。2009年11月29日にNHKで放送された「激走モンブラン！」を見た時から気持ちが変わりました。スキー場以外は日本の山しか知らない自分にとって，信じられないような美しい景色の広がりと，そこに参加されている選手たちの表情（笑顔あり，苦痛あり，全ての人間の表情が数十時間の間に繰り返され凝縮されているように感じました）に感動してしまい，このレースには参加しないといけないと思い込み，情報を集め始めました。

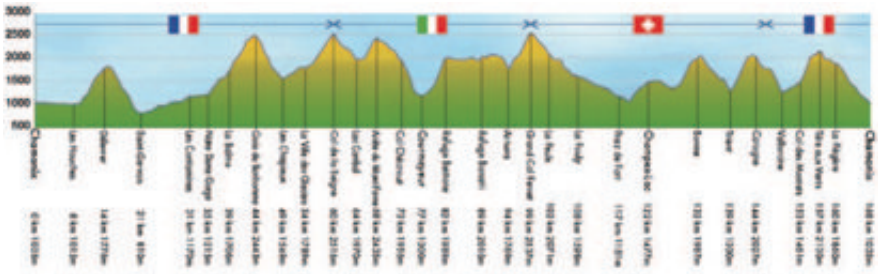
いろいろな出場条件（エントリーに関して抽選やら予選レースやら，いかに休みを取るかなど色々とあります）をこのレースへのチャレンジを機会に知り合った友人たちの助けのおかげで無事クリアして2010年８月末，無事にフランスはシャモニーのスタートラインに立つことができました。うちの奥方とも一度のわがままとお願いして挑んだレースでしたが，あろうことか21キロ進んだ第１関門時点で悪天候のため中止になってしまいました…。

この後，翌朝からスタートをイタリア側のクールマイヨールに移動し約88キロのレースとして後半部分を走れたのですが，21キロ＋88キロの距離では満足度も十分ではなく帰りの飛行機の中ではすでに翌年への課題を考えながら１年間の宿題を抱えての帰宅となりました。

一年が経ち2010年に参加し友人になった方の多くが2011年のスタートに立てたことは自分にとっては幸せなことでした。この年は３月11日に東日本を襲った大震災があり，多くの日本人参加者は日







本の元気さをアピールすることを決意していました。

装備に関してなどしっかりと作戦もたて，今年こそはと2011年８月26日午後６時30分のスタート時刻を待っていると，なんと低気圧が抜けるのを待つためスタート時刻を５時間遅らせると事務局から連絡が入りました。「まさか，またかよ」などと思いつつも，ここは２回目，慣れたもので暇をつぶしながら体を休め，小雨の中をなんとか午後11時30分，無事にスタート。昨年中止になったサン・ジェルベ（21キロ地点）を通過してここからが宿題の答え合わせとまだまだワクワク気分です。途中のボノム峠(45キロ地点標高2,443メートル）付近は吹雪いていて美しい雪景色を楽しみながらも，滑る雪面に注意しながらゆっくりと走ります。

冬景色と夏景色を繰り返しながら17時間ほどで昨年の再レーススタート地点のクールマイヨール（78キロ地点）に到着。残りの時間（29時間）と昨年の同コースでの経験（19時間台で完走）から怪我さえなければ完走はできるのではと甘い考えが出てきた瞬間でもありました（予想通り考えが甘かったです)。

その後も順調に補給と短い休養を取り，フラフラながらもシャンペ湖（123キロ地点）に到着，先着していた友人たちにも会いホッとしたのも束の間，悪天候の影響でコースの大幅な変更があり（しかもトータル距離，獲得標高共に若干増えている）と知らされ唖然！

計画の変更を余儀なくされ休憩もほどほどに知らないコースへと放り出されました。ここからの47キロは果てしなく下り，果てしなく登るを繰り返しで距離は伸びないのに時間と疲労は重なっていく厳しい時間帯になりました。すでに30時間以上も睡眠を取らずに動き続けているのでエネルギーは枯渇しているのですが薬を飲んでいても胃腸の動きがどうにも悪く，膝痛も重なり，どうにもペースが上がりません。それでもゆっくりと進み，残り15キロほどの街中に出ると他のレースに出ていた知り合いや応援に来ていた日本人の方に「完走おめでとう！」と言われ終盤という実感がわいてきました。とはいえ，相変わらず歩みは鈍くトボトボと進みます。数時間後にようやくシャモニーの街中に入ると本当に多くに方々に迎えていただきゴールまでの数分はかつてない興奮と感動が湧き上るのを感じられました。









長かった？旅はおわりました。日本に戻る飛行機の中では下半身の激しいむくみと痛みに悩まされましたが，ある意味心地好い疲労でもありました。

UTMBを機会にお知り合いになれた日本人のトップトレイルランナーの鏑木　毅氏に教えていただいた「楽しむ勇気！」（どんな苦しいことでも乗り越えていく楽しみがある，その苦しみは勇気をもって楽しめ！）をモットーに，世界には砂漠のマラソンや，果ては南極のマラソン。もっというならエベレスト登山まで遊びの延長でできることがいっぱいありますのでこれからも新しい遊びを見つけながら楽しんでいきたいと思います。

最後にテンションはだいぶ下がっておりますが2014年もアイアンマンジャパンをはじめ，いくつかのレースを楽しんでいます。一応仕事も歯科医師会会務もそれなりにはこなしているつもりですのでこちらの方もよろしくお願いいたします。

2011年 UTMB 結果

総 距 離　169.90Km
累積標高　9,586m
参 加 者　2,369名
完 走 者　1,133名
完 走 率　47.83%
参考日本人完走率　51%
大多和昌彦　43時間31分45秒
　　846位

巻　頭　言

今こそ…



副会長

浮　地　文　夫

日歯広報は，７月15日付（1625号）の１面に「組織存亡の危機打開に向け協議」という非常に衝撃的な見出しで，「未入会者対策の方向性」を確認した日歯の第176回定時代議員会の模様を伝えている。日歯の平成25年度の入会者数は1,100名で，退会・死亡退会・障害退会を合わせると1,115名となり，会員数は減少に転じた。日歯作成の報告書「会員数の将来予測（試算）について」によれば，2060年には会員数は半数以下に減少すると予測されている。また，超高齢化により終身会員が増加することや会員数の減少により，10年以内に単年度収支の赤字転落が見込まれるという。現在，日本には10万２千余名の歯科医師が存在しているが，日本歯科医師会の会員数は６万５千余名であり，組織率は約65％である。毎年２千名以上の歯科医師が誕生しているにも拘らず，会員数の減少が続けば，組織率は早晩50％を切るであろう。公益社団法人日本歯科医師会は，歯科医師という専門家を会員とする，日本で唯一の全国組織である。その組織率が低下した時，日本の歯科医療に対する発言力のみならず社会的信用の低下が起こることは明白である。

東京歯科大学同窓会の現況はどうであろうか。現在，会員数は9,066名であるが，支部加入者は5,669名，63％である。平成25年度の会費納入者は4,503名，前年度分，前々年度分の納入者を合算しても5,256名で，会費収入は9,500万円を切っている。平成27年度の事業計画，予算案の検討が始まっているが，本年度以上の厳しいものになるであろう。これも平成５年卒以後の同窓の支部加入率・会費納入率の低下が大きな要因と言える。さらに重要な事は，大学の医局員や研修医を除いた，勤務医や開業している若い同窓で，支部未加入者は歯科医師会にも未加入の人が多いことである。

明治36年11月に始まった，日本歯科医師会の前身「大日本歯科医会」の初代会長は高山紀斎先生であり，大正８年から昭和21年まで「日本聯合歯科医師会」,「日本歯科医師会」の会長を務められたのは血脇守之助先生である。

両先生は，日本の歯科医師の身分や業務の確立，口腔衛生の普及，学校歯科医制度の実現等に尽力された。まさに，日本歯科医師会を発展・維持してきたのは，我が東京歯科大学の同窓の先輩たちであると言っても過言ではないであろう。

もう，随分と前になるが，ある雑誌でプロフェショナルの定義について読んだことが有る。それによると

① 専門的知識・技術を充分持っていること。
② 自己研鑽し，常に新知識・技術の取得に努めること。
③ 自分の専門分野で社会に貢献すること。
④ 後進を指導し育成すること。

等が記されていた。まさに高山・血脇両先生の成された事が，プロの仕事と言えるだろう。縁あって歯科医師として，今に生きる我々もこれに続きたいものである。

矢﨑執行部は，準会員制度や新進会員制度を立ち上げ，若い同窓の同窓会への参画を促している。これは，まず同窓会本部に所属し，勤務先や帰省先が決定したら，支部にも歯科医師会にも加入して頂こうという考え方である。

また，同窓会創立120周年記念事業の一環として，アカデミア構想を考えている。これは，歯科医師としての専門的知識や技術の取得のみならず，社会人としての一般的素養の涵養，社会保障制度のあり方等の研究を通して，「歯科医である前に人間たれ」の具現化を目指すものであり，国手を目指す方策でもある。

我々は，誇れる歯科大学を卒業することが出来た。卒後も充分な研鑽を積み，真のプロフェショナルを目指す環境も整いつつある。同窓会の支部にも，歯科医師会にも加入し，今こそ，歯科界の未来の為に行動を起こすときであろう。

お　知　ら　せ

理事会より

●平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会が11月２日（日）に開催されます。
●今年は前年と異なり，如水会館（千代田区一ツ橋）にて午前10時より開催されますのでご注意ください。
●当日は昨年秋および本年度春の叙勲褒章の方々の顕彰を行います。あらかじめご了承ください。

同窓会事業・行事

●平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会
と　き　平成26年11月２日（日）　午前10時より
ところ　如水会館（千代田区一ツ橋２－１－１）
評議員会の傍聴を希望する会員の先生は，事前に事務局までご連絡ください。

●新進会員のつどい
と　き　平成26年11月30日（日）　午後１時より
ところ　東京歯科大学本館13階Ａ教室（懇親会：南棟６階会議室）

地域支部連合・支部関係

●支部長交代
平成26年４月１日付
福岡県支部　永江　健一　氏（昭53卒）
前支部長　石田　雅男　氏（昭44卒）

平成26年５月31日付
福島県支部　宍戸　計一　氏（昭49卒）
前支部長　佐藤　正矢　氏（昭53卒）

平成26年６月14日付
八南支部　高品　和哉　氏（昭60卒）
前支部長　浮地　文夫　氏（昭44卒）

母校関係行事・案内

●平成27年度東京歯科大学入学案内が母校だよりに掲載されています。
詳細は41～43ページをご覧ください。

大学創立120周年記念　水道橋校舎整備事業へのご寄付の御礼

会長　矢　﨑　秀　昭

前同窓会会長の大山先生の時から５年間，大学の120周年記念事業として，大学が水道橋に移転するに当たり，同窓の皆さまにご寄付のご依頼を申し上げてまいりました。大学としては，本学の中興の祖である血脇守之助先生の業績を末永く伝えるために，主として血脇記念ホールの建設のために，同窓の皆さまの貴重なる募金を使用させていただきました。

120年に及ぶ東京歯科大学の歴史を見てみますと，明治44年に建築された専門学校の校舎が，大正11年の関東大震災で全て焼失したのち，血脇先生の呼びかけに応じ，多くの同窓の寄付により，東洋一を誇る水道橋校舎が完成されています。昭和33年には，大学院の創設のため水道橋校舎に隣接して新館が，やはり多くの同窓の資金的協力により建設されました。

さらに昭和56年に大学の千葉への移転に伴う，同窓会設立80周年記念募金事業にも多くの同窓からの募金が寄せられています。そして平成22年から開始された，水道橋校舎建設のための大学創立120周年記念事業募金計画に対しても，同窓会としても最大限の協力をすることとなり，同窓の皆さまに募金の協力をお願い申し上げてまいりました。

平成26年３月末に今回の募金活動は一旦，区切りとさせて戴きました。現在の歯科界の大変厳しい社会的状況の中において，昭和５年の卒業の方から平成24年の卒業生まで，実に80年間以上におよぶ卒業生の方からご寄付を賜わっております。このことは如何に本学の同窓が，母校であります東京歯科大学を熱烈に愛し，更なる発展を期待しているかのお気持ちの表れと思います。

加えて同窓会の各支部，連合会，クラス会や各種 OB 会からも寄付が寄せられ，誠に有り難く，深く感謝申し上げます。今回の会報にご寄付を賜わった方々のお名前を記載し，大学及び同窓会として心から深謝を申し上げます。さらに，大学においてはご寄付賜わった方々のお名前を記した銘盤を作製し，末永く感謝の気持ちを伝え続けることとなっています。

現在，当初からの移転計画に沿って，大学では引き続き，本館の西側の土地を取得し，西棟の建設が急ピッチで行われています。西棟は主に水道橋病院の口腔外科の手術室，外来診療室，学生のセミナー室および同窓の先生方の談話室に使用される予定です。

しかしながら，東日本大震災の復興事業や東京オリンピック，国の経済政策や消費税の大幅な増税などのために，現在，異常に建築費が高騰し，この西棟の建築についての財政状況は誠に厳しいものとなっています。引き続き東京歯科大学があらゆる面で日本一の歯科大学として存在し続け，東歯の同窓である誇りを持ち続けられるよう，同窓の皆さまによる大学への財政的な支援体制を，今後とも続けて行くことが是非とも必要となっている状況です。

今後とも引き続き大学，同窓会へご支援を賜わりますよう宜しくお願い申し上げます。

水道橋校舎施設整備寄付金　寄付者名簿（同窓）

平成26年３月31日現在
（卒年別・50音順・敬称省略）

昭05　谷　忠明
昭09　三好　春航
昭12　松木　朝夫
昭14　小早川　博
昭14　添田壽一郎
昭15　坂本　豊美
昭15　坪田　實
昭16　雨宮　彦一
昭16　安藤　正
昭16　井上　良和
昭16　柏村　彰
昭16　国島　義郎
昭16　小谷　元治
昭16　鈴木　省三
昭16　田中　進
昭16　西尾吉兵衛
昭16　布施　祐一
昭17　大野　実
昭17　岡田　進
昭17　高橋　立夫
昭17　山﨑　薫
昭18　菊池　文雄
昭18　小林　温雄
昭18　佐藤　貞勝
昭18　塩田　尚文
昭18　菅沼　孝夫
昭18　田中　堅一
昭18　福間　公介
昭19　飯田　精一
昭19　佐藤　曄
昭19　杉山　博重
昭19　鈴木　貞雄
昭19　陳　茂棠
昭19　橋本　京一
昭19　水野　敏郎
昭19　山根　照人
昭20　植野　忠道
昭20　國米　資康
昭20　斎藤　仁見
昭20　白崎　源有
昭20　波多野　弘
昭20　藤井　春彦
昭22　一戸　俊治
昭22　笠井　通男
昭22　蒲　郁次朗
昭22　河合　俊輔
昭22　貴島　亨
昭22　佐川　巖
昭22　佐藤　勤
昭22　澤田善太郎
昭22　瀬尾　正巳
昭22　田熊庄三郎
昭22　田村　陽
昭22　長山　陽吉
昭22　成富　延治
昭22　根本　卓光
昭22　三輪　英武
昭22　山本　一成
昭22　渡部　幸男
昭23　石井　欣一
昭23　石田　喜之
昭23　伊藤　昭文
昭23　緒形　巧
昭23　近藤　清
昭23　坂井　榮隆
昭23　杉山　浩一
昭23　中久喜　喬
昭23　長田　稔
昭23　野本　種邦
昭23　林　和男
昭23　平野　博
昭23　福岡　明
昭23　三宅　直晴
昭23　屋代　義文
昭24　熱田俊之助
昭24　池田　治美
昭24　井上　裕
昭24　遠藤　雅夫
昭24　大森　一知
昭24　落合　英生
昭24　神山　五郎
昭24　神山　敏男
昭24　後藤　次夫
昭24　齋藤　久
昭24　杉山　邦夫
昭24　鈴木　義政
昭24　高市　正浩
昭24　高森　四朗
昭24　長井　義博
昭24　原田　忠彦
昭24　堀　将
昭25　天野　琢也
昭25　大山　萬夫
昭25　小倉　信
昭25　女川　清
昭25　川上　正義
昭25　川越　武久
昭25　川島　康
昭25　齊藤　季夫
昭25　佐藤　泰彦
昭25　白須賀正樹
昭25　鈴木　長
昭25　高原　映忠
昭25　田代　教平
昭25　中尾　俊郎
昭25　西村　秀祐
昭25　林　晉
昭25　堀　春男
昭25　松井　義典
昭25　守友　恒明
昭25　森山　徳長
昭26　貝塚　雅信
昭26　桑田　昇
昭26　山下　正雄
昭26　横井　隆一
昭27　伊藤　浩
昭27　岡野徳一郎
昭27　加藤　富榮
昭27　川本　尚志
昭27　北野　晋一
昭27　齋藤　英輔
昭27　佐藤　実
昭27　鈴木　晃治
昭27　中島　善和
昭27　濵田　康彦
昭27　牧野　久子
昭27　柳川　昭
昭27　和田　但磨
昭28　相田　英孝
昭28　香山　和美
昭28　坂田　三弥
昭28　多胡　彬
昭28　見明　清
昭28　矢野　潤介
昭28　山本　勝一
昭28　吉田　浩
昭29　酒井　雄学
昭29　髙添　一郎
昭29　髙田　恬
昭29　髙橋　一夫
昭29　日比　栄一
昭29　本間　菖平
昭30　秋野　博尚
昭30　足代　弘文
昭30　石川　達也
昭30　梅宮　猛
昭30　江﨑梅太郎
昭30　大橋　昭
昭30　恩田　千爾
昭30　笠井　康弘
昭30　須佐美康治
昭30　髙砂　昌行
昭30　高山　良光
昭30　中西　亨之
昭30　鳴神　保雄
昭30　花井　正二
昭30　花井美智子
昭30　町田　幸雄
昭30　森井　信行
昭30　吉成　邦雄
昭31　伊藤　成章
昭31　伊藤　修一
昭31　宇佐美雅弘
昭31　氏家　英峰
昭31　神山　翁
昭31　川越　文雄
昭31　北村　晴彦
昭31　小橋　暁
昭31　田代　亘
昭31　田山　俊二
昭31　中西　憲正
昭31　西山　成實
昭31　野口八九重
昭31　古田　一男
昭31　松本　圭司
昭31　湯澤　哲郎
昭32　麻生　奏
昭32　井口　由彰
昭32　池上　英雄
昭32　石崎　護
昭32　伊藤　郁雄
昭32　犬飼　啓元
昭32　大國　勉
昭32　大國　連子
昭32　落合　雅雄
昭32　小沼　武
昭32　河田　誠作
昭32　京嶋　佑幸
昭32　清信　弘雄
昭32　小林　広康
昭32　渋川　義昭
昭32　新谷　政彦
昭32　高橋　一祐
昭32　髙橋　標
昭32　藤原　雅和
昭32　古川　司郎
昭32　山之内正高
昭32　吉木　周作
昭33　淺井　康宏
昭33　飯嶋　謙治
昭33　五十嵐敏三
昭33　今泉　功
昭33　小川　陽市
昭33　川口　晃司
昭33　君塚　忠男
昭33　楠崎　渥
昭33　谷本　健二
昭33　寺本　康郎
昭33　中村　昭仁
昭33　服部　玄門
昭33　松尾　學
昭33　道脇　公一
昭33　村田佐ぶん
昭33　山内　静
昭33　吉田　滋美
昭34　青戸　泰吉
昭34　青野　幸雄
昭34　内田　宏
昭34　喜田　正昭
昭34　小海　優子
昭34　杉原　伸顯
昭34　鈴木　貞夫
昭34　高梨　恒一
昭34　髙橋　和人
昭34　武田　慎午
昭34　田中　延佳
昭34　中川　暁
昭34　中川　武憲
昭34　鍋谷　聖道
昭34　延島　三男
昭34　松山　陽一
昭34　間宮　亨
昭34　水川　秀海
昭34　山田　勝朗
昭34　山田　貢
昭34　横矢　重忠
昭34　渡辺　吉明
昭35　飯田　正一
昭35　飯田　凉二
昭35　伊東　兼明
昭35　内田　俊之
昭35　内田　宏
昭35　奥川　澄夫
昭35　菊池　豊
昭35　熊谷　謙二
昭35　黒田　哲生
昭35　腰原　好
昭35　早乙女　通
昭35　櫻井　善忠
昭35　鈴木　英生
昭35　須田　晃
昭35　髙階　皓三
昭35　長井　正行
昭35　長谷川　誠
昭35　三野　亨子
昭35　宮下　恒太
昭35　柳川　貴美
昭35　渡辺　典子
昭36　飯田　昭
昭36　板倉　克明
昭36　一色　泰成
昭36　伊藤　正通
昭36　大津　憲一
昭36　大塚　亨
昭36　近江　誠一
昭36　小川　弘
昭36　笠原　亨
昭36　柏瀬　昌世
昭36　金子　弘
昭36　斉藤　直身

昭36　鈴木　祐司
昭36　高橋　信治
昭36　多田　寛子
昭36　田中　耕誠
昭36　長澤　宥
昭36　古堅　英信
昭36　細山　愃
昭36　森　政成
昭36　森脇　久雄
昭36　山際　貞男
昭37　梅田　尚夫
昭37　大鶴　悦晴
昭37　片桐　重雄
昭37　金山　公彦
昭37　金山　良子
昭37　岸田　允
昭37　栗山　豊実
昭37　小室　甲
昭37　志水　透
昭37　添島　義和
昭37　高江洲義矩
昭37　高梨　玲子
昭37　中井　一仁
昭37　堀　光成
昭37　松坂　泰
昭37　皆葉　壽樹
昭37　宮島　一郎
昭37　森下昭十三
昭37　山内　英徳
昭37　山崎　頼任
昭37　山田　洋文
昭37　山本　貞之
昭37　横田秋三朗
昭37　若月　英三
昭38　縣　昌子
昭38　荒木　賢
昭38　池田　武
昭38　犬飼　康元
昭38　岡本　秀
昭38　小田　明江
昭38　小野寺寛造
昭38　笠原諏訪子
昭38　鹿島　隆雄
昭38　北川　守信
昭38　久保田　晃
昭38　小平　崇
昭38　後藤　譲治
昭38　小山　昌道
昭38　菅田　博子
昭38　須佐　昭彦
昭38　進来　実
昭38　鈴木　康夫
昭38　高橋　昭一
昭38　高橋　宏光
昭38　武石　醇作
昭38　釣谷　東民
昭38　中川　武幸

昭38　中村　博
昭38　西山　弘
昭38　廣田　稔
昭38　前田　耕道
昭38　松田聰一郎
昭38　松村　雄郷
昭38　柳　清二
昭38　山田　道夫
昭39　秋山　博右
昭39　岩柳　義之
昭39　笠原　文武
昭39　柏木　勝
昭39　片倉　恵男
昭39　勝畑　知雄
昭39　川嶋　勲
昭39　熊澤　満夫
昭39　齋藤　哲
昭39　酒井　福義
昭39　佐藤　昭雄
昭39　佐藤惠利子
昭39　島田　英明
昭39　鈴木　尚
昭39　住吉　辰郎
昭39　高田　敬義
昭39　高橋　明宏
昭39　髙橋　愼一
昭39　田口　耕右
昭39　竹内　忠彦
昭39　竹山　隆芳
昭39　谷　光明
昭39　丹野　研
昭39　中江千万紀
昭39　半田　忠龍
昭39　樋口　光代
昭39　平井　泰征
昭39　平山　紀昭
昭39　増田　紀男
昭39　三吉聖一朗
昭39　森　隆
昭39　山元　雍久
昭39　吉澤　信夫
昭39　若井　永
昭40　縣　信哉
昭40　浅野　薫之
昭40　稲垣　一臣
昭40　臼井　久雄
昭40　沖　光博
昭40　小沼　洋子
昭40　加藤　和子
昭40　神谷　龍司
昭40　亀本　興紀
昭40　河内　博
昭40　島　重夫
昭40　白石二美子
昭40　鈴木　茂久
昭40　鈴木　義隆
昭40　髙橋　諄吉

昭40　田村　俊晶
昭40　西田　久美
昭40　丹羽ひさゑ
昭40　野村　浩
昭40　原　肇
昭40　堀内　守和
昭40　南　忠興
昭40　村上　圭
昭41　藍原　繁樹
昭41　青木　榮夫
昭41　池田　洋洲
昭41　石内　可城
昭41　岩沼　甫
昭41　上竹　成一
昭41　上野　眞人
昭41　宇美　房英
昭41　大内　秀哉
昭41　小川　敏彦
昭41　奥山　誠
昭41　笠原　正行
昭41　城所　繁
昭41　佐藤　悠三
昭41　柴山謹一郎
昭41　清水　康
昭41　高木　瑞穂
昭41　髙橋　捷治
昭41　田中　紀夫
昭41　田中　令子
昭41　對馬　具海
昭41　長山　誠之
昭41　難波　修
昭41　野坂久美子
昭41　野坂洋一郎
昭41　信森　浩一
昭41　橋本　高明
昭41　藤井　康博
昭41　細田　幸平
昭41　武藤　章美
昭41　八百枝　勝
昭41　安田　以久
昭41　山田　紀夫
昭41　渡辺　英人
昭42　赤穂　英生
昭42　飯島　和彦
昭42　池田　恒彦
昭42　稲森幾多郎
昭42　今村　幸男
昭42　海老原典子
昭42　及川　澄江
昭42　大石　孝弘
昭42　大岡紀一郎
昭42　大澤　武雄
昭42　小貫　克
昭42　垣花　博子
昭42　加藤　強
昭42　川田　守徳
昭42　川野未禧朗

昭42　川村　康中
昭42　黒須　誠
昭42　合田　功
昭42　古賀　克隆
昭42　佐古　紘胤
昭42　佐藤　潔
昭42　清水　由美
昭42　杉村　俊之
昭42　関谷　和夫
昭42　曽我部　勉
昭42　高垣　順吉
昭42　高橋潤一郎
昭42　髙橋　利武
昭42　立川　潤
昭42　田能村宣久
昭42　兒野　喜穂
昭42　中川　勝洋
昭42　中川　正晴
昭42　中島　史和
昭42　中村　秀勝
昭42　西川　吉博
昭42　野上　宏一
昭42　野村　昭子
昭42　林　翔
昭42　松本　信彦
昭42　宮地　建夫
昭42　宗本　匡由
昭42　村居　正雄
昭42　村田　憲美
昭42　森下　洋
昭42　矢﨑　秀昭
昭42　山口　秀晴
昭42　山中　喜夫
昭43　上田尚一郎
昭43　浦井　照彦
昭43　宇留賀　勝
昭43　長内　直美
昭43　門平忠一郎
昭43　上條　智生
昭43　北總　征男
昭43　小竹　勝也
昭43　小早川　清
昭43　佐伯　和彦
昭43　佐藤　英樹
昭43　佐藤　征紀
昭43　澁谷　國男
昭43　住田　彰弘
昭43　関　暁子
昭43　関　泰忠
昭43　高梨　薫敏
昭43　高橋　博水
昭43　田中　將夫
昭43　田部　和彦
昭43　千葉　光行
昭43　長久保文夫
昭43　中村　文子
昭43　成田　賢二

昭43　早川　進
昭43　古谷　忠雄
昭43　細井　達之
昭43　前田　昇
昭43　松川　公敏
昭43　森原　久樹
昭43　渡辺　眞光
昭44　青木　誠
昭44　安齋　勲
昭44　石田　雅男
昭44　入江　哲
昭44　上田　喜清
昭44　浮地　文夫
昭44　内山太一郎
昭44　大谷　武彦
昭44　緒形　毅
昭44　柿澤　卓
昭44　川本　強
昭44　北村　博文
昭44　小坂　肇
昭44　小杉　国武
昭44　下江信太郎
昭44　末藤久美子
昭44　鈴木　雅夫
昭44　髙市　武
昭44　髙木ミサヨ
昭44　髙木　勇蔵
昭44　高山　暉邦
昭44　竹上　勝夫
昭44　竹田　進
昭44　田部　照子
昭44　柘植　敏生
昭44　中川　杉生
昭44　中田　金一
昭44　西川　忠弘
昭44　根津　浩
昭44　橋本　佳潤
昭44　原　武仁
昭44　深水　征人
昭44　藤森　敏昭
昭44　夫馬　眞也
昭44　星野　征弘
昭44　穂積　良治
昭44　三田　勇夫
昭44　森下　正教
昭44　山中　武久
昭44　山根　康雄
昭44　吉武　勝
昭45　板垣　光信
昭45　大澤　勤
昭45　大橋　隆道
昭45　小幡　直樹
昭45　加藤　勝基
昭45　金川　直博
昭45　栗山　雄治
昭45　郷土　純久
昭45　古賀忠佳子

昭45　古賀　正忠
昭45　齋藤　利明
昭45　作間　敏信
昭45　髙橋　靖宗
昭45　田原　邦昭
昭45　塚田　光弥
昭45　西川　　明
昭45　西村　元宏
昭45　沼澤　　博
昭45　林　　克宏
昭45　林　　玲子
昭45　兵藤　正帛
昭45　福田　壽一
昭45　藤山　正之
昭45　馬橋　亟男
昭45　宮地　　繁
昭45　山崎　宣夫
昭45　山本　悦秀
昭45　山本　俊雄
昭45　山本美智子
昭46　阿部　晴弘
昭46　天野　静子
昭46　加藤木　健
昭46　北村　真也
昭46　熊谷　俊明
昭46　小池平一郎
昭46　小池　瑞穂
昭46　小宮山彌太郎
昭46　佐瀬　俊之
昭46　高梨　遙美
昭46　髙橋　哲夫
昭46　中條　良文
昭46　林　　克典
昭46　春山　良夫
昭46　平地　茂雄
昭46　福原　清行
昭46　松崎　紘一
昭46　松田竹比虎
昭46　馬渕　量平
昭46　宮田　　保
昭46　守谷　　正
昭46　山本　昭彦
昭47　青木　憲雄
昭47　阿武野弘信
昭47　新井　京子
昭47　五十嵐　栄
昭47　池田　信治
昭47　池田千恵子
昭47　石井　　裕
昭47　市川　　豊
昭47　井出　良子
昭47　鵜沢　文彦
昭47　江里口　彰
昭47　大峰　秀樹
昭47　鏡　　宣昭
昭47　加藤　裕康
昭47　菊池　亮三
昭47　北浦　利明
昭47　坂井　　清
昭47　佐々木髙憲
昭47　佐々木脩浩
昭47　佐々木紀子
昭47　塩崎　一秀
昭47　鈴木　常夫
昭47　関戸　幹夫
昭47　添島　正和
昭47　谷　　繁信
昭47　玉井　達人
昭47　寺田　　誠
昭47　中西　哲生
昭47　中西　敏也
昭47　中山　友春
昭47　西岡　　学
昭47　西川　文雄
昭47　西村　比志
昭47　西村　亮介
昭47　林　　甫
昭47　原　　健一
昭47　広瀬　　秀
昭47　藤井　一彦
昭47　船越　良一
昭47　夫馬　俊男
昭47　松木　英作
昭47　村上　芳一
昭47　森　　喜郎
昭47　森岡　俊介
昭47　安井　　晃
昭47　山田源一郎
昭47　山田　茂子
昭47　山地　良子
昭47　吉田　昊哲
昭47　渡辺　冨裕
昭48　赤田　留吉
昭48　秋草　裕民
昭48　麻生　　博
昭48　井口　俊介
昭48　伊藤　利明
昭48　猪原　信俊
昭48　緒形　恵子
昭48　岡野　祐三
昭48　荻原　英生
昭48　加藤　敬介
昭48　金子　完子
昭48　北川　達雄
昭48　齋藤　秀子
昭48　佐藤　秀夫
昭48　塩崎　昭美
昭48　鈴木　一雄
昭48　髙橋　義一
昭48　永田　賢司
昭48　並木　　恒
昭48　西宮　　寛
昭48　根岸　康雄
昭48　根岸　淑子
昭48　萩原　義久
昭48　林　るり子
昭48　日浅　新三
昭48　平尾　文昭
昭48　藤本　俊治
昭48　古井　　瞭
昭48　前田由美子
昭48　松永　良治
昭48　三宅　史丈
昭48　宮本　宣良
昭48　矢﨑　宣利
昭48　山下　敏明
昭48　山本　和恵
昭48　和田　　健
昭49　荒川　幸雄
昭49　石塚　　勇
昭49　石塚　一美
昭49　石橋　　彬
昭49　井上三四郎
昭49　歌野原　実
昭49　内田　信友
昭49　梅村　長生
昭49　太田　昭二
昭49　大塚　信郎
昭49　岡野　順子
昭49　奥野　和志
昭49　小野寺鏡子
昭49　小野寺宣夫
昭49　加藤　成俊
昭49　小鹿　典雄
昭49　小徳　省三
昭49　小柳　嘉久
昭49　坂井　　治
昭49　佐藤　英俊
昭49　宍戸　計一
昭49　高井　勇学
昭49　高宮紳一郎
昭49　田中　一秀
昭49　玉井　久貴
昭49　玉川　　博
昭49　知野　彰一
昭49　寺岡　洋一
昭49　中嶋　和久
昭49　中野　一博
昭49　成川　元章
昭49　野間　　博
昭49　早速　晴邦
昭49　藤井　秀世
昭49　藤原　　彰
昭49　本田　富彦
昭49　宮井　義博
昭49　宮地　洋子
昭49　村松　英昭
昭49　森田　康夫
昭49　安田　順一
昭49　楊井　　孝
昭49　山﨑　康夫
昭50　朝波　雄二
昭50　伊東　　哲
昭50　岩田　康一
昭50　大塚　　隆
昭50　大野　勝己
昭50　大橋　　擁
昭50　勝又　　修
昭50　加藤　誠康
昭50　神田　潤二
昭50　菊地　　香
昭50　菊地　善郎
昭50　鯨井　正夫
昭50　小島　正裕
昭50　酒井　和正
昭50　鮫島　道幸
昭50　清水　英男
昭50　杉浦　正人
昭50　須田　　希
昭50　髙野　一夫
昭50　高宮真里子
昭50　立木　　健
昭50　栂安　秀樹
昭50　寺本　信三
昭50　戸田　徳和
昭50　成瀬　　健
昭50　新倉　良一
昭50　西　　孝一
昭50　野津　秀郎
昭50　橋田　　薫
昭50　濱田　孝一
昭50　林　　邦幸
昭50　日野原　博
昭50　平戸　正文
昭50　藤井　寛昭
昭50　藤居　正博
昭50　藤原　元幸
昭50　古屋　　忠
昭50　正岡　勇記
昭50　松下　　茂
昭50　松原　秀憲
昭50　三木　純子
昭50　三木　正夫
昭50　村田憲一郎
昭50　森田　芳和
昭50　森本　　伸
昭50　八百枝正樹
昭50　山﨑　安仁
昭50　吉田　　豊
昭50　吉嶺　　光
昭50　和田　大海
昭51　新垣　元洋
昭51　伊東　　励
昭51　大塚　哲也
昭51　小川　克昌
昭51　沖　　義一
昭51　鏡　　一郎
昭51　亀井　英志
昭51　川上　映子
昭51　川上　清一
昭51　木俣　　茂
昭51　葛　　正博
昭51　国島真希子
昭51　久保　博英
昭51　河野　幸壱
昭51　古賀　景二
昭51　後藤　文崇
昭51　小林　正仁
昭51　笹本　純一
昭51　塩崎　泰雄
昭51　島田　洋次
昭51　瀬尾宰一郎
昭51　髙﨑　　修
昭51　竹下　　眞
昭51　田部　伸行
昭51　継松　正実
昭51　戸村　善明
昭51　濵上　弘晴
昭51　備前島俊行
昭51　広瀬　　守
昭51　北條　健三
昭51　松田　康男
昭51　松野　修次
昭51　丸山　康子
昭52　鮎瀬　公彦
昭52　青　　久昭
昭52　安達　雄一
昭52　新井　一男
昭52　新井　尚子
昭52　飯田　泰一
昭52　岩田　充了
昭52　太田　　忍
昭52　太田　博司
昭52　応藤　健三
昭52　岡野　昌治
昭52　尾木　　正
昭52　吉川　道雄
昭52　木下　　優
昭52　清見　能久
昭52　ｸﾞﾘｰﾅﾝｾﾂｵ
昭52　小谷　隆一
昭52　後藤　成隆
昭52　小宮山能康
昭52　佐々木智美
昭52　佐々木淳子
昭52　佐々木　元
昭52　佐藤　和則
昭52　下川　　誠
昭52　鈴木　　篤
昭52　関口千栄子
昭52　髙橋　文明
昭52　高橋　章雄
昭52　高原　正明
昭52　財部　正治
昭52　引田　正俊

昭52　廣田　種英
昭52　本田　智子
昭52　松木　建二
昭52　茂木　伸夫
昭52　安田　年光
昭52　山﨑　雅美
昭52　山田　潤造
昭52　弓井　敏郎
昭52　湯本　衛
昭52　芳川　美雄
昭52　和田　悟
昭52　渡辺みちる
昭53　朝波　修
昭53　安部　喜郎
昭53　石岡　豪一
昭53　板谷　雅一
昭53　井上　信義
昭53　上田　祥士
昭53　臼田　準
昭53　蛯谷　剛文
昭53　大井　誠一
昭53　大石えり子
昭53　大谷　久次
昭53　沖　泰治
昭53　角　邦人
昭53　亀井　正仁
昭53　希代　忠男
昭53　吉良　公仁
昭53　小林万里恵
昭53　斎藤　規子
昭53　斎藤　文明
昭53　櫻井絵理子
昭53　佐塚仁一郎
昭53　佐藤　裕子
昭53　椎貝　達夫
昭53　白根　瑞恵
昭53　鈴木千枝子
昭53　副島　洋二
昭53　竹内　智
昭53　田中　宏美
昭53　田本　晃
昭53　丹沢　朝彦
昭53　永江　健一
昭53　中西　国人
昭53　中野多美子
昭53　中村　正延
昭53　萩原　雄吉
昭53　橋本　雅範
昭53　平野　和夫
昭53　堀部真知子
昭53　松﨑　正信
昭53　森田　勉
昭53　安原　孝由
昭53　山﨑　一夫
昭53　山本　明彦
昭53　横山　洋行
昭54　青島　孝之
昭54　安部佳世子
昭54　泉地　裕太
昭54　大久保　仁
昭54　大矢　孝臣
昭54　尾松　素樹
昭54　片山　敦子
昭54　片山　隆
昭54　川口　浩
昭54　川野　浩一
昭54　倉田　庸生
昭54　黒河　宏之
昭54　後藤　眞也
昭54　小舩　邦夫
昭54　佐々木研一
昭54　佐野　芳孝
昭54　塩津　一郎
昭54　杉山　紀子
昭54　関川　一嘉
昭54　高橋　秀樹
昭54　露口　晃宏
昭54　直野　孝則
昭54　中西　久人
昭54　二宮　隆
昭54　野本　節子
昭54　鳩貝　尚志
昭54　馬嶋　誠
昭54　真下　泰彦
昭54　増田　健
昭54　松田　幸夫
昭54　三友　和夫
昭54　簗瀬　一彦
昭54　山　滋
昭54　山本　昌司
昭54　吉田　正
昭54　吉田　穂積
昭54　呂　英美
昭54　呂　正博
昭55　秋草　正美
昭55　植野　順子
昭55　植野　芳和
昭55　臼井　文規
昭55　大石　充
昭55　大浦　好章
昭55　岡田　泰幸
昭55　岡野　秀
昭55　荻原　聡
昭55　柏村　真
昭55　柏村由美子
昭55　勝俣　正之
昭55　黒木　孝郎
昭55　黒田　裕之
昭55　小林　一公
昭55　小林　孝次
昭55　小林　高久
昭55　佐久間研次
昭55　志賀　和子
昭55　志賀　泰昭
昭55　末木　稔
昭55　須賀　俊二
昭55　杉山　裕
昭55　泉福　和典
昭55　髙野　博子
昭55　髙橋　庸
昭55　武田　孝之
昭55　谷　信吾
昭55　谷本　澄江
昭55　中野　正博
昭55　林　好一
昭55　原　覚
昭55　比嘉　民子
昭55　平戸　亮司
昭55　二村　光
昭55　前岡　一夫
昭55　牧原由紀子
昭55　水谷　隆弥
昭55　村山　利之
昭55　矢島　麗
昭55　山本　英之
昭55　若林　慎二
昭56　阿部　二郎
昭56　有泉　祐吾
昭56　池田　嘉徳
昭56　海野　智
昭56　大久保忠教
昭56　小笠原美由紀
昭56　奥山　泰夫
昭56　落合　和久
昭56　菊地　敦子
昭56　北村　一
昭56　木村　秀仁
昭56　久保　秀二
昭56　黒田　真右
昭56　小池　修
昭56　小泉　好正
昭56　小林　顕
昭56　小林　芳美
昭56　嵜岡　道正
昭56　佐々木　朗
昭56　佐藤　健
昭56　猿田　範雄
昭56　柴田　卓
昭56　島　正博
昭56　菅谷　京子
昭56　杉村　守彦
昭56　鈴木　博
昭56　スミス京子
昭56　関戸　達哉
昭56　外　信之
昭56　髙野　秀幸
昭56　高森　幸生
昭56　嶽崎　晃一
昭56　武田　朋子
昭56　辻　孝
昭56　中西　史彦
昭56　長野　恭輔
昭56　中村　育代
昭56　二階堂雅彦
昭56　仁科　裕次
昭56　西村　臣史
昭56　西村　文子
昭56　平井　緑
昭56　藤関　雅嗣
昭56　藤原　英修
昭56　溝越　俊二
昭56　宮﨑　弘隆
昭56　森田美由紀
昭56　矢野　興一
昭56　若月　達也
昭57　板垣　哲夫
昭57　稲葉　孝夫
昭57　今村昭二郎
昭57　大川　剛生
昭57　金山　昇
昭57　河村　忠彦
昭57　菅　泰晴
昭57　黒田由紀子
昭57　小林　寿
昭57　齋藤　守
昭57　鈴木　幸一
昭57　髙野　直久
昭57　田中　潤一
昭57　丹沢　俊樹
昭57　辻　吉純
昭57　手塚　知恵
昭57　冨山　雅史
昭57　中澤　章
昭57　西山　潔
昭57　野嶋　直美
昭57　野嶋　昌彦
昭57　馬場真菜美
昭57　福﨑　博生
昭57　冨士田　隆
昭57　藤田　雄二
昭57　宮吉　誠
昭57　山田　哲美
昭57　山根　秀樹
昭57　若林　秀典
昭58　青木　弘興
昭58　秋谷　理
昭58　石河　信高
昭58　一戸　小織
昭58　今井いづみ
昭58　上野　修
昭58　荻原　俊美
昭58　桂　啓介
昭58　上條　英之
昭58　橘田　博純
昭58　国原　修
昭58　小林　郁夫
昭58　小林　慶太
昭58　佐々木眞澄
昭58　鈴木　龍
昭58　関谷　栄
昭58　副島　渉
昭58　武井　利夫
昭58　鳥居　一也
昭58　永井　正志
昭58　西口しげき
昭58　濵田　剛
昭58　濵松　孝典
昭58　原　茂
昭58　原田　康
昭58　平川　誓生
昭58　福岡　博史
昭58　福島　一則
昭58　福本千枝子
昭58　福本　裕
昭58　冨士田珠民
昭58　松崎　和江
昭58　松崎　英雄
昭58　宮下　寿一
昭58　椋棒　正樹
昭58　森田　一郎
昭58　柳川　敏夫
昭58　山﨑　茂
昭58　吉田　浩一
昭58　渡辺　順
昭59　青木　雅司
昭59　秋山　達郎
昭59　浅井　章弘
昭59　大内　昭雄
昭59　奥住　守彦
昭59　笠井　徹
昭59　川口　慶子
昭59　北村　信隆
昭59　黒田美智代
昭59　小枝　義典
昭59　坂入　道子
昭59　櫻井　誠
昭59　佐々木明彦
昭59　佐藤　剛
昭59　清水　泰
昭59　新谷　京子
昭59　新谷　博明
昭59　砂川　直俊
昭59　竹内　英樹
昭59　竹原　茂央
昭59　玉川　幸二
昭59　登城　宏司
昭59　戸村　博臣
昭59　中久喜　薫
昭59　中澤　正博
昭59　平井　基之
昭59　牧野　明
昭59　丸島　徹
昭59　溝口　潔
昭59　溝口ちづ子
昭59　山本　一普

昭60 秋山 勝彦
昭60 井川 利幸
昭60 市川 弘道
昭60 大塚 淳
昭60 片山 貴之
昭60 喜田 真司
昭60 北野 晋
昭60 北村 正
昭60 小出 修弘
昭60 小筆 正弘
昭60 近藤 博保
昭60 島村 大
昭60 清田 築
昭60 髙崎 一郎
昭60 田中 伸子
昭60 田中 宣夫
昭60 友利 隆俊
昭60 中川 直樹
昭60 中野 昌則
昭60 仁紫 晶文
昭60 原 愼一
昭60 原崎 充弘
昭60 東 孝俊
昭60 日比 浩樹
昭60 平野 真紀
昭60 平野 義雄
昭60 藤関 雅子
昭60 松尾 繁樹
昭60 松田 浩之
昭60 松原 真
昭60 宮部 英明
昭60 宮吉 正人
昭60 屋宜 裕子
昭60 山口 和彦
昭60 湯澤 邦裕
昭61 秋野 一尚
昭61 浅香 充
昭61 浅川 仁
昭61 阿部耕一郎
昭61 五十嵐 寛
昭61 池田 敦治
昭61 大塩美樹子
昭61 岡野 克也
昭61 岡村美恵子
昭61 小川 浩
昭61 加藤 伸次
昭61 河野 崇志
昭61 小林 容子
昭61 笹間 康弘
昭61 佐藤 隆仁
昭61 佐藤 浩之
昭61 柴垣 光志
昭61 杉之内俊郎
昭61 鈴木 正彦
昭61 高橋 千昭
昭61 高松 透浩
昭61 田中 祝
昭61 近常 正
昭61 常木 哲哉
昭61 寺田 香織
昭61 中野 泰志
昭61 仲村 晃
昭61 二階堂五月
昭61 浜野 美幸
昭61 細川 敏彦
昭61 松尾 潤子
昭61 望月 清志
昭61 山田 勝久
昭61 山田 雅敏
昭61 渡辺 和也
昭62 阿部 雅章
昭62 五十嵐 治
昭62 石原 一
昭62 江頭 修作
昭62 大浦 孝二
昭62 大谷 義之
昭62 小川 欽也
昭62 女川 瑞夫
昭62 小野瀬弘記
昭62 鎌田 秀一
昭62 木暮 隆司
昭62 小林 香
昭62 地主 尚由
昭62 清水 隆夫
昭62 白尾 康広
昭62 菅原 泰典
昭62 関根 聖代
昭62 髙橋 敬人
昭62 嶽崎 宗規
昭62 田代 悦章
昭62 田代 芳之
昭62 田村 元
昭62 土子 吉久
昭62 中川 雅晴
昭62 村上 雅一
昭62 山口 公彦
昭62 山本 伸顕
昭62 若松 宏幸
昭63 荒谷 恭史
昭63 入江佐企子
昭63 岩田 昌久
昭63 上本 佳孝
昭63 梅原 一浩
昭63 大國 仁
昭63 尾上 匡史
昭63 小野瀬正浩
昭63 片倉 孝子
昭63 金子 淳
昭63 河田 裕夫
昭63 国府田英敏
昭63 古川由美子
昭63 小林 千晃
昭63 小林 久恭
昭63 関 暁彦
昭63 関口 一実
昭63 髙階 光博
昭63 高橋 治好
昭63 武井 保夫
昭63 寺田 仁志
昭63 中島 洋子
昭63 中野いずみ
昭63 永野 正司
昭63 西山 有一
昭63 沼澤 孝典
昭63 延島ひろみ
昭63 花村 信明
昭63 原 靖
昭63 穂坂 康朗
昭63 正井 良幸
昭63 松澤 政彦
昭63 松原 茂
昭63 山口 由紀
昭63 山﨑 孔貴
昭63 渡邊 宇一
昭63 渡辺 和宏
平01 足代 弘元
平01 粟澤 重樹
平01 大内 仁之
平01 懸田 明弘
平01 加島知恵子
平01 片野 勝司
平01 勝俣 至史
平01 川越 元久
平01 小山 安徳
平01 齋藤 友紀
平01 柴田 康司
平01 高橋 健
平01 高柳 篤史
平01 田澤 勇人
平01 多田 宏
平01 土橋 博史
平01 椿 浩明
平01 成田 文雄
平01 濵田 義三
平01 古川 貴弥
平01 前島 達也
平01 村上 清信
平01 山倉佳小里
平02 天野 高宏
平02 飯田 哲也
平02 宇都宮慎児
平02 小関 健司
平02 川越 弘敬
平02 菊池 潤
平02 喜田 賢司
平02 國松 禎一
平02 塩﨑 雄生
平02 鈴木 裕仁
平02 瀧上恵美子
平02 田島 秀治
平02 田辺 靖喜
平02 長田 昌巳
平02 林 智子
平02 林 芳裕
平02 秡川 雅彦
平02 平岡 修
平02 平嶺小百合
平02 平山 明
平02 福田 直人
平02 堀 誠
平02 松澤 稔彦
平02 森本 一良
平02 山川 文孝
平02 山本 高敬
平02 吉井 正俊
平02 吉野 浩一
平03 青戸 弘陽
平03 阿南 啓子
平03 池田 敬洋
平03 池田 博子
平03 太田 拓哉
平03 鬼澤 勝弘
平03 木口 啓
平03 北村 径子
平03 久保田 敦
平03 齊藤 義章
平03 佐藤 昇
平03 鈴木 康之
平03 髙岡 裕司
平03 近 豊浩
平03 出崎 暁子
平03 手代木美香
平03 中島 徹
平03 長谷川眞康
平03 堀川 正
平03 本田 良和
平03 松野 弘和
平03 水口 泰代
平03 三井 香理
平03 三吉 俊弘
平03 山川 寿弥
平03 横山 晴洋
平03 渡邉 克仁
平03 渡部 芳雄
平04 磯野 珠貴
平04 今井 弘治
平04 江夏 淳子
平04 大鶴 次郎
平04 甲斐 史朗
平04 北川 博美
平04 島田 雅胤
平04 下津 昭洋
平04 住井 浩剛
平04 添島 義樹
平04 高岡 元文
平04 髙橋 潤一
平04 出崎 雅和
平04 中西 以穂
平04 羽賀 俊明
平04 林 真理
平04 日浅 玄
平04 平井知佐子
平04 藤井 理史
平04 本間 敬和
平04 三宅 洋
平04 宮田 利郎
平04 山田 順
平04 横田幸市朗
平04 横田 成一
平05 飯野祥一朗
平05 磯野 千乃
平05 江夏 俊央
平05 木津 康博
平05 古賀 隆利
平05 柴田 力
平05 杉山 亜希
平05 杉山 直人
平05 田澤 重伸
平05 徳山 俊丈
平05 長崎 孝司
平05 中島 理子
平05 野村登志夫
平05 日浅 明子
平05 森崎 重規
平05 山田 道浩
平05 四倉 清仁
平05 力武 秀樹
平06 赤堀 仁則
平06 池上 英明
平06 市川 敬一
平06 岡本 芳敬
平06 小川 俊夫
平06 可知久充子
平06 川口 健二
平06 神作 拓也
平06 北見 武広
平06 蔵本 千夏
平06 坂田 愛子
平06 佐藤 文彦
平06 田澤 和子
平06 田邉 陽
平06 谷村 将光
平06 中村 衛
平06 古谷 忠典
平06 松村 保典
平06 三宅 輝彦
平06 宮田 牧子
平06 山本 雅通
平07 新 啓嗣
平07 阿部 光正
平07 上重美奈子
平07 内田 禎子
平07 大門 忍
平07 大橋 渡
平07 佐藤 臣志

平07　静間祐一郎
平07　田中　大平
平07　千葉　和成
平07　時岡　孝寛
平07　中川　　健
平07　中原　弘敬
平07　野村　幸恵
平07　林　　点
平07　廣瀬　理子
平07　松本　　一
平08　青木　　健
平08　朝日　大輔
平08　稲浜　博一
平08　岩田　公秀
平08　浦崎　香苗
平08　片倉　　玄
平08　近藤　紀之
平08　早乙女修一
平08　住田　真一
平08　髙橋　健一
平08　田鎖あかね
平08　多田　　聡
平08　田中　　久
平08　中尾　篤司
平08　二宮　威重
平08　堀内　勇人
平08　森　　彩子
平08　森　　俊道
平08　柳　　智哉
平08　山口　智明
平09　猪狩　弓彦
平09　井上　敬介
平09　宇佐美貴弘
平09　大岡　　洋
平09　大門　三美
平09　奥原　秀樹
平09　加茂　公平
平09　北野　良英
平09　五條　和郎
平09　佐藤留美子
平09　志村　俊一
平09　新冨　芳浩
平09　末藤　祐一
平09　副島　　衛
平09　髙木　尚美
平09　藤堂　雅成
平09　春山　親弘
平09　日野　貴史
平09　堀　　勝
平09　三浦　秀憲
平09　矢野　慎二
平10　青木　　裕
平10　安藤　泰敬
平10　石川　一麿
平10　上田　あや
平10　岡田　大典
平10　梶井　泰樹
平10　佐藤　　晶
平10　鈴木　義顕
平10　須藤健太郎
平10　塚本　　良
平10　前田　拓哉
平10　村松慶一郎
平10　山口　元嗣
平11　井上　幹夫
平11　大井　　崇
平11　大西　薫児
平11　緒形　孝子
平11　片山　明彦
平11　小林健一郎
平11　齋藤　晶子
平11　柴内　明子
平11　宿澤　恵理
平11　副島　詩子
平11　添島　英輔
平11　高梨　聖敏
平11　藤堂　浩美
平11　浜瀬　敬輔
平11　林　　亮
平11　兵藤　正昌
平11　平地　正茂
平11　平地　涼子
平11　藤岡　大助
平11　穂積　隆浩
平11　夕田寿太郎
平12　阿部　　修
平12　石原　瑞穂
平12　加藤　朋子
平12　佐藤　大輔
平12　杉本　真慈
平12　谷藤　里奈
平12　平地　昭雄
平12　安村　英乃
平12　山田　道紀
平13　片岡　洋平
平13　中村　　潔
平13　野村麻里子
平13　松本　倫彦
平13　山内　純子
平14　市原　雅也
平14　稲森康二郎
平14　大井　典子
平14　久保浩太郎
平14　塩崎　秀弥
平14　竹田こずえ
平14　竹田　岳史
平14　鶴田　陽子
平14　林　　和彦
平14　山本　るみ
平14　吉田　章太
平15　新　　真美
平15　磯崎　千穂
平15　稲森新一郎
平15　河野雄一郎
平15　高梨　貴子
平15　堤　　政雄
平15　中嶋　　顕
平15　濵本　由佳
平15　本田宗一郎
平15　山田志保子
平16　岡田　　崇
平16　岡田　千歳
平16　鈴木　祐輔
平16　髙橋　勇太
平16　堤　　祥子
平16　鄭　　尚子
平16　戸田　康平
平16　成瀬　晋一
平16　西沢　知剛
平16　三宅　一誠
平17　大神　明香
平17　小林　保行
平17　小林裕美子
平17　須田　　鎮
平17　鄭　　尚賢
平17　西岡　優子
平17　平戸啓一郎
平17　吉田　秀児
平18　會田　貴久
平18　川上　恵実
平18　辻　由紀子
平18　若林　　学
平19　赤田　晋哉
平19　高梨亜季子
平19　玉井　直人
平19　堀部　幸子
平20　青木　一充
平20　奈良　宏周
平20　野本　有香
平20　前納　　允
平20　呂　　宗彦
平21　川上　和久
平21　霜山　哲一
平21　成瀬　遼吉
平22　植野　琢也
平22　植野　智子
平22　大平　貴士
平22　北川千加子
平22　牧原　勇介
平22　三友　啓介
平23　牧口　実央
平24　村松　優樹
（大学院）
昭37　宮本　一也
昭51　中尾　一成
昭61　長谷川浩三
平01　鬼谷　信美
平02　吉田　　隆
（推　薦）
　　宇田川義朗
　　折原　　健
　　金光　秀明
　　小島　武彦
　　白井　　勝
　　高橋　健二
　　高橋　正憲
　　谷崎　幸夫
　　坪田　一男
　　土井　孝夫
　　仁木　俊雄
　　宮田悠生秋
　　宮武　光吉
　　吉野　肇一
※匿名希望　118名
　以上　1,709名

（地域支部）
大分県支部
大阪府支部
沖縄県支部
鹿児島県支部
岐阜県支部
熊本県支部　蘇山会
埼玉県支部
佐賀県支部
滋賀県支部
東京　浅草支部
東京　城北支部
東京　下谷支部
東京　新宿支部
東京　滝野川支部
東京　千代田支部
三水会
東京　練馬支部
東京　本郷支部
東京　町田支部
東京　港区芝支部
統志会
東京　武蔵野支部
東京　北支部　東珊会
東京地域支部連合会
東北地域支部連合会
鳥取県支部
富山県支部
長崎県支部
長野県東信支部
長野県北信支部
北海道　小樽支部
宮崎県支部
山口県支部
和歌山県支部
大学支部
台湾同窓会
※匿名希望　２件
　以上　36件

（クラス会）
昭24　いとし会
昭31　四期会
昭34　ジーベン会
昭39　十二期会
昭42　志学会
昭47　七十七期会
昭51　正和会
昭55　翔蜻会
昭60　三春会
平01　平成会
平02　百樹会
平07　百期会
平11　参謝会
平22　創志会
　（115期生）
平23　百彩会
　（116期生）
平24　創絆会
　（117期生）
平25　良い歯会
　（118期生）
平26　千鼎会
　（119期生）
※匿名希望　１件
　以上　19件

（その他）
解剖学教室 OB 会
口腔外科学教室精到会
歯科矯正学講座美久会
ワンダーフォーゲル部 OB 会
　以上　４件

以上　同窓
合計金額
314,887,173円

水道橋校舎施設整備寄付金　寄付者名簿（教職員他）

平成26年３月31日現在
（50音順・敬称省略）

理事長
推薦　水野　嘉夫
学　長
昭47　井出　吉信
理　事
推薦　石井　拓男
理　事
推薦　西田　次郎
前理事長
昭39　金子　　譲
前理事
昭42　薬師寺　仁
前理事
　　野﨑　　弘
前理事
推薦　安藤　暢敏
前理事
昭46　柳澤　孝彰
前監事
　　岡村　泰孝
（教員・大学院生等）
（あ）
平18　間　奈津子
平17　青木　雅憲
推薦　青柳　　裕
平05　縣　　秀栄
平23　赤塚　公仁
平12　浅川　幸子
　　東　　俊文
　　穴澤　卯圭
平01　阿部　伸一
平14　阿部　ヒロ
推薦　新井　　健
平17　荒野　太一
昭57　猪狩　安豊
平13　石井　武展
推薦　石上　惠一
推薦　石川　博通
平05　石崎　　憲
　　石田　　瞭
平19　石塚　洋一
昭60　石原　和幸
平21　和泉　佐知
昭56　一戸　達也
平06　伊藤　太一
平09　稲垣　　覚
昭53　井上　　孝
平09　今井　裕樹
平17　岩沼　　治
平18　岩村　枝里
平11　上田　貴之
平14　浮地賢一郎
　　臼田　圭恵
平20　内山　　宙
平23　梅澤　貴志
平22　梅澤　朋子
平05　遠藤　隆行
大学院
平23　大石　晶子
　　大内　貴志
平11　大神浩一郎
　　大久保　剛
平11　大久保真衣
平04　大久保みぎわ
大学院
平10　太田　幹夫
平22　太田　　緑
昭58　大多和由美
平22　大塚　潤子
平20　大平真理子
平23　大峰　悠矢
平18　小貝　隆広
推薦　岡田　眞人
平21　岡田　玲奈
平22　荻野　崇真
平21　織田　聖子
推薦　小田　　豊
平24　小髙　研人
　　音成　実佳
平23　小畑　朋邦
（か）
平03　笠原　清弘
平22　笠原　正彰
平07　笠原　正貴
昭60　片倉　　朗
昭59　片田　英憲
平19　片山　愛子
推薦　加藤　哲男
昭57　加藤　広之
　　兼子　　智
平11　神尾　　崇
平09　亀山　敦史
昭51　河田　英司
平17　河地　　誉
大学院
平24　菊地　昭仁
平23　菊地　愛貴
　　菊池有一郎
大学院
平24　岸　　飛鳥
　　岸川　　浩
平24　北村　　啓
平19　木下　英明
平04　君塚　隆太
昭57　久保　周平
平20　黒田　英孝
平17　古池　崇志
平22　小泉ちあき
推薦　小板橋俊哉
昭31　髙北　義彦
平17　國分　克寿
平13　小坂　竜也
平18　小鹿恭太郎
平17　小林　史明
平10　小林　　誠
平19　小舩　和弘
昭52　近藤　祥弘
（さ）
平11　齋田菜緒子
平01　齋藤　　淳
平20　齋藤　裕香
大学院
平24　三枝　弘樹
平02　坂　　英樹
　　坂本潤一郎
昭57　坂本　輝雄
平18　酒寄　孝治
　　櫻井　敦朗
昭53　櫻井　　薫
平21　佐々木啓充
平14　佐々木穂高
平20　佐々木秀憲
平10　佐藤　一道
昭54　佐藤　　亨
　　佐藤　道夫
　　佐藤　憂子
昭49　佐藤　　裕
平24　佐藤　涼一
推薦　佐野　　司
平18　鮫島　千恵
推薦　澤木　康平
　　澤田　幸作
昭52　澤田　　隆
　　Jeremy Williams
平17　塩崎　恵子
平15　四宮　敬史
　　柴家　嘉明
昭54　柴原　孝彦
平13　柴山　和子
平07　澁川　義幸
平18　下島　隆志
推薦　白石　　建
推薦　新谷　誠康
昭58　新谷　益朗
昭54　末石　研二
平09　末原　正崇
　　須賀賢一郎
推薦　菅　　貞郎
平16　菅原　圭亮
平06　杉戸　博記
昭62　杉原　直樹
昭57　杉山　節子
昭58　杉山　哲也
昭62　杉山　利子
平23　鈴木　　薫
　　鈴木　正史
昭52　関口　　浩
昭62　関根　秀志
平17　勢島　　典
　　芹川　雅光
　　芹田　良平
平20　惣卜　友裕
平20　副島　寛貴
平18　添田　亮平
大学院
平25　征矢　　学
（た）
　　高際　　睦
平11　高久勇一朗
昭54　髙瀬　保晶
平15　高梨　琢也
平18　髙野　智史
昭51　高野　伸夫
昭57　高野　正行
推薦　髙橋　愼一
昭54　髙橋　俊之
推薦　髙松　　潔
平20　田草川　舞
平20　竹内　　快
平23　武内　崇博
平19　武田　慶子
推薦　武田　友孝
平15　田坂　彰規
昭53　田﨑　雅和
平22　田嶋さやか
平18　田井　愛子
平21　辻　　将
平04　辻野啓一郎
昭46　角田　正健
平18　手銭　親良
　　寺嶋　　毅
大学院
平23　冨田　智子
平23　戸村　恭子
（な）
　　内藤　祐子
平20　中尾　　正
平18　中川　映佳
推薦　中島　一憲
推薦　中島　庸也
平18　永田　順也
平23　中西　康輔
昭56　中野　洋子
大学院
平22　中原　　賢
　　梨本　正憲
昭61　西井　　康
　　西川　慶一
　　西久保周一
平21　西宮　紘子
平20　二瓶　伸也
推薦　野川　　茂
平21　野口　　拓
　　野口　竜実
昭56　野嶋　邦彦
平19　野田　克哉
平20　野田周太郎
平07　野村　武史
昭59　野村　真弓
平14　野本俊太郎
（は）
平23　萩尾　美樹
平17　橋本　和彦
昭56　橋本　貞充
推薦　橋本　正次
　　服部　雅之
昭56　花岡　洋一
　　早川　裕記
平18　林　　郁恵
　　林　丈晴
　　林　真理子
平10　原　　麻子
平14　春山亜貴子
大学院
平15　半田　俊之
平01　久永　竜一
推薦　平田創一郎
平22　平野　友基
大学院
平22　廣木　愛美
平02　福田　謙一
　　福田　真之
平10　藤井　理絵
大学院
平22　藤田　修平
昭58　古澤　成博
平19　古屋　英敬
平07　古谷　義隆
平14　別所　央城
平12　細川　壮平
　　堀田　　拓
昭54　堀田　宏巳
平18　本田　秀光
平12　本間　慎也
（ま）
　　牧　　浩壽
　　牧野　正志
推薦　松井　淳一
　　松浦　彰子
平12　松浦　信幸

平19　松岡　海地
平11　松木由起子
昭48　松久保　隆
平02　松坂　賢一
平15　松崎　文頼
平15　松永　智
平01　間宮　秀樹
推薦　丸茂　健
昭53　見明　康雄
　　三浦　直
平18　水田　葉子
平21　三橋富久子
　　三穂　乙暁
平02　三宅菜穂子
昭56　宮崎　晴代
大学院
平21　向井　美弥
平07　村上　聡
平17　村瀬　千明
平15　村松恭太郎
昭50　茂木　悦子
平21　森川　泰紀
推薦　森下　鉄夫
　　森田　雅義
昭56　森永　一喜
平20　諸星　貴大
（や）
平11　薬師寺　孝
昭55　矢島　安朝
平17　安井　雅子
平18　安田　雅章
平19　安村　敏彦
昭59　山　満
平04　山内　智博
平26　山内　真人
　　山倉　和典
平16　山崎　貴希
平20　山崎　真
推薦　山下秀一郎
平17　山田　薫子
昭47　山田　了
　　山田　将博
大学院
平24　山田　裕介
推薦　山中すみへ
平22　山根　茂樹
平20　山村　啓介
平10　山本　信治
昭63　山本　仁
平20　山本　将仁
平16　湯村　潤子
　　横本　満洋
平21　吉井　崇之
推薦　吉成　正雄
　　吉野　文浩
平16　四ツ谷　護
昭52　米津　卓郎

（ら）
平17　竜　正大
（わ）
昭59　和光　衛
平22　和田　健
平13　渡邊　章
推薦　渡邊　裕
（職　員）
（あ）　相澤　光博
　　阿内　謙吉
　　青木香菜子
　　秋葉　順子
　　麻賀　明雄
　　朝隈　尚子
　　浅倉　恵子
　　阿部　潤也
　　安部　晴美
　　雨宮　智美
　　五十嵐時男
　　石井　哲
　　石毛　恵
　　石郷岡　均
　　石田　幸江
　　磯山　素子
　　板倉裕一郎
　　一木　治男
　　伊東多鶴子
　　伊藤真奈美
　　伊藤　陽子
　　今井　光枝
　　岩田　周子
　　上島　文江
　　上野　雅司
　　浦井　俊夫
　　浦田　知明
　　海野可代子
　　江橋　延江
　　江波戸達也
　　江里口綾子
　　王子田　啓
　　大勝　幸江
　　太田　茂
　　大塚　健
　　大屋　朋子
　　小笠原尚子
　　岡野　繁
　　岡部　陽子
　　岡本　育代
　　小川冨士子
　　奥井　沙織
　　小倉　等
　　尾谷　始子
（か）　笠原　淳二
　　加瀬　利美
　　賀曽利のり子
　　加藤　靖明
　　狩野　龍二

　　亀井　玲子
　　亀山　桂
　　栢森さつき
　　假谷加代子
　　川尻　尚子
　　川名　徳郎
　　菊地　聡子
　　北島　道子
　　北林　伸康
　　木部　真実
　　木村絵里奈
　　木村ゆかり
　　吉良　哲夫
　　小礒由美子
　　光菅　裕治
　　合原　愛
　　後藤久美子
　　後藤　純子
　　小林　一重
　　小林　智子
　　小林　友忠
　　小林　紀雄
　　小林　理紗
（さ）　齋藤　千晴
　　坂本　智子
　　櫻井　文雄
　　佐々木啓太
　　佐々木道子
　　佐藤　和幸
　　椎名　美和
　　椎名　裕
　　塩野目隆幸
　　実川　光江
　　清水　直子
　　清水　文衛
　　寿明　康子
　　菅沼　弘春
　　菅沼　雅文
　　鈴木　イチ
　　鈴木　浮子
　　鈴木　京子
　　鈴木　昌子
　　鈴木　福代
　　鈴木　保之
　　関川　美香
　　関口あゆみ
　　関根はるみ
　　攝津美枝子
　　芹川　公子
　　相馬　克己
　　外山　宗明
　　園田　満子
（た）　髙木　直人
　　髙橋　敦子
　　髙橋　英子
　　髙橋　里香
　　髙柳　奈見

　　武内　早織
　　武本　桂
　　田島　大地
　　田中　真美
　　田中由加利
　　谷口　敏信
　　多比良祐子
　　千葉　泰子
　　槻木澤里恵
　　辻野　千晶
　　土屋　佳織
　　綱島　浩二
　　堂地　一利
　　巴　恵子
（な）　内藤　美佳
　　長澤　恵子
　　長澤　直美
　　中島　和枝
　　中臺美佐子
　　中浜　典子
　　中村　厚江
　　日塔　慶吉
　　野田　克幸
（は）　萩原　義彦
　　長谷川雄教
　　旗手　重雅
　　馬場　里奈
　　濵野　孝子
　　原　正樹
　　伴　英一郎
　　響谷　順子
　　平井　玲奈
　　平出百合子
　　平野理智子
　　深川久美子
　　吹田　優子
　　藤生　智裕
　　藤平　弘子
　　船山　雅史
　　冬野　英雄
　　堀田　洋稔
（ま）　益田　仁美
　　松崎　真衣
　　松本　康雄
　　松元　吉治
　　間部　克善
　　三木　敦史
　　水越　敬治
　　水島　知也
　　水野　晃子
　　水野　利彦
　　水野　良伸
　　宮下　辰子
　　村川　孝
　　村瀬　敏江
　　百﨑　和浩
　　森金　美江

　　森本　陽子
（や）　山口　愛
　　山口　祥子
　　山﨑　知春
　　山﨑　陽子
　　山田　敏之
　　山田　美子
　　山之口吾郎
　　山本　一郎
　　山本　達郎
　　与謝野直子
　　吉田　成彦
　　吉峯　規雄
（わ）　若林　千里
　　若林眞由美
　　脇坂佐智子
　　和田　昌美
　　渡辺　和輝
　　渡辺　一史
　　渡辺ひろみ
　　渡辺　賢
※匿名希望　58名
以上　542名

（その他　団体・個人）
市川総合病院
　外科学講座
　臨床工学技士一同
全体係長会
紫紅会
大学教職員組合
　望月　隆二
　田所　克己
　北澤　義明
　富田　正幸
　他有志一同
大学父兄会
東京歯科大学学会
（故）井出源四郎理事令夫人
石井　悦子
佐藤まゆみ
塩崎とも子
原田　育叔
百﨑多紀子
※匿名希望　２件
以上　18件

以上　大学関係
合計金額
195,757,465円

重点事業へのアプローチ

大学の学生の夏期海外研修事業（エレクティブスタディ）への同窓会の支援について

会長　矢　﨑　秀　昭

数年前より学生時代からできるだけ広い視野を持つようにと，夏期休暇中に海外での研修事業を実施している大学に，同窓会として同窓会準会員でもある学生への支援事業の一つとして協力をしている。

この海外研修事業に参加を希望する優秀な学生の中から，大学の選考委員会で選考し，派遣する学生を決定している。本年度は１年生から３年生が台湾の台北医科大学に，また４年生から６年生が米国のタフツ大学にそれぞれ研修に行くこととなっている。

学生へ同窓会の事業について知ってもらえるようにと，学長の井出先生のご配慮により，26年７月10日にさいかち坂校舎にて，今回，選考された１年生の４名，２年生の５名，さらに新館の講義室にて３年生３名，４年生２名に井出学長による大学からの表彰に続き，同窓会の表彰状の授与を行った。井出学長からは台湾の歯科大学と本学の連携についてと，進歩した台北歯科大学の現状について話され，つづいて台湾にできた本学の同窓会のことと，海外での研修の実績を願い挨拶をした。

さらに，７月28日に本館の13階にて５年生の３名，新館にて６年生の１名に対して大学及び同窓会からの表彰が行われた。

学生時代から広く海外の歯科医学や医療に接しておくことは，今後は益々重要なことになると思われる。引き続きこの大学の事業の発展を期待している。

台北医学大学を中心とした台湾への Elective Study

引率：山下秀一郎
（口腔健康臨床科学講座・教授）
山本　仁（組織・発生学講座・教授）

第１学年から第３学年の Elective Study はこれまでの台北医学大学，台北医学大学附属病院，台北医学大学・署立雙和病院，奇美病院に加えて，柳営奇美病院で行われた。参加者は前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成26年度 Elective Study 選考委員会」で選考された学生12名（第１学年４名，第２学年５名，第３学年３名）と引率２名を加えた14名である。参加学生は出発前に数回ミーティングを行い，団長として第３学年の細谷正利君，副団長として第２学年の楽原正浩君，小林　裕君を選出した。なお副団長の楽原君は昨年に続き２回目の参加である。昨年までと同様に学生たちは台湾の文化，歴史，風習，日本との関係等を事前に調べるとともに，Elective Study の GIO や SBOs を設定し，各自が Elective Study の目的を明らかにした。また本年度の試みとして台湾の各病院での見学をより有意義なものにするために引率の山下教授の診療を短時間ではあるが見学し，山下教授から歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムなどの説明を受けた（第３学年では一部の臨床系の講義・実習が始まっているが，第２学年や第１学年では臨床系の講義・実習は行われていないため）。更に本年度は学生交流の時間を多く作るため，昨年よりも一日長い日程とした。

羽田空港に時間通り集合したメンバーは一抹の不安と大きな期待を胸に台北松山空港に向かった（写真１）。空港には毎年大変お世話になっている張維仁先生および台北医学大学の学生６名が出迎えてくれた。チャーターしたバスで昼食会場に向かったが，バスに乗車すると最初はぎこちなかった学生達



写真１　行ってきます！



写真２　台北医学大学歓迎会後の記念写真

も時間の経過とともに自己紹介を始め，学生交流が始まった。昼食後，龍山寺と中正記念堂を観光しホテルにチェックインした。チェックイン後夕食会まで短い時間しかなかったが，学生たちは長旅の疲れも見せずホテル近くを散策し，バスからではわからない台北の様子を味わっていた。台北医学大学主催の夕食会には張　維仁先生，本学と関係の深い蔡　恒恵先生，小児歯科学の鄧　乃嘉先生が同席された。お料理を楽しみながら学生と教員が語り合い，学生たちは両国の歯科を取り巻く環境について興味深く聞くとともに，疑問点を先生に質問し，まだ歯科臨床の実感が無い中で懸命に理解しようとしている姿が印象的だった。宴の最後には林　哲堂先生が本学出身の御子息，林　士凱君とお出でになった。これまでの Elective Study で培った両校の信頼関係を強く感じることができる良い時間を過ごすことができた。翌日は台北医学大学で鄭　信忠歯学部長が出席して歓迎セレモニーが開かれた（写真２）。学生達は改めて自己紹介し，記念品の交換を行った。セレモニー後大学内を見学し，臨床実習室や基礎実習室の様子に本学との相違を体感したようだった。附属病院に移動し，病院の説明を受けてから病院内の見学をした（写真３）。事前の山下教授からの歯科診療の説明が役立ち，まだ学んでいない歯科臨床や診療の流れについても理解できたように思えた。午後から国立故宮博物館，忠烈祠を見学し，夜は士林夜市を楽しんだ。３日目はホテルで台北医学大学の学生と集合し，バスで台北医学大学・署立雙和病院へ向かった。病院見学では診療室の他にヘリポートの見学をした（写真４）。雙和病院の障害者歯科診療室の創設には本学も深くかかわっており，その診療室を見学できることは学生達にとっても有



写真３　張先生からマネキン実習の説明を受けています



写真４　恒例のヘリポートで万歳！



写真５　台北駅で ChooChooTrain



写真６　緊張の手術見学

意義であったと思う。午後は行天宮を見学したのち，ホテルに戻り両校の学生達の自由時間とした。学生達は台北101などを案内してもらったようで，夜の集合時間には十分楽しんだ様子でホテルに戻ってきた。４日目も午後２時の集合時間まで学生同士で交流する時間にしたが，台風11号が台湾を直撃し大雨に見舞われたため，両校の学生たちはホテル近くで過ごした。遠くに時間をかけて出かけるよりもお互いに話し合う時間が多く持てたようで，学生交流の面では天候不良も良い方に作用したようだった。台風の影響で新幹線の運行が危ぶまれたが，予定通りの新幹線に乗車し，台南に向かった。台北駅では両校の学生たちは大変名残惜しい様子で，あちこちで記念撮影をする姿が見受けられた（写真５）。そればかりか，張先生と台北医学大学の学生たちが１駅新幹線に一緒に乗車してくれて，これまでにないような学生交流となった。台南駅で本年３月まで本学に留学していた奇美病院の林　哲毅先生の出迎えを受けた。台南駅からホテルまでのバスで台北とは異なる台南の風景を楽しんだ。夕食後，各自ホテル近くを散策した。翌日奇美病院について林先生から説明を受け，その後病院内を見学，手術室で口腔外科の手術を見学した。学生は手術着に着替え，緊張の面持ちで手術室に入った。口腔癌の手術の一部（２時間くらい）を見学したが，片時も動かずじっと手術を見学する学生，初めての手術見学に躊躇する学生など，学生の対応はそれぞれだった（写真６）。手術見学後，柳営奇美病院に移動し，病院見学を行った。柳営奇美病院は台南の奇美病院とはバスで１時間以上離れており，田園風景の中に建つ病院で台南の奇美病院とは異なる雰囲気があった。夜の食事会で学生たちは奇美病院の先生方と台北医学大学の学生交流とはまた違う交流を楽しんだ。６日目の早朝，ホテルから高雄空港に向かい帰路についた。

Elective Study は学生交流と病院見学を２つの柱としている。台北医学大学を訪れるのは４回目であり，過去３年間で培った両校の信頼関係が益々強固なものとなっているのが大変心強く感じられた。また今回参加した学生達も，これまで Elective Study に参加した学生達と同様に今後も台北医学大学の学生達との交流を継続して，将来は引率教員として台北医学大学を訪れてほしいと思う。もう一つの柱である病院見学では，出発前に学生に臨床見学をさせ，歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムの説明を行ったことが役に立ったようで，臨床科目をほとんど学んでいない第１－３学年の学生にとって詳しい治療内容はわからないまでも，見学した症例や設備，施設がどのように使われるのかという大まかな理解はこれまでより進んでいたように感じられた。

Elective Study でお世話になった先生方，事務の方々，関係各位に心から感謝，御礼申し上げます。

血脇守之助が三条に滞在しなかったら東京歯科大学の血脇守之助は無かった



阿　部　晴　弘（昭和46年卒）



血脇守之助*

新潟県の中央部の信濃川沿いに，金属加工や刃物の町として有名な三条市がある。その街で昨年の９月８日町並み探検隊という市民団体の主催で，「血脇守之助と野口英世と三条」という講演会が，三条市立図書館で開催された。講師は吉田東伍記念博物館の副館長渡辺史生さん・実質的には館長。

この博物館は磐越西線が通る阿賀野市の安田町にあって，吉田東伍博士（日本歴史地理学者，『大日本地名辞書』の著者）を記念して建てられた博物館で，後でお話しする石塚三郎が明治，大正，昭和にかけて撮った三千枚以上のガラス乾板写真と血脇や石塚の資料を多く所有している。



〒959－2221
新潟県阿賀野市保田１７２５－１
TEL 0250-68-1200　FAX 0250-68-5016
お問い合わせ　y. togo@oregano. ocn. ne. jp

吉田東伍記念博物館

渡辺さんはこれらの写真や資料を基に，「血脇守之助が歯科医師を目指したことに三条が大きく関わっている。血脇守之助が三条に滞在しなかったら，医聖野口英世は生まれていない」と言い切った。



新潟県の地図

血脇（旧姓，加藤）守之助は明治３年（1870年）２月現在の千葉県我孫子市で父・加藤誠之助，母たきの長男として生まれた。明治６年，守之助４歳のとき，母が産後間もなく24歳の若さでこの世を去った。さらに父誠之助も婿養子であったため，加藤家を離縁し，実家に復籍した。幼くして両親を失った守之助は祖父母に暖かく育てられ，明治13年秋，尋常小学校を卒業すると，祖父に懇願して12歳の若さで東京に遊学した。東京英学校，共立学校などで学び，明治22年４月慶応義塾別科を卒業した。遊学中，多くの友人と共に学び語り合ったことは，守之助の人格形成に重要な役割を果たしている。また，後に歯科界のリーダーとして社会的活動をする上で大きな力となった。

同年４月東京新報社に入社するが，４カ月を経たある日の夕方，窓に掛けてあったランプが落下し金具が守之助の瞼に刺さった。傷が治らず，社に迷惑がかかるため退社し，我孫子の実家に戻って静養した。眼の傷も癒えたある日，友人から，新潟・三条町の米北教校が高給（月給25円）で英語教師として迎えたいという話があると，守之助はそれに応じた。

血脇守之助の学生時代に交流のあった友人達

池田　成彬	第14代日本銀行総裁，大蔵大臣，商工大臣，三井合名会社・筆頭常務理事(事実上の三井財閥総帥)
中條精一郎	建築家，国民美術協会の会頭　長女・百合子は後の宮本百合子
森山松之助	建築家，東京歯科大学の前校舎を設計，TDC の校章をデザイン，台湾・台北市の現・台北賓館，監察院などを設計
木下謙次郎	貴族院議員，衆議院議員(当選９回)，関東長官
米山　梅吉	貴族院議員，三井信託銀を創立し社長，日本初のロータリークラブ・東京ロータリークラブ創立
高山　長幸	衆議院議員(６期)，帝国商業銀行会長，東洋拓殖総裁

他にも多くの友人がいる。

明治23年１月，21歳の守之助は真冬の雪国新潟の三条に赴任した。米北教校は真宗の僧侶の機関学校で，地元で唯一の中等教育を施す学校であった。教育熱心な地域の人達から，新進気鋭の英語教師守之助は大歓迎を受け，すぐ家庭教師の依頼がきた。越前屋の離れ座敷に下宿した。



昭和６年10月撮影，守之助が三条での下宿先，越前屋の西沢キチを，38年ぶりに訪ねる。この時，二人は同い年で63歳であった。

三条に来て１年半が過ぎた明治24年の初秋の頃，下宿の母屋に開院した三条病院の院長で，米国帰りの医師・田原　利（とおる）と知り合いになり，酒を酌み交わし米国の国情などを熱心に聞くうちに親しい仲となった。

明治25年２月突如，宗教学校にはめずらしい学生ストライキが起きた。原因はもう一人の英語教師（松原　某）が，間違った英語を教えたことであった。校長と相談して守之助が説得すると，一週間続いたストライキは終息した。ところが，こんどは松原　某先生が採点を極度に厳しくしたために，進級，卒業できない子供がかなりの数に上った。守之助の立場はなく，不快の念を抑え切れなかった。この事件は守之助の教員生活に懐疑心を懐かせ，冷静に振り返らせる契機となった。

ある日悶々とする守之助は下宿に帰ると，友人から英字新聞『ニューヨーク・ヘラルド』紙が届いていた。それを拾い読みすると，眼を射たのは米国・歯科医師の広告文であった。「これは！独立して生計を営める職業でないか」歯科医師について知らなかった守之助は，米国で学んできた医師・田原に，その道に進むことを相談した。

「これはよい思い付きだ。日本では見る影もない地位に置かれている稼業だが，米国での歯科医の地位は，我が国と比べ物にならないくらい高い。暗夜のような歯科医界を黎明の彼方に救いだせるのは，君のような高潔の士によって初めてなし得られるのだ」と言って医師・田原は直ちに賛意を示し，激励した。守之助は大いに奮い立った。

明治26年２月守之助は校長に辞表を提出し，少し前に巻町に開業した医師・田原のところに１カ月ほど滞在して，３年余り暮らした新潟を後にした。

東京に戻ると，本郷森川町に寄寓していた親友の中條精一郎の下宿を訪れ，歯科界入りの説明をすると，ちょうどそこに居合わせた中條の友人で高山歯科医学院，院長高山紀斎夫人の弟・森山松之助が，我田引水になるかもしれないと断りながら，高山歯科医学院を推した。また，米国留学中の盟友池田成彬に紹介された歯科医師・伊澤信平も高山歯科医学院を推薦した。守之助は長くつかえていた胸のモヤモヤが晴れ，高山歯科医学院への入学を決意した。

明治26年４月，守之助は芝伊皿子町にあった，当時日本で唯一の歯科医育機関高山歯科医学院に入学した。だが学資が足りず，医師・田原の自発的な毎月６円の送金と借金で賄った。入学して間もなく，院長高山の米国シカゴ・万国歯科医会会議の演説原稿を友人とふたりで英文にした守之助は，日頃から守之助の人柄に感服していた院長高山に懇願され，学生ながら学院運営を行う幹事に就任した。重厚，悠揚迫らぬ態度で接する守之助は，年上の講師（榎本積一，遠山椿吉など）や学生たちとますます親密になり，敬慕された。その年の暮れ帰国した院長高山は，その間の守之助の用務処理，学院運営に驚嘆した。

守之助は歯科医学の習得に精を出し。明治28年７月２年余りで歯科医師の資格試験に合格し，歯科界へのスタートを切った。

明治29年１月，久しぶりに医

師・田原が守之助を訪ねて来た。守之助の懐具合を察した田原は，何をやるにも資金が必要なのだから，全国を回って診療をやるように忠告した。守之助が私がやりたいのは歯科治療ではなく，この学院で歯科医育について十分研究することだと言うと，田原は，それなら学院の夏季休暇中，僕の米国留学中の同窓の友人で会津でやっている医師・渡部　鼎を紹介するから，そこで出張診療をやってみないかと勧めた。会津若松で開業する医師・渡部の会陽医院の向かいの旅館の一室で，出張診療をやった。渡部家の玄関座敷には，いつも頗る風采の上がらぬ青年がいた。その青年こそ野口清作（後の英世）で20歳であった。



野口英世*

野口清作（英世）は明治９年（1876年）11月福島県耶麻郡三ツ和村（現・猪苗代町）に生まれた。１歳の時囲炉裏に落ち，左手に大火傷した。小学校では成績優秀であり，それを知った小林　栄教頭は，自ら学費を援助して猪苗代高等小学校に清作を通わせた。高等小学校でも体操以外の成績は首席であった。明治24年不自由な左手を治すため医師・渡部に手術をしてもらった。手術は成功し，これに感激したことが医師を目指すきっかけとなった。高等小学校を卒業すると，手術をしてくれた渡部の会陽医院で，書生として働き勉学に励んだ。

守之助は野口の身の上と，高い志で医学原書を熱心に読む，その非凡さと根性に驚嘆し，「いつの日か東都遊学の際には立ち寄りなさい」と，軽く励ますつもりで声を掛けた。

11月３日の天長節の祝賀式が終わり，守之助が自室で休息していると，野口清作という青年が面会を求めて来た。話を聞くと，９月に上京して医師開業前期試験に合格したが，金もなく，居場所もないので，学院の俥夫にでも使って欲しいということであった。院長高山に書生として置くことの了承を得ようとしたが，よい返事はもらえなかった。しかたなく，そっと寄宿舎に忍ばせて置くと，やがて，玄関で鐘を鳴らすなど雑務をしながら学僕になった。

ところが間もなく，野口と同い年の石塚三郎という青年が高山歯科医学院への入門を願い出た。野口という重荷を背負い込んだばかりの守之助が，了承などできるはずもなかった。



石塚三郎*

石塚三郎は，明治10年９月新潟県北蒲原郡安田村保田に生まれた。家は貧しかったため，13歳で地元の素封家である簇野家（当主は餘太郎，吉田東伍博士の長兄）に奉公に入った。そこで当主餘太郎から英語，漢詩文などを学び素養を身に付けた。

歯科を志して上京した石塚は，守之助に何度断られても執拗に頼みに通った。その甲斐あって，明治30年４月採用通知を受け，学院の書生として玄関寄り付きの四畳半の部屋で野口と起居を共にし，受付，会計係として働きながら歯科医学を学んだ。野口と同じような生い立ちであったことから，二人は肝胆相照らす仲となり，その思いは生涯消えることはなかった。



野口英世と石塚三郎*



野口英世と石塚三郎（大正４年10月撮影）
岩越鉄道（現 JR 磐越西線）・野沢駅にて*

その後，野口は守之助から毎月15円の援助を受け，済生学舎に学び，明治30年21歳の若さで医師免許を取得した。高山歯科医学院，北里柴三郎の伝染病研究所，横浜検疫所に勤めたのち，明治33年の末，米国に渡りロックフェラー研究所などで黄熱病，梅毒などの研究で多くの成果を上げ，世界的な細菌学者となり帝国学士院から恩賜賞が授与され，何回かノーベル賞候補になった。昭和３年（1928年）11月，黄熱病の研究中アフリカで殉職した。

石塚は歯科医術開業試験に合格すると，高山歯科医学院の講師や幹事を務めた。また昭和３年から２期，歯科医師初の衆議院議員として活躍し，歯科医師法の改正に大いに尽力するなど，守之助をよく助け歯科医会の重鎮となった。野口の死後，野口英世記念会の創設，運営に心を砕き，晩年は同会理事長として親友の偉業の顕彰に懸命な努力をした。因みに，西武鉄道グループの元オーナー堤　義明は，石塚の娘，恒子の子供であり，吉田東伍記念博物館の隣にある瑠璃光院に石塚と恒子は眠っている。また，石塚はアマチュア写真家としても有名で，その時代の貴重な記録写真（ガラス乾板写真）が先程の博物館にあり，この度の講演会で多く紹介された。同時に，我々同窓がよく目にする東京歯科大学の貴重な写真の原板は，この博物館が所有している。

思いがけず英語教師として三条（新潟）に来たことで，幼くして両親と別れた守之助は，兄または父のような存在となる医師・田原と邂逅した。田原は，予想もしなかった歯科医師への道に勇気を与え，経済的援助と様々な助言をし，昭和15年に亡くなるまで守之助のよき理解者であった。また，医師・渡部の所で野口清作と出会うきっかけを作ったのも田原であった。守之助にとって「何処飛躍の地ならざる」の言葉のように，三条が飛躍の地となり，東京歯科大学の血脇守之助が誕生した。

東京に頼る者もいない野口は，会津若松で血脇守之助と出会い，掛けられた一言で運命が変わった。野口にとって，血脇の持っている幅広い人脈と精神的，経済的支援は絶大であった。特に経済的支援は血脇が学校建設と運営に苦慮しているときに多額に及び，我々常人ではとても考えられない援助は敬服に値する。血脇が野口を最後まで支援し続けた義侠心と気骨は，医師・田原をはじめ，明治の時代の人達が国家建設への熱き思いの発露として，才能ある人には援助を惜しまないという気風であったにせよ，血脇守之助の支援がなければ，絶対に医聖野口英世は生まれていない。

漆黒のような歯科界に，開かれた歯科医育の必要性を痛感し，私財を投げ出して歯科医学院を創設し，現在の濫觴となした高山紀斎と，その志を継いで，黎明期の混沌とした歯科医界の錯綜する難問を解決し，学院を専門学校に更に大学へと，地位向上のために希望の光を与えつづけた血脇守之助。それは守之助が長い間に培ってきた政界，財界，医療界などの人脈と，池田成彬と木下謙次郎が血脇守之助の謝恩之碑文に刻んだ「天資温厚姿度広大頗ル大人ノ風アリ（一部省略）又能ク時務ニ通ジ経済ニ明カニシテ経世家ノ素質ニ富ム人」のように，資質と人徳がなければ成し得なかった。

正に，血脇守之助はこの時代のエスタブリッシュメントであったといえよう。



血脇守之助の家族と石塚三郎（明治36年くらい）
左から広瀬武郎，長男・日出男，石塚三郎，血脇守之助
次男・芳雄，夫人　血脇（旧姓・広瀬）ソデ*



野口英世・アメリカへ帰国の日（大正４年11月４日）
佐渡丸船上にて，左から　渡部　鼎，野口英世，血脇守之助，小林　栄，後ろ中央　石塚三郎*

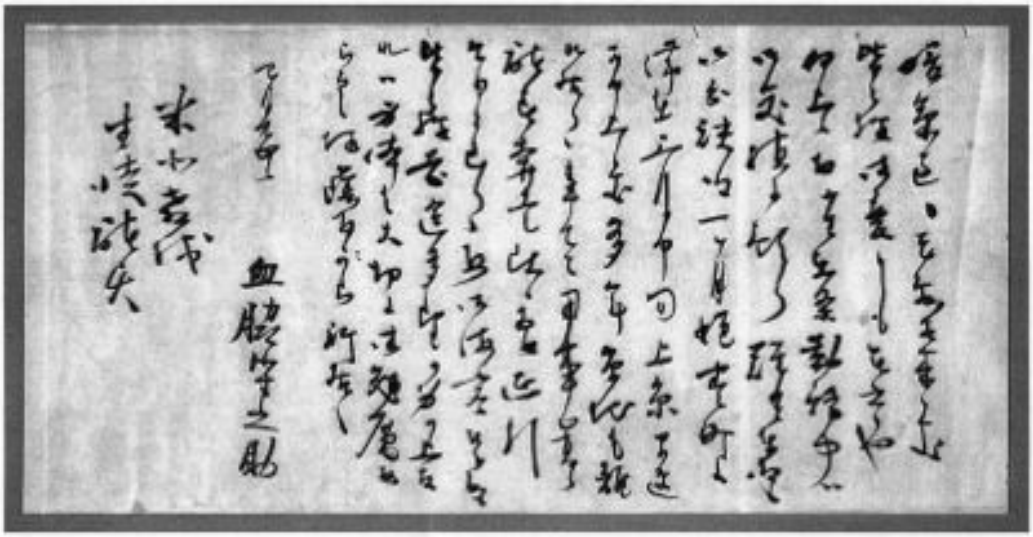
追記

この書簡は，2010年春，発見された守之助・23～24歳頃の直筆の二通の書簡で，吉田東伍記念博物館友の会会員から博物館に寄託されたものである。

これは守之助の三条滞在を示している。

尚，＊の写真は，吉田東伍記念博物館所蔵

書簡1



【血脇守之助→米北教校生徒諸君】
明治二十六年四月二十四日

暖気逐日花散相成候処、皆々様、御変りも無之候や伺上候。拙小生在条勤務中ハ御交誼に預り難有奉存候。御分袂後一ヶ月程巻町に滞在、三月中旬上京、早速申上候処、多年京地も離れ居り候事とて、用事繁なり諸所奔走仕候為是迄引今日に至り候段御海容被下度候。皆々様前途多望の身の上なれハ身体を大切に御勉励あらるゝ様、祈りながら祈居候。

四月廿四日　血脇守之助

米北教校
生徒諸君

書簡1　釈文

日を追って暖くなり、花も散る頃となりました。みなさまお変わりございませんでしょうか。

さて、私、三条町に勤務中は親しく交際していただき、ありがたく存じております。お別れしてからのち一カ月ほど、巻町に滞在し、三月中旬に上京。さっそくごあいさつ申し上げるべきでしたが、長年東京を離れていたこともあり、用事が重なり、あちらこちらと奔走しておりました。このためのびのびとなって今日に至ってしまいましたことをお許しいただきたいと思います。

みなさまの前途、将来は望み多い身の上なのですから、御身体を大切にしてつとめ励まれるよう、かげながらお祈りいたしております。

四月二十四日

血脇守之助

米北教校

生徒諸君

書簡2



【血脇守之助→鳳気至正雄】

年月未詳

昨日は多人数参堂御厄介に預り万々難有存候間瀬の峠を越へ午後九時無事着卷仕候間乍他事御放慮被下度候偖昨日初めて御意を得たる身としてかゝる事御願申上るも嗚呼の至りに候得共云はれなきにも在らねば申上候前三条病院長田原利君は豫て小生の親友に御座候処本年春中より無報酬にて米北教校の学科を御教授被下度候ならぬ利益を得候同君今回当地に於て開業被致候に付き御手数の段恐縮の至りに候得共御序での時を以て御知合の人々に御吹聴（一字脱カ）仰度名刺十五枚相添へ此段御願申候也

早々頓首

血脇守之助

二十八日

鳳気至正雄殿

書簡2　釈文

昨日は多人数で伺い、ご厄介をおかけいたしました。とてもありがたく思っております。間瀬の峠を越え、午後九時に無事巻に着きました。関係ないことですが、お気づかいなく願います。

さて、昨日、はじめてお考えをうけたまわった身で、このようなことをお願い申し上げるのは、とても愚かなことですが、言わないわけにもまいりませんので、申しあげます。

前三条病院長の田原利氏は、かねてからの私の親友でございます。本年春中より、無報酬で米北教校の学科をご教授くだり、教校も一方ならぬ利益を得ました。同氏が今回当地において開業いたしますので、お手数をおかけして大変恐縮ですが、おついでの時に、お知り合いの人々にお広めいただきたく、名刺一五枚を添え、この事お願い申し上げます。

早々頓首

血脇守之助

二十八日

鳳気至　正雄　殿

会　　務

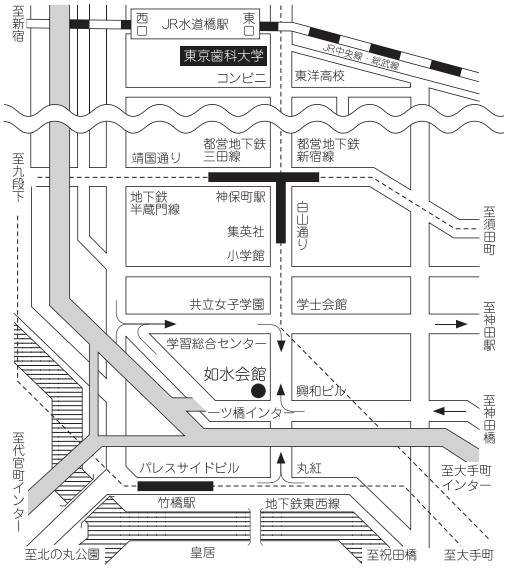
平成26年度東京歯科大学同窓会
評議員会　日程

1．日　時　平成26年11月２日（日）
2．会　場　如水会館　２階　スターホール
　　東京都千代田区一ツ橋２－１－１
　　電話番号　03－3261－1101
3．日　程

区　分	時　　間
評 議 員 会	午前10時00分～午後３時30分
懇　親　会	評議員会終了後

平成26年度 東京歯科大学同窓会評議員会
（午前10時00分～午後３時30分）

1．開 会 の 辞
1．点　　呼
1．会 長 挨 拶
1．来 賓 挨 拶
1．議長，副議長選出
1．議事録署名人指名
1．黙　　祷
1．報　　告
　⑴　平成26年度　会 務 報 告
　⑵　平成26年度　会計現況報告（財産の廃棄処分を含む）
1．東京歯科大学の現況報告
　⑴　東京歯科大学の現況
1．議　　事
　第１号議案　名誉会員の推薦
1．名誉会員推戴式
1．叙勲，褒章受章者顕彰式
1．議　　事（続き）
　第２号議案　平成25年度　経常部収支決算
　第３号議案　平成25年度　特別会計収支決算（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金，同窓会創立120周年記念事業積立金）
　第４号議案　平成25年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支決算
　第５号議案　平成25年度　時局対策費積立金会計収支決算



最寄りの駅からの案内図

　第６号議案　平成25年度　財産目録
　　（監　査　報　告）
　第７号議案　平成27年度　事業計画
　第８号議案　平成27年度　入会金および会費
　第９号議案　平成27年度　経常部収支予算
　第10号議案　平成27年度　共済負担金
　第11号議案　平成27年度　特別会計収支予算（高山・血脇記念同窓会基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金，同窓会創立120周年記念事業積立金）
　第12号議案　平成27年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支予算
　第13号議案　平成27年度　時局対策費積立金会計収支予算
　第14号議案　選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出
1．協　　議
　⑴　評議員選出の経過措置および評議員会のあり方について
　⑵　その他
1．閉 会 の 辞

評議員会の傍聴を希望する会員は，事前に事務局までご連絡ください。

平成26年度　学年代表者会開催

平成26年７月13日（日）東京歯科大学水道橋校舎新館11階第一講義室において，東京歯科大学との共同開催のもと「平成26年度学年代表者会」が開催されました。昭和19年９月卒業（十六会・50期）の山根照人先生を筆頭に，今年の春卒業した平成26年卒業（千鼎会・119期）代表代理の佐藤正敬先生まで，58学年の代表の先生と，同窓会・大学関係者24名の総勢80名が出席され，臼井文規総務担当常任理事の進行のもと，玉井達人同窓会副会長より「この会は同窓会の縦と横を結ぶ絆となる大変重要な会です」という挨拶で開会しました。



玉井副会長



臼井常任理事

開会に先立ち，水野嘉夫新法人理事長より「この学年代表者会は，大学のこと同窓会のことをお互いに知り合う，大変良い機会だと思うので是非有意義な会にしていただきたい」というご挨拶とともに，井出吉信学長からもご挨拶をいただきました。



水野理事長

次に，矢﨑秀昭同窓会長より「学生も都心の大学生活に慣れてきた事と思います。最近の同窓会の一番の課題は，若い先生方との交流ということで，若手ネットワーク委員会が立ち上がり，若手そして女性の先生との交流を進めています。日本歯科医師会でも，研修医の歯科医師会入会制度を設定し，若い先生方の参画をすすめています。



矢﨑会長

同窓会本部の大きな役割としてはアカデミア構想を中心に同窓の先生方の精神的な支柱になる活動を進めていきたいと思っています。来年は同窓会120周年記念式典も企画しておりますので，是非，支部の入会を促進し，平成卒の先生方が中心になって同窓会をもり立てていただきたいと思います。」と挨拶がありました。

以下，報告と協議についてご紹介します。

大学からの報告

（1） 大学の近況について

井出吉信学長より，



井出学長

「今年度は，男性56名，女性72名と初めて女性が多くなり，歯科医師の子弟は72名（56.3%）そのうち，同窓の子弟は20名（15.6%）非同窓は52名（40.6%）。医師の子弟が24名（18.8%）その他子弟が32%となっています。

国家試験の合格率は大変よい結果ではありましたが，他の大学も相当頑張っていますので，油断は禁物ということで学生教育も頑張って行かなくてはならないと考えています。

同窓会，歯科医師会の組織率が下がっているということについては，我が校では研修生全員が歯科医師会に入会いたしますし，エレクティブスタディーにも，同窓会に支援していただいていることを学生に説明をしています。２年後には西棟ができますが，１階には，同窓会と大学との交流が出来る部屋を作ろうと考えています。西棟と新館とを繋げることで，使い易い構造になる予定です。水道

橋病院，千葉病院，市川病院のあり方も検討し，同窓会とも一体となって進めていきたいと思うので，ご協力をお願いしたい」というお話がありました。

⑵　卒後教育

一戸達也副学長より



一戸副学長

文部科学省の会議において，歯学教育において多様な歯科医療のニーズに対応した歯科医師の養成という事が提言されています。

また，各大学の機能，設備に対する機関別認証評価とともに，専門職種の能力を評価するという分野別認証評価がされるようになり，どのような学生が入学するのか？どのような教育をうけた学生が卒業するのか？各大学の特色は？というような評価がはじまっています。

今年２月の国家試験より，出題基準が変更になり，国家試験の出題基準の中にも，多職種連携のできる歯科医師を育てることを主眼に，嚥下に関する内容，より複雑な心電図の読み方，基礎疾患別薬剤の使い方についてなども出題され，開業歯科医師としてだけでなく，訪問診療や病院歯科において遭遇するであろう事象についても対応できる歯科医師を育てることが必要になってきているため，千葉病院では，訪問診療車に乗ったり，市川病院では口腔ケアの実習をしたりと医療現場に参加できる歯科医師を作る様卒前教育，国家試験，卒後教育，生涯研修の広いスパンで歯科医師を育てることが求められています。そこで，卒業後の進路に，臨床系講座の医局員研修講座キャリアパスを明確にする様に指導しています。

文科省，厚労省ともに国家試験合格はひとつの通過点であり，その後どのような歯科医師を育てて行くかということが重要になってきています。

同窓会からの報告

⑴　会務報告

髙橋義一専務理事より

本部からのお願い）



髙橋専務理事

同窓会会員名簿の作成年になっていますので，ご協力をお願いいたします。また，同窓国会議員の任意の後援会を立ち上げましたので是非，東京歯科大学から日本のリーダーを創るべく，応援をお願いいたします。

クラス代表宛に届けている情報ネットをご活用いただけるようお願いいたします。

重点項目について）

執行部役員が改選され，第２期の矢﨑執行部が誕生し，会員の支部加入促進，若手同窓との連携が重点項目となっています。

ほぼ9,000人の会員の支部加入は，平成23年が，70.29％。25年は70％を切っている状況です。会費収入も下がりますが，このまま



東京歯科大学の伝統を創られた諸先輩方



伝統を継承し未来へ飛躍させていく若い先生方

行くと同窓会を支える若い先生が不足してくることが危惧されるため，準会員・新進会員制度，若手ネットワーク，広報ではHP・FBの活用，クラス会開催支援を行なっています。新進会員が考え新進会員が創る「新進会員のつどい」，社会に貢献できる人材を育成する立派な医療人をつくるという「アカデミア構想」そして準会員の若い会員との接点を持つために，同窓会会報を直接渡しながら，同窓会を知っていただく活動を行なう等，新しい同窓会の役割として社会性をみせ「人を創る」同窓会を目指しています。

また，120周年記念事業としては，記念誌の発行，講演会，祝賀会の開催を予定しており，その一環として，明治時代からの卒業アルバムの整理をしてお見せしたいと考えています。

事前質問とその回答）

＊評議員会のあり方および数について

（昭和47年卒・七十七期会
森岡俊介先生のご質問）



森岡先生

回答（髙橋専務理事より）

昨年の評議員会で，評議員の定数について，地域支部の会員数を基準に「一県一評議員」の経過措置がとられ，評議員会に決議・組織の意思決定を委ね，総会の廃止を決定しましたが，情報の共有化としては，情報ネットの活用，HPのメールボックスの活用によりどなたからもご意見を伺えるシステムになっておりますのでご活用をお願いしたいと思います。28年度以降については，決算や会則の決定等の代議員会的な要素を持つ評議員会と地域と本部，大学との意見交換や親睦による団結という全国組織的な要素の都道府県代表者会を目的で分けることで検討しており，さらに学年代表者会とを合わせて，縦と横が繋がる関係を構築するよう，今後ご意見を聞いていこうと考えています。

また，同窓会の公平性，透明性，伝統をもとに，会長・監事選挙制度が制定され，会員数に応じた投票権を採用して，次期会長選挙より実施されます。

＊本部がクラス会に出来る事，クラス会が本部に出来る事は？

クラス会案内や返信を同窓会でしていただけるか？それにより同窓会本部を意識することになると思うが…

（昭和47年卒・七十七期会
森岡俊介先生）

回答（髙橋専務より）

本部がクラス会の為にできることを纏めていただき，ご意見をいただければと思います。

本部がクラス会にお願いすることとしては，クラス会の横の活動をより密接な関係を築いていただき，それを元に支部加入促進，組織力アップに繋がることを期待しています。

クラス会案内については，要望として検討させていただきます。

＊新しい同窓会室の利用について

（昭和52年卒・八十二期会
岡野昌治先生のご質問）



岡野先生

回答（髙橋専務より）

新しく移転した事務室は支部でも使用可能です。希望される場合は，鍵の受け渡しなどご注意頂きたい所がありますので，先ずは事務局にご相談頂いた上でご利用いただきたいと思います。

（2）アカデミア構想

宮地建夫副会長より



宮地副会長

大学で日本一の歯科医学や技術を学び卒業した同窓に対し，医学や技術だけでなく，社会の中で活用していける生涯研修を応援しようという構想で，社会的に広い視点で見ることの出来る歯科医師を作るために，歯科医学的な課題と歯科医療的な課題に別け人材育成を目指しています。

どんな歯科医師を目指すのか？社会に求められている歯科医師とはどんな歯科医師なのか？について，同窓としての経験などを踏まえ多くの若い世代の先生に伝えていくことが同窓会の使命と考えており，水道橋のこの地が歯科界の

アカデミアになるようにと考えております。

協議）

座長：浮地文夫副会長



浮地副会長

(1)　緊急時代診制度

①本部における取組

寺田仁志総務厚生担当常任理事より



寺田常任理事

平成23年６月１日より試験的に実施いたしまして，秋田，神奈川，静岡の３例の要請がありました。結果として，親族での対応，近隣歯科医師会での対応，同級生での対応となり，本部としての実績はありません。問題点としては，保険医登録の問題，患者からのクレームへの対応，医療事故の責任の所在，金銭など契約上の問題，地域での不公平性，社会的情勢の変化（カルテ開示，診療の透明性）という問題があり，実施する場合は，運用規定を検討し策定する必要がある上，迅速な対応が不可能ということで，現在は中止となっております。今後，もう少し地域性，柔軟性，迅速性を考慮した上で再度検討し，地域，支部単位で運営できるような体制を作り，皆様にお示しできるように検討したいと考えております。

②クラス会での取組について

（アンケートに回答いただいたクラス会からの報告）

＊丹野　研先生

（昭和39年卒・十二期会）



丹野先生

年齢があがるとともに仲間も少なくなっており，手を貸すことは無理かもしれないが，何とかしたいという気持ちは全員にある。事例としては，地区において対応をしていただいている。

＊小林　顕先生

（昭和56年卒・水公会）



小林先生

２つのケースを経験し，クラブのOBや大学の講座や同級生で派遣をしたが，いずれも親族の判断で閉院となった。このことから，各ケースについてその地区でコーディネートをする人が必要であり，診療代行だけでなく，様々な問題を解決することが必要となる。

同窓会としては，日頃より，団体保険等の情報の提供，コーディネーターおよび支援者への支援，会員の緊急時に代診に行くことのできる歯科医師のデータベース化をしていただければと考える。

＊川越元久先生

（平成元年卒・平成会）



川越先生

病気入院により，２カ月間，同級生５名くらいで診療代行を行なった。

＊諏訪幸子先生

（平成10年卒・燦和会

内山博人代表代理）



諏訪先生

大学に在籍しており，大学の医局員であれば，期限を区切って代行は可能であると思われる。

＊森岡俊介先生

（昭和47年卒・七十七期会）

実際に診療をする場合，種々の届け出に関する問題，医事処理へ

の対応の問題がある。また，緊急時の対応を検討する場合，家族がどの程度その歯科医院に関わっているかによっても違ってくる。身近な時に身近なところで対応することが本来の姿であり，同窓会としては，自分が，もし，病気になった時にどうするのか…ということを家族で話し合うための資料や，従業員への対応に関する資料を提供することが必要だと思う。

＊まとめ

座長の浮地文夫副会長より，

大学から派遣する場合の派遣料や，代診として診療することに対して，医療事故に対する問題，保険医登録という観点から，現在では，臨機応変に実施することは難しい。その医院の経営事情が解らない場合は，特に問題となる。医事処理に関しては，代診の先生が歯科医師会に入会していない場合には，責任の所在などが難しくなる。

矯正歯科の場合は事前に治療費を受け取っている場合もある等の金銭的な問題もあり，診療所での医事処理の責任の所在，従業員への対応，保健医療機関としての届け出の問題等，更に検討していかなければならないので，今後，更に好ましい制度を目指して検討をしていきたいと思います。

質問および回答）

大岡　洋先生

（平成９年卒・翔仁会）

ニューヨークにある野口先生の別邸など海外での研修システムの構築をご検討いただきたい。若手の先生の興味をひく研修が可能だ



大岡先生

と思うので是非検討していただきたい。

回答（井出学長より）

建物の管理には相当な金額が必要となるので，活用については，検討中です。

西山　潔先生

（昭和57年卒・黎明会）



西山先生

千葉病院，千葉校舎の今後の方向性をお聞きしたい。

回答（井出学長より）

西棟が出来る２年後までは，千葉病院を活用する必要があるが，売買や他病院からの要望，千葉病院を存続させる価値との兼ね合いをあわせ検討しています。

その他）



鳩貝先生

鳩貝尚志先生より

（総務厚生委員会委員長）

９月15日（日）全国ゴルフ大会の開催に是非ご参加いただきたいと思います。

佐々木眞澄渉外担当常任理事より



今回，同窓の国会議員を応援してくださる方のリスト作成を目的に，会費無料，自由参加の後援会をたちあげました。同窓会の担当は，藤原元幸副会長，島村　大議員の後援会会長を大山萬夫同窓会名誉会長，白須賀議員の後援会会長を浅野薫之先生にお願いし同窓会報10月号に申し込み用紙を同封いたしましたので，よろしくお願いします。

最後に，藤原元幸副会長より，

「最近，若い先生方が同窓会に入らないという声も聞かれますが，是非共若い先生方にも大いに参加していただき，東京歯科大学同窓会をもりあげていきたい」との挨拶で閉会となりました。

その後，会場を13階第一実習講義室に移動して懇親会が行なわれました。



藤原副会長

懇親会では，佐藤　亨常任理事の進行のもと，財部正治副会長の開会挨拶，大学より石井拓夫副学長の挨拶，大山萬夫顧問の乾杯，島村　大参議院議員の挨拶が行なわれ，大勢の代表者の先生が参加されました。

あいにく曇りがちのお天気ではありましたが，13階第一実習室には，外バルコニーのとても気持ちのよい空間があり，若手の先生と先輩の先生が一緒になって懇談が行なわれました。

学年代表者会は，久しぶりにお会いした大学の諸先輩と歯科界の情報交換をしたり，縦の繋がりを深めるためのとても大切な会だと思います。今年の懇親会では，昨年より若い先生方の参加が多かった様です。大学の近況，卒後教育・生涯研修の話にもあったように，これからの歯科界は，多種多様なニーズへの対応と他職種との連携といった社会性を求められています。そのような中，同窓であるが故の絆を元にした心の繋がりが，きっと大きな宝になることと思います。同窓会創立120周年を目前に，さらに絆を深め，同窓会はもちろんのこと，歯科界の明るく暖かい未来を心から期待するものです。

（広報委員会　佐々木葉子 記）


佐藤常任理事


財部副会長


大山顧問


石井副学長


島村議員


鳴神顧問


歯科界の伝統そして未来への飛躍を感じさせる懇親会でした。

会務アラカルト

両議員後援会にご参加をお願いします

涉外委員会の東歯同窓国会議員を支える会では多数の同窓の要望に応えて国会議員としてご活躍中の衆議院議員白須賀貴樹先生と参議院議員島村　大先生の後援会を立ち上げ，今回の同窓会報に趣意書と入会申込書を同封いたしました。従来同窓会の後援会ですと評議員会の議案として承認いただき全員参加として会費徴収し政治団体として活動できるような形態をとっていましたが，本執行部では任意加入として会費徴収はなく，また政治団体としない形として進めております。将来無限の可能性をもつ両先生がこれからの日本のリーダーとして活躍し，また国民にとってよりよい歯科医療に導いていただけるよう，長い目をもって全国同窓が応援してゆければとの気持ちであります。選挙区や政党にこだわらず同窓としての心をお二人に向けていただけるようお願いします。さっそく同封の申し込み用紙に記入し，それぞれ所定の送付先にファックスしていただければ幸いです。

次年度にむかって

第４回理事会が８月30日（土）に開催され平成27年度事業計画案と予算案が固まってまいりました。事業計画の中では，同窓会創立120周年記念事業，支部加入対策，準会員や新進会員をはじめとする若手同窓との連携促進，そしてアカデミア構想の実現，涉外活動，そして原点である大学への支援体制の構築と連携などが重点課題として進めてゆくことが決まりました。ここではアカデミア構想について紹介します。

アカデミア構想について

同窓会創立120周年を機にアカデミアプログラムをスタートしようと考えております。大学において日本一のレベルまで資質を高め社会に送り出された同窓が，それぞれが望む日本一の歯科医師像に近づけるよう，また幅広い分野で活躍できるような人材育成を明確な目標として定め，母校での質の高い大学教育を引き継ぎ，卒後同窓を生涯研修事業のためのアカデミアとして応援してゆこうという構想です。アカデミアでは先輩後輩とのつながりをひろげ，学術そして社会保障制度や涉外活動を含め軸足を生涯研修におき，年齢や年代そして地域にとらわれることなく東京歯科が求め続けてきた品格のある歯科医づくり・人づくりを意識的に進めようというものであります。

矢﨑会長がしばしば口にする「誇れる同窓会へ」との言葉に応えられるのがアカデミア構想です。「本会は，会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに，母校の発展に寄与することをもって目的とする」と会則で規定していますが，人材を育成し社会に貢献することも同窓会の目的に逸脱することはないと考えられます。120年前高山紀斎学院長と血脇守之助先生が高輪萬清楼において第一回の院友会を開催し，そこから東京歯科大学同窓会がスタートしました。その会則第一条には「本会は歯科医学上の知識を交換し相互の友誼親睦を篤くして歯科の品位を高かむるにあり」とあり，「学術レベルの向上」，「品位のある歯科医づくり」をめざしたもので，そのようなお二人の精神が日本歯科医師会の誕生そして歯科医師法の制定と当時の歯科を大きくかえた原動力になったと思えます。ではアカデミア構想についてもう少し具体的に紹介しましょう。

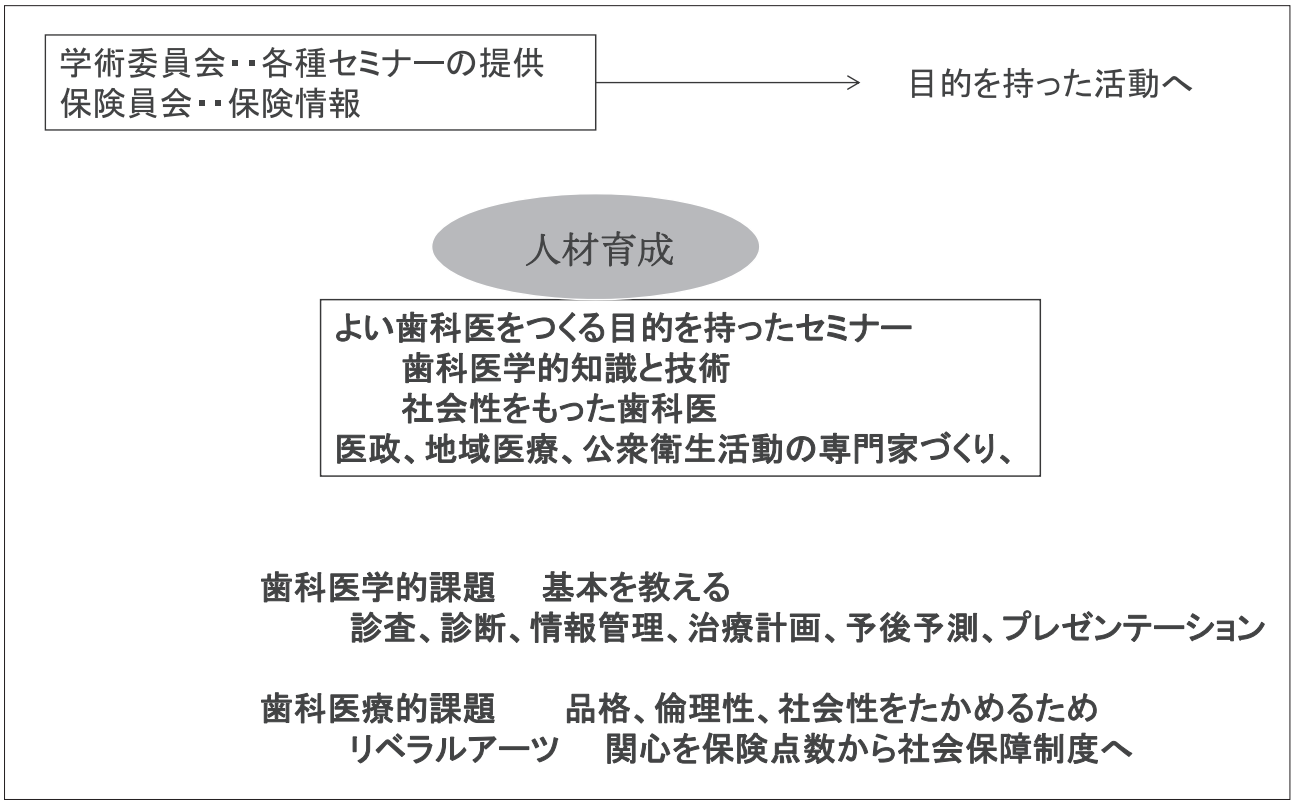
旧来の学術委員会では TDC 卒研セミナーを開催し，保険員会では健康保険情報を提供してきまし

アカデミアの理念

「歯科医師たる前に人間たれ」の建学の精神を基本に，人間味豊かで，社会性のある人材育成めざす総合的な生涯研修の場（アカデミア）をつくり，臨床から地域保健，医事に至るまで国手となるための一貫した理念に基づいて事業を展開する。さらに執行部の事業という枠を超えて，全国の同窓が次代を担う後輩たちへの支援や連携の輪となることを期待している。

た。本年度から事業推進部として社会保障制度研究委員会，若手ネットワーク委員会，卒後研修委員会，医療教養委員会，臨床セミナー委員会になり，アカデミア構想では事業推進部の委員会活動を人材育成といった統一の目的をもった活動を目指すことになります。

ここでの人材育成とは，歯科医学的知識と技術をもち社会性をもったよい歯科医をつくること，そして医政や地域医療，そして公衆衛生の現場の専門家づくりを目的にしています。平成27年からスタートするTDCAアカデミアをまとめてみます。



TDCA（Tokyo Dental College Alumni Association）アカデミア構想

1．120周年を機に新しい同窓会事業の方向性を見直した。

2．歴史と伝統そして実績から人材育成としての生涯研修がふさわしいと考えた。

3．日本一の歯科医づくりをめざす大学教育の連続性を大切に考え，建学の精神に則った歯科医づくりを人材育成の目標とすることとした。

4．人材育成は学術にかぎらず社会保険をふくめた社会保障制度に関する分野についてもすすめ医政や地域の保健医療の各組織の担い手に育つことも期待した。

5．研修は歯科医学的課題と歯科医療的課題とを包括した総合的な視点で捉えることにした。

6．歯科医学的課題では学術的な内容が中心になるが，専門的な学術研修にこだわることなく診査診断，予後の予測，情報収集，治療計画立案や評価，プレゼンテーションといった生涯研修を進めるうえでの基本部分を身につけ，望まれる歯科医師像や夢を自分で実現できる力を付けることを目標とした。

7．歯科医師像や夢は，いろいろな先輩の姿をみることにより創りあげられると考え，同窓会としてはその機会をつくることに力を入れることにした。

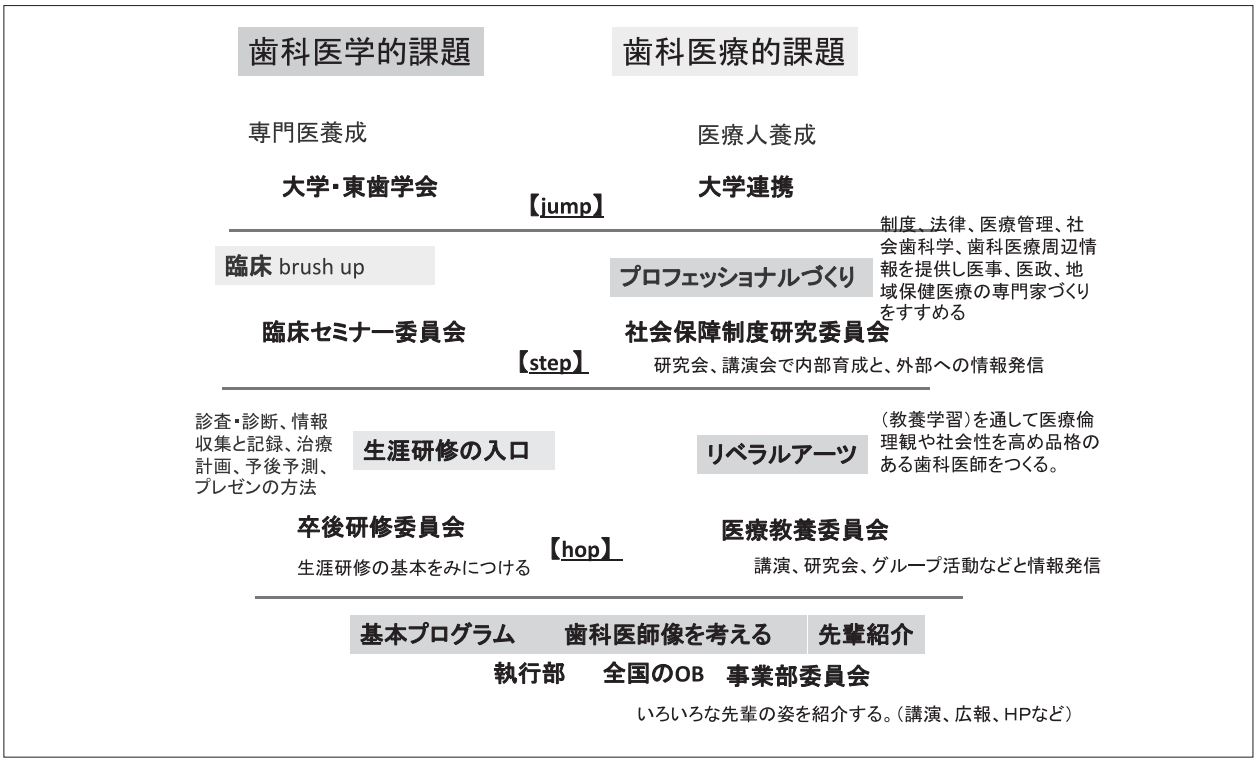
8．歯科医療的課題には倫理，社会性や地域性そして人間性味豊かで，品格などを高めることを目標に，社会保障制度についての研究や情報提供，リベラルアーツなど多彩的にとりいれ広げてゆくこととした。

9．アカデミアとは同窓の生涯研修のための場であり，単に研修の場ということではなく先輩と後輩とのつながりやネットワークなど人と人の交流も含めた場で，同窓会の存在そのものがアカデミアに繋がるものと考える

こととした。

10. プログラムはホップ・ステップ・ジャンプのような継続性をもたせた形式をとり，Jump では母校での生涯研修事業とつながりがもてるように考えた。

11. 人材育成は同窓会の目的の大切な一つとして位置づけようと考えた。



アカデミア構想の具体化にむかって

同窓会創立120周年を機にスタートし，その後年数をかけて構想の実現をはかります。アカデミアプログラムの推進は，すべての事業推進部各委員会がアカデミアに特化して事業を推進し，総務・厚生部，広報部，渉外部などその他の部と連携をとりながらすすめます。初年度については，事業推進部の中でも卒後研修委員会，医療教養委員会，社会保障制度研究委員会での活動を核とし，若手ネットワーク委員会は若手同窓との連携を進めながらアカデミアプログラムへの参加をうながすようアシストすると同時に，同窓の交流の場としてのアカデミアを築いてゆきます。また臨床セミナー員会は，40年の歴史をもつ卒研セミナーの伝統を継承しつつアカデミア構想の中の step 部分のコースを平成28年から本格活動がスタートできるよう準備します。

アカデミアに参加する人には年齢の制限はありません。また，直接参加できない同窓に対しては，情報ツールなど活用しエッセンスを紹介できるようそのシステムを検討していきます。さらにアカデミアは単に勉学にかぎることなく，同窓間の交流事業も大切にします。評議員会が開催される頃には平成27年度のアカデミアプログラムとして皆様に紹介できると思います。アカデミア構想は，今後の歯科大学同窓会のあり方に対する一つの提案になると期待していますが，モデルになるためにも未来に向かっての壮大な夢をつづったこの構想を実現しなければなりません。同窓におかれましてはその意をご理解いただき，長い目でご協力と応援をいただけるようお願い申し上げます。

若手会員との連携
－「新進会員のつどい」ご案内－

「新進会員制度」発足を機に，若い先生方との連携を目的とした「新進会員のつどい」が昨年開催されました。今年度も卒後５年目までの先生方を中心とした「新進会員のつどい」準備会では，11月の開催に向け着々と準備が進んでいますので，ここにご案内いたします。



【準備会メンバー】
和田　　健，荻野　崇真（H22）
黄地　健仁，野末　真司（H23）
石川　宗理，岡嶋　伶奈（H24）
木村　基善，山田　　祥（H25）
田中　亜生，橋口あやこ，
佐藤　正敬（H26）

写真
上段左から：山田，木村，田中，橋口
下段左から：野末，黄地，荻野，和田

昨年多くの方にご参加いただいた「新進会員のつどい」を今年も開催させていただくことになりました。この会に参加される方の多くが卒業５年目までの若い先生方ですので，自分の将来や，日頃の臨床に不安や疑問を抱えているのではないでしょうか。もしこの会がそれらを解決するのに少しでも役立てばうれしく思います。会の後には懇親会もございます。

多くの方々と親睦を深められれば幸いです。たくさんの方の参加をお待ちしております。

準備会代表　和田　健・荻野崇真（H22卒）



講演会　講演要旨　（講演抄録より抜粋）

『「歯科医院開業」～これまでの歩み～』

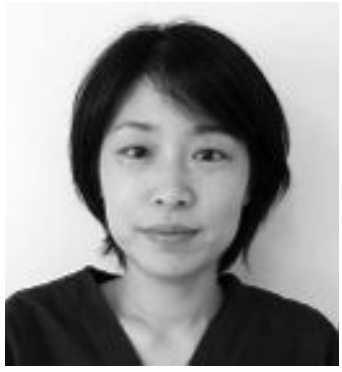


石川歯科クリニック　石川　一麿（平成10年卒）

これからの時代はペリオだ！と志を抱き歯周病学講座に入局，都内開業医勤務を経て，新規開業し６年がたちました。講座では，診療，症例発表，抄読会，学生教育を経験。開業医勤務では地域医療を体感し，勉強会や同窓会学術委員にも所属し研鑽を積みました。

そして開業！それぞれの時代に，様々な人と出会い，学び，得てきたことを皆様にお伝えできればと思います。

『女性歯科医師　子育てと仕事の両立』



都立多摩総合医療センター口腔外科非常勤　小川　志保（平成15年卒）

卒業して間もなく結婚し臨床研修を修了，歯科麻酔学講座に入局しました。その後は妊娠，出産を経て職場復帰し日本歯科麻酔学会認定医取得。現在は主に専門性を活かした（出張鎮静など）仕事をしています。最近では，趣味の時間を楽しむ余裕も出て，充実した毎日を過ごせるようになりました。

まだまだ発展途上ではありますが，無我夢中で過ぎた11年を皆さんと一緒に振り返りながら，少しでも不安や疑問を解消するお手伝いができれば幸いです。

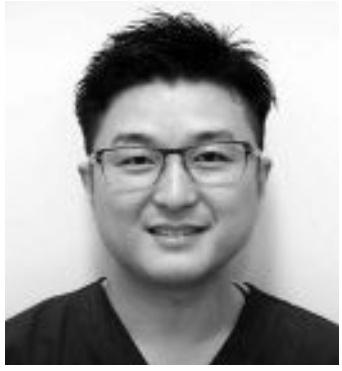
『エクソソームを用いた診断法の開発に向けて』



東京歯科大学口腔インプラント講座　吉田　光孝（平成22年卒）

近年，「体液」を解析する事で，間接的に疾患部を診断する「リキッドバイオプシー（液体生検）」が，侵襲度の低い診断法として注目を集めている。体液中には多くのバイオマーカーが含まれているが，これらの多くが，「エクソソーム」によって運ばれている。われわれは，がん細胞が放出したエクソソームを，他の集団から分離する方法の確立に取り組んでいる。この技術は，エクソソームを用いた，新しい診断・治療法の確立へとつながると考えられる。

『基礎疾患あり！　注意しよう，薬剤投与‼』



東京歯科大学口腔外科学講座　菅原　圭亮（平成16年卒）

超高齢化社会に突入した現代において，有病者が増加し歯科医療も困難な時代を迎えています。高血圧，喘息や腎不全などの基礎疾患，妊婦・授乳中の患者さんには，慎重な薬剤投与が必要です。

今回は，日常臨床で注意を要する疾患に注目し，実際の薬剤投与について「疾患別の抗菌薬・鎮痛薬の適正使用」，「処方箋の書き方」を中心にお話ししたいと思います。

理事会のうごき

第３回理事会

平成26年５月24日（土）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　29名
議長　矢﨑会長

会 長 挨 拶

各地元でお忙しい中，お集まりいただき感謝申し上げる。今年も各支部・連合会にお邪魔しているが，支部未入会の若手会員に対してあらゆる角度から働きかけを進めていることが窺える。支部活動においても平成卒の会員が熱心に動かれている姿も見受けられた。大変心強く思っている。

先日，恒例の六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会が開催された。メインテーマは若手会員，女性会員が日本歯科医師会や同窓会になかなか入会しないことに対する対応であった。各校とも厳しい現状に直面しているようである。わが同窓会でも対応策をさらに検討していきたい。大学では，３病院の研修医を集めて，大久保日歯会長をお招きした研修会が開催された。日歯６種会員の入会を促進し，日歯に関心をもってもらうことが目的である。同時に東歯同窓会に対する内容紹介も行った。

昨日，25年度の監査会が行われた。会費収入が減少してきている中で，今まで以上に同窓会活動を活性化する対策を探っていくつもりであり，協力をお願いする。

２名の同窓会員の国会議員に対して，地域を超えて支援する機運が高まってきている。後援会を立ち上げることを検討していくが，各地域においても両議員に対して連携を進めていただきたい。

11月の評議員会に向けた準備をお願いする。

黙　　祷

目黒支部・貞包剛男氏はじめ10名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

１）平成26年４月25日から平成26年12月17日までの日程を報告。

２）各部報告

⑴　総務・厚生部：①支部長交代について１件報告。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について１件報告。③支部長名簿を配付。④逝去会員について，規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費，共済負担金納入免除願いが３件提出され，受理した旨の報告。⑥平成26年春の叙勲受章者８名報告。⑦総務・厚生委員会報告。⑧ゴルフ大会委員会報告。⑨母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑩情報ネットワーク推進会議報告。⑪会務運営協議会報告。⑫事業連携協議会報告。⑬東日本大震災対策部会報告。⑭同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑮本年度発行予定の会員名簿作成準備の進捗状況報告。⑯南棟６階会議室使用規定報告。

⑵　会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について３件報告。②平成26年度４月末現在現況報告。

⑶　渉外部：①渉外部委員会報告。②六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会報告。

⑷　広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。

⑸　事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦ TDC 卒後研修セミナー2014報告。⑧学術事業交流についての協議会報告。⑨新進会員のつどい準備会報告。

以上の会務報告について，全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事，東海・山田理事，北海道・佐藤理事より報告。

協 議 事 項

⑴ 推薦会員退会願いについて１件承認。
⑵ 平成25年度東京歯科大学同窓会決算書について協議，承認。
⑶ 評議員選出の経過措置および評議員会のあり方と都道府県代表者会の提案について協議，会務運営協議会案を地域支部連合会における支部長会での説明に用いることを承認。継続審議。
⑷ 事業推進部臨床セミナー委員会協力委員の委嘱について協議，承認。
⑸ 大学施設内同窓会使用備品の購入について協議，承認。
⑹ 東歯同窓国会議員に対して，同窓会として任意の後援会立ち上げの提案があり協議，承認。
⑺ 平成27年度事業計画案および予算案を各担当理事が取りまとめて会計担当に提出する提案を承認。事業内容を縮小することなく，経費の１割削減を目指すこととする。
⑻ ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿内容を協議，承認。

第４回理事会

平成26年８月30日（土）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　31名
議長　矢﨑会長

会 長 挨 拶

猛暑，台風，集中豪雨が続く中，被害にあわれた方には心よりお見舞い申し上げる。大学は水道橋に移転して１年を経過するが，順調に推移している。寄付も３月に締め切っており，ご協力いただいた各位に対し，次号の会報でお礼の文書を掲載することとしている。ただ現在の水道橋校舎において診療スペースが手狭であることから，西棟の建設が急がれている。諸般の事情で建設費が高騰しており，更なる協力が必要である。

評議員会まであと２か月となり，来年度の予算案が出そろった。会員の高齢化，若手の支部未入会の増加等の影響で財政状況が厳しくなってきている。各担当は大変苦労されているが，事業内容を縮小することなく，工夫を重ねて効率よく会務を運営していただきたい。今後を考えると，事業に若手をできるだけ取り込んでいくことが必要と考える。

来年秋に120周年記念事業を予定しており，その準備がすでに始まっている。高山・血脇イズムを次世代に是非継承したいと考えるが，アカデミア構想を実践することでその目標を達成していきたい。

同窓２名の国会議員の後援会についても是非，協力をお願いする。

黙　　祷

静岡県支部・内田道彦氏はじめ19名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

１）平成26年７月25日から平成26年12月17日までの日程を報告。
２）各部報告
⑴ 総務・厚生部：①逝去会員について規程により弔慰共済金を支給した旨の報告。②平成26年度会員数調べの報告。③平成26・27年度評議員名簿の報告。④会費，共済負担金納入免除願いが１件提出され受理した旨の報告。⑤総務・厚生委員会報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務運営協議会報告。⑩事業連携協議会（アカデミア構想連絡会）報告。⑪東日本大震災対策部会報告。⑫同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。
⑵ 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について３件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について９件報告。③平成26年度７月末現在現況報告。
⑶ 渉外部：①渉外委員会報告。
⑷ 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。③同窓会報送付時の封入および広告料対応方針報告。
⑸ 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦ TDC 卒後研修セミナー2014報

告。⑧学術事業交流についての協議会報告。⑨新進会員のつどい準備会報告。

以上の会務報告について，全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事，九州・田部理事より報告。

協 議 事 項

⑴ 推薦会員入会願いについて３件承認。

⑵ 評議員選出の経過措置および評議員会のあり方と都道府県代表者会について，細部は会長一任のうえ理事会案として平成27年度評議員会の協議題とすることを承認。

⑶ 支部加入促進費を承認。

⑷ ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿の回答方針を協議，会長および総務部一任とすることを承認。

⑸ アカデミア構想の具体的な内容を協議，承認。この案をもとに事業計画および予算案を作成する。

⑹ 学術講演会講師交通費支給のルールを見直し，平成27年度実施をめざし規定作りを進めることを承認。内容については継続審議。

⑺ 平成26年度評議員会において選出する選挙管理委員の役割，選挙管理委員会の開催等について承認。

⑻ 財産（備品）廃棄処分について処分案を承認。

⑼ 平成27年度入会金・会費の金額案を承認。

⑽ 平成27年度共済負担金の金額案を承認。

⑾ 次年度の理事会，常任理事会の日程を承認。

⑿ 東京歯科大学同窓会平成27年度事業計画（案）を承認。細部の文言については，会長一任。

⒀ 東京歯科大学同窓会平成27年度収支予算（案）を承認。細部の修正については会長一任。

⒁ 東京歯科大学同窓会名誉会員に４名推薦，全会一致で承認。

⒂ 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会日程（案）を承認。

⒃ 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会議案を承認。細部の修正については，会長一任。

⒄ 評議員会協議題を承認。

⒅ 東歯同窓議員の後援会を承認。

⒆ 二校会講演会の参加協力要請 PR を積極的に行うことを承認。





渉　　外

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会

第176回日歯定時代議員会１日目の６月19日(木)の午後６時30分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント３階「千鳥」において東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員４名，日歯代議員16名，都道府県歯会長３名，同窓会役員20名，渉外委員２名，そしてご来賓として母校の水野嘉夫理事長と，井出吉信学長がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，まず，矢﨑秀昭会長より，「全国各支部で同窓が減少傾向にある。日歯も同窓会も未入会が共通の問題となっている。水野新理事長には今後の医科歯科連携の上においても期待したい。母校の国試の合格結果は素晴らしく，この輝きを長続きさせるためにも今後の同窓の母校への協力が重要である。また衆・参両院の同窓の国会議員の後援会が発足することになった，今後，国のため歯科界のためにも活躍出来るように全国の同窓の協力を宜しくお願いしたい。」との挨拶がありました。

つづいてご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。

まず水野嘉夫理事長より，「平成16年より学校法人東京歯科大学の役員に就任している。東京歯科大学の今後の発展のためには，大学と同窓会とが一枚岩になり協力しあうことが非常に重要であるので，法人の常務理事に矢﨑秀昭同窓会長に就任してもらった。今後益々のご協力をお願いしたい。」とのご挨拶がありました。つづいて井出吉信学長より，「金子　譲前理事長は，丁度75歳になり大学移転も無事に済んで後進に道を譲りたいということで勇退された。大学の人事も刷新された。今後西棟を建設する予定だが，西棟の１階部分に同窓が集えるサロンを設計している。このことに対しても，今後，益々の同窓の協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴しました。

つづいて出席者の紹介を行いました。丁度，日歯の大久保満男会長，村上恵一専務理事，村岡宣明常務理事，そして日歯連盟の高木幹正会長と峰　正博理事長がお見えになり，大久保日歯会長より「公的医療保険の堅持と充実に向けて，今後日歯連盟と共に頑張るので協力をお願いしたい。」，また高木日歯連盟会長より「現場の環境改善のためにも，国，都道府県，市町村の行政とも連携をとりながら，今後頑張っていかなければならないので協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴しました。

この後懇談会は，鹿児島県歯科医師会会長の森原久樹日歯代議員の座長のもと進行され，群馬県歯科医師会会長の村山利之日歯代議員より第176回日歯代議員会報告を，日歯連盟副会長で秋田県歯科医師会会長の藤原元幸日歯代議員より日歯連盟報告を頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を髙橋義一専務理事が行いました。

ここで，日歯役員の中島信也先生（昭和59年卒）と，佐藤　徹先生（昭和62年院卒）から，それぞれの会務の現状に関しての紹介とご挨拶を頂きました。

この後，「同窓会各支部及び歯科医師会への入会促進について」という議題で協議を行い，各代議員より貴重なご意見を頂戴致しました。

ここで，日歯役員の日歯常務理事の冨山雅史先生（昭和57年卒）よりご挨拶を頂戴し，そして最後に玉井達人副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「春琴」に移した懇親会では，藤原元幸副会長が開会の挨拶を述べ，鳴神保雄顧問の乾杯の発声で，終始和やかな雰囲気の中進行しました。途中から，同窓で参議院議員の島村　大先生が，同じ神奈川県が選挙区で衆議院議員の坂井　学先生と，山本ともひろ先生を同伴してご来場になり，ご挨拶の後出席者との歓談に加わられました。最後に財部正治副会長の閉会の辞で終了しました。

卒研リポート2014

No. 2　ベーシックセミナー

「初診時に求められる診査・診断のスキル」

～X線写真から始まる歯科診療のベーシック～

平成26年５月18日（日），水道橋校舎本館13階で開催された。

本セミナーは一口腔単位で的確な診査診断をし，予後を予測した治療計画を立案できるようになることを目標に，主として臨床研修医や若手歯科医師のために企画された。

セミナーの初めは，昨年，同様の企画で行われたディスカッションセミナーの受講者２人が登壇し，昨年のセミナーを受講して体得した口腔内写真やX線写真，臨床記録の重要性などについて話された。なかでも「初診時の口腔内写真は患者さんとの信頼関係を築く上で非常に有用」，「記録をとっていくと患者さんの心理やバックグラウンドがより深くわかる」，「過去にさかのぼって資料を採取することはできない」など，鋭い考察も多く語られた。

比較的年齢の近い世代からの教示は，新しい受講者の動機付けとしては非常に効果的であった。

充分モチベーションが上がったところで症例呈示がなされ，小班に分かれてスモールディスカッションが行われた。参加者はみな積極的に発言を繰り返し，あっという間に所定の90分が過ぎた。

昼食の後，各班の代表がディスカッション報告を行ったあと，その症例の担当医が解説を行った。

その後「歯内療法処置診断のポイント」と題し，母校歯科保存学講座主任教授古澤成博先生による講演が行われた。先生は歯内療法における基礎的な口腔内診査法について詳細に説明され，実際のX線写真を供覧しながら，診査の実際，そしていわゆる難症例の診査のポイントを解説された。

次いで「臨床でX線写真を活用するために大切なこと」と題し，元卒研委員で東京都板橋区開業の小林　顕先生の講演が行われた。先生は，よいX線写真，すなわち「診断的に価値の高い写真」を撮るためのワンポイントアドバイスを丁寧に説明された。またデジタルX線診断システムの落とし穴として，デジタルX線写真の利点欠点を話された。そして「私が今まで一番よく撮れたと思うデンタル写真２枚」を持参され，アナログの良さも訴えられた。

その後活発な質疑応答が行われ，充実したセミナーは終了した。（取材・広報部　渡邊宇一）













卒研リポート2014

No. 4　臨床セミナー
「どうして定期検診を受診してくれないの？」
～行動科学を知ろう～

表題を見ただけで受講したくなる興味深い内容で，今日の取材を楽しみにして参加させて頂いた。

講師は杉原直樹先生（東歯衛生学主任教授）高柳篤史先生（埼玉県開業）岡本智恵先生（東京都藤関歯科医院勤務歯科衛生士）３名講師リレー形式であった。最初に杉原講師より「行動科学とは何か」について講義があった。

行動科学とは

人間の行動を包括的にとらえようとする科学的な研究，もしくはその成果を行動科学とする。

なぜ医療に行動科学が必要か

いかに有効な予防法，治療法が発見されても，患者を健康にできなければ意味がない，そこで行動科学を利用することにより

① 患者の行動の変容や維持に関して理論的に考えることができる
② 医療者，チームが共通の認識で話し合うことができる
③ 患者の把握，介入計画の立案，実行，評価が可能になる

患者が健康を維持，回復，増進しようとする保険行動を望ましい行動に導き患者の負担を軽減し動機づけしていく事により患者が行動変容するのかを理解する必要がある

保険行動をステージでとらえる

無関心期→６カ月以内に行動を変える気がない時期
関 心 期→６カ月以内に行動を変える気がある時期
準 備 期→１カ月以内に行動を変える気がある時期
行 動 期→行動を変えて６カ月以内の時期
維 持 期→行動を変えて６カ月以上の時期

患者のやる気感を「自己効力感」といいい，それが良い方向に向かい自信をつける４つの情報源

① 自己の成功体験
② 代理的説得（他人の成功を見せる）
③ 言語的説明（褒める，応援）
④ 生理的情動的状態（良なり嬉しい）

次に「行動科学の臨床応用の実際」の表題で高柳講師が続けた。

歯科診療は有病率が高く生活習慣に密接に関係しているが，致命に至ることも少ないなどの特徴がある，そのため患者の興味を引くには努力が必要で疾患中心医療から患者中心の医療へのシフトが求められる。患者が保険行動がとれないまたは，持続できないのは本人の問題，環境の問題または，指導に問題があるのかなどを追求する。そのためには患者の日常の行動にも目を向け患者のことをよく知る必要がある。

この様に患者を成功に導くために患者がうまくいかない理由を行動科学的に考え日常臨床に応用することにより個々の患者に寄り添った指導ができる。

休憩をはさんで岡本講師より実際の診療での２症例発表していただいた。続けて２症例の解説を高柳講師が行った。無関心期が三年続いた患者を関心期に導き継続するか，情報を整理し行動科学を臨床にどのように応用していくかを分かりやすく説明いただいた。

最後に杉原先生より患者が歯科診療に期待すること，受診のきっかけ等，患者の動向を１万人のウエーブ調査をもとに解説いただいた。この調査はネット（日本歯科医師会・歯科医療に関する一般生活者の意識調査）で是非見て欲しいとの事であった。

患者を理解し予防行動採用プロセスモデルを組み立て，自分の症例で検証してみるよう勧められていた。

予防行動採用プロセスモデル

ステージ１　問題の無認識
ステージ２　問題を無対処
ステージ３　行うことの意思決定
ステージ４　行わない決定
ステージ５　行う決定
ステージ６　実行
ステージ７　維持

更に，このプロセスモデルが完成という訳ではなく発展応用していかなければならない。と締めくくった。



左より岡本講師・杉原講師・高柳講師

（取材・広報部　西村哲雄）

卒研リポート2014

特別企画　インプラントセミナー　ー臨床から基礎へ，基礎から臨床へー
「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～

6月28日（土）29日（日）7月26日（土）27日（日）の4日間にわたり，TDC水道橋新校舎8階にて，インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～が行われました。



座長は口腔インプラント学講座矢島安朝教授，



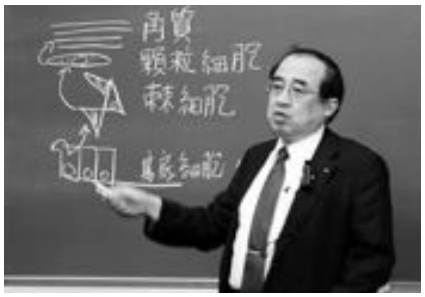
第1日，午前には佐藤先生と武田先生より医療接遇とコミュニケーションの大切さについて講演いただきました。



午後からは，藤関先生と二階堂先生による臨床症例紹介の後，井上先生から病理学見地から解説がありました。

第2日，午前には矢島先生・佐々木先生・福田先生・阿部先生による「インプラント手術時の神経損傷の病態と対応について」

インプラント周囲に非可動粘膜は必要か？
非可動粘膜はあったほうがいいが，インプラント周囲炎のすべてが抑えられるとは限らない，有効性と患者の負担を鑑み術前処置を決定する。



「病理学用語には角化粘膜ってないんだよね！」



ときおり，矢島先生からの鋭い質問が入ります。

午後からは，矢島先生・井上先生・阿部先生より「インプラントと上顎洞の関連性」平田先生より医療訴訟への対応の講演をいただきました。





講師の先生同士もお互いの疑問をぶつけあいます。

もし神経障害を起こしたら？
すぐに抜去しない！専門医にてCTを撮影し，下顎管・神経との関係を確認する。「とりあえず様子見ましょう」はなしです！



受講生の声①
今回は，今まで参加したセミナーとはひと味違う2日間でした。　各テーマに対して，講師の先生方がディスカッションをする事により，深い話になったり，お互い確認を取りあったりと，各分野の横の繋がりから知識の整理ができ，とても有意義でした。残りの2日間も楽しみです。

第３日「ガイデッドサージェリーの確実性を基礎と臨床から検証する　－誤差とエラー，そしてその確実性は？－



ガイデッドサージェリーを行うには確実な術式，もしずれたとしても発見できる知識と対処法が必要である。そしてずれを考慮して安全域をしっかり確保できる顎骨でないとまだ危険である！



サージガイドを使うことによってリスクやヒューマンエラーを減らしたい，術式をシンプルにしたい，自分と患者さんの精神的負担を減らしたい！



コンパクトなパノラマ/CT複合機CBCTは距離計測の精度は高いが焦点からの距離が短いため，撮影領域が大きいほどコーンビーム効果の影響は大きく，画像周辺部での距離計測は避けるほうが賢明！

第４日「インプラント周囲炎のメカニズムを基礎と臨床から検証する　－インプラント周囲炎発症のメカニズムを理解することで最新の対処法を身につける－



天然歯と違い根尖側方向のポケット底がはっきりしないのでインプラントのプロービングはデリケートに！





歯科界における20世紀最大の発見，発明はBrånemarkによるOsseointegrationとOsseointegrated implantかも知れない。

Dr.HeoによるFixture Remover Kit（Neobiotech社）は，21世紀に入ってからの最大の発明といえる。

４日間のセミナーの見どころは臨床家と基礎科学者，あるいは臨床家同士の討論で，通常の講演会やメーカー主導のものとは全く違う記憶に残る有意義なセミナーでした。

（取材・広報部　福井雅之・横田東生）

受講生の声②

- 演者の一方的な講演に終わらず，司会の鋭い突っ込みと議論が良かった，熱の入った講演ありがとうございました。
- 外科，ペリオ，補綴，微生物，最後のディスカッションはすごいですね。
- TDCの正しい歯科医療のとらえ方，研究の力，未来性，更には正義感も受け取れました。参加してとても勉強になりました。
- インプラント周囲炎に対してギブアップでしたが，少し光が見えました。
- レベルが高くまだ専門医向きなのかと思った。来年等にまた情報があると嬉しいです。
- 各ステップでズレが生じる事が現実にあるのを考慮して簡単な症例から始めてみようと思った。

平成27年度東京歯科大学入学案内（東京歯科大学入試要項より）

1．入試日程一覧　（全募集人員128名：編入学除く）

入試制度	募集人員	出願期間（期間内必着）	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成26年10月27日〜平成26年11月４日	平成26年11月８日	平成26年11月11日	東京歯科大学水道橋校舎本館
帰国子女・留学生特別選抜	若干名				
編入学試験Ａ	若干名				
学士等特別選抜Ａ	若干名				
一般入試（Ⅰ期）	約50名	平成26年12月17日〜平成27年１月28日	平成27年２月２日	平成27年２月４日	**東京会場**：東京歯科大学水道橋校舎本館 **大阪会場**：TKP新大阪ビジネスセンター **福岡会場**：TKP博多駅前シティセンター
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	13名				
一般入試（Ⅱ期）	約15名	平成27年２月20日〜平成27年３月６日	平成27年３月14日	平成27年３月17日	東京歯科大学水道橋校舎本館
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	５名				
編入学試験Ｂ	若干名				
学士等特別選抜Ｂ	若干名				

※編入学試験Ａ・Ｂは，２年次に編入学

2．出願資格

推薦入学選考（一般公募制）

次の各条件を満たし，かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。
1．平成26年３月高等学校卒業者または平成27年３月高等学校卒業見込の者。
2．人物・性格ともに優れ，健康である者。
3．入学を許可された場合，必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し，入学を許可された場合，日本語での授業を理解できる者。
1．外国において，学校教育における12年の課程を修了した者または平成27年３月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2．スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。
3．ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。
4．フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。

編入学試験Ａ・Ｂ，学士等特別選抜Ａ・Ｂ共通

次のいずれかを満たす者とする。
①４年制大学卒業者または平成27年３月卒業見込の者。
②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年３月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは，看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
③４年制大学に２年以上在学し，所定の単位を取得した者。
※所定の単位は，総単位数65単位以上とし，うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3．試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制） 帰国子女・ 留学生特別選抜	(1) 小論文 (2) 小テスト〔外国語（英語），数学，理科（物理・化学・生物から１科目選択)〕（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）に準ずる） (3) 面　接
一般入試（Ⅰ期） 一般入試（Ⅱ期）	(1) Ⅰ期　学力試験（出題範囲は※１参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から１科目を選択） Ⅱ期　学力試験（出題範囲は※１参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち１科目を選択 (2) 小論文 (3) 面　接
大学入試センター利用試験（Ⅰ期） 大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	(1) 平成27年度大学入試センター試験の受験科目 外国語　「英語（リスニングを除く)」 数　学　「数学Ⅰ・数学Ａ」,「数学Ⅱ・数学Ｂ」の２科目 ※旧教育課程履修者は，旧教育課程による下記の２科目を含めた４科目から２科目選択可 「旧数学Ⅰ・旧数学Ａ」,「旧数学Ⅱ・旧数学Ｂ」 理　科　「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」から２科目 または「物理」,「化学」,「生物」から１科目 ※旧教育課程履修者は，旧教育課程による下記の科目も選択可 「物理Ⅰ」,「化学Ⅰ」,「生物Ⅰ」から１科目 ※理科について，２科目を受験した場合は，高得点の科目を合否判定に使用する。(「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」については選択した２科目の点数を１科目の得点として扱う） (2) 小論文 (3) 面　接
編入学試験Ａ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については，数学，物理，化学，生物から１科目選択 （出題は推薦入試に準ずるが，基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（グループ面接・個人面接）
編入学試験Ｂ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜Ａ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については，数学，物理，化学，生物から１科目選択 （出題は推薦入試に準ずるが，基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（個人面接）
学士等特別選抜Ｂ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（個人面接）

※1　一般入試（Ⅰ期，Ⅱ期）学力試験出題範囲
　外国語　　英語：英語Ⅰ，英語Ⅱ，リーディング，ライティング，およびオーラルコミュニケーションⅠ，Ⅱに共通な事項。ただし，実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。
※数学・理科については，新教育課程による科目と，これに対応する旧教育課程の科目との共通の内容を出題範囲とする。
　数　学　　数学：新課程【数学Ⅰ（「⑷データの分析」を除く），数学Ⅱ，数学A，数学B（「⑵数列」と「⑶ベクトル」を範囲とする）】
　　旧課程【数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B（「⑴数列」と「⑵ベクトル」を範囲とする）】
　理　科　　物理，化学，生物の３科目のうち１科目を試験場で選択する。
　　・物理：新課程【物理基礎，物理】
　　旧課程【物理Ⅰ，物理Ⅱ（「⑶物質と原子」の「イ 原子，電子と物質の性質」，「⑷原子と原子核」を除く）】
　　・化学：新課程【化学基礎，化学】，旧課程【化学Ⅰ，化学Ⅱ】
　　・生物：新課程【生物基礎，生物】，旧課程【生物Ⅰ，生物Ⅱ（「⑶生物の集団」を除く）】

４．学納金　（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
父兄会費	40,000円
学生会費	17,000円
合計	9,457,000円

―受験科目詳細・入学手続きその他詳細は［入試要項］をご覧下さい―
（入試要項は，下記 web サイトから請求可能）
http ://www. tdc. ac. jp/college/applicants/index. html

訂正とお詫び

前６月号会報案内の巻頭グラビアの掲載に誤りがありました。
謹んでお詫び致します。

誤：ふるさと自慢　香川県　小豆島
正：ふるさと自慢　香川県

準会員のページ

現在の学生生活と活動について

歯科医師は人々の健康を守るために，生涯にわたり連携や研修が必要となります。卒業後も共に学び，助け合い，高め合ってゆくために本学の同窓会があります。学生の時から同窓会の活動などについて理解を深めて戴くため，現在，学生の皆さんも準会員として同窓会会員となっています。学生生活や活動についての紹介など，学生さん自身のページとして活用を多いに期待しています。

サ ッ カ ー 部

５年　副主将　稲田潤一郎

東京歯科大学サッカー部は，大学学生部の公式記録の中に昭和30年に蹴球部として登録され，以降約60年間活動を続けています。

OB 名簿には，昭和32年卒業の OB から記載されており，現在，同名簿に登録されている OB は200名を超え，伝統のある部活です 。OB会は昭和36年卒業の佐々木次郎先生を発起人として設立され，同先生が初代の OB 会長に就任されています。

現在の主な活動は，春の関東医歯薬獣リーグ戦，全日本歯科学生総合体育大会への参加と，東京医科歯科大学，大阪歯科大学，日本歯科大学，最近では日本大学松戸歯学部との定期戦を行っています。

東京医科歯科大学と大阪歯科大学との定期戦では，試合後，懇親会を開き，大阪歯科大学との定期戦では OB も参加し，サッカーのことはもちろん学業等のことについて語らい，交流を深めています。

全日本歯科学生総合体育大会では，過去優勝の６回を数え，よい成績を残してきました。近年では平成15年度の優勝を最後に，毎大会優勝候補にあげられるもベスト４にとどまる結果となっており，平成25年度の全日本歯科学生総合体育大会では，第３位という結果





に終わりました。

そして今年は前年より順位を上げ，準優勝という結果となりました。

今年度は，春の関東医歯薬獣リーグ戦では１勝も上げることができず，苦しいチーム状況で，夏の大会では初戦敗退の可能性もありました。

しかしリーグ戦後，毎回，個人の課題やチームの共通意識を確認しチームワークを高め大会に向けて準備をし，大会では，チーム一丸となり挑み準優勝を掴み取ることが出来ました。

また，学友や多くの OB が支援，応援して下さり，学校の繋がりの大きさと大事さを感じた大会になりました。

現在の部員数は23名，先輩たちの培ってきた伝統を基に，今後も文武両道を旨として日々精進していく所存です。

水　泳　部

３年　主将　津谷　尚樹

2014年デンタル優勝

第46回全日本歯科学生総合体育大会水泳部門が８月９・10日に鹿児島県の鴨池公園水泳プールにて行われました。大会期間中に台風が鹿児島県へ上陸する可能性がある？と危惧されておりましたが，大した影響もなく無事に開催されました。

今年の水泳部は総合優勝することができました。昨年の大会で３連覇を逃し，王座奪還の言葉を胸に本当に苦しい練習に耐えてきました。前主将の気合も昨年以上に大きいもので，しっかりと後輩の我々にも伝わり結束力が実を結んだ結果であると私は確信しています。

水泳は個人競技ではありますが，部員同士励まし合い，信じ合い大声援を送った結果，男女ともにベストを更新しポイントを上げることができました。今年は１年生の頑張りも大きかったと思います。中には，大学から水泳部に入部し，経験が少ないのにも関わらず，入賞した１年生もいました。

東京歯科大学の水泳部はかなり以前にも活躍されていましたが，一時期水泳部はなくなったとのことです。その後，昭和47年水泳好きの学生が５，６人集まり水泳同好会が発足しました。千駄ヶ谷のプールで週一回の練習，その後部員が少しずつ増え，部に昇格しました。昭和52年の第10回歯学体で初優勝，昭和56年以降水泳経験者が続々と入部することになりパワーアップしていきます。

そしてパワーアップを加速させたのが，大学の千葉移転です。大学のすぐ横に50メートルの高洲市民プールがあり，昼休み，休講時，放課後と，夏場はかなりきつい練習をこなすことになります。練習の甲斐あって歯学体第14回大会から６連勝，一年ブランクがありますが，第21回大会から18連勝を記録することになります。この間，水泳経験者だけでなく，水泳初心者も多く入部し，大所帯の部になりました。





今年は練習プールが千葉から都内へと移りました。都内にはなかなか50ｍプールが無いということで，八丁堀にある中央小学校の25ｍプールという今までと違った環境の中日々の練習に励んできました。そんな中の総合優勝。頑張ってきたことが報われたような気がしました。限られた場所と練習をこなしこの結果を掴み取った水泳部を誇りに思い，王座奪還は本当に嬉しく思います。

今年をはじめとし来年は２連覇を目指し　東京歯科大学水泳部！　名門復活‼　となるように，厳しい練習に励んで参ります。

この努力は歯科医師になった時に糧となり力となり自信になるでしょうし，この思いを先輩とともに後輩に伝えていきたいと思います。

最後に，部長の山本先生をはじめ，監督，OB，OG の方々，関係者の皆様のご支援にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後も水泳部の応援を宜しくお願い致します。

バレーボール部

2014　第46回全日本歯科学生総合体育大会　バレーボール部門

４年　主務　都田絵梨奈

＜東京歯科大学バレーボール部の歴史＞

東京歯科大学バレーボール部は昭和22年に創部され，近年では平成19，23，25年に男女総合優勝を遂げている。また，総合優勝した年は男子はすべて優勝している。

本年度は男女総合２位。女子は優勝，男子は惜しくも予選で敗退した。

女子の優勝は昭和62年第19回歯学大会以来27年ぶりのこと。

こんにちは。バレーボール部です。

この度，第46回全日本歯科学生総合体育大会で27年ぶりに女子が優勝することが出来ました。

私たち女子バレーボール部は学部の４年生５人，３年生３人，１年生４人，衛生士校の３年生２人（マネージャー１名を含む）の計14人で活動しています。

優勝を手にしたときは，あまりの嬉しさに思わず『ついに…』と口から漏れてしまうほどでした。

私たちは一昨年の大会では３位，去年の大会では２位という成績であり，今年の大会に対する“優勝”への思いは格別なものでした。

去年との一番大きな変化は，去年の夏以降に大学のキャンパスが水道橋へと移ったことでした。水道橋での生活は便利なことも多々ありますが，部活で体育館を使用する私たちにとっては，平日に授業が終わってから体育館のある稲毛の校舎へ足を運ぶことが，体力的にも精神的にもとても厳しく，練習時間も1.5時間と短く慌ただしいスケジュールで，満足に練習ができるのは土曜日のみという状況でした。思えば稲毛駅から稲毛校舎までのバスの車中，みんなで寝るということが定例行事の様でした。限られた時間内でいかに効率よく練習を行うかということで練習方法を見直したり，一本一本に集中したりと時間の大切さをとても感じました。幸いにも私たちのチームは昨年とメンバーが大きく変わることが無く，チームワークは万全。また，今年度は新入生の入部も心強い味方となりました。いつも練習は和気藹々と，メリハリをつけて楽しく行っています。

例年本学バレーボール部がこのような上位の成績を収められるのは，バレーボールにおいて大事な，チーム内の関係性にあると思います。競技自体は男女別に行いますが，私たちは男女間や先輩後輩の壁をあまり感じないほど仲が良く，お互いを鼓舞し，時に刺激し合えるということであると思います。事実，女子は優勝経験のある男子の先輩方の背中をみて，私



たちも優勝したいという思いが強くなっていったことで活気づけられ，今回の様な結果に結ばれたと思っています。

私たちがここまでくることができたのも，今まで東歯のバレーボール部を造り上げてくださったOB・OGはもちろんのこと，勉強や仕事の忙しい合間を縫って私たちの練習の手伝いをしてくださったOB・OG，応援してくれた友達，家族，そして支えてくださった新谷部長のおかげだと思っています。ありがとうございました。

来年は，女子は連覇に向けてそして男女総合優勝を目指して，より一層気を引き締め精進していきたいと思います。

これからも応援よろしくお願いします。





管　弦　楽　部

東京歯科大学管弦楽団　第37回定期演奏会開催

3年　団長　千葉　弘貴

管弦楽部は平成26年7月27日（日），本校千葉校舎講堂で東京歯科大学管弦楽団「第37回定期演奏会」を開催いたしました。水道橋校舎への移転に伴い，昨年で最後の千葉校舎における演奏会になるかと案じられましたが，今年もまた無事に演奏会を行うことができました。演奏会を開催するにあたって，大学からの部活動への深いご理解とご協力を賜りましたこと，心より感謝いたしております。また，長きにわたり当楽団の活動を支援してくださった千葉校舎近隣の皆様には厚く御礼申しあげます。

指揮者・直井大輔さんのタクトの元，前半はエルガーの『愛の挨拶　Op. 12』を，モーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』を，そして後半にはベートーヴェンの『交響曲第1番ハ長調　Op. 21』を演奏いたしました。ベートーヴェン演奏後には，団長・千葉弘貴（3年）が「再び千葉校舎で演奏できた喜び」，そして「千葉校舎での演奏を待ち望んでくださった地域住民の方々へのお礼」をスピーチいたしました。スピーチの後は，アンコール曲のバッハ『G線上のアリア』を弦楽5重奏で演奏いたしまして，終演後も温かい拍手が鳴りやまないなか，演奏会は大盛況のうちに終了いたしました。

たくさんのお客様からいただいたアンケートの中には，千葉での演奏会を心待ちにしてくださった方々のメッセージも多く，「来年以降もまた楽しみにしています！」とのお声かけもいただきました。また，遠方へ足を運ぶことが難しくなられたご高齢の方からのお手紙では，「近所でオーケストラをきけることがとても嬉しい。」と，心温まるお言葉をいただきました。

ホールに鳴り響いた「音」とお客様の「笑顔」の記憶が，また千葉へ感動と感謝を届けたいという“思い”に繋がる演奏会となりました。





今年度の管弦楽部は，秋以降もサロンコンサートや福祉施設での演奏など，定期演奏会の他にも精力的に活動を行う予定です。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



学生の静岡県人会に参加して

東京歯科大学同窓会静岡県支部
専務理事　喜田　真司（S60卒）

本学クラウンブリッジ補綴学講座主任教授　佐藤　亨先生より静岡県人会新入生歓迎会へのご連絡とお誘いを，同窓会静岡県支部松下　茂支部長（S50卒）宛に初めていただき，同窓会静岡県支部として駿東地区の會田貴久先生（H18卒）とともに参加しました。

７月16日水曜日午後７時，水道橋校舎近くで，駅の北側にある東京ドームシティ　ミーツポート３F，ライティングされたガーデンテラスもある景色の大変良好でお洒落なイタリアンレストラン『ENTOROA　DIANA』にて歓迎会は行われました。

OB・教員16名の前に本年入学の新入生10名のうち７名の参加学生が着席し，２年生以上の学生27名が学年ごとにその上座を取り囲むというスタイルで，我々同窓会県支部からの参加者２名を含め，参加者総数52名の大所帯でお店貸し切り大盛況の県人会でした。

本年度は，小笠・掛川地区の藤田雄二先生（S57卒）のご子息である藤田理志君（４年生）が幹事を務め，４年生の学生によるプロデュースのもと開催していました。

私も学生時代は無論，卒業後も教職員としても参加していた県人会ですが，大学を離れてから初めて参加したその会は，当時とは少し異なり，佐藤先生ならびに教職員そして幹事学年生（４年生）のお人柄もあってのことでしょう，和気藹々のなかにもしっかり統制のとれた大変素晴らしい県人会で，とても感動感激しました。

参加者全員の挨拶を聞くと，私の出身高校OB，顔見知りの同窓生のご子息も多く見受けられました。我々も同窓会県支部からの参加ということで，私喜田と會田貴久先生が自己紹介と挨拶をしました。欠席者は数名しかいないなかで開催された県人会ということで，特に，地元静岡県に戻った際には，この県人会同様に皆で楽しく同窓会へ参加しようと話をしました。

この素敵な県人会に参加する皆様と同窓会県支部が密な関係を築くことで，将来の本学同窓会の発展に必ずや繋がることと確信した最高の会でした。毎年一回の開催ということですので，同窓会県支部としてこれから毎年参加したいと思っています。

現役の学生と共有できました楽しい時間，同窓会静岡県支部にお声をお掛けいただいた佐藤　亨先生，幹事の藤田理志君，また私共を派遣していただいた松下　茂県支部長，そして参加されました皆さんの笑顔に，感謝申し上げます。



父兄会だより

父兄会会長就任の挨拶



新会長　荻　原　俊　美

平成26年度，第68代東京歯科大学父兄会会長を拝命することになりました荻原俊美と申します。身に余る重責ではありますが，寺本信三前会長や歴代会長，役員の皆様が築き上げてきた大きな功績を見習い，父兄会の円滑な運営に務めて参ります。

父兄会活動の最大の目的は，在学生が学業に専念できるようサポートしていくことでございます。そのために大学とご父兄との連携を密接に保ちながら，必要な事業を時々の要請に合わせて的確に行っております。

本年４月より，第１学年から第６学年までのすべての学生が水道橋キャンパスで学んでおります。水道橋キャンパスは，すでに見学された先生方も多数いらっしゃるかと存じますが，各施設の様々な設備が有機的に機能するよう良く考えられて設計されております。最大の特徴は学生と教職員の方々との距離が格段に近くになったことではないでしょうか。これにより本学の特徴である「きめ細やかで面倒見の良い指導」が更に充実されたと感じております。同窓の先生方もご子弟の東京歯科大学への進学を積極的にご検討ください。

さて，歯科医師国家試験ですが，本学は全国29歯科大学，歯学部の中で，３年連続合格率総合第一位という素晴しい成績をあげることができております。この結果は井出吉信学長のご指導のもと，東京歯科大学すべての教職員の方々のおかげであり，大変感謝しております。また，同窓会におかれましては，在学中の学生を新たに準会員として迎え入れていただき，学生時代から「専門職」としての生涯研修の必要性を教えていただけることになり，大変ありがたく思っております。父兄会は，東京歯科大学を卒業し，同窓歯科医師となられた方々が歯科界をリードする逸材となれますように，矢﨑秀昭会長をはじめ同窓会の皆様の協力を仰いで参りたいと存じます。

最後になりましたが，同窓会の皆様方のご健勝と，来年創立120周年を迎える同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして父兄会会長就任の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

父兄会会長退任の挨拶



前会長　寺　本　信　三

この度，任期満了に伴い，平成25年度父兄会会長を退任致しました。

在任中は，矢﨑同窓会会長をはじめ，同窓会会員の皆様のご支援，ご指導，ご協力により，無事に任期を全うできましたことを，ここに改めて感謝御礼申し上げます。

平成25年度は，本学が水道橋に原点回帰した記念すべき年でありました。新校舎の竣工式，祝賀会など多くの記念行事が執り行われ，常に日本の歯科医学界をリードしてきた東京歯科大学の歴史に，新たな１ページが刻まれたことを実感した一年間でありました。また，２月に実施された第107回歯科医師国家試験では，本年度も国公私立の頂点，全国一位の成績を残すことが出来ました。これは学生達の日々の努力が実を結んだ結果であり，また教職員の皆様の細部にわたる献身的なご指導，温かいサポートによるものであると強く感じております。

現在119期生は研修医制度に則り，各々の研修機関で日々研修に励んでおります。この時期に学んだ多くの経験が，今後長い間，歯科医師として過ごす時間の大切な基礎となります。どのような時代背景になろうとも，「血脇イズム」を胸に，常に謙虚さを忘れず，社会貢献できる歯科医師に大きく成長できるよう，真に願っております。更なる同窓会の皆様のご指導・ご支援の程，宜しくお願い申し上げます。

併せて，平成26年度の新会長に就任されました荻原俊美会長は，信頼関係が厚く，学識豊かなお人柄であり，父兄会の円滑な運営をされるのにふさわしい方であると存じます。同窓会の皆様には現状をご理解いただき，更なるご支援を賜りますよう切にお願いし，同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ，会長退任の挨拶とさせて頂きます。

追　　悼

石川達也先生を偲んで

細　川　伊　平（昭和44年卒）



平成26年７月２日の朝，御子息の博基先生から父の容態が良くないとの連絡があり，私は午後，入院先の市川病院へ向いましたが先生は，すでに85才の生涯を終えられ，遠くに旅立たれていました。先生のお顔は今にも私に話しかけて下さる様な優しい表情であられました。夕刻，先生のご遺体は大勢の市川病院の教職員のお見送りをうけ病院を後にしました。先生が入院中，何度かお見舞に参りましたが，お元気な頃は，私が帰る時にご挨拶をすると優しそうな笑顔でうなずかれ見送って下さいました。

先生は若き39才の教授の時，昭和44年卒業（福祉



会）の私達の学年主任を担当され当時は大学紛争の最盛りの時代で，本学にも過激な学生がいて，卒業式を妨害，阻止するなどの噂がありましたが，先生の指導力で，無事，卒業式を終え全員，国家試験に合格することが出来ました。

卒業後，私達の福祉会は毎年，クラス会を開催し，現在も続いていますが，先生は奥様とご一緒に，よくご参加下さいました。

私は卒業後，先生の教室に残らせていただきましたが，その頃は，診療姿勢が立位から座位診療へと変わる時代で，先生は先頭にたって，夜遅くまで学生の指導に当っておられました。また，この頃は色々な修復材料が登場し，これらの材料を論文のテーマとし，数多くの論文を発表されました。

また，先生は昭和45年，創立80周年記念事業の一環として企画された血脇守之助傳は，多くの苦難の道を乗り越えられ，10年近くの歳月をかけ昭和54年２月，松宮学長先生の時に刊行されました。

先生は講座の勉強会で著明な先生を招き，時には長期間に亘る講習会を開催し，教室員の知識と技術の向上に努めて下さいました。

また，保存第３講座出身の同門会（ミラークラブ）をつくり，年に１回，夏休みにかけ研修旅行を企画して下さいました。

昭和63年，先生の千葉病院長就任と還暦のお祝をかねて香港旅行を企画し，保坂　誠先生が幹事になり，先生の奥様とお孫様，そしてミラークラブの先生方の家族も参加された香港旅行も，今は良き思い出になりました。

先生が学長職の頃はご多忙で，お会いする機会が少なくなりましたが，私は安田火災診療所で博基先生と一緒に仕事をする時期があり，先生のご様子を，お伺い知ることが出来ました。博基先生は，その後，新宿で開業され，先生と同級生の松本圭司，足代弘文両先生が開業されてましたので，先生が大学をご退任後，矢崎先生は新宿支部の名誉会員としてお招き，総会や忘年会，時には会の旅行にお孫様と一緒にご参加下さいました。

先生が80才を迎える頃，門下生から先生がお元気な時に，ミラークラブを開催してとの声があり，会長の庵原邦彦先生，槇石武美先生が発起人となり，松井恭平，間　滋両先生に補佐をお願いし，平成22年10月17日帝国ホテルにて，石川先生御夫妻をお招きしました。先生は久し振りに門下生とお会し，嬉しそうに談笑されている姿を拝見し，この会を催してあげ良かったと思いました。

先生は，大学の内外を問わず多くの偉業を成し遂げられ，その業績は余りにも大きく一言で云えるものではありません。

先生には，まだまだ，ご指導を頂きたかったですが，これからは先生のお教えを糧として人生を歩んで参りますので，どうか天上よりお守り下さい。

仕事を離れたプライベートの時に，リラックスして飲んだり，食べたり，歌ったりした時の先生の優しく楽しそうな笑顔が目に浮かびます。長い間，本当に有難うございました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。





支部のうごき

東北地域支部連合会

第51回　東北地域支部連合会役員協議会並びに総会開催

平成26年６月21日(土)午後２時半より秋田キャッスルホテル放光の間に於いて連合会会員57名の出席により，定時総会が開催された。同窓会本部より矢﨑秀昭会長，臼井文規常任理事，椎木一雄地域理事並びに本大学よりオーラルメディシン・口腔外科学講座片倉　朗主任教授を学長代理兼任としてご来賓を頂戴した。さらに自由民主党　島村　大参議院議員並びに白須賀貴樹衆議院議員にも迎接を賜った。

定時総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞で始まり，藤原元幸東北地域支部連合会会長が挨拶に登壇した。次に同窓会本部役員ご挨拶として矢﨑秀昭会長が現在の同窓会体制における総括説明と本学水道橋校舎への詳細なる現状報告を行った。そして本大学内近況報告として，片倉　朗学長代理からは今年も全国の国公立・私立中第１位の国家試験合格率３連覇達成の駿驥報告を拝聴した。さらに水道橋への順調な分散移転が進められ，更なる高度医療と教育・研究の環境整備が成されている事を詳細に報告した。また，臼井文規常任理事からは今後の同窓会本部改革案の要旨並びに東北地域支部連合会改革案が的確に解説された。そして椎木一雄地域理事から今後の連合会運営の抱負説明が為された。

会務報告並びに事業決算・計画案予算案も全会一致で快承認された。定時総会終了後，片倉　朗教授による「歯科医師の目で見つけよう口腔粘膜疾患　全身的病態からの口腔症状と早期口腔がんのとらえ方」の演題で学術講演会が行われ，臨床に直結した基礎的知識と最新研究概要並びに国家試験難問題に対する模範的解釈と詳細丁寧な解説を拝聴した。

記念写真撮影後，太田　晃顧問の祝杯献上によって連合会懇親会が祝宴し，終始懇談の大華艶が舞った。　　（五味明雄　記）





写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



信越地域支部連合会

日時：平成26年７月５日（土）
場所：糸魚川市　ホテル国富翠泉閣

連合会総会

◎開 会 の 辞
　岡田泰幸先生（新潟）
◎議長・副議長選出
　議　長
　佐藤昭雄先生（新潟）
　副議長
　小池平一郎先生（長野）
◎信越地域支部連合会長挨拶
　阿部高夫先生

本日はお忙しい中，矢﨑同窓会会長，髙橋専務理事，金子前理事長並びにご来賓各位，多くの会員の皆様にご出席いただき誠にありがとうございます。私は今年より２年間支部長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。新潟県の先生方には，このように立派な総会を準備していただきまして，誠にありがとうございます。長野県の会員は今回は野を越え山を越えやってきました。今日は充分に楽しんでいきたいと思います。

◎来 賓 挨 拶
　東京歯科大学同窓会会長
　矢﨑秀昭先生

今年も東京歯科大学は国家試験で全国１位を獲得いたしました。この状態を維持できるように同窓会も後押しをしていこうと思います。新血脇記念ホールの寄付金は３月31日をもって締め切りさせていただきました。皆様ご協力どうもありがとうございました。母校から２人の国会議員が衆参１名ずつ出ています。是非ともこの２名を盛りたてていきましょう。来年11月29日（日）に120周年記念式典が行われます。是非皆様のご参加をお待ちしております。

　東京歯科大学前理事長
　金子　譲先生

５月31日をもって退任いたしました。学長７年，理事長を３年を含め56年間東京歯科大学にお世話になりました。東京歯科大学が臨床，研究共に日本一の歯科大学となるよう，皆様よりさらなるご支援をお願いいたします。

７月２日に石川達也元学長がご逝去されました。石川先生のご冥福をお祈り申し上げます。






金子前理事長の挨拶


矢﨑同窓会会長の挨拶


総会の様子

東京歯科大学同窓会専務理事
髙橋義一先生

今年は会員名簿の発行年となっております。同窓会報６月号に同封されている会員調査票を必ずご提出お願いいたします。若い人の支部加入率が低下しています。同窓会の存在を知ってもらうために準会員制度と新進会員制度を昨年より初めました。

◎庶務報告・会計報告

共に承認され，両県のご逝去された会員と故石川達也元学長に黙祷を捧げた。

◎次期開催地

長野県軽井沢で開催予定。

◎閉 会 の 辞

広瀬　秀先生（新潟）

◎記 念 講 演

『「夢と絆」～翻弄された24年間を振り返って～』

講師　新潟産業大学経済学部


校歌斉唱

准教授　蓮池　薫先生

（加茂芳江 記）

新潟県支部総会

連合会総会に引き続き開催

◎開 会 の 辞　岡田泰幸先生

◎議 長 選 出　佐藤昭雄先生

◎支部長挨拶　阿部晴弘先生

本日は糸魚川のさらに奥，長野県境にある秘境の姫川温泉までようこそいらっしゃいました。金子譲先生が５月31日に理事長を退任されました。また，元学長の石川達也先生が７月２日にご逝去されました。享年85歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

私は新潟県支部長を２年間続けていきますので，ご協力の程，お願い申し上げます。

東京歯科大学は４月よりすべての学生が水道橋で学び始めました。また，今回の国試では95％近い歯学部中トップの合格率で大変誇らしく思っております。これからも私学の雄としてさらなる発展を遂げていくことを願っております。皆様，これからも母校を応援して下さい。

◎新潟県支部新理事・新入会員紹介

新理事：

南魚沼市　岡村芳昭先生
（昭和48年卒）

魚沼市　藤本　誠先生
（昭和51年卒）

新入会員：

上越市　大山賢司先生
（平成３年卒）

◎庶 務 報 告　岡田泰幸先生
（平成25年６月29日～
平成26年７月５日）

会員数　126名
（内　優遇会員38名）

新入会員　１名

物故会員

胎内市　野澤　譲先生
（昭和38年卒）

長岡市　山田達雄先生(推)

◎会 計 報 告　片桐利雄先生

平成25年度新潟県支部会計報告

平成26年度新潟県支部現計報告

以上，異議なく承認された。

◎報　　告　岡田泰幸先生

今まで県支部総会は，新潟市の理事が企画運営をしていたが，マンパワー不足のため今のメンバーで行うことが困難になってきている。今後は上中下越の３つの地区で企画運営できるように徐々に移行していきたい。

◎議事・協議

次期は下越地区担当で開催する案が承認された。

◎閉 会 の 辞

副支部長　広瀬　秀先生

（加茂芳江 記）

近畿地域支部連合会

近畿地域支部連合同窓会ゴルフコンペ

平成26年５月18日（日），大阪府堺市の天野山カントリークラブにて近畿連合同窓会のゴルフコンペが開催されました。この日は快晴でしかも暑くもなく，ゴルフには最高のコンディションでした。瓦葺きの大きなクラブハウスとコースから見下ろせる大阪の町，そしてその奥にみえる山々が印象的でした。独特なコースレイアウトや，フェアウェイを左右から包み込むような木々にプレッシャーを感じながらも，同窓会の先生方とはリラックスしながらいつも楽しくプレーできると思えた非常に楽しい一日でした。優勝は滋賀県の龍山政弘先生で，アウト40，イン40のトータル80，HDCP11.0，ネット69でした。ベストグロスは兵庫県の宗本匡由先生で，アウト39，イン39のトータル78でした。競技終了後，懇親会と結果発表，賞品授与が行われました。

順位	氏　名	東	南	GROSS	HDCP	NET	
1	龍山　政弘	40	40	80	11.0	69.0	（滋　賀）
2	宗本　匡由	39	39	78	8.0	70.0	（兵　庫）
3	山本　勇一	45	46	91	20.0	71.0	（大　阪）
4	田中　令子	51	53	104	30.0	74.0	（和歌山）
5	冨山佳寿人	42	42	84	9.0	75.0	（滋　賀）
6	戸村　博臣	43	43	86	10.0	76.0	（和歌山）
7	中村　　忠	43	43	86	8.0	78.0	（滋　賀）
8	田丸　秀夫	54	57	111	32.4	78.6	（大　阪）
9	栗山　雄治	46	49	95	15.0	80.0	（和歌山）
10	髙木　祥広	53	47	100	20.0	80.0	（大　阪）
11	田中　紀夫	54	52	106	20.0	86.0	（和歌山）
12	戸﨑　秀樹	67	64	131	30.0	101.0	（滋　賀）

近畿地区ではこのように年に一度ゴルフコンペを開催しておりますが，今年は11月24日に開催される近畿連合同窓会にあわせ，前日の23日にもゴルフコンペを開催することとなりました。近畿連合同窓会は和歌山県の担当ですが，コースは今のところ，大阪府南部にある大阪ゴルフクラブを予定しております。もし参加していただける先生がいらっしゃいましたら，各支部長や福祉担当理事，或いはゴルフ担当者にご連絡いただければと思います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

今回の結果は上記の通りです。今回も参加していただいた先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

（大阪府支部広報･髙木祥広　記）



四国地域支部連合会



平成26年度　四国地域支部連合同窓会

５月10日(土)，松山全日空ホテルにて四国連合同窓会を開催しました。関谷　栄先生の司会により，兵藤正帛先生の開会の辞，年齢によらず声高らかな校歌斉唱，ご逝去された先生方への黙祷の後，松木建二支部長の挨拶で総会が始まりました。

まず同窓会長，矢﨑秀昭先生よりご挨拶があり，若手支援ネットワークを充実させて同窓会また歯科医師会への入会を支援していきたいとの事でした。次に千葉病院長，井上　孝先生より母校の国家試験での頑張りと今の学生の過密スケジュールの報告があり，最近の国家試験を何問か紹介していただきました。その難しさに皆ざわめき，学生さんにエールを送る思いでした。そして専務理事，髙橋義一先生より同窓会の現状の詳しい説明がありました。ご来賓最後は，連合会長で地元の久保田　晃先生です。昨年香川大会の報告があり，そろそろ引退したいとの思いを語られましたが，さっそく慰留の声があがっていました。

その後協議を終え，来年開催の高知支部長，西川文雄先生の挨拶，山本昌司先生の閉会の辞で総会を終了しました。

総会にひき続き，井上　孝先生による再生医療の現状と今後の問題点についての講演がありました。現在ラットでは歯も再生され，歯根膜も作られていました。2030年頃にはすばらしい再生医療の世界があるようで，ひたすら感心して聞き入ってました。

井上先生，解りやすくユーモアたっぷりの講演ありがとうございました。最後の，くよくよしてると老化が早いとの話，一同肝に銘じました。

そしていよいよ懇親会です。新真美，西岡優子両先生のなんとも和やかな司会でスタートしました。アトラクションとして山本昌司先生率いるジャズバンド演奏があり，ダンディな先生のサックスに会は大いに盛り上がりました。四国の同窓会はとにかくよく飲みます。この日も延々と深夜徘徊です。四国中から参加くださった先生方，本当にお疲れさまでした。来年高知でお会いしましょう。

最後になりましたが，この会の６日前に愛媛支部理事の山田哲美先生が急逝されました。今回も我々の兄貴分として，中心となって準備を進めていた心優しいマラソンランナーでした。残念でなりません。これからは天国から見守ってください。来年は高知ですぜ！　　（宇都宮慎児　記）



写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。

神奈川県支部連合同窓会

８月３日（日）に，本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は，「夏の涼を求めて」というテーマで，東京都奥多摩地方を巡るバスツアーを企画した。

やや蒸し暑い曇り空の中，36名の参加者を乗せたバスは，横浜を８時半に出発した。出発の際には，島村　大参議院議員が見送りに駆けつけてくださった。忙しい議員活動の中，本会会員としての気配りをしてくださることはありがたい限りである。11時頃には最初の目的地である檜原村「払沢（ほっさわ）の滝」に到着。バスを降りるとすでにひんやりとした空気が漂い，滝まで続くマイナスイオンいっぱいの山道を10分ぐらい歩く。と，そこに「日本の滝100選」にも選ばれている名瀑が姿を現した。古くは「払子の滝」とも呼ばれ，滝の水が落ちるさまが僧侶の払子を垂らしたように見えたのでこの名がついたという。滝のすぐ近くまで近づくことができるので，皆思い思いのポーズで写真に収まっていた。

滝の見学を終えて，すぐ近くにある秋川渓谷のコテージ森林村へ移動。本会では久しぶりの真夏のバーベキューを行った。キンキンに冷えた生ビールで乾杯した後，５テーブルに別れて昼食を楽しんだ。20リットル用意した生ビールがあっという間に空になったのは暑さのせい？お腹が満たされた頃に，すぐ近くの川で子ども達限定の「マスのつかみ取り大会」を挙行！イキが良くて半分ぐらい逃げることがあるといわれていたが，みんな夢中になってつかんでくれたため大漁となり，すぐさまバーベキューの食材として追加されたことはいうまでもない。

本来ならば，昼食後は日原鍾乳洞の見学を行う予定だったが，しばらく前から集中豪雨のため，鍾乳洞に向かう道に土砂崩れが起こり，大型バスが通行できないというハプニングが生じた。そのため，急遽行き先を御岳山に変更。ケーブルカーで山頂駅に到着した後，自由行動とした。食べ過ぎ，飲み過ぎのためか，そこから動かない者もいれば，元気よく頂上の神社を目指す強者もいた。ひんやりとした空気はとても気持ちよく，レンゲショウマを見ながらのミニハイキングはなかなか楽しいものであった。

楽しい思い出を乗せて，バスは圏央道と東名高速が繋がったためスイスイと横浜へ戻り，その後川崎で解散した。　（川越元久 記）







群 馬 県 支 部







平成26年度　群馬県同窓会
総会・学術講演会

平成26年度の群馬県同窓会　総会・学術講演会は，７月13日（土）に高崎駅に隣接されたホテルメトロポリタン高崎でおこなわれた。

例年は温泉地で宿泊をしておこなってきたが，宿泊こみでの温泉地での開催では，女性会員の出席が難しいとの意見があり，交通の便の良いホテルで懇親会をランチの形式で開催した方が出席しやすいのではないかとの引田会長の提案で，今年は午前中に講演会と総会，そしてランチに合わせた懇親会の形式で開催した。

講演会は公開講座として他大学の先生の参加も得て開催した。講師は同窓会常任理事であり女性歯科医師の会で，ご活躍されている高野博子先生をお呼びし，テーマを「地域医療を続けられる幸せ」と題して，葛飾区で先生が実際に行われている地域に根付いた歯科保健活動についてお話いただいた。私たちも群馬県という地方の地域医療を支えている者として非常に興味深いお話であり，今後の活動の参考とし住民の健康保持という目標のもと，より良い地域医療活動へと繋げていきたいと思う。

また総会に先立ち，高野先生より若手ネットワークの活動を主に同窓会本部の活動と動向について説明がされた。議事としては，H25年度の事業報告ならびに一般会計収支決算等の議決後，群馬県においても会員の高齢化に伴う福祉共済部門の取り扱いについて議論が交わされた。総会後に行われた懇親会は，女性会員が多かったせいか，いつにも増して和やかな雰囲気の中で行われ，森下監事の指揮のもと校歌斉唱をもって終了した。　（片野勝司 記）



埼 玉 県 支 部

平成26年度総会

平成26年７月13日（日），ブリランテ武蔵野において26年度埼玉県支部学術講演，総会，懇親会が開催されました。

学術講演は東京歯科大学歯科社会保障学担当教授　上條英之先生に“これからの歯科医療サービスの展望と課題「歯科診療報酬改定を含む最近の歯科関連施策の動きと基金（新たな財政支援制度）の内容について」”というテーマで，歯科界のみならず医科や介護を含めた社会保障の現状と今後についてご講演いただきました。質疑応答でも時間を超過するほど活発な意見交換がされました。

総会に移り，まずは物故会員に黙祷を捧げました。来賓の同窓会常任理事小林慶太先生に同窓会の活動について，今回はご臨席叶わなかった井出学長の代行として田﨑雅和教授からは入試，国家試験の状況についてご説明いただきました。国家試験合格率の全国一位，最近の入試偏差値の高さと既卒者の合格率の高さに会員からは感嘆の声が上がっておりました。また，埼玉県歯科医師会副会長の小杉国武先生にもご挨拶をいただきました。同窓会の未入会対策にも引き続き力を入れていくことも確認されました。続いて野上宏一議長，田原邦昭副議長の下，議事は滞りなく進行し４議案すべてが賛成多数で承認され，総会を無事終了いたしました。

隣接する会場に移動し懇親会は行われました。埼玉県歯科医師会常任理事の齋藤秀子先生にご挨拶と県での活動についてのご報告を頂戴した後に，成田賢二先生の乾杯ご発声にてのどを潤した後，歓談に移り和やかな時間を過ごしました。同窓会員の親睦を図り結束を強めるよい機会として，ゴルフ会や大学対抗ソフトボール大会の開催のアナウンスもありました。

美味しいお酒とすばらしい料理を満喫し年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが，時はあっという間に過ぎ，大和田一彦先生指揮によって校歌を斉唱し盛況のうちにお開きとなりました。　（小杉憲吾 記）



同級生





写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



横浜南部支部

夏の会員・家族・従業員レクリエーション開催

平成26年８月23日（土）午後６時30分より，横浜市金沢区のすし処「かねへい」において，毎夏恒例の会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

昨年のレクリエーションは金沢区の歴史散策を行ったが，今年は金沢区主催の花火大会を見物した。お寿司屋さんの２階で海の幸を堪能しながら夏の夜空に打ちあがる花火を眺めようという贅沢な趣向である。

この花火大会は横浜市内でも有数の花火大会で，大勢の見物客が訪れる。見物に最適な潮干狩りやバーベキューで有名な海の公園エリア一帯は厳しい交通規制が敷かれ，アクセスのシーサイドラインは臨時便が大幅に増便される。









会は浅川　仁専務理事の司会で開会，鈴木信治支部長の挨拶の後，ご来賓の神奈川県支部連合同窓会会長杉山紀子先生にご挨拶をいただき，本会玉井達人相談役による乾杯のご発声で開宴した。

地元柴漁港で上がった新鮮な魚介類を材料に，お刺身，天ぷら，塩焼きと料理は進み，一方浅川専務のご子息の中学受験見事合格の嬉しいお知らせなども披露され，まさに和気藹々の雰囲気で会は進行した。そしていよいよ待望の花火が始まった。

大小様々色とりどりの大輪が咲き誇る中，キャラクターの顔を模した新作の花火なども楽しめ，轟音とともに打ち上がる美しい花火を存分に楽しんだ。



最後の花火がうち上がる頃ちょうど会もお開きとなり，恒例の記念写真を撮影して散会した。

（横浜南部支部広報・
渡邊宇一　記）

横浜鶴見支部

８月30日（土）午後６時より17名参加のもと，関内「イサベラ」において会員・家族レクリエーションが開催された。

横浜に居ながらにして世界の料理を食す第９弾となる今回は「スペイン料理」老舗スペイン料理店を貸し切って大いに盛り上がった。

定刻となり，佐藤秀夫会長の挨拶に続き，吉田礎久先生の乾杯で開宴した。もちろん飲み放題。乾杯とともに「瓶ビール追加お願いします」の声が各テーブルから聞こえてくる。喉が潤ったところで，「オードブル」（スペイン生ハム・タコのピリピリソース和え・小イワシのマリネ・スペインチョリソ）がテーブルに。どれもお酒に合うものばかりで早くも「サングリア頼んでから，お次はワインだね」

次に「小海老のアヒージョ」が運ばれる。オリーブオイルとニンニクで煮込まれた小海老を殻ごと楽しみ，パンを熱々の旨味凝縮のオイルに浸み込ませて食べるとこれまた美味。「白ワイン」が飛ぶように追加された。参加最年少の小学６年生は「大人がみんな飲み放題のメニューを上から順番に頼んでいるから，僕はソフトドリンク完全制覇だ」とにこやかな笑顔。程なくして見事に完全制覇達成。「お腹がタップんタップん」のコメントに一同大爆笑。

フワフワな「スペインオムレツ」の食感と味わいを楽しんでから，今回どうしてもコースメニューに組み入れたかった「牛ミノ柔らか煮」が登場。ミノのとろけるような柔らかさと特製デミグラスソースとの相性抜群。これにはやっぱり「赤ワイン」とお店のワイングラスが足りなくなる勢い。

途中，毎年恒例の「会員近況報告」が行われ，各々が近況を語り合った。

〆は名物「パエリヤ」じっくり旨味エキスを吸った黄色のサフランライスとカラフルな野菜，魚介類，肉などの具材の色合いは目でも楽しめ，もちろんお味も最高。宴もたけなわとなり，まだまだ飲み足りないが，ここは紳士の集まり。終宴時間定刻の午後８時。森田正純先生の閉会の辞を以ってお開きとなった。

（宇佐美貴弘 記）










川　崎　支　部

平成26年　学術講演会開催

平成26年６月14日（土），川崎市中原歯科保健センターにおいて，本学臨床検査病理学講座主任教授の井上　孝千葉病院長を招き，「検査病理からみた歯科医療の矛盾」の題で恒例の学術講演会が行われた。

講演に先立ち大学の近況報告がされ，水道橋移転に当たり，千葉病院の今後の在り方などの説明や，国家試験合格率１位を維持していくための方策など学生教育の話が合った。現在の国家試験が10問紹介されたが，我々のころと比べて数段難しくなっており，子弟が大学に通われている会員は子供のことを案じていたようである。

講演は歯科医療を点（時点）線（加齢）面（老化）で捉えていく考え方が紹介された。加齢を考慮し歯科医療を考えていくことは難しいが，年齢・人に応じた歯科医療を考えなければならない時代がきているようである。再生医療の話では，ラットでは成功しているが，ヒトではまだまだ時間がかかるようである。

講演後会場を移し，古賀克隆支部長の挨拶後歓談となり，終始和やかな雰囲気でお互いの親睦を深めあった。　　（紺野義之 記）





静　岡　県　支　部

平成26年度　臨時総会・保険説明会・懇親会が平成26年７月６日（日）にホテルアソシア静岡で開催されました。当日は臨時総会に先立ち，平成26年４月から新しく就任した支部長以下理事による役員・地区幹事長会が執り行われました。新支部長に就任された松下茂先生（昭和50年卒）ならび役員および地区幹事長の紹介が行われ，今期の活動方針を決定しました。引き続き行われた臨時総会では，役員会での決定事項が全員一致で採択されました。今執行部での目玉事業として，平成５年以降が手つかずになっていた「東京歯科大学同窓会　静岡県支部　沿革史」を編纂・出版することが決まりました。また，静岡県の若手の同窓会員よる症例発表会といった新しい試みを平成27年春に行う予定です。保険説明会では，静岡県歯科医師会理事の鳥居一也先生



松下　茂支部長



荒川安雄先生

（昭和58年卒）に社保支払基金の立場から，日野原　博先生（昭和50年卒）からは国保連合会の考え方について解説を行っていただき，大変有意義なものとなりました。終了後は会場を変え，懇親会を開催しました。懇親会には静岡県歯科医師会会長　柳川忠廣先生のご臨席を賜り，松下支部長のご挨拶で始まりました。荒川安雄先生（昭和34年卒）に乾杯のご発声をいただいた後は，各学年，各テーブルで楽しく会話の花が咲いていました。最後は前支部長の荻原英生先生（昭和48年卒）の音頭の元，全員で校歌を斉唱しました。次回は平成26年12月14日に総会と学術講演，懇親会で再会することを約束し，お開きとなりました。　（辻　吉純 記）



荻原前支部長を囲んで



校歌斉唱

愛 知 県 支 部

平成26年度若手勉強会（第３回）・医療保険研修会（共催）

平成26年５月11日（日），愛知県歯科医師会館において若手勉強会と医療保険研修会が同時開催された。まず最初に若手会員による症例検討会が行われた。参加した若い先生方が同窓会に興味を持ち入会することを目的の一つにしているが，お陰さまで，好評で新規会員の入会につながっている。現在同窓会本部でも若手会員の入会が最優先課題となっているが，今後もこの事業を継続していく予定である。

さらに，今回は愛知県歯科医師会医療保険担当常務理事である大平　誠先生をお招きし，請求上の注意点や改正の重要項目について，時にユーモアを交え，大平流のわかりやすく有意義な講演を戴いた。次年度も引き続きご指導を戴きたいとの声が多かった。

今回の若手勉強会は「毎日の診療Ⅲ」と題し，これまでの２回と同じく若手で活躍する３名の先生によりご自分の専門をふまえた発表が行われた。トップバッターとして平成２年卒業，豊田市開業の鈴木裕仁先生から「一開業医によるライフコースを見据えた取り組み」と題し，先人から学んだ多くのことを生かしつつ，地域保険との関係を大切にした歯科医師のライフコースを考慮した取り組みについて発表された。次に同じく平成２年卒業，清洲市開業の小関健司先生より，「愛知県同窓会へ入った後に出会った，ある先生との10年」と題し，スカンジナビアの考えやインプラントについてのありかたを学ぶきっかけとして，ある先生との出会いが自らの人生にとって道標となったことなどを話された。因みにある先生とは昨年他界された前岡一夫先生（昭和55年卒・一宮）のことであった。最後に平成９年卒，常滑市開業の井上敬介先生より「予防歯科の実践と実態」と題し，現在，言葉のみが先攻していると思われる予防歯科について，大規模にしかもシステマティックにこれを取り入れている実際の臨床と，将来の問題点などについて語られた。どの先生も大学を卒業し地元愛知でこれまで日々勉学に取り組んでいる姿が大いに伺われ，先輩後輩ともにとてもよい刺激となった。医療保





懇親会風景

険研修会では，改正直後のこともあり，大平先生のわかりやすい現場に即した解説には，いつもながらに，みな食い入るように話を聞き，とても勉強になり明日からの診療時に生かせる有意義なものとなった。

最後に毎回会員皆がとても楽しみにしている懇親会が，会場をアパホテル錦に移し行われた。最近ではSNSなどの進歩により，人とのつながりがより便利になってきたなか，やはり人対ひとの杯を交わしながらの交流は欠かせないものであると確信でき，笑顔でみな溢れるよい懇親会で幕を閉じた。　　（井上敬介 記）

平成26年度学術講演会

平成26年７月13日（日），愛知県歯科医師会館にて平成26年度東京歯科大学愛知県同窓会学術講演会が開催された。出席者は40名を超え，そのうち他大学より５名の先生にも参加いただき有意義な学術講演会となった。

我が国では高齢化に伴い悪性新生物を始め循環器系の疾患など，全身疾患を有した患者さんが増加しており，私どもの日常の歯科診療においても，様々な注意が必要となってきている。そこで今回は，昨年朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野教授として赴任された，昭和59年卒業の櫻井　学先生に，「歯科治療中の全身管理－保有する全身疾患を考慮した歯科診療－」をテーマとした学術講演会をお願いした。講師の櫻井学先生は昭和59年に東京歯科大学を卒業した後，同大学院歯学研究科（歯科麻酔学専攻）から歯科麻酔学講座の講師，准教授を経て平成25年４月に朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野の教授に就任された。講演では近年超高齢化が進んでいる中，臨床の現場においても複数の基礎疾患を保有する患者が増えてきており，さらに歯周外科手術，インプラント手術など比較的侵襲の大きな外科的手術も広く行われ，精神的にもストレスが多く与える内容が増えてきているため，基礎疾患を保有する患者に対して，その全身疾患やその評価，またその歯科治療中の管理



講師の先生と


講 演 風 景

法や，起こりうる偶発症の種類と診断治療法について学ぶことができた。歯科医師会では8020運動の提唱の効果もあり，歯科を受診する機会も増加しており，基礎疾患を有する患者もそうでない患者も歯科を受診する機会が増加してきているため，基礎疾患に対する変化にいち早く気づけるのも歯科医師であり，さらにはそれらの基礎疾患の兆候にいち早く気づいて対応することができる役割も歯科医師に求められる時代になってきているように感じた。このことは，地域社会の中での歯科の役割の重要さをさらに感じることとなった。

最後に恒例となっている懇親会を，アパホテル錦の会場に移し行われた。今年に入り未入会で若手の先生も同窓会に興味を持ち参加するようになって来ているなか，今回も平成19年卒の小林　充先生が参加し，様々な情報交換がなされ，有意義な懇親会となった。

（井上敬介 記）

クラス会だより

クラス会開催日程

い　づ　み　会（昭和23年卒）	と　き	平成26年11月20日（木）～21日（金）
	ところ	熱海石亭
踏　　志　　会（昭和41年卒）	と　き	平成26年11月15日（土）～16日（日）
	ところ	名古屋マリオットアソシアホテル（JR 名古屋駅内）

八　紫　会　　昭和35年卒

世話人会報告

平成26年６月20日，有楽町ニュー東京で八紫会の世話人と旧幹事のメンバーの拡大世話人会的な会合を開きました。出席者は８名で議題は　１．学年代表者（昨年から始まり八紫会では菊池世話人代表が出席）の決定　２．同窓会報の「クラス会だより」の活用　３．FAX 通信の活用　について話し合われた。

１．の学年代表者については，旧臘菊池代表逝去のため空白となっていたが，７月13日（日）に母校で，学年代表者会が開催され出欠を明らかにしなければならず，代表者の指名が急がれるので，討議の結果，櫻井善忠に決定した。

２．会からの全員へのお知らせについては，平成24年７月の世話人会の決定事項の通り，同窓会報の「クラス会だより」に掲載する。

３．会員の慶弔等の連絡については，FAX 通信を活用する。

以上が決まり，新規の世話人は，櫻井代表より，次の各氏が指名されております。

○櫻井・橋詰・春原・長井・渡辺（典）・小宮・宮下（達）・大門・腰原・森川の諸君。

（櫻井善忠 記）





2014 年２月９日の「菊池　豊先生を忍ぶ会」の一コマ

六　喜　会

昭和33年卒

又会

昭和27（1925）年４月，市川の東歯予科入学。当時はＡＢＣの３クラスに分けられていて，Ａクラスは英語教授の山本又雄先生が担任でした。昭和33年３月，水道橋の学部４年卒業時に予科で過ごした２年間を記念して「又会」を立ち上げたのでした。

六喜会が高齢化で幹事の受け手がいない等で卒後50周年総会で解散となりましたが，同窓会としては「六喜会」の名称は残っております。

又会は平成14年から毎年５月中旬頃に２泊３日の旅行をしています。山本先生ご夫妻始め大半のクラスメートが鬼籍に入ったり，体調を崩されたりで最近は参加者が10～11名と固定化しています。

今年は地元幹事を古田島君で新潟・中越地方の食好し，酒好し，景色好しの旅行が５月16日午後，長岡駅集合で始まりました。先ずは山本五十六記念館見学。「やって見せ，説いて聞かせてやらせてみ，讃めてやらねば人は動かぬ」の山本語録。人心を掌握していたようです。創業460年の老舗・吉乃川酒造見学，試飲。早速お買物モードにスイッチオン。ホテルニューオータニ長岡で一年振り再会で乾杯，宿泊。明けて２日目，県立歴史博物館で新潟縄文文化と雪とくらしを，出雲崎良寛記念館で良寛の生涯と作品を，田中角栄記念館で新潟が生んだ偉大なる政治家をそれぞれ見学し勉強。丁度疲れた所で小千谷名物へぎそばで越後そばを堪能し，小千谷錦鯉の里で泳ぐ宝石錦鯉を鑑賞して目の保養。越後ゆきくら館で雪蔵の中を肌で体感し，玉川酒造で試飲。六日町温泉の豪農の館を思わせる旅館・龍言に宿泊。３日目最終日，トミオカホワイト美術館を見学。雪国に生まれ「白」に執心し，自ら開発して「東洋の白」と海外で評された富岡惣一郎画伯の独特の白と黒の油彩画の大作を鑑賞。曇り空の３日間，やっと霊峰八海山が雲の切れ目から見え南魚沼の山あいの新緑が陽に映えて目に眩しい。八海山の麓で地ビールを酌み交わし，来年の幹事を白石さんに決めて一任。浦佐駅で，来年またそれなりの顔を見せ合うということで「さようなら」。

参加者

今泉　功君，岩松健雄君夫妻，小川陽市君夫妻，片岡良子さん（故・片岡保夫君夫人），古田島耕三君，坂登輝夫君夫妻，白石（山下）雅子さん，佐藤貞彦

（佐藤貞彦 記）





十 二 期 会

昭和39年卒

－摩周の女神が微笑んだ－

梅雨のない北海道が，このところの異常気象で，６月中旬に35℃を超す暑さが記録されたり，下旬には，ぐずついた日が続いている。





1964年３月卒業十二期会は今年50年の節目の大会を北海道在住の向山英彦，前田高直両君のお世話で釧路を中心とした道東観光となった。

2014年６月20日(金)「ヤァー」「オゥー しばらく」との声がとび交い，24名（夫人３名）が釧路プリンスホテルに集い，前夜祭となった。

明けて21日(土)霧の街 釧路はその名の通り，すっぽりと濃霧に包まれた朝を迎えた。市街地を10分もバスで走ると，そこは広大な釧路湿原国立公園の真っ只中，小高い丘の湿原展望台に立つ。霧も晴れて，見渡すかぎりの広野は，雨に洗われた緑が一段と眩しい。鶴居村の原野では，幼鳥を連れた丹頂の親子を望観する。何とも微笑ましい光景で，冬に餌付けが十分されているので，春になっても北に帰らぬ丹頂も多いと聞く。弟子屈の道の駅で小休止。美幌峠に向かう。峠は霧と風と雨の中にあり，視界不良。屈斜路湖畔のホテルにて昼食。午後は硫黄の臭いが鼻をつく川湯温泉，盛んに噴気を上げる硫黄山を経由して摩周湖へ。美幌峠から直線距離でわずか30km たらず。今日は布施　明の名曲「霧の摩周湖」になると諦めていたら，摩周の女神が突然微笑んでくれて，神秘の湖面に浮かぶ中の島や摩周岳の景観を十二分に堪能する。



大会では，まず大学が水道橋に戻って，本格的に大学としての機構が稼働を始め，その成果が表れていること。また，学長から理事長へと長年要職の重責を担ってこられた同期の金子　譲先生が，５月末日をもって勇退されたことが，丹野会長，片倉恵男君より報告があり，次年度大会を同窓会創立120周年記念式典に合わせて，東京又は東京圏で開催することとし，また，本会の今後の在り方については，次大会に於いて協議すること，本年度の会費については，従来通り徴収することを申し合わせ，懇親会に移り，乾杯は遠来熊本の鈴木勝志君の音頭で再会を祝った。

最終22日(日)ラムサール条約によって保護された「水鳥と水棲生物の楽園」のビューポイント細岡展望台へと急ぐ。この展望台からは湿原の中をうねるように流れる釧路川の様子を一望し，釧路たんちょう空港にて，次大会東京での再会を期して解散した。

（牟田紀一 記）

福　祉　会

昭和44年卒

2014年（平成26年）５月24日，福山市鞆の浦「鷗風亭」で74期生「福祉会」のクラス会を行った。43名出席し賑やかに開催された。

右の45回続いたクラス会の歴史を見て，開始した時期は定かではないが，子離れをしたころから女性同級生同士の事前の小旅行が始まった。主人が参加し，奥様方が参加し，人数が増えて今年は総勢18名の「女子会旅行」となった。松山空港に集合し，松山市内観光そして，道後温泉老舗「ふなや」で前夜祭を賑やかに行った。

翌日はしまなみ海道を通り福山に向かった。多島美を堪能し，来島海峡ではダイナミックな急流体験に感激し，大山祇神社の大きな楠に囲まれた厳粛さに感動し，昼食は美しい多々羅大橋を眺めながら，豪華な「まはた」料理の昼食を堪能し，平山郁夫美術館，耕三寺を見学し会場に向かった。

福山鞆ノ浦「鷗風亭」では県内の青木君，上田君が受付を担当，大谷君は福山駅で出迎え，宿のシャトルバスに案内し，会場に同行した。集合時間に全員集まり，記念写真を撮ったつもりが，２名の撮り残しを出す椿事の後，物故者に黙とうを捧げ，賑やかな総会が開始され，歓迎の辞の後，浮地同窓会副会長が克明な資料で，同窓会の現状や，大学の様子，新キャンパスを中心に説明。クラス代表の甫田君が療養中のため，小坂君が，クラス主任の石川名誉教授のご様子を説明。前開催地の千葉君からお礼の言葉の後，懇親会に移り，約２時間，話が尽きることなく盛り上がり，来年度は東京開催で上の歴史表のさらなる継続を誓った。　（髙木勇藏 記）

74期「福祉会」開催の歴史

回	主催	開催地	開催場所	開催日時	メモ
1	広島	広島	広島県庁	昭和45年2月28日	
2	静岡	湯ヶ島温泉	落合楼	昭和46年9月	
3					
4	三重	伊勢志摩	第三賀島荘	昭和48年7月21日	
5	山梨	甲府	石和温泉	昭和49年春	
6	長野	軽井沢	星野旅館	昭和50年夏	
7	静岡	伊東	伊東温泉伊藤園	昭和51年4月17日	
8	福島	飯坂	飯坂温泉伊勢屋	昭和52年7月16日	
9	東京	日比谷	帝国ホテル	昭和53年9月16日	
10	札幌	札幌	札幌全日空ホテル	昭和54年8月18日	
11	京都	京都	京都グランドホテル	昭和55年8月22日	
12	新潟	新潟	新潟イタリア軒	昭和56年 月日	東映映画村
13	宮崎	宮崎	宮崎観光ホテル	昭和57年8月7日	
14	千葉	千葉	千葉グランドホテル	昭和58年8月4日	
15	広島	広島	広島全日空ホテル	昭和59年11月10日	
16	東京	高輪	高輪プリンスホテル	昭和60年11月16日	
17	愛知	大山	名鉄犬山ホテル	昭和61年11月15日	大根君教授就任祝い
18	仙台	仙台	江陽グランドホテル	昭和62年7月25日	
19	函館	湯ノ川温泉	さかえ旅館	昭和63年7月30日	村瀬君教授就任祝い
20	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成1年6月17日	卒後20周年
21	大阪	大阪	ニューオータニ大阪	平成2年5月4日	大阪花博
22	岡山	岡山	岡山東急ホテル	平成3年7月27日	
23	栃木	那須温泉	山楽	平成4年7月25日	石川先生副学長就任
臨時	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成5年1月30日	石川先生副学長就任祝賀会
24	千葉	市川	市川グランドホテル	平成5年10月30日	
25	福岡	福岡	ソラリア西鉄ホテル	平成6年10月9日	
26	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成7年8月26日	石川先生学長就任祝賀会
27	旭川	旭川	旭川グランドホテル	平成8年7月27日	
28	島根	松江	皆美館	平成9年10月25日	
29	長野	白骨温泉	斎藤旅館	平成10年9月26日	
30	東京	お台場	ホテルメリディアン	平成11年8月28日	卒後30周年
31	静岡	大仁	大仁ホテル	平成12年10月8日	
32	岩手	盛岡	つなぎ温泉　大観	平成13年9月15日	
33	和歌山	南紀	ロイアルパインズホテル	平成14年9月14日	ボルトヨーロッパ
34	岐阜	長良川	岐阜グランドホテル	平成15年9月14日	鵜舟
35	東京	六本木	六本木ヒルズ	平成16年10月10日	還暦祝い
36	札幌	札幌	札幌全日空ホテル	平成17年7月17日	
37	熊本	熊本	熊本ホテルキャッスル	平成18年11月4日	
38	三重	長島温泉	ガーデンホテルオリーブ	平成19年11月10日	
39	神奈川	横浜	ローズホテル	平成20年11月15日	横浜中華街
40	中四国	淡路・鳴門・高松	全日空ホテル高松	平成21年10月31日	卒後40周年・バスツアー
41	東京	東京	KKRホテル東京	平成22年5月22日	創立120周年記念
42	京都	京都	京都ブライトンホテル	平成23年5月14日	葵祭
43	函館	湯ノ川温泉	若松	平成24年7月21日	シンポジューム
44	東北	仙台	仙台ウェスティンホテル	平成25年5月18日	
45	広島	福山市鞆の浦	鷗風亭	平成26年5月24日	古希のお祝い



新　葉　会

昭和63年卒

平成26年６月14日（土），15日（日），長野県上田市別所温泉にて新葉会クラス会が開催されました。昨年の「稲毛さよならツアー」クラス会の翌年の開催でしたが，久しぶりに東京・千葉以外での開催となりました。

今回は，首都圏からもアクセスの容易なところ，また出身者も多い長野県ということが昨年のクラス会で決まり，幹事は上田市在住の，下村定資君，下村仁実君，中島洋子君にお願いしました。

総会が17時30分から始まるため，時間前に温泉に，観光にと楽しみつつ現地集合となりました。

総会では，簡単な会務報告，同窓会報告の後，山本　仁君による大学報告，橋本正紀君による保険講習会が行われました。

会場を別に移し，懇親会となりました。幹事の計らいで，大きな宴会場が用意され，その日は泊まりということもあり，のんびりと，楽しい時間となりました。懇親会後は温泉を楽しみ，その後は下村君の部屋で，２次会となりましたが，時間を忘れ，学生時代の話，子供の話，これからの医療の話などを語り合っておりました。

２日目は朝食後，解散ということになり，所用ですぐに帰宅するグループ，ワールドカップのサッカーをロビーで観戦するグループ，観光するグループに分かれることになりました。

観光組は幹事の引率で，国宝安楽寺八角三重の塔の見学や，前山寺を参拝しました。昼食後，上田城址公園を訪れ，上田駅で解散となりました。

すばらしく練られた計画に，本当に楽しい会となりました。幹事の下村ご夫妻ならびに中島洋子君に厚く御礼申し上げます。

次回は同窓会創立120周年にあわせてのクラス会，または平成28年のクラス会を検討しております。そしてメインは平成30年の卒後30年記念クラス会です。今回，運悪く参加できなかったり，チョット東京に出るのが億劫になっている新葉会の会員の皆さん。次回お目にかかれることを楽しみにしております。

（寺田仁志 記）







写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



OB 会・グループ・サークルだより

演劇部 OB 会　レジェンドの語らい

昭和23（1948）年11月13日，日本の敗戦後の世情が落ち着くのにはまだ程遠い頃，演劇部第１回公演が都民文化館で上演された，と記録にあります。出し物は山本有三作「盲目の弟」，チェーホフ作「熊」。東歯に入学して演劇部に関わった卒業生は平成21（2009）年で170名位と推定されますが，その何方にも多少の違いがあるにしても高校生の頃から演劇に興味を持ち，古典的名著・スタニフラスキーの「俳優修業」を読み齧り東歯演劇部でその情熱を傾注したと想像するに難くありません。

閑話休題

OB 会は平成26年４月20日，ニコライ堂を眼下に景観が広がる銀座アスターお茶の水賓館で，宮下先生，川又先生両幹事のお世話で開催され正午から会長・井上先生の挨拶で始められました。６回目の今回は参加者12名と決して多くはありませんが，たまたま11名は年代が割と近く，もうお一人はだんトツに若い法歯学講座准教授・花岡先生が参加されました。

花岡先生から母校のことなどを伺うことが出来ました。

同窓そして同好の集いであれば和気藹々で，思い出話，昔話に花を咲かせました。この盛り上がった時の流れの速さの中にも，もう少し多くの参加者を望み，OB 会年１回の開催，そして演劇部現役の公演を観劇したい等々の提言もありました。

次回 OB 会で集う時までお大事に，でお開きとなりました。

出席者

井上　藤夫 先生（S31）
小林　則夫 先生（S31）
落合　雅雄 先生（S32）
大國　　勉 先生（S32）
坂登　輝夫 先生（S33）
　　令夫人
白石　雅子 先生（S33）
（山下）
延島　三男 先生（S34）
宮下　達也 先生（S35）
川又　正義 先生（S36）
花岡　洋一 先生（S56）
佐藤　貞彦　　（S33）

小林先生から資料のご提供を戴きました。

（昭和33年卒　佐藤貞彦 記）



山岳部 OB 会　杖痕クラブ総会報告

新緑の眩しい季節から紫陽花の色づくこの季節に，今年も箱根強羅温泉・清峰閣照本にて，平成25年度定期総会と還暦祝賀会を，総勢39名の出席にて開催しました。北は福島より加藤喜代次先生，南は熊本より福嶋修治先生ご夫妻が集合。総会では，すべての議案が可決後，加藤喜代次先生（昭40年卒）から口腔を通して，安心，安全の健康治療教室があり，部員の他，ご家族，学生も受講。皆様からご好評を頂きました。その後，祝賀会へ。平成18年より，前部長野間先生より引き継ぎ，部長を務めて下さった柴原先生へ還暦祝として，本多先生より真紅のウィンドジャケットが贈られ，さらに福嶋先生ご夫人よりお手製のTシャツのプレゼントがありました。大山萬夫先生の乾杯に始まり，年齢差60才の祝賀会を開催。



山岳部の現役学生と笑顔の柴原教授

８名の学生諸君からも自己紹介や，近況報告がありました。二次会では30年前のスキー合宿への車中ビデオに全員驚愕。前竹内会長，伊丹先生，佐々木先生たちから懐かしい話が聞けました。また朝波雄二先生による，昨年夏の学生時代に合宿をした北アルプス穂高山行報告で盛り上がりました。特に穂高岳の雪渓や岩肌を見ると，こみ上げてくるものがあります。来年は，岡村先生，三浦先生のお祝いを楽しみに閉幕。

（昭和53年卒　茂木元介 記）



山岳部 OB 杖痕クラブ総会・柴原孝彦君（昭和54年卒）還暦祝

庶　務　日　誌

７月

1)　理事会

７月23日(水)　第４回常任理事会

2)　委員会

７月１日(火)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№５臨床セミナー打合せ）
１日(火)　事業推進部新進会員のつどい準備会
２日(水)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会
３日(木)　総務・厚生部ゴルフ大会委員会
４日(金)　事業推進部卒後研修委員会
９日(水)　事業推進部臨床セミナー委員会
（2015プログラム委員会）
10日(木)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№４臨床セミナー最終予演会）
11日(金)　広報部広報委員会
14日(月)　会務運営協議会
14日(月)　事業推進部新進会員のつどい準備会小委員会
14日(月)　事業推進部臨床セミナー委員会
（2015プログラム委員会）
15日(火)　事業推進部社会保障制度研究委員会
16日(水)　事業推進部医療教養委員会
22日(火)　事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
29日(火)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会　祝賀会小委員会
29日(火)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№６臨床セミナー打合せ）
30日(水)　総務・厚生部ゴルフ大会運営実行委員会

3)　出張

７月２日(水)　丸の内支部総会
学術講演会　講師・西山典宏氏（日本大学松戸歯学部生体材料学講座教授）
５日(土)　信越地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長，髙橋専務理事，阿部理事出席
学術講演会　講師・蓮池　薫氏
（新潟産業大学経済学部准教授）
５日(土)　新潟県支部総会　　矢﨑会長出席
６日(日)　千葉県支部学術講演会
講師・中川種昭氏（慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教授）
９日(水)　渋谷支部総会　　矢﨑会長出席
学術講演会　講師・井出吉信学長（母校）
13日(日)　群馬県支部総会　髙野常任理事出席
13日(日)　埼玉県支部総会　小林常任理事出席
学術講演会　講師・上條英之教授（母校）
13日(日)　愛知県支部学術講演会
講師・櫻井　学氏（朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野教授）
25日(金)　学校法人東京歯科大学新執行部と同窓会役員との懇談会
30日(水)　練馬支部学術講演会
講師・齊藤　力教授（母校）

4)　事業

７月13日(日)　学年代表者会
26日(土)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー特別企画　インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
27日(日)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー特別企画　インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
27日(日)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー№４臨床セミナー「どうして定期健診を受診してくれないの？」

8月

1) 理事会

8月30日(土) 第4回理事会

2) 委員会

8月1日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会
(№5臨床セミナー打合せ)
4日(月) アカデミア事業連絡会
5日(火) 事業推進部卒後研修委員会
8日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会 式典・講演会小委員会
11日(月) 予算検討会
19日(火) 事業推進部医療教養委員会
20日(水) 広報部広報委員会
22日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会
(2015プログラム委員会)
25日(月) 会務運営協議会
26日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
26日(火) 渉外部渉外委員会
28日(木) 事業推進部新進会員のつどい準備会
31日(日) 事業推進部卒後研修委員会, 医療教養委員会, 臨床セミナー委員会 第1回全体委員会

3) 出張

8月23日(土) 北海道地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長, 髙橋専務理事, 佐藤理事出席
31日(日) 東京歯科大学元学長・名誉教授 石川達也先生大学葬
矢﨑会長, 他役員参列

9月

1) 理事会

9月20日(土) 第5回理事会

2) 委員会

9月2日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会
(№6臨床実技セミナー打合せ)
4日(木) 事業推進部社会保障制度研究委員会
5日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会
(№5臨床セミナー最終予演会)
5日(金) 学術事業交流についての協議会
10日(水) 広報部広報委員会
11日(木) 同窓会創立120周年記念誌打合せ
12日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会 全体委員会
16日(火) 会務運営協議会
22日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(№6臨床セミナー最終予演会)
29日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
(研究委員会B)
29日(月) 総務・厚生部総務厚生委員会
30日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議

3) 出張

9月7日(日) 関東地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長, 髙橋専務理事, 高原理事出席
7日(日) 東海地域支部連合会総会・支部長会
浮地副会長, 臼井常任理事, 山田理事出席
学術講演会 講師・浅田英夫氏(日本天文学会会員)
13日(土) 北海道医療大学歯学部同窓会創立30周年記念式典・記念祝賀会
矢﨑会長出席
27日(土) 長野県連合会総会
髙橋専務理事出席
学術講演会 講師・小宮山彌太郎氏(東京都開業)
27日(土) 北海道地域支部連合会 学術講演会
講師・矢島安朝教授(母校)

4) 事業

9月15日(月・祝) 同窓会主催全国ゴルフ大会
(おおむらさきゴルフ倶楽部)
21日(日) TDC卒後研修セミナー2014 卒研セミナー№5臨床セミナー「困った…! 義歯の悩み解消します」
23日(火・祝) 第1回二校会講演会

10月

1） 委員会

10月１日(水) アカデミア事業連絡会
３日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
６日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
（研究委員会 B）
10日(金) 広報部広報委員会
27日(月) 会務運営協議会
28日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
28日(火) 事業推進部新進会員のつどい準備会

2） 出張

10月４日(土) 北陸地域支部連合会支部長会
髙橋専務理事，伊藤理事出席
19日(日) 東北地域支部連合会支部長会
髙橋専務理事，椎木理事出席
23日(木) 東京地域支部連合会支部長会
矢﨑会長，早速理事出席
25日(土) 北多摩支部学術講演会
講師・齋藤　淳教授（母校）

3） 事業

10月12日(日) TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー№６臨床実技セミナー「MTM 新時代」

東京歯科大学同窓会：東京歯科大学水道橋校舎
南棟６階



JR 水道橋駅東口徒歩５分。
ヒグチ薬局の先を右に曲がり，旧鶴屋ビルの６階です。

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

（敬称略・届出順）

●昭 36 卒	桑名泰彦	(77歳)	東京都目黒区	26. 6.16
●昭 39 卒	川村　勇	(74歳)	北海道札幌市	26. 6. 6
●昭 37 卒	中井一仁	(78歳)	北海道札幌市	26. 6.17
●医学校 卒	古内　正			昭和16.2.17
●大 8 卒	中井通雄			昭和33.12.28
●昭 39 卒	横田　惇	(76歳)	東京都練馬区	26. 7. 1
●昭 30 卒	石川達也	(85歳)	東京都新宿区	26. 7. 2
●昭 24 卒	長束長雄	(85歳)	新潟県長岡市	26. 7. 7
●昭 25 卒	荒木　雅	(87歳)	北海道余市郡	26. 7.13
●昭 24 卒	松田　昭	(85歳)	福井県大野市	26. 7.14
●昭 33 卒	菅波　要	(81歳)	福島県いわき市	26. 7.15
●昭 48 卒	鈴木康生	(66歳)	福島県郡山市	26. 4. 1
●昭 33 卒	内田道彦	(84歳)	静岡県浜松市	26. 7. 4
●昭 41 卒	橋本高明	(72歳)	福岡県北九州市	26. 7.21
●平 2 卒	大森英世	(53歳)	石川県鳳珠郡	26. 7.22
●昭 20.9 卒	鶴岡清一	(88歳)	東京都荒川区	24. 4.25
●昭16.12 卒	大橋二郎	(93歳)	愛知県南設楽郡	26. 7.22
●昭 50 卒	今井眞理子	(63歳)	長野県小諸市	26. 7.26
●昭 27 卒	神山　登	(87歳)	栃木県宇都宮市	26. 7.30
●昭 33 卒	渡辺晋一郎	(82歳)	埼玉県越谷市	26. 7.31
●昭 23 卒	鈴木　裕	(88歳)	静岡県静岡市	26. 7.23
●昭 34 卒	池田　漠	(79歳)	千葉県印旛郡	26. 7.26
●昭 18.9 卒	二階堂鋼輝	(97歳)	東京都足立区	26. 7.27
●昭 22 卒	貴島　亨	(89歳)	三重県桑名市	26. 7.22
●昭 56 卒	落合和久	(59歳)	三重県四日市市	26. 7.29
●昭 43 卒	星野幸一	(70歳)	新潟県長岡市	26. 8. 4
●昭 17.9 卒	小早川武夫	(99歳)	長野県長野市	26. 8. 4
●昭 11 卒	河瀬　隆	(101歳)	東京都世田谷区	26. 7.31
●昭 25 卒	内田安博	(85歳)	富山県富山市	26. 8.13
●昭 22 卒	上島正嗣	(91歳)	東京都港区	26. 7.31
●昭 53 卒	尾崎佳孝	(61歳)	愛知県田原市	26. 8.22
●昭 27 卒	糸山　修	(89歳)	長崎県佐世保市	26. 8.27
●昭 46 卒	山口眞澄	(68歳)	長崎県諫早市	26. 8.28
●昭 27 卒	滝沢　稔	(83歳)	東京都世田谷区	26. 8.27
●昭 30 卒	髙砂昌行	(83歳)	埼玉県春日部市	26. 8.19
●昭 34 卒	大友暢子	(79歳)	東京都目黒区	26. 6.21

◆投 稿 規 定

※平成26年度より，偶数月発行から年間４回（２，６，10，12月）の発行になりました。

(1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは，発行前月の10日までとし，原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし，便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は１行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを，大きいサイズ（２Ｌなど）で集合写真のみでなく，スナップなども添えて下さい。

(3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし，紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので，ご了承下さい。なお，掲載については委員会にご一任いただきます。

(4) 写真等の返却
写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真の場合は，その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投 稿 字 数

投稿欄	内容	文字数，備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想，詩，短歌，時評など	１編1,700字程度（１ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや，取り止めのない随筆はご遠慮いただき，出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		１ページ1,700字程度（１ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当，会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当，数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚，同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ
http : //tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し，同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部　　支部
卒業年数（どれか１つ）	（昭和・平成・西暦）＿＿＿＿＿＿ 年卒 ／ ＿＿＿＿＿＿ 期卒		
住所（自宅・勤務先）	〒		
電話番号（自宅・連絡先）	－　　－	FAX 番号	－　　－
投稿先 □に✓印チェック	同窓会会報　□カラーグラビア　□追悼　□支部のうごき □ふるさと自慢　□すいどうばし　□いなげ □クラス会だより　□OB，グループ・サークル		
貼付写真枚数	枚		
その他ご希望	（例　写真の順番・重要度など）		

◆へんしゅうこうき

★とうとう，僕の順番（編集後記）が来てしまった！

３年前，学生時代に世話になった先輩から電話があり，

先輩「同窓会本部のホームページの仕事手伝ってもらえないかな」

自分「文章書くの苦手なんですよねー」

先「WEB の企画・運営の仕事だから」

自「・・・・・・」

先「原稿書いたりしないから大丈夫！」

自「じ，じゃあ，やってみます。よろしくお願いします」

初めての委員会にて

委員長「今年度から広報委員会（会報）と情報部（ホームページ班）は合併してお互い協力して会報とホームページを作っていきます！よろしくお願いします」

自「取材とかあるんですか？」

委「全員交代で行ってもらいます」

自「えーーーーーーー」

そんな経緯で同窓会広報委員になりましたが，委員の先生と馬があいどうにか今まで続いています。

★同窓会創立120周年も近づいてきました。広報委員会でも120周年記念号を企画しています。メインテーマも「医はこれ済生ひとへに仁なり　伝統そして未来への飛躍」に決まり，過去の同窓会報のスキャンや記念座談会の準備をしております。今号でも，阿部晴弘先生の血脇先生と東京歯科大学との関連についての寄稿文が掲載されています。

★広報委員会の中では主に Facebook を担当しています。皆様に有用な情報をいち早く伝えられるよう日々更新しております。Facebook を利用されている方はぜひアクセスして「いいね！」してください。

また利用されていない方はこれを機会に始めてみたらいかがでしょうか？

「東京歯科大学同窓会広報部」の facebook ページ

https : //www.facebook.com/TDCalumni

（横田東生　記）

広報部広報委員会

委員長	臼田　準
副委員長	福井　雅之
	山口　雅史
委員	古澤　成博
	奥野　圭子
	佐々木葉子
	皆川　雅彦
	渡邊　宇一
	島田　篤
	西村　哲雄
	横田　東生
広報部担当理事	小池　修

平成26年10月20日　印刷
平成26年10月25日　発行
東京歯科大学同窓会会報　第397号
同窓会ホームページアドレス
http://www.tdc-alumni.jp

発行人　小池　修
編集人　臼田　準
東京歯科大学同窓会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町2－9－18
電　話（03）5275－1761
ＦＡＸ（03）3264－4859
印刷所　一世印刷株式会社
〒161-8558　東京都新宿区下落合2－6－22
電　話（03）3952－5651（代）

ふるさと自慢　～私のお気に入り～

昭和の雰囲気漂う階段と路地の街「荒木町」

四　谷　牛　込



現在の新宿区は昭和22年にかつての四谷・牛込・淀橋の３区が統合し新宿区として発足しました。当時の区分が引き継がれ新宿区の本学同窓会は，歯科医師会と同様に新宿支部(旧淀橋)・四谷牛込支部の２つの支部があります。四谷牛込支部はJR新宿駅から飯田橋駅付近の北側のエリアで，神宮外苑・防衛省・新宿御苑・神楽坂・新宿三丁目など都内でも沢山の人が集う場所がある地域です。私の住む荒木町は，その中にあっても昭和の街並みが残るすり鉢型の地形の中に個性ある飲食店が密集



写真１：四谷三丁目の交差点。角にある消防博物館は日中の毎正時には「からくり時計」が時間を知らせます。

し，テレビや雑誌でも時々取り上げられています。荒木町の入口は東京メトロの四谷三丁目，交差点にはヘリコプターをいただく消防博物館があり親子で楽しめるスポットです（写真１）。荒木町は新宿通りの南側で，旧松平摂津守の上屋敷があった地域です。その屋敷内には小さな谷を堰き止めて造った庭園と池があったそうですが，その池を底地として階段と細い路地でつながった街が広がります。池は宅地として埋め立てられながらも弁財天を有した「策（むち）の池」として残り，子供たちの遊び場になっています（写真２）。明治末，この池の界隈は高級な客を相手とする三業地として栄えました。三業地とは料理屋・待合（茶屋）・置屋（芸者屋）の三業が揃った遊興地を言います。当時13軒あった料亭はその姿がマンションに変っている所も多い中，その名残がある細い迷路のような路地に特徴ある飲食店が軒を連ね（一見では入りにくいかも…），夜は隠れ家的スポットとして賑わいを見せています。街のあちこちには昭和の面影がうかがえます。小道に使われている敷石は新宿通りを走っていた都電の敷石だったものです（写真３）。階段の多いことでも有名で写真の階段は「仲坂」と呼ばれ，その上の道は当時の池の堰だったところです。その階段の向こうにはすぐ防衛省の大きな電波塔が見える独特の風景です（写真４）。

坂が多いこの地域で，私の歯科医師会，保健センターへの移動や買い物に電動自転車は欠かせません。　（昭和63年卒　片倉孝子）



写真２：津の守弁財天がある「策（むち）の池」。今でも子供たちがザリガニ釣りをしています。



写真３：石畳の路地に小料理屋さんや個性的なスナックやバーが軒を連ねます。お値段は少々高めかも。



写真４：池に向かって長く伸びる「仲坂」。右下に見える定礎石に昭和８年敷設と記されています。正面には防衛省の電波塔がそびえ立ちます。

会　員　往　来

100マイルの世界

大多和　昌　彦（平成元年卒）

みなさまは100マイルと聞いて何を想像されるでしょうか？

１マイルが約1.6キロメートルですので，おおよそ160キロになり，東京からだと軽井沢を軽く越えてしまうほどの距離になります。

山の登り降りを繰り返しながら，この距離で合計では9,000メートルほどの高さを登るようなレース（もっと長くきついものも）が世界にはいくつかあります。足で走ることについてはマラソンなどと一緒ですが最近，日本でもブームのトレイルランニングとして紹介される種目です。

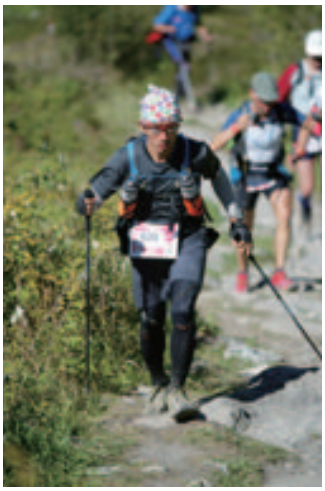
今回はヨーロッパアルプスにありますモンブランをぐるりと１周（166キロ，制限時間46時間でフランスからイタリア，スイスと周り再びフランスまで戻る）まわるウルトラ・トレイル・ド・モンブラン（一般的にはUTMBと呼ばれることが多いです）に２年にわたり参加した時のことなどについて書かせていただきます。

自分がこのレースの存在を知ったのは2008年頃に雑誌で見たのが最初でしたが，自分が参加することなど夢にも想いませんでした。2009年11月29日にNHKで放送された「激走モンブラン！」を見た時から気持ちが変わりました。スキー場以外は日本の山しか知らない自分にとって，信じられないような美しい景色の広がりと，そこに参加されている選手たちの表情（笑顔あり，苦痛あり，全ての人間の表情が数十時間の間に繰り返され凝縮されているように感じました）に感動してしまい，このレースには参加しないといけないと思い込み，情報を集め始めました。

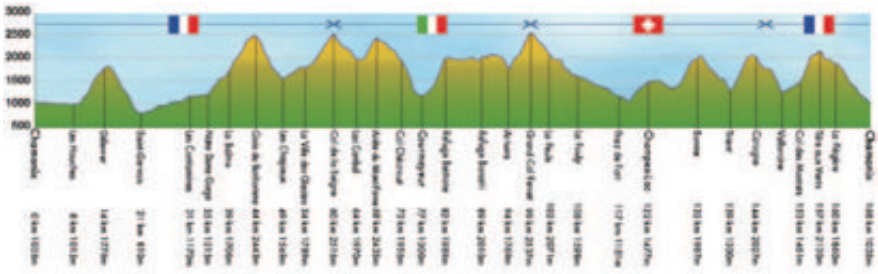
いろいろな出場条件（エントリーに関して抽選やら予選レースやら，いかに休みを取るかなど色々とあります）をこのレースへのチャレンジを機会に知り合った友人たちの助けのおかげで無事クリアして2010年８月末，無事にフランスはシャモニーのスタートラインに立つことができました。うちの奥方とも一度のわがままとお願いして挑んだレースでしたが，あろうことか21キロ進んだ第１関門時点で悪天候のため中止になってしまいました…。

この後，翌朝からスタートをイタリア側のクールマイヨールに移動し約88キロのレースとして後半部分を走れたのですが，21キロ＋88キロの距離では満足度も十分ではなく帰りの飛行機の中ではすでに翌年への課題を考えながら１年間の宿題を抱えての帰宅となりました。

一年が経ち2010年に参加し友人になった方の多くが2011年のスタートに立てたことは自分にとっては幸せなことでした。この年は３月11日に東日本を襲った大震災があり，多くの日本人参加者は日







本の元気さをアピールすることを決意していました。

装備に関してなどしっかりと作戦もたて，今年こそはと2011年８月26日午後６時30分のスタート時刻を待っていると，なんと低気圧が抜けるのを待つためスタート時刻を５時間遅らせると事務局から連絡が入りました。「まさか，またかよ」などと思いつつも，ここは２回目，慣れたもので暇をつぶしながら体を休め，小雨の中をなんとか午後11時30分，無事にスタート。昨年中止になったサン・ジェルベ（21キロ地点）を通過してここからが宿題の答え合わせとまだまだワクワク気分です。途中のボノム峠(45キロ地点標高2,443メートル）付近は吹雪いていて美しい雪景色を楽しみながらも，滑る雪面に注意しながらゆっくりと走ります。

冬景色と夏景色を繰り返しながら17時間ほどで昨年の再レーススタート地点のクールマイヨール（78キロ地点）に到着。残りの時間（29時間）と昨年の同コースでの経験（19時間台で完走）から怪我さえなければ完走はできるのではと甘い考えが出てきた瞬間でもありました（予想通り考えが甘かったです)。

その後も順調に補給と短い休養を取り，フラフラながらもシャンペ湖（123キロ地点）に到着，先着していた友人たちにも会いホッとしたのも束の間，悪天候の影響でコースの大幅な変更があり（しかもトータル距離，獲得標高共に若干増えている）と知らされ唖然！

計画の変更を余儀なくされ休憩もほどほどに知らないコースへと放り出されました。ここからの47キロは果てしなく下り，果てしなく登るを繰り返しで距離は伸びないのに時間と疲労は重なっていく厳しい時間帯になりました。すでに30時間以上も睡眠を取らずに動き続けているのでエネルギーは枯渇しているのですが薬を飲んでいても胃腸の動きがどうにも悪く，膝痛も重なり，どうにもペースが上がりません。それでもゆっくりと進み，残り15キロほどの街中に出ると他のレースに出ていた知り合いや応援に来ていた日本人の方に「完走おめでとう！」と言われ終盤という実感がわいてきました。とはいえ，相変わらず歩みは鈍くトボトボと進みます。数時間後にようやくシャモニーの街中に入ると本当に多くに方々に迎えていただきゴールまでの数分はかつてない興奮と感動が湧き上るのを感じられました。






長かった？旅はおわりました。日本に戻る飛行機の中では下半身の激しいむくみと痛みに悩まされましたが，ある意味心地好い疲労でもありました。

UTMBを機会にお知り合いになれた日本人のトップトレイルランナーの鏑木　毅氏に教えていただいた「楽しむ勇気！」（どんな苦しいことでも乗り越えていく楽しみがある，その苦しみは勇気をもって楽しめ！）をモットーに，世界には砂漠のマラソンや，果ては南極のマラソン。もっというならエベレスト登山まで遊びの延長でできることがいっぱいありますのでこれからも新しい遊びを見つけながら楽しんでいきたいと思います。

最後にテンションはだいぶ下がっておりますが2014年もアイアンマンジャパンをはじめ，いくつかのレースを楽しんでいます。一応仕事も歯科医師会会務もそれなりにはこなしているつもりですのでこちらの方もよろしくお願いいたします。

2011年 UTMB 結果

総 距 離　169.90Km
累積標高　9,586m
参 加 者　2,369名
完 走 者　1,133名
完 走 率　47.83%
参考日本人完走率　51%
大多和昌彦　43時間31分45秒
　　846位

巻　頭　言

今こそ…



副会長

浮　地　文　夫

日歯広報は，７月15日付（1625号）の１面に「組織存亡の危機打開に向け協議」という非常に衝撃的な見出しで，「未入会者対策の方向性」を確認した日歯の第176回定時代議員会の模様を伝えている。日歯の平成25年度の入会者数は1,100名で，退会・死亡退会・障害退会を合わせると1,115名となり，会員数は減少に転じた。日歯作成の報告書「会員数の将来予測（試算）について」によれば，2060年には会員数は半数以下に減少すると予測されている。また，超高齢化により終身会員が増加することや会員数の減少により，10年以内に単年度収支の赤字転落が見込まれるという。現在，日本には10万２千余名の歯科医師が存在しているが，日本歯科医師会の会員数は６万５千余名であり，組織率は約65％である。毎年２千名以上の歯科医師が誕生しているにも拘らず，会員数の減少が続けば，組織率は早晩50％を切るであろう。公益社団法人日本歯科医師会は，歯科医師という専門家を会員とする，日本で唯一の全国組織である。その組織率が低下した時，日本の歯科医療に対する発言力のみならず社会的信用の低下が起こることは明白である。

東京歯科大学同窓会の現況はどうであろうか。現在，会員数は9,066名であるが，支部加入者は5,669名，63％である。平成25年度の会費納入者は4,503名，前年度分，前々年度分の納入者を合算しても5,256名で，会費収入は9,500万円を切っている。平成27年度の事業計画，予算案の検討が始まっているが，本年度以上の厳しいものになるであろう。これも平成５年卒以後の同窓の支部加入率・会費納入率の低下が大きな要因と言える。さらに重要な事は，大学の医局員や研修医を除いた，勤務医や開業している若い同窓で，支部未加入者は歯科医師会にも未加入の人が多いことである。

明治36年11月に始まった，日本歯科医師会の前身「大日本歯科医会」の初代会長は高山紀斎先生であり，大正８年から昭和21年まで「日本聯合歯科医師会」,「日本歯科医師会」の会長を務められたのは血脇守之助先生である。

両先生は，日本の歯科医師の身分や業務の確立，口腔衛生の普及，学校歯科医制度の実現等に尽力された。まさに，日本歯科医師会を発展・維持してきたのは，我が東京歯科大学の同窓の先輩たちであると言っても過言ではないであろう。

もう，随分と前になるが，ある雑誌でプロフェショナルの定義について読んだことが有る。それによると

① 専門的知識・技術を充分持っていること。
② 自己研鑽し，常に新知識・技術の取得に努めること。
③ 自分の専門分野で社会に貢献すること。
④ 後進を指導し育成すること。

等が記されていた。まさに高山・血脇両先生の成された事が，プロの仕事と言えるだろう。縁あって歯科医師として，今に生きる我々もこれに続きたいものである。

矢﨑執行部は，準会員制度や新進会員制度を立ち上げ，若い同窓の同窓会への参画を促している。これは，まず同窓会本部に所属し，勤務先や帰省先が決定したら，支部にも歯科医師会にも加入して頂こうという考え方である。

また，同窓会創立120周年記念事業の一環として，アカデミア構想を考えている。これは，歯科医師としての専門的知識や技術の取得のみならず，社会人としての一般的素養の涵養，社会保障制度のあり方等の研究を通して，「歯科医である前に人間たれ」の具現化を目指すものであり，国手を目指す方策でもある。

我々は，誇れる歯科大学を卒業することが出来た。卒後も充分な研鑽を積み，真のプロフェショナルを目指す環境も整いつつある。同窓会の支部にも，歯科医師会にも加入し，今こそ，歯科界の未来の為に行動を起こすときであろう。

お　知　ら　せ

理事会より

●平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会が11月２日（日）に開催されます。
●今年は前年と異なり，如水会館（千代田区一ツ橋）にて午前10時より開催されますのでご注意ください。
●当日は昨年秋および本年度春の叙勲褒章の方々の顕彰を行います。あらかじめご了承ください。

同窓会事業・行事

●平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会
と　き　平成26年11月２日（日）　午前10時より
ところ　如水会館（千代田区一ツ橋２－１－１）
評議員会の傍聴を希望する会員の先生は，事前に事務局までご連絡ください。

●新進会員のつどい
と　き　平成26年11月30日（日）　午後１時より
ところ　東京歯科大学本館13階Ａ教室（懇親会：南棟６階会議室）

地域支部連合・支部関係

●支部長交代
平成26年４月１日付
福岡県支部　　永江　健一 氏（昭53卒）
前支部長　　石田　雅男 氏（昭44卒）

平成26年５月31日付
福島県支部　　宍戸　計一 氏（昭49卒）
前支部長　　佐藤　正矢 氏（昭53卒）

平成26年６月14日付
八南支部　　高品　和哉 氏（昭60卒）
前支部長　　浮地　文夫 氏（昭44卒）

母校関係行事・案内

●平成27年度東京歯科大学入学案内が母校だよりに掲載されています。
詳細は41～43ページをご覧ください。

大学創立120周年記念　水道橋校舎整備事業へのご寄付の御礼

会長　矢　﨑　秀　昭

前同窓会会長の大山先生の時から５年間，大学の120周年記念事業として，大学が水道橋に移転するに当たり，同窓の皆さまにご寄付のご依頼を申し上げてまいりました。大学としては，本学の中興の祖である血脇守之助先生の業績を末永く伝えるために，主として血脇記念ホールの建設のために，同窓の皆さまの貴重なる募金を使用させていただきました。

120年に及ぶ東京歯科大学の歴史を見てみますと，明治44年に建築された専門学校の校舎が，大正11年の関東大震災で全て焼失したのち，血脇先生の呼びかけに応じ，多くの同窓の寄付により，東洋一を誇る水道橋校舎が完成されています。昭和33年には，大学院の創設のため水道橋校舎に隣接して新館が，やはり多くの同窓の資金的協力により建設されました。

さらに昭和56年に大学の千葉への移転に伴う，同窓会設立80周年記念募金事業にも多くの同窓からの募金が寄せられています。そして平成22年から開始された，水道橋校舎建設のための大学創立120周年記念事業募金計画に対しても，同窓会としても最大限の協力をすることとなり，同窓の皆さまに募金の協力をお願い申し上げてまいりました。

平成26年３月末に今回の募金活動は一旦，区切りとさせて戴きました。現在の歯科界の大変厳しい社会的状況の中において，昭和５年の卒業の方から平成24年の卒業生まで，実に80年間以上におよぶ卒業生の方からご寄付を賜わっております。このことは如何に本学の同窓が，母校であります東京歯科大学を熱烈に愛し，更なる発展を期待しているかのお気持ちの表れと思います。

加えて同窓会の各支部，連合会，クラス会や各種 OB 会からも寄付が寄せられ，誠に有り難く，深く感謝申し上げます。今回の会報にご寄付を賜わった方々のお名前を記載し，大学及び同窓会として心から深謝を申し上げます。さらに，大学においてはご寄付賜わった方々のお名前を記した銘盤を作製し，末永く感謝の気持ちを伝え続けることとなっています。

現在，当初からの移転計画に沿って，大学では引き続き，本館の西側の土地を取得し，西棟の建設が急ピッチで行われています。西棟は主に水道橋病院の口腔外科の手術室，外来診療室，学生のセミナー室および同窓の先生方の談話室に使用される予定です。

しかしながら，東日本大震災の復興事業や東京オリンピック，国の経済政策や消費税の大幅な増税などのために，現在，異常に建築費が高騰し，この西棟の建築についての財政状況は誠に厳しいものとなっています。引き続き東京歯科大学があらゆる面で日本一の歯科大学として存在し続け，東歯の同窓である誇りを持ち続けられるよう，同窓の皆さまによる大学への財政的な支援体制を，今後とも続けて行くことが是非とも必要となっている状況です。

今後とも引き続き大学，同窓会へご支援を賜わりますよう宜しくお願い申し上げます。

水道橋校舎施設整備寄付金　寄付者名簿（同窓）

平成26年３月31日現在
（卒年別・50音順・敬称省略）

昭05　谷　忠明
昭09　三好　春航
昭12　松木　朝夫
昭14　小早川　博
昭14　添田壽一郎
昭15　坂本　豊美
昭15　坪田　實
昭16　雨宮　彦一
昭16　安藤　正
昭16　井上　良和
昭16　柏村　彰
昭16　国島　義郎
昭16　小谷　元治
昭16　鈴木　省三
昭16　田中　進
昭16　西尾吉兵衛
昭16　布施　祐一
昭17　大野　実
昭17　岡田　進
昭17　高橋　立夫
昭17　山﨑　薫
昭18　菊池　文雄
昭18　小林　温雄
昭18　佐藤　貞勝
昭18　塩田　尚文
昭18　菅沼　孝夫
昭18　田中　堅一
昭18　福間　公介
昭19　飯田　精一
昭19　佐藤　曄
昭19　杉山　博重
昭19　鈴木　貞雄
昭19　陳　茂棠
昭19　橋本　京一
昭19　水野　敏郎
昭19　山根　照人
昭20　植野　忠道
昭20　國米　資康
昭20　斎藤　仁見
昭20　白崎　源有
昭20　波多野　弘
昭20　藤井　春彦
昭22　一戸　俊治
昭22　笠井　通男
昭22　蒲　郁次朗
昭22　河合　俊輔
昭22　貴島　亨
昭22　佐川　巖
昭22　佐藤　勤
昭22　澤田善太郎
昭22　瀬尾　正巳
昭22　田熊庄三郎
昭22　田村　陽
昭22　長山　陽吉
昭22　成富　延治
昭22　根本　卓光
昭22　三輪　英武
昭22　山本　一成
昭22　渡部　幸男
昭23　石井　欣一
昭23　石田　喜之
昭23　伊藤　昭文
昭23　緒形　巧
昭23　近藤　清
昭23　坂井　榮隆
昭23　杉山　浩一
昭23　中久喜　喬
昭23　長田　稔
昭23　野本　種邦
昭23　林　和男
昭23　平野　博
昭23　福岡　明
昭23　三宅　直晴
昭23　屋代　義文
昭24　熱田俊之助
昭24　池田　治美
昭24　井上　裕
昭24　遠藤　雅夫
昭24　大森　一知
昭24　落合　英生
昭24　神山　五郎
昭24　神山　敏男
昭24　後藤　次夫
昭24　齋藤　久
昭24　杉山　邦夫
昭24　鈴木　義政
昭24　高市　正浩
昭24　高森　四朗
昭24　長井　義博
昭24　原田　忠彦
昭24　堀　将
昭25　天野　琢也
昭25　大山　萬夫
昭25　小倉　信
昭25　女川　清
昭25　川上　正義
昭25　川越　武久
昭25　川島　康
昭25　齊藤　季夫
昭25　佐藤　泰彦
昭25　白須賀正樹
昭25　鈴木　長
昭25　高原　映忠
昭25　田代　教平
昭25　中尾　俊郎
昭25　西村　秀祐
昭25　林　晉
昭25　堀　春男
昭25　松井　義典
昭25　守友　恒明
昭25　森山　徳長
昭26　貝塚　雅信
昭26　桑田　昇
昭26　山下　正雄
昭26　横井　隆一
昭27　伊藤　浩
昭27　岡野徳一郎
昭27　加藤　富榮
昭27　川本　尚志
昭27　北野　晋一
昭27　齋藤　英輔
昭27　佐藤　実
昭27　鈴木　晃治
昭27　中島　善和
昭27　濵田　康彦
昭27　牧野　久子
昭27　柳川　昭
昭27　和田　但磨
昭28　相田　英孝
昭28　香山　和美
昭28　坂田　三弥
昭28　多胡　彬
昭28　見明　清
昭28　矢野　潤介
昭28　山本　勝一
昭28　吉田　浩
昭29　酒井　雄学
昭29　髙添　一郎
昭29　髙田　恬
昭29　髙橋　一夫
昭29　日比　栄一
昭29　本間　菖平
昭30　秋野　博尚
昭30　足代　弘文
昭30　石川　達也
昭30　梅宮　猛
昭30　江﨑梅太郎
昭30　大橋　昭
昭30　恩田　千爾
昭30　笠井　康弘
昭30　須佐美康治
昭30　髙砂　昌行
昭30　高山　良光
昭30　中西　亨之
昭30　鳴神　保雄
昭30　花井　正二
昭30　花井美智子
昭30　町田　幸雄
昭30　森井　信行
昭30　吉成　邦雄
昭31　伊藤　成章
昭31　伊藤　修一
昭31　宇佐美雅弘
昭31　氏家　英峰
昭31　神山　翁
昭31　川越　文雄
昭31　北村　晴彦
昭31　小橋　暁
昭31　田代　亘
昭31　田山　俊二
昭31　中西　憲正
昭31　西山　成實
昭31　野口八九重
昭31　古田　一男
昭31　松本　圭司
昭31　湯澤　哲郎
昭32　麻生　奏
昭32　井口　由彰
昭32　池上　英雄
昭32　石崎　護
昭32　伊藤　郁雄
昭32　犬飼　啓元
昭32　大國　勉
昭32　大國　連子
昭32　落合　雅雄
昭32　小沼　武
昭32　河田　誠作
昭32　京嶋　佑幸
昭32　清信　弘雄
昭32　小林　広康
昭32　渋川　義昭
昭32　新谷　政彦
昭32　高橋　一祐
昭32　髙橋　標
昭32　藤原　雅和
昭32　古川　司郎
昭32　山之内正高
昭32　吉木　周作
昭33　淺井　康宏
昭33　飯嶋　謙治
昭33　五十嵐敏三
昭33　今泉　功
昭33　小川　陽市
昭33　川口　晃司
昭33　君塚　忠男
昭33　楠崎　渥
昭33　谷本　健二
昭33　寺本　康郎
昭33　中村　昭仁
昭33　服部　玄門
昭33　松尾　學
昭33　道脇　公一
昭33　村田佐ぶん
昭33　山内　静
昭33　吉田　滋美
昭34　青戸　泰吉
昭34　青野　幸雄
昭34　内田　宏
昭34　喜田　正昭
昭34　小海　優子
昭34　杉原　伸顯
昭34　鈴木　貞夫
昭34　高梨　恒一
昭34　髙橋　和人
昭34　武田　慎午
昭34　田中　延佳
昭34　中川　暁
昭34　中川　武憲
昭34　鍋谷　聖道
昭34　延島　三男
昭34　松山　陽一
昭34　間宮　亨
昭34　水川　秀海
昭34　山田　勝朗
昭34　山田　貢
昭34　横矢　重忠
昭34　渡辺　吉明
昭35　飯田　正一
昭35　飯田　凉二
昭35　伊東　兼明
昭35　内田　俊之
昭35　内田　宏
昭35　奥川　澄夫
昭35　菊池　豊
昭35　熊谷　謙二
昭35　黒田　哲生
昭35　腰原　好
昭35　早乙女　通
昭35　櫻井　善忠
昭35　鈴木　英生
昭35　須田　晃
昭35　髙階　皓三
昭35　長井　正行
昭35　長谷川　誠
昭35　三野　亨子
昭35　宮下　恒太
昭35　柳川　貴美
昭35　渡辺　典子
昭36　飯田　昭
昭36　板倉　克明
昭36　一色　泰成
昭36　伊藤　正通
昭36　大津　憲一
昭36　大塚　亨
昭36　近江　誠一
昭36　小川　弘
昭36　笠原　亨
昭36　柏瀬　昌世
昭36　金子　弘
昭36　斉藤　直身

昭36　鈴木　祐司
昭36　高橋　信治
昭36　多田　寛子
昭36　田中　耕誠
昭36　長澤　宥
昭36　古堅　英信
昭36　細山　愃
昭36　森　政成
昭36　森脇　久雄
昭36　山際　貞男
昭37　梅田　尚夫
昭37　大鶴　悦晴
昭37　片桐　重雄
昭37　金山　公彦
昭37　金山　良子
昭37　岸田　允
昭37　栗山　豊実
昭37　小室　甲
昭37　志水　透
昭37　添島　義和
昭37　高江洲義矩
昭37　高梨　玲子
昭37　中井　一仁
昭37　堀　光成
昭37　松坂　泰
昭37　皆葉　壽樹
昭37　宮島　一郎
昭37　森下昭十三
昭37　山内　英徳
昭37　山崎　頼任
昭37　山田　洋文
昭37　山本　貞之
昭37　横田秋三朗
昭37　若月　英三
昭38　縣　昌子
昭38　荒木　賢
昭38　池田　武
昭38　犬飼　康元
昭38　岡本　秀
昭38　小田　明江
昭38　小野寺寛造
昭38　笠原諏訪子
昭38　鹿島　隆雄
昭38　北川　守信
昭38　久保田　晃
昭38　小平　崇
昭38　後藤　譲治
昭38　小山　昌道
昭38　菅田　博子
昭38　須佐　昭彦
昭38　進来　実
昭38　鈴木　康夫
昭38　高橋　昭一
昭38　高橋　宏光
昭38　武石　醇作
昭38　釣谷　東民
昭38　中川　武幸

昭38　中村　博
昭38　西山　弘
昭38　廣田　稔
昭38　前田　耕道
昭38　松田聰一郎
昭38　松村　雄郷
昭38　柳　清二
昭38　山田　道夫
昭39　秋山　博右
昭39　岩柳　義之
昭39　笠原　文武
昭39　柏木　勝
昭39　片倉　恵男
昭39　勝畑　知雄
昭39　川嶋　勲
昭39　熊澤　満夫
昭39　齋藤　哲
昭39　酒井　福義
昭39　佐藤　昭雄
昭39　佐藤惠利子
昭39　島田　英明
昭39　鈴木　尚
昭39　住吉　辰郎
昭39　高田　敬義
昭39　高橋　明宏
昭39　髙橋　愼一
昭39　田口　耕右
昭39　竹内　忠彦
昭39　竹山　隆芳
昭39　谷　光明
昭39　丹野　研
昭39　中江千万紀
昭39　半田　忠龍
昭39　樋口　光代
昭39　平井　泰征
昭39　平山　紀昭
昭39　増田　紀男
昭39　三吉聖一朗
昭39　森　隆
昭39　山元　雍久
昭39　吉澤　信夫
昭39　若井　永
昭40　縣　信哉
昭40　浅野　薫之
昭40　稲垣　一臣
昭40　臼井　久雄
昭40　沖　光博
昭40　小沼　洋子
昭40　加藤　和子
昭40　神谷　龍司
昭40　亀本　興紀
昭40　河内　博
昭40　島　重夫
昭40　白石二美子
昭40　鈴木　茂久
昭40　鈴木　義隆
昭40　髙橋　諄吉

昭40　田村　俊晶
昭40　西田　久美
昭40　丹羽ひさゑ
昭40　野村　浩
昭40　原　肇
昭40　堀内　守和
昭40　南　忠興
昭40　村上　圭
昭41　藍原　繁樹
昭41　青木　榮夫
昭41　池田　洋洲
昭41　石内　可城
昭41　岩沼　甫
昭41　上竹　成一
昭41　上野　眞人
昭41　宇美　房英
昭41　大内　秀哉
昭41　小川　敏彦
昭41　奥山　誠
昭41　笠原　正行
昭41　城所　繁
昭41　佐藤　悠三
昭41　柴山謹一郎
昭41　清水　康
昭41　高木　瑞穂
昭41　髙橋　捷治
昭41　田中　紀夫
昭41　田中　令子
昭41　對馬　具海
昭41　長山　誠之
昭41　難波　修
昭41　野坂久美子
昭41　野坂洋一郎
昭41　信森　浩一
昭41　橋本　高明
昭41　藤井　康博
昭41　細田　幸平
昭41　武藤　章美
昭41　八百枝　勝
昭41　安田　以久
昭41　山田　紀夫
昭41　渡辺　英人
昭42　赤穂　英生
昭42　飯島　和彦
昭42　池田　恒彦
昭42　稲森幾多郎
昭42　今村　幸男
昭42　海老原典子
昭42　及川　澄江
昭42　大石　孝弘
昭42　大岡紀一郎
昭42　大澤　武雄
昭42　小貫　克
昭42　垣花　博子
昭42　加藤　強
昭42　川田　守徳
昭42　川野未禧朗

昭42　川村　康中
昭42　黒須　誠
昭42　合田　功
昭42　古賀　克隆
昭42　佐古　紘胤
昭42　佐藤　潔
昭42　清水　由美
昭42　杉村　俊之
昭42　関谷　和夫
昭42　曽我部　勉
昭42　高垣　順吉
昭42　高橋潤一郎
昭42　髙橋　利武
昭42　立川　潤
昭42　田能村宣久
昭42　兒野　喜穂
昭42　中川　勝洋
昭42　中川　正晴
昭42　中島　史和
昭42　中村　秀勝
昭42　西川　吉博
昭42　野上　宏一
昭42　野村　昭子
昭42　林　翔
昭42　松本　信彦
昭42　宮地　建夫
昭42　宗本　匡由
昭42　村居　正雄
昭42　村田　憲美
昭42　森下　洋
昭42　矢﨑　秀昭
昭42　山口　秀晴
昭42　山中　喜夫
昭43　上田尚一郎
昭43　浦井　照彦
昭43　宇留賀　勝
昭43　長内　直美
昭43　門平忠一郎
昭43　上條　智生
昭43　北總　征男
昭43　小竹　勝也
昭43　小早川　清
昭43　佐伯　和彦
昭43　佐藤　英樹
昭43　佐藤　征紀
昭43　澁谷　國男
昭43　住田　彰弘
昭43　関　暁子
昭43　関　泰忠
昭43　高梨　薫敏
昭43　高橋　博水
昭43　田中　將夫
昭43　田部　和彦
昭43　千葉　光行
昭43　長久保文夫
昭43　中村　文子
昭43　成田　賢二

昭43　早川　進
昭43　古谷　忠雄
昭43　細井　達之
昭43　前田　昇
昭43　松川　公敏
昭43　森原　久樹
昭43　渡辺　眞光
昭44　青木　誠
昭44　安齋　勲
昭44　石田　雅男
昭44　入江　哲
昭44　上田　喜清
昭44　浮地　文夫
昭44　内山太一郎
昭44　大谷　武彦
昭44　緒形　毅
昭44　柿澤　卓
昭44　川本　強
昭44　北村　博文
昭44　小坂　肇
昭44　小杉　国武
昭44　下江信太郎
昭44　末藤久美子
昭44　鈴木　雅夫
昭44　髙市　武
昭44　髙木ミサヨ
昭44　髙木　勇蔵
昭44　高山　暉邦
昭44　竹上　勝夫
昭44　竹田　進
昭44　田部　照子
昭44　柘植　敏生
昭44　中川　杉生
昭44　中田　金一
昭44　西川　忠弘
昭44　根津　浩
昭44　橋本　佳潤
昭44　原　武仁
昭44　深水　征人
昭44　藤森　敏昭
昭44　夫馬　眞也
昭44　星野　征弘
昭44　穂積　良治
昭44　三田　勇夫
昭44　森下　正教
昭44　山中　武久
昭44　山根　康雄
昭44　吉武　勝
昭45　板垣　光信
昭45　大澤　勤
昭45　大橋　隆道
昭45　小幡　直樹
昭45　加藤　勝基
昭45　金川　直博
昭45　栗山　雄治
昭45　郷土　純久
昭45　古賀忠佳子

昭45　古賀　正忠
昭45　齋藤　利明
昭45　作間　敏信
昭45　髙橋　靖宗
昭45　田原　邦昭
昭45　塚田　光弥
昭45　西川　　明
昭45　西村　元宏
昭45　沼澤　　博
昭45　林　　克宏
昭45　林　　玲子
昭45　兵藤　正帛
昭45　福田　壽一
昭45　藤山　正之
昭45　馬橋　亟男
昭45　宮地　　繁
昭45　山崎　宣夫
昭45　山本　悦秀
昭45　山本　俊雄
昭45　山本美智子
昭46　阿部　晴弘
昭46　天野　静子
昭46　加藤木　健
昭46　北村　真也
昭46　熊谷　俊明
昭46　小池平一郎
昭46　小池　瑞穂
昭46　小宮山彌太郎
昭46　佐瀬　俊之
昭46　高梨　遙美
昭46　髙橋　哲夫
昭46　中條　良文
昭46　林　　克典
昭46　春山　良夫
昭46　平地　茂雄
昭46　福原　清行
昭46　松崎　紘一
昭46　松田竹比虎
昭46　馬渕　量平
昭46　宮田　　保
昭46　守谷　　正
昭46　山本　昭彦
昭47　青木　憲雄
昭47　阿武野弘信
昭47　新井　京子
昭47　五十嵐　栄
昭47　池田　信治
昭47　池田千恵子
昭47　石井　　裕
昭47　市川　　豊
昭47　井出　良子
昭47　鵜沢　文彦
昭47　江里口　彰
昭47　大峰　秀樹
昭47　鏡　　宣昭
昭47　加藤　裕康
昭47　菊池　亮三
昭47　北浦　利明
昭47　坂井　　清
昭47　佐々木髙憲
昭47　佐々木脩浩
昭47　佐々木紀子
昭47　塩崎　一秀
昭47　鈴木　常夫
昭47　関戸　幹夫
昭47　添島　正和
昭47　谷　　繁信
昭47　玉井　達人
昭47　寺田　　誠
昭47　中西　哲生
昭47　中西　敏也
昭47　中山　友春
昭47　西岡　　学
昭47　西川　文雄
昭47　西村　比志
昭47　西村　亮介
昭47　林　　甫
昭47　原　　健一
昭47　広瀬　　秀
昭47　藤井　一彦
昭47　船越　良一
昭47　夫馬　俊男
昭47　松木　英作
昭47　村上　芳一
昭47　森　　喜郎
昭47　森岡　俊介
昭47　安井　　晃
昭47　山田源一郎
昭47　山田　茂子
昭47　山地　良子
昭47　吉田　昊哲
昭47　渡辺　冨裕
昭48　赤田　留吉
昭48　秋草　裕民
昭48　麻生　　博
昭48　井口　俊介
昭48　伊藤　利明
昭48　猪原　信俊
昭48　緒形　恵子
昭48　岡野　祐三
昭48　荻原　英生
昭48　加藤　敬介
昭48　金子　完子
昭48　北川　達雄
昭48　齋藤　秀子
昭48　佐藤　秀夫
昭48　塩崎　昭美
昭48　鈴木　一雄
昭48　髙橋　義一
昭48　永田　賢司
昭48　並木　　恒
昭48　西宮　　寛
昭48　根岸　康雄
昭48　根岸　淑子
昭48　萩原　義久
昭48　林　るり子
昭48　日浅　新三
昭48　平尾　文昭
昭48　藤本　俊治
昭48　古井　　瞭
昭48　前田由美子
昭48　松永　良治
昭48　三宅　史丈
昭48　宮本　宣良
昭48　矢﨑　宣利
昭48　山下　敏明
昭48　山本　和恵
昭48　和田　　健
昭49　荒川　幸雄
昭49　石塚　　勇
昭49　石塚　一美
昭49　石橋　　彬
昭49　井上三四郎
昭49　歌野原　実
昭49　内田　信友
昭49　梅村　長生
昭49　太田　昭二
昭49　大塚　信郎
昭49　岡野　順子
昭49　奥野　和志
昭49　小野寺鏡子
昭49　小野寺宣夫
昭49　加藤　成俊
昭49　小鹿　典雄
昭49　小徳　省三
昭49　小柳　嘉久
昭49　坂井　　治
昭49　佐藤　英俊
昭49　宍戸　計一
昭49　高井　勇学
昭49　高宮紳一郎
昭49　田中　一秀
昭49　玉井　久貴
昭49　玉川　　博
昭49　知野　彰一
昭49　寺岡　洋一
昭49　中嶋　和久
昭49　中野　一博
昭49　成川　元章
昭49　野間　　博
昭49　早速　晴邦
昭49　藤井　秀世
昭49　藤原　　彰
昭49　本田　富彦
昭49　宮井　義博
昭49　宮地　洋子
昭49　村松　英昭
昭49　森田　康夫
昭49　安田　順一
昭49　楊井　　孝
昭49　山﨑　康夫
昭50　朝波　雄二
昭50　伊東　　哲
昭50　岩田　康一
昭50　大塚　　隆
昭50　大野　勝己
昭50　大橋　　擁
昭50　勝又　　修
昭50　加藤　誠康
昭50　神田　潤二
昭50　菊地　　香
昭50　菊地　善郎
昭50　鯨井　正夫
昭50　小島　正裕
昭50　酒井　和正
昭50　鮫島　道幸
昭50　清水　英男
昭50　杉浦　正人
昭50　須田　　希
昭50　髙野　一夫
昭50　高宮真里子
昭50　立木　　健
昭50　栂安　秀樹
昭50　寺本　信三
昭50　戸田　徳和
昭50　成瀬　　健
昭50　新倉　良一
昭50　西　　孝一
昭50　野津　秀郎
昭50　橋田　　薫
昭50　濱田　孝一
昭50　林　　邦幸
昭50　日野原　博
昭50　平戸　正文
昭50　藤井　寛昭
昭50　藤居　正博
昭50　藤原　元幸
昭50　古屋　　忠
昭50　正岡　勇記
昭50　松下　　茂
昭50　松原　秀憲
昭50　三木　純子
昭50　三木　正夫
昭50　村田憲一郎
昭50　森田　芳和
昭50　森本　　伸
昭50　八百枝正樹
昭50　山﨑　安仁
昭50　吉田　　豊
昭50　吉嶺　　光
昭50　和田　大海
昭51　新垣　元洋
昭51　伊東　　励
昭51　大塚　哲也
昭51　小川　克昌
昭51　沖　　義一
昭51　鏡　　一郎
昭51　亀井　英志
昭51　川上　映子
昭51　川上　清一
昭51　木俣　　茂
昭51　葛　　正博
昭51　国島真希子
昭51　久保　博英
昭51　河野　幸壱
昭51　古賀　景二
昭51　後藤　文崇
昭51　小林　正仁
昭51　笹本　純一
昭51　塩崎　泰雄
昭51　島田　洋次
昭51　瀬尾宰一郎
昭51　髙﨑　　修
昭51　竹下　　眞
昭51　田部　伸行
昭51　継松　正実
昭51　戸村　善明
昭51　濵上　弘晴
昭51　備前島俊行
昭51　広瀬　　守
昭51　北條　健三
昭51　松田　康男
昭51　松野　修次
昭51　丸山　康子
昭52　鮎瀬　公彦
昭52　青　　久昭
昭52　安達　雄一
昭52　新井　一男
昭52　新井　尚子
昭52　飯田　泰一
昭52　岩田　充了
昭52　太田　　忍
昭52　太田　博司
昭52　応藤　健三
昭52　岡野　昌治
昭52　尾木　　正
昭52　吉川　道雄
昭52　木下　　優
昭52　清見　能久
昭52　グリーナンせつゑ
昭52　小谷　隆一
昭52　後藤　成隆
昭52　小宮山能康
昭52　佐々木智美
昭52　佐々木淳子
昭52　佐々木　元
昭52　佐藤　和則
昭52　下川　　誠
昭52　鈴木　　篤
昭52　関口千栄子
昭52　髙橋　文明
昭52　高橋　章雄
昭52　高原　正明
昭52　財部　正治
昭52　引田　正俊

昭52　廣田　種英
昭52　本田　智子
昭52　松木　建二
昭52　茂木　伸夫
昭52　安田　年光
昭52　山﨑　雅美
昭52　山田　潤造
昭52　弓井　敏郎
昭52　湯本　衛
昭52　芳川　美雄
昭52　和田　悟
昭52　渡辺みちる
昭53　朝波　修
昭53　安部　喜郎
昭53　石岡　豪一
昭53　板谷　雅一
昭53　井上　信義
昭53　上田　祥士
昭53　臼田　準
昭53　蛯谷　剛文
昭53　大井　誠一
昭53　大石えり子
昭53　大谷　久次
昭53　沖　泰治
昭53　角　邦人
昭53　亀井　正仁
昭53　希代　忠男
昭53　吉良　公仁
昭53　小林万里恵
昭53　斎藤　規子
昭53　斎藤　文明
昭53　櫻井絵理子
昭53　佐塚仁一郎
昭53　佐藤　裕子
昭53　椎貝　達夫
昭53　白根　瑞恵
昭53　鈴木千枝子
昭53　副島　洋二
昭53　竹内　智
昭53　田中　宏美
昭53　田本　晃
昭53　丹沢　朝彦
昭53　永江　健一
昭53　中西　国人
昭53　中野多美子
昭53　中村　正延
昭53　萩原　雄吉
昭53　橋本　雅範
昭53　平野　和夫
昭53　堀部真知子
昭53　松﨑　正信
昭53　森田　勉
昭53　安原　孝由
昭53　山﨑　一夫
昭53　山本　明彦
昭53　横山　洋行
昭54　青島　孝之
昭54　安部佳世子
昭54　泉地　裕太
昭54　大久保　仁
昭54　大矢　孝臣
昭54　尾松　素樹
昭54　片山　敦子
昭54　片山　隆
昭54　川口　浩
昭54　川野　浩一
昭54　倉田　庸生
昭54　黒河　宏之
昭54　後藤　眞也
昭54　小舩　邦夫
昭54　佐々木研一
昭54　佐野　芳孝
昭54　塩津　一郎
昭54　杉山　紀子
昭54　関川　一嘉
昭54　高橋　秀樹
昭54　露口　晃宏
昭54　直野　孝則
昭54　中西　久人
昭54　二宮　隆
昭54　野本　節子
昭54　鳩貝　尚志
昭54　馬嶋　誠
昭54　真下　泰彦
昭54　増田　健
昭54　松田　幸夫
昭54　三友　和夫
昭54　簗瀬　一彦
昭54　山　滋
昭54　山本　昌司
昭54　吉田　正
昭54　吉田　穂積
昭54　呂　英美
昭54　呂　正博
昭55　秋草　正美
昭55　植野　順子
昭55　植野　芳和
昭55　臼井　文規
昭55　大石　充
昭55　大浦　好章
昭55　岡田　泰幸
昭55　岡野　秀
昭55　荻原　聡
昭55　柏村　真
昭55　柏村由美子
昭55　勝俣　正之
昭55　黒木　孝郎
昭55　黒田　裕之
昭55　小林　一公
昭55　小林　孝次
昭55　小林　高久
昭55　佐久間研次
昭55　志賀　和子
昭55　志賀　泰昭
昭55　末木　稔
昭55　須賀　俊二
昭55　杉山　裕
昭55　泉福　和典
昭55　髙野　博子
昭55　髙橋　庸
昭55　武田　孝之
昭55　谷　信吾
昭55　谷本　澄江
昭55　中野　正博
昭55　林　好一
昭55　原　覚
昭55　比嘉　民子
昭55　平戸　亮司
昭55　二村　光
昭55　前岡　一夫
昭55　牧原由紀子
昭55　水谷　隆弥
昭55　村山　利之
昭55　矢島　麗
昭55　山本　英之
昭55　若林　慎二
昭56　阿部　二郎
昭56　有泉　祐吾
昭56　池田　嘉徳
昭56　海野　智
昭56　大久保忠教
昭56　小笠原美由紀
昭56　奥山　泰夫
昭56　落合　和久
昭56　菊地　敦子
昭56　北村　一
昭56　木村　秀仁
昭56　久保　秀二
昭56　黒田　真右
昭56　小池　修
昭56　小泉　好正
昭56　小林　顕
昭56　小林　芳美
昭56　嵜岡　道正
昭56　佐々木　朗
昭56　佐藤　健
昭56　猿田　範雄
昭56　柴田　卓
昭56　島　正博
昭56　菅谷　京子
昭56　杉村　守彦
昭56　鈴木　博
昭56　スミス京子
昭56　関戸　達哉
昭56　外　信之
昭56　髙野　秀幸
昭56　高森　幸生
昭56　嶽崎　晃一
昭56　武田　朋子
昭56　辻　孝
昭56　中西　史彦
昭56　長野　恭輔
昭56　中村　育代
昭56　二階堂雅彦
昭56　仁科　裕次
昭56　西村　臣史
昭56　西村　文子
昭56　平井　緑
昭56　藤関　雅嗣
昭56　藤原　英修
昭56　溝越　俊二
昭56　宮﨑　弘隆
昭56　森田美由紀
昭56　矢野　興一
昭56　若月　達也
昭57　板垣　哲夫
昭57　稲葉　孝夫
昭57　今村昭二郎
昭57　大川　剛生
昭57　金山　昇
昭57　河村　忠彦
昭57　菅　泰晴
昭57　黒田由紀子
昭57　小林　寿
昭57　齋藤　守
昭57　鈴木　幸一
昭57　髙野　直久
昭57　田中　潤一
昭57　丹沢　俊樹
昭57　辻　吉純
昭57　手塚　知恵
昭57　冨山　雅史
昭57　中澤　章
昭57　西山　潔
昭57　野嶋　直美
昭57　野嶋　昌彦
昭57　馬場真菜美
昭57　福﨑　博生
昭57　冨士田　隆
昭57　藤田　雄二
昭57　宮吉　誠
昭57　山田　哲美
昭57　山根　秀樹
昭57　若林　秀典
昭58　青木　弘興
昭58　秋谷　理
昭58　石河　信高
昭58　一戸　小織
昭58　今井いづみ
昭58　上野　修
昭58　荻原　俊美
昭58　桂　啓介
昭58　上條　英之
昭58　橘田　博純
昭58　国原　修
昭58　小林　郁夫
昭58　小林　慶太
昭58　佐々木眞澄
昭58　鈴木　龍
昭58　関谷　栄
昭58　副島　渉
昭58　武井　利夫
昭58　鳥居　一也
昭58　永井　正志
昭58　西口しげき
昭58　濵田　剛
昭58　濵松　孝典
昭58　原　茂
昭58　原田　康
昭58　平川　誓生
昭58　福岡　博史
昭58　福島　一則
昭58　福本千枝子
昭58　福本　裕
昭58　冨士田珠民
昭58　松崎　和江
昭58　松崎　英雄
昭58　宮下　寿一
昭58　椋棒　正樹
昭58　森田　一郎
昭58　柳川　敏夫
昭58　山﨑　茂
昭58　吉田　浩一
昭58　渡辺　順
昭59　青木　雅司
昭59　秋山　達郎
昭59　浅井　章弘
昭59　大内　昭雄
昭59　奥住　守彦
昭59　笠井　徹
昭59　川口　慶子
昭59　北村　信隆
昭59　黒田美智代
昭59　小枝　義典
昭59　坂入　道子
昭59　櫻井　誠
昭59　佐々木明彦
昭59　佐藤　剛
昭59　清水　泰
昭59　新谷　京子
昭59　新谷　博明
昭59　砂川　直俊
昭59　竹内　英樹
昭59　竹原　茂央
昭59　玉川　幸二
昭59　登城　宏司
昭59　戸村　博臣
昭59　中久喜　薫
昭59　中澤　正博
昭59　平井　基之
昭59　牧野　明
昭59　丸島　徹
昭59　溝口　潔
昭59　溝口ちづ子
昭59　山本　一普

昭60 秋山 勝彦
昭60 井川 利幸
昭60 市川 弘道
昭60 大塚 淳
昭60 片山 貴之
昭60 喜田 真司
昭60 北野 晋
昭60 北村 正
昭60 小出 修弘
昭60 小筆 正弘
昭60 近藤 博保
昭60 島村 大
昭60 清田 築
昭60 髙崎 一郎
昭60 田中 伸子
昭60 田中 宣夫
昭60 友利 隆俊
昭60 中川 直樹
昭60 中野 昌則
昭60 仁紫 晶文
昭60 原 愼一
昭60 原崎 充弘
昭60 東 孝俊
昭60 日比 浩樹
昭60 平野 真紀
昭60 平野 義雄
昭60 藤関 雅子
昭60 松尾 繁樹
昭60 松田 浩之
昭60 松原 真
昭60 宮部 英明
昭60 宮吉 正人
昭60 屋宜 裕子
昭60 山口 和彦
昭60 湯澤 邦裕
昭61 秋野 一尚
昭61 浅香 充
昭61 浅川 仁
昭61 阿部耕一郎
昭61 五十嵐 寛
昭61 池田 敦治
昭61 大塩美樹子
昭61 岡野 克也
昭61 岡村美恵子
昭61 小川 浩
昭61 加藤 伸次
昭61 河野 崇志
昭61 小林 容子
昭61 笹間 康弘
昭61 佐藤 隆仁
昭61 佐藤 浩之
昭61 柴垣 光志
昭61 杉之内俊郎
昭61 鈴木 正彦
昭61 高橋 千昭
昭61 高松 透浩
昭61 田中 祝
昭61 近常 正
昭61 常木 哲哉
昭61 寺田 香織
昭61 中野 泰志
昭61 仲村 晃
昭61 二階堂五月
昭61 浜野 美幸
昭61 細川 敏彦
昭61 松尾 潤子
昭61 望月 清志
昭61 山田 勝久
昭61 山田 雅敏
昭61 渡辺 和也
昭62 阿部 雅章
昭62 五十嵐 治
昭62 石原 一
昭62 江頭 修作
昭62 大浦 孝二
昭62 大谷 義之
昭62 小川 欽也
昭62 女川 瑞夫
昭62 小野瀬弘記
昭62 鎌田 秀一
昭62 木暮 隆司
昭62 小林 香
昭62 地主 尚由
昭62 清水 隆夫
昭62 白尾 康広
昭62 菅原 泰典
昭62 関根 聖代
昭62 髙橋 敬人
昭62 嶽崎 宗規
昭62 田代 悦章
昭62 田代 芳之
昭62 田村 元
昭62 土子 吉久
昭62 中川 雅晴
昭62 村上 雅一
昭62 山口 公彦
昭62 山本 伸顕
昭62 若松 宏幸
昭63 荒谷 恭史
昭63 入江佐企子
昭63 岩田 昌久
昭63 上本 佳孝
昭63 梅原 一浩
昭63 大國 仁
昭63 尾上 匡史
昭63 小野瀬正浩
昭63 片倉 孝子
昭63 金子 淳
昭63 河田 裕夫
昭63 国府田英敏
昭63 古川由美子
昭63 小林 千晃
昭63 小林 久恭
昭63 関 暁彦
昭63 関口 一実
昭63 髙階 光博
昭63 高橋 治好
昭63 武井 保夫
昭63 寺田 仁志
昭63 中島 洋子
昭63 中野いずみ
昭63 永野 正司
昭63 西山 有一
昭63 沼澤 孝典
昭63 延島ひろみ
昭63 花村 信明
昭63 原 靖
昭63 穂坂 康朗
昭63 正井 良幸
昭63 松澤 政彦
昭63 松原 茂
昭63 山口 由紀
昭63 山﨑 孔貴
昭63 渡邊 宇一
昭63 渡辺 和宏
平01 足代 弘元
平01 粟澤 重樹
平01 大内 仁之
平01 懸田 明弘
平01 加島知恵子
平01 片野 勝司
平01 勝俣 至史
平01 川越 元久
平01 小山 安徳
平01 齋藤 友紀
平01 柴田 康司
平01 高橋 健
平01 高柳 篤史
平01 田澤 勇人
平01 多田 宏
平01 土橋 博史
平01 椿 浩明
平01 成田 文雄
平01 濵田 義三
平01 古川 貴弥
平01 前島 達也
平01 村上 清信
平01 山倉佳小里
平02 天野 高宏
平02 飯田 哲也
平02 宇都宮慎児
平02 小関 健司
平02 川越 弘敬
平02 菊池 潤
平02 喜田 賢司
平02 國松 禎一
平02 塩﨑 雄生
平02 鈴木 裕仁
平02 瀧上恵美子
平02 田島 秀治
平02 田辺 靖喜
平02 長田 昌巳
平02 林 智子
平02 林 芳裕
平02 秡川 雅彦
平02 平岡 修
平02 平嶺小百合
平02 平山 明
平02 福田 直人
平02 堀 誠
平02 松澤 稔彦
平02 森本 一良
平02 山川 文孝
平02 山本 高敬
平02 吉井 正俊
平02 吉野 浩一
平03 青戸 弘陽
平03 阿南 啓子
平03 池田 敬洋
平03 池田 博子
平03 太田 拓哉
平03 鬼澤 勝弘
平03 木口 啓
平03 北村 径子
平03 久保田 敦
平03 齊藤 義章
平03 佐藤 昇
平03 鈴木 康之
平03 髙岡 裕司
平03 近 豊浩
平03 出崎 暁子
平03 手代木美香
平03 中島 徹
平03 長谷川眞康
平03 堀川 正
平03 本田 良和
平03 松野 弘和
平03 水口 泰代
平03 三井 香理
平03 三吉 俊弘
平03 山川 寿弥
平03 横山 晴洋
平03 渡邉 克仁
平03 渡部 芳雄
平04 磯野 珠貴
平04 今井 弘治
平04 江夏 淳子
平04 大鶴 次郎
平04 甲斐 史朗
平04 北川 博美
平04 島田 雅胤
平04 下津 昭洋
平04 住井 浩剛
平04 添島 義樹
平04 高岡 元文
平04 髙橋 潤一
平04 出崎 雅和
平04 中西 以穂
平04 羽賀 俊明
平04 林 真理
平04 日浅 玄
平04 平井知佐子
平04 藤井 理史
平04 本間 敬和
平04 三宅 洋
平04 宮田 利郎
平04 山田 順
平04 横田幸市朗
平04 横田 成一
平05 飯野祥一朗
平05 磯野 千乃
平05 江夏 俊央
平05 木津 康博
平05 古賀 隆利
平05 柴田 力
平05 杉山 亜希
平05 杉山 直人
平05 田澤 重伸
平05 徳山 俊丈
平05 長崎 孝司
平05 中島 理子
平05 野村登志夫
平05 日浅 明子
平05 森崎 重規
平05 山田 道浩
平05 四倉 清仁
平05 力武 秀樹
平06 赤堀 仁則
平06 池上 英明
平06 市川 敬一
平06 岡本 芳敬
平06 小川 俊夫
平06 可知久充子
平06 川口 健二
平06 神作 拓也
平06 北見 武広
平06 蔵本 千夏
平06 坂田 愛子
平06 佐藤 文彦
平06 田澤 和子
平06 田邉 陽
平06 谷村 将光
平06 中村 衛
平06 古谷 忠典
平06 松村 保典
平06 三宅 輝彦
平06 宮田 牧子
平06 山本 雅通
平07 新 啓嗣
平07 阿部 光正
平07 上重美奈子
平07 内田 禎子
平07 大門 忍
平07 大橋 渡
平07 佐藤 臣志

平07　静間祐一郎
平07　田中　大平
平07　千葉　和成
平07　時岡　孝寛
平07　中川　　健
平07　中原　弘敬
平07　野村　幸恵
平07　林　　点
平07　廣瀬　理子
平07　松本　　一
平08　青木　　健
平08　朝日　大輔
平08　稲浜　博一
平08　岩田　公秀
平08　浦崎　香苗
平08　片倉　　玄
平08　近藤　紀之
平08　早乙女修一
平08　住田　真一
平08　髙橋　健一
平08　田鎖あかね
平08　多田　　聡
平08　田中　　久
平08　中尾　篤司
平08　二宮　威重
平08　堀内　勇人
平08　森　　彩子
平08　森　　俊道
平08　柳　　智哉
平08　山口　智明
平09　猪狩　弓彦
平09　井上　敬介
平09　宇佐美貴弘
平09　大岡　　洋
平09　大門　三美
平09　奥原　秀樹
平09　加茂　公平
平09　北野　良英
平09　五條　和郎
平09　佐藤留美子
平09　志村　俊一
平09　新冨　芳浩
平09　末藤　祐一
平09　副島　　衛
平09　髙木　尚美
平09　藤堂　雅成
平09　春山　親弘
平09　日野　貴史
平09　堀　　勝
平09　三浦　秀憲
平09　矢野　慎二
平10　青木　　裕
平10　安藤　泰敬
平10　石川　一麿
平10　上田　あや
平10　岡田　大典
平10　梶井　泰樹
平10　佐藤　　晶
平10　鈴木　義顕
平10　須藤健太郎
平10　塚本　　良
平10　前田　拓哉
平10　村松慶一郎
平10　山口　元嗣
平11　井上　幹夫
平11　大井　　崇
平11　大西　薫児
平11　緒形　孝子
平11　片山　明彦
平11　小林健一郎
平11　齋藤　晶子
平11　柴内　明子
平11　宿澤　恵理
平11　副島　詩子
平11　添島　英輔
平11　高梨　聖敏
平11　藤堂　浩美
平11　浜瀬　敬輔
平11　林　　亮
平11　兵藤　正昌
平11　平地　正茂
平11　平地　涼子
平11　藤岡　大助
平11　穂積　隆浩
平11　夕田寿太郎
平12　阿部　　修
平12　石原　瑞穂
平12　加藤　朋子
平12　佐藤　大輔
平12　杉本　真慈
平12　谷藤　里奈
平12　平地　昭雄
平12　安村　英乃
平12　山田　道紀
平13　片岡　洋平
平13　中村　　潔
平13　野村麻里子
平13　松本　倫彦
平13　山内　純子
平14　市原　雅也
平14　稲森康二郎
平14　大井　典子
平14　久保浩太郎
平14　塩崎　秀弥
平14　竹田こずえ
平14　竹田　岳史
平14　鶴田　陽子
平14　林　　和彦
平14　山本　るみ
平14　吉田　章太
平15　新　　真美
平15　磯崎　千穂
平15　稲森新一郎
平15　河野雄一郎
平15　高梨　貴子
平15　堤　　政雄
平15　中嶋　　顕
平15　濵本　由佳
平15　本田宗一郎
平15　山田志保子
平16　岡田　　崇
平16　岡田　千歳
平16　鈴木　祐輔
平16　髙橋　勇太
平16　堤　　祥子
平16　鄭　　尚子
平16　戸田　康平
平16　成瀬　晋一
平16　西沢　知剛
平16　三宅　一誠
平17　大神　明香
平17　小林　保行
平17　小林裕美子
平17　須田　　鎮
平17　鄭　　尚賢
平17　西岡　優子
平17　平戸啓一郎
平17　吉田　秀児
平18　會田　貴久
平18　川上　恵実
平18　辻　由紀子
平18　若林　　学
平19　赤田　晋哉
平19　高梨亜季子
平19　玉井　直人
平19　堀部　幸子
平20　青木　一充
平20　奈良　宏周
平20　野本　有香
平20　前納　　允
平20　呂　　宗彦
平21　川上　和久
平21　霜山　哲一
平21　成瀬　遼吉
平22　植野　琢也
平22　植野　智子
平22　大平　貴士
平22　北川千加子
平22　牧原　勇介
平22　三友　啓介
平23　牧口　実央
平24　村松　優樹
（大学院）
昭37　宮本　一也
昭51　中尾　一成
昭61　長谷川浩三
平01　鬼谷　信美
平02　吉田　　隆
（推　薦）
　　宇田川義朗
　　折原　　健
　　金光　秀明
　　小島　武彦
　　白井　　勝
　　高橋　健二
　　高橋　正憲
　　谷崎　幸夫
　　坪田　一男
　　土井　孝夫
　　仁木　俊雄
　　宮田悠生秋
　　宮武　光吉
　　吉野　肇一
※匿名希望　118名
　以上　1,709名

（地域支部）
大分県支部
大阪府支部
沖縄県支部
鹿児島県支部
岐阜県支部
熊本県支部　蘇山会
埼玉県支部
佐賀県支部
滋賀県支部
東京　浅草支部
東京　城北支部
東京　下谷支部
東京　新宿支部
東京　滝野川支部
東京　千代田支部
三水会
東京　練馬支部
東京　本郷支部
東京　町田支部
東京　港区芝支部
統志会
東京　武蔵野支部
東京　北支部　東珊会
東京地域支部連合会
東北地域支部連合会
鳥取県支部
富山県支部
長崎県支部
長野県東信支部
長野県北信支部
北海道　小樽支部
宮崎県支部
山口県支部
和歌山県支部
大学支部
台湾同窓会
※匿名希望　２件
　以上　36件

（クラス会）
昭24　いとし会
昭31　四期会
昭34　ジーベン会
昭39　十二期会
昭42　志学会
昭47　七十七期会
昭51　正和会
昭55　翔蜻会
昭60　三春会
平01　平成会
平02　百樹会
平07　百期会
平11　参謝会
平22　創志会
　（115期生）
平23　百彩会
　（116期生）
平24　創絆会
　（117期生）
平25　良い歯会
　（118期生）
平26　千鼎会
　（119期生）
※匿名希望　１件
　以上　19件

（その他）
解剖学教室 OB 会
口腔外科学教室精到会
歯科矯正学講座美久会
ワンダーフォーゲル部 OB 会
　以上　４件

以上　同窓
合計金額
314,887,173円

水道橋校舎施設整備寄付金　寄付者名簿（教職員他）

平成26年３月31日現在
（50音順・敬称省略）

理事長
推薦　水野　嘉夫
学　長
昭47　井出　吉信
理　事
推薦　石井　拓男
理　事
推薦　西田　次郎
前理事長
昭39　金子　　譲
前理事
昭42　薬師寺　仁
前理事
　　野﨑　　弘
前理事
推薦　安藤　暢敏
前理事
昭46　柳澤　孝彰
前監事
　　岡村　泰孝
（教員・大学院生等）
（あ）
平18　間　奈津子
平17　青木　雅憲
推薦　青柳　　裕
平05　縣　　秀栄
平23　赤塚　公仁
平12　浅川　幸子
　　東　　俊文
　　穴澤　卯圭
平01　阿部　伸一
平14　阿部　ヒロ
推薦　新井　　健
平17　荒野　太一
昭57　猪狩　安豊
平13　石井　武展
推薦　石上　惠一
推薦　石川　博通
平05　石崎　　憲
　　石田　　瞭
平19　石塚　洋一
昭60　石原　和幸
平21　和泉　佐知
昭56　一戸　達也
平06　伊藤　太一
平09　稲垣　　覚
昭53　井上　　孝
平09　今井　裕樹
平17　岩沼　　治
平18　岩村　枝里
平11　上田　貴之
平14　浮地賢一郎
　　臼田　圭恵
平20　内山　　宙
平23　梅澤　貴志
平22　梅澤　朋子
平05　遠藤　隆行
大学院
平23　大石　晶子
　　大内　貴志
平11　大神浩一郎
　　大久保　剛
平11　大久保真衣
平04　大久保みぎわ
大学院
平10　太田　幹夫
平22　太田　　緑
昭58　大多和由美
平22　大塚　潤子
平20　大平真理子
平23　大峰　悠矢
平18　小貝　隆広
推薦　岡田　眞人
平21　岡田　玲奈
平22　荻野　崇真
平21　織田　聖子
推薦　小田　　豊
平24　小髙　研人
　　音成　実佳
平23　小畑　朋邦
（か）
平03　笠原　清弘
平22　笠原　正彰
平07　笠原　正貴
昭60　片倉　　朗
昭59　片田　英憲
平19　片山　愛子
推薦　加藤　哲男
昭57　加藤　広之
　　兼子　　智
平11　神尾　　崇
平09　亀山　敦史
昭51　河田　英司
平17　河地　　誉
大学院
平24　菊地　昭仁
平23　菊地　愛貴
　　菊池有一郎
大学院
平24　岸　　飛鳥
　　岸川　　浩
平24　北村　　啓
平19　木下　英明
平04　君塚　隆太
昭57　久保　周平
平20　黒田　英孝
平17　古池　崇志
平22　小泉ちあき
推薦　小板橋俊哉
昭31　髙北　義彦
平17　國分　克寿
平13　小坂　竜也
平18　小鹿恭太郎
平17　小林　史明
平10　小林　　誠
平19　小舩　和弘
昭52　近藤　祥弘
（さ）
平11　齋田菜緒子
平01　齋藤　　淳
平20　齋藤　裕香
大学院
平24　三枝　弘樹
平02　坂　　英樹
　　坂本潤一郎
昭57　坂本　輝雄
平18　酒寄　孝治
　　櫻井　敦朗
昭53　櫻井　　薫
平21　佐々木啓充
平14　佐々木穂高
平20　佐々木秀憲
平10　佐藤　一道
昭54　佐藤　　亨
　　佐藤　道夫
　　佐藤　憂子
昭49　佐藤　　裕
平24　佐藤　涼一
推薦　佐野　　司
平18　鮫島　千恵
推薦　澤木　康平
　　澤田　幸作
昭52　澤田　　隆
　　Jeremy Williams
平17　塩崎　恵子
平15　四宮　敬史
　　柴家　嘉明
昭54　柴原　孝彦
平13　柴山　和子
平07　澁川　義幸
平18　下島　隆志
推薦　白石　　建
推薦　新谷　誠康
昭58　新谷　益朗
昭54　末石　研二
平09　末原　正崇
　　須賀賢一郎
推薦　菅　　貞郎
平16　菅原　圭亮
平06　杉戸　博記
昭62　杉原　直樹
昭57　杉山　節子
昭58　杉山　哲也
昭62　杉山　利子
平23　鈴木　　薫
　　鈴木　正史
昭52　関口　　浩
昭62　関根　秀志
平17　勢島　　典
　　芹川　雅光
　　芹田　良平
平20　惣卜　友裕
平20　副島　寛貴
平18　添田　亮平
大学院
平25　征矢　　学
（た）
　　高際　　睦
平11　高久勇一朗
昭54　髙瀬　保晶
平15　高梨　琢也
平18　髙野　智史
昭51　高野　伸夫
昭57　高野　正行
推薦　髙橋　愼一
昭54　髙橋　俊之
推薦　髙松　　潔
平20　田草川　舞
平20　竹内　　快
平23　武内　崇博
平19　武田　慶子
推薦　武田　友孝
平15　田坂　彰規
昭53　田﨑　雅和
平22　田嶋さやか
平18　田井　愛子
平21　辻　　将
平04　辻野啓一郎
昭46　角田　正健
平18　手銭　親良
　　寺嶋　　毅
大学院
平23　冨田　智子
平23　戸村　恭子
（な）
　　内藤　祐子
平20　中尾　　正
平18　中川　映佳
推薦　中島　一憲
推薦　中島　庸也
平18　永田　順也
平23　中西　康輔
昭56　中野　洋子
大学院
平22　中原　　賢
　　梨本　正憲
昭61　西井　　康
　　西川　慶一
　　西久保周一
平21　西宮　紘子
平20　二瓶　伸也
推薦　野川　　茂
平21　野口　　拓
　　野口　竜実
昭56　野嶋　邦彦
平19　野田　克哉
平20　野田周太郎
平07　野村　武史
昭59　野村　真弓
平14　野本俊太郎
（は）
平23　萩尾　美樹
平17　橋本　和彦
昭56　橋本　貞充
推薦　橋本　正次
　　服部　雅之
昭56　花岡　洋一
　　早川　裕記
平18　林　　郁恵
　　林　　丈晴
　　林　真理子
平10　原　　麻子
平14　春山亜貴子
大学院
平15　半田　俊之
平01　久永　竜一
推薦　平田創一郎
平22　平野　友基
大学院
平22　廣木　愛美
平02　福田　謙一
　　福田　真之
平10　藤井　理絵
大学院
平22　藤田　修平
昭58　古澤　成博
平19　古屋　英敬
平07　古谷　義隆
平14　別所　央城
平12　細川　壮平
　　堀田　　拓
昭54　堀田　宏巳
平18　本田　秀光
平12　本間　慎也
（ま）
　　牧　　浩壽
　　牧野　正志
推薦　松井　淳一
　　松浦　彰子
平12　松浦　信幸

平19　松岡　海地
平11　松木由起子
昭48　松久保　隆
平02　松坂　賢一
平15　松崎　文頼
平15　松永　智
平01　間宮　秀樹
推薦　丸茂　健
昭53　見明　康雄
　　三浦　直
平18　水田　葉子
平21　三橋富久子
　　三穂　乙暁
平02　三宅菜穂子
昭56　宮崎　晴代
大学院
平21　向井　美弥
平07　村上　聡
平17　村瀬　千明
平15　村松恭太郎
昭50　茂木　悦子
平21　森川　泰紀
推薦　森下　鉄夫
　　森田　雅義
昭56　森永　一喜
平20　諸星　貴大
（や）
平11　薬師寺　孝
昭55　矢島　安朝
平17　安井　雅子
平18　安田　雅章
平19　安村　敏彦
昭59　山　満
平04　山内　智博
平26　山内　真人
　　山倉　和典
平16　山崎　貴希
平20　山崎　真
推薦　山下秀一郎
平17　山田　薫子
昭47　山田　了
　　山田　将博
大学院
平24　山田　裕介
推薦　山中すみへ
平22　山根　茂樹
平20　山村　啓介
平10　山本　信治
昭63　山本　仁
平20　山本　将仁
平16　湯村　潤子
　　横本　満洋
平21　吉井　崇之
推薦　吉成　正雄
　　吉野　文浩
平16　四ツ谷　護
昭52　米津　卓郎

（ら）
平17　竜　正大
（わ）
昭59　和光　衛
平22　和田　健
平13　渡邊　章
推薦　渡邊　裕
（職　員）
（あ）　相澤　光博
　　阿内　謙吉
　　青木香菜子
　　秋葉　順子
　　麻賀　明雄
　　朝隈　尚子
　　浅倉　恵子
　　阿部　潤也
　　安部　晴美
　　雨宮　智美
　　五十嵐時男
　　石井　哲
　　石毛　恵
　　石郷岡　均
　　石田　幸江
　　磯山　素子
　　板倉裕一郎
　　一木　治男
　　伊東多鶴子
　　伊藤真奈美
　　伊藤　陽子
　　今井　光枝
　　岩田　周子
　　上島　文江
　　上野　雅司
　　浦井　俊夫
　　浦田　知明
　　海野可代子
　　江橋　延江
　　江波戸達也
　　江里口綾子
　　王子田　啓
　　大勝　幸江
　　太田　茂
　　大塚　健
　　大屋　朋子
　　小笠原尚子
　　岡野　繁
　　岡部　陽子
　　岡本　育代
　　小川冨士子
　　奥井　沙織
　　小倉　等
　　尾谷　始子
（か）　笠原　淳二
　　加瀬　利美
　　賀曽利のり子
　　加藤　靖明
　　狩野　龍二

　　亀井　玲子
　　亀山　桂
　　栢森さつき
　　假谷加代子
　　川尻　尚子
　　川名　徳郎
　　菊地　聡子
　　北島　道子
　　北林　伸康
　　木部　真実
　　木村絵里奈
　　木村ゆかり
　　吉良　哲夫
　　小礒由美子
　　光菅　裕治
　　合原　愛
　　後藤久美子
　　後藤　純子
　　小林　一重
　　小林　智子
　　小林　友忠
　　小林　紀雄
　　小林　理紗
（さ）　齋藤　千晴
　　坂本　智子
　　櫻井　文雄
　　佐々木啓太
　　佐々木道子
　　佐藤　和幸
　　椎名　美和
　　椎名　裕
　　塩野目隆幸
　　実川　光江
　　清水　直子
　　清水　文衛
　　寿明　康子
　　菅沼　弘春
　　菅沼　雅文
　　鈴木　イチ
　　鈴木　浮子
　　鈴木　京子
　　鈴木　昌子
　　鈴木　福代
　　鈴木　保之
　　関川　美香
　　関口あゆみ
　　関根はるみ
　　攝津美枝子
　　芹川　公子
　　相馬　克己
　　外山　宗明
　　園田　満子
（た）　髙木　直人
　　髙橋　敦子
　　髙橋　英子
　　髙橋　里香
　　髙柳　奈見

　　武内　早織
　　武本　桂
　　田島　大地
　　田中　真美
　　田中由加利
　　谷口　敏信
　　多比良祐子
　　千葉　泰子
　　槻木澤里恵
　　辻野　千晶
　　土屋　佳織
　　綱島　浩二
　　堂地　一利
　　巴　恵子
（な）　内藤　美佳
　　長澤　恵子
　　長澤　直美
　　中島　和枝
　　中臺美佐子
　　中浜　典子
　　中村　厚江
　　日塔　慶吉
　　野田　克幸
（は）　萩原　義彦
　　長谷川雄教
　　旗手　重雅
　　馬場　里奈
　　濵野　孝子
　　原　正樹
　　伴　英一郎
　　響谷　順子
　　平井　玲奈
　　平出百合子
　　平野理智子
　　深川久美子
　　吹田　優子
　　藤生　智裕
　　藤平　弘子
　　船山　雅史
　　冬野　英雄
　　堀田　洋稔
（ま）　益田　仁美
　　松崎　真衣
　　松本　康雄
　　松元　吉治
　　間部　克善
　　三木　敦史
　　水越　敬治
　　水島　知也
　　水野　晃子
　　水野　利彦
　　水野　良伸
　　宮下　辰子
　　村川　孝
　　村瀬　敏江
　　百﨑　和浩
　　森金　美江

　　森本　陽子
（や）　山口　愛
　　山口　祥子
　　山﨑　知春
　　山﨑　陽子
　　山田　敏之
　　山田　美子
　　山之口吾郎
　　山本　一郎
　　山本　達郎
　　与謝野直子
　　吉田　成彦
　　吉峯　規雄
（わ）　若林　千里
　　若林眞由美
　　脇坂佐智子
　　和田　昌美
　　渡辺　和輝
　　渡辺　一史
　　渡辺ひろみ
　　渡辺　賢
※匿名希望　58名
以上　542名

（その他　団体・個人）
市川総合病院
　外科学講座
　臨床工学技士一同
全体係長会
紫紅会
大学教職員組合
　望月　隆二
　田所　克己
　北澤　義明
　富田　正幸
　他有志一同
大学父兄会
東京歯科大学学会
（故）井出源四郎理事令夫人
石井　悦子
佐藤まゆみ
塩崎とも子
原田　育叔
百﨑多紀子
※匿名希望　２件
以上　18件

以上　大学関係
合計金額
195,757,465円

重点事業へのアプローチ

大学の学生の夏期海外研修事業（エレクティブスタディ）への同窓会の支援について

会長　矢　﨑　秀　昭

数年前より学生時代からできるだけ広い視野を持つようにと，夏期休暇中に海外での研修事業を実施している大学に，同窓会として同窓会準会員でもある学生への支援事業の一つとして協力をしている。

この海外研修事業に参加を希望する優秀な学生の中から，大学の選考委員会で選考し，派遣する学生を決定している。本年度は１年生から３年生が台湾の台北医科大学に，また４年生から６年生が米国のタフツ大学にそれぞれ研修に行くこととなっている。

学生へ同窓会の事業について知ってもらえるようにと，学長の井出先生のご配慮により，26年７月10日にさいかち坂校舎にて，今回，選考された１年生の４名，２年生の５名，さらに新館の講義室にて３年生３名，４年生２名に井出学長による大学からの表彰に続き，同窓会の表彰状の授与を行った。井出学長からは台湾の歯科大学と本学の連携についてと，進歩した台北歯科大学の現状について話され，つづいて台湾にできた本学の同窓会のことと，海外での研修の実績を願い挨拶をした。

さらに，７月28日に本館の13階にて５年生の３名，新館にて６年生の１名に対して大学及び同窓会からの表彰が行われた。

学生時代から広く海外の歯科医学や医療に接しておくことは，今後は益々重要なことになると思われる。引き続きこの大学の事業の発展を期待している。

台北医学大学を中心とした台湾への Elective Study

引率：山下秀一郎
（口腔健康臨床科学講座・教授）
山本　仁（組織・発生学講座・教授）

第１学年から第３学年の Elective Study はこれまでの台北医学大学，台北医学大学附属病院，台北医学大学・署立雙和病院，奇美病院に加えて，柳営奇美病院で行われた。参加者は前年度の学業成績が上位35名の中の希望者から「平成26年度 Elective Study 選考委員会」で選考された学生12名（第１学年４名，第２学年５名，第３学年３名）と引率２名を加えた14名である。参加学生は出発前に数回ミーティングを行い，団長として第３学年の細谷正利君，副団長として第２学年の楽原正浩君，小林　裕君を選出した。なお副団長の楽原君は昨年に続き２回目の参加である。昨年までと同様に学生たちは台湾の文化，歴史，風習，日本との関係等を事前に調べるとともに，Elective Study の GIO や SBOs を設定し，各自が Elective Study の目的を明らかにした。また本年度の試みとして台湾の各病院での見学をより有意義なものにするために引率の山下教授の診療を短時間ではあるが見学し，山下教授から歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムなどの説明を受けた（第３学年では一部の臨床系の講義・実習が始まっているが，第２学年や第１学年では臨床系の講義・実習は行われていないため）。更に本年度は学生交流の時間を多く作るため，昨年よりも一日長い日程とした。

羽田空港に時間通り集合したメンバーは一抹の不安と大きな期待を胸に台北松山空港に向かった（写真１）。空港には毎年大変お世話になっている張維仁先生および台北医学大学の学生６名が出迎えてくれた。チャーターしたバスで昼食会場に向かったが，バスに乗車すると最初はぎこちなかった学生達



写真１　行ってきます！



写真２　台北医学大学歓迎会後の記念写真

も時間の経過とともに自己紹介を始め，学生交流が始まった。昼食後，龍山寺と中正記念堂を観光しホテルにチェックインした。チェックイン後夕食会まで短い時間しかなかったが，学生たちは長旅の疲れも見せずホテル近くを散策し，バスからではわからない台北の様子を味わっていた。台北医学大学主催の夕食会には張　維仁先生，本学と関係の深い蔡　恒恵先生，小児歯科学の鄧　乃嘉先生が同席された。お料理を楽しみながら学生と教員が語り合い，学生たちは両国の歯科を取り巻く環境について興味深く聞くとともに，疑問点を先生に質問し，まだ歯科臨床の実感が無い中で懸命に理解しようとしている姿が印象的だった。宴の最後には林　哲堂先生が本学出身の御子息，林　士凱君とお出でになった。これまでの Elective Study で培った両校の信頼関係を強く感じることができる良い時間を過ごすことができた。翌日は台北医学大学で鄭　信忠歯学部長が出席して歓迎セレモニーが開かれた（写真２）。学生達は改めて自己紹介し，記念品の交換を行った。セレモニー後大学内を見学し，臨床実習室や基礎実習室の様子に本学との相違を体感したようだった。附属病院に移動し，病院の説明を受けてから病院内の見学をした（写真３）。事前の山下教授からの歯科診療の説明が役立ち，まだ学んでいない歯科臨床や診療の流れについても理解できたように思えた。午後から国立故宮博物館，忠烈祠を見学し，夜は士林夜市を楽しんだ。３日目はホテルで台北医学大学の学生と集合し，バスで台北医学大学・署立雙和病院へ向かった。病院見学では診療室の他にヘリポートの見学をした（写真４）。雙和病院の障害者歯科診療室の創設には本学も深くかかわっており，その診療室を見学できることは学生達にとっても有



写真３　張先生からマネキン実習の説明を受けています



写真４　恒例のヘリポートで万歳！



写真５　台北駅で ChooChooTrain



写真６　緊張の手術見学

意義であったと思う。午後は行天宮を見学したのち，ホテルに戻り両校の学生達の自由時間とした。学生達は台北101などを案内してもらったようで，夜の集合時間には十分楽しんだ様子でホテルに戻ってきた。４日目も午後２時の集合時間まで学生同士で交流する時間にしたが，台風11号が台湾を直撃し大雨に見舞われたため，両校の学生たちはホテル近くで過ごした。遠くに時間をかけて出かけるよりもお互いに話し合う時間が多く持てたようで，学生交流の面では天候不良も良い方に作用したようだった。台風の影響で新幹線の運行が危ぶまれたが，予定通りの新幹線に乗車し，台南に向かった。台北駅では両校の学生たちは大変名残惜しい様子で，あちこちで記念撮影をする姿が見受けられた（写真５）。それればかりか，張先生と台北医学大学の学生たちが１駅新幹線に一緒に乗車してくれて，これまでにないような学生交流となった。台南駅で本年３月まで本学に留学していた奇美病院の林　哲毅先生の出迎えを受けた。台南駅からホテルまでのバスで台北とは異なる台南の風景を楽しんだ。夕食後，各自ホテル近くを散策した。翌日奇美病院について林先生から説明を受け，その後病院内を見学，手術室で口腔外科の手術を見学した。学生は手術着に着替え，緊張の面持ちで手術室に入った。口腔癌の手術の一部（２時間くらい）を見学したが，片時も動かずじっと手術を見学する学生，初めての手術見学に躊躇する学生など，学生の対応はそれぞれだった（写真６）。手術見学後，柳営奇美病院に移動し，病院見学を行った。柳営奇美病院は台南の奇美病院とはバスで１時間以上離れており，田園風景の中に建つ病院で台南の奇美病院とは異なる雰囲気があった。夜の食事会で学生たちは奇美病院の先生方と台北医学大学の学生交流とはまた違う交流を楽しんだ。６日目の早朝，ホテルから高雄空港に向かい帰路についた。

Elective Study は学生交流と病院見学を２つの柱としている。台北医学大学を訪れるのは４回目であり，過去３年間で培った両校の信頼関係が益々強固なものとなっているのが大変心強く感じられた。また今回参加した学生達も，これまで Elective Study に参加した学生達と同様に今後も台北医学大学の学生達との交流を継続して，将来は引率教員として台北医学大学を訪れてほしいと思う。もう一つの柱である病院見学では，出発前に学生に臨床見学をさせ，歯科診療の概要や水道橋病院の診療システムの説明を行ったことが役に立ったようで，臨床科目をほとんど学んでいない第１－３学年の学生にとって詳しい治療内容はわからないまでも，見学した症例や設備，施設がどのように使われるのかという大まかな理解はこれまでより進んでいたように感じられた。

Elective Study でお世話になった先生方，事務の方々，関係各位に心から感謝，御礼申し上げます。

血脇守之助が三条に滞在しなかったら東京歯科大学の血脇守之助は無かった



阿　部　晴　弘（昭和46年卒）



血脇守之助*

新潟県の中央部の信濃川沿いに，金属加工や刃物の町として有名な三条市がある。その街で昨年の９月８日町並み探検隊という市民団体の主催で，「血脇守之助と野口英世と三条」という講演会が，三条市立図書館で開催された。講師は吉田東伍記念博物館の副館長渡辺史生さん・実質的には館長。

この博物館は磐越西線が通る阿賀野市の安田町にあって，吉田東伍博士（日本歴史地理学者，『大日本地名辞書』の著者）を記念して建てられた博物館で，後でお話しする石塚三郎が明治，大正，昭和にかけて撮った三千枚以上のガラス乾板写真と血脇や石塚の資料を多く所有している。



〒959－2221
新潟県阿賀野市保田１７２５－１
TEL 0250-68-1200　FAX 0250-68-5016
お問い合わせ　y. togo@oregano. ocn. ne. jp

吉田東伍記念博物館

渡辺さんはこれらの写真や資料を基に，「血脇守之助が歯科医師を目指したことに三条が大きく関わっている。血脇守之助が三条に滞在しなかったら，医聖野口英世は生まれていない」と言い切った。



新潟県の地図

血脇（旧姓，加藤）守之助は明治３年（1870年）２月現在の千葉県我孫子市で父・加藤誠之助，母たきの長男として生まれた。明治６年，守之助４歳のとき，母が産後間もなく24歳の若さでこの世を去った。さらに父誠之助も婿養子であったため，加藤家を離縁し，実家に復籍した。幼くして両親を失った守之助は祖父母に暖かく育てられ，明治13年秋，尋常小学校を卒業すると，祖父に懇願して12歳の若さで東京に遊学した。東京英学校，共立学校などで学び，明治22年４月慶応義塾別科を卒業した。遊学中，多くの友人と共に学び語り合ったことは，守之助の人格形成に重要な役割を果たしている。また，後に歯科界のリーダーとして社会的活動をする上で大きな力となった。

同年４月東京新報社に入社するが，４カ月を経たある日の夕方，窓に掛けてあったランプが落下し金具が守之助の瞼に刺さった。傷が治らず，社に迷惑がかかるため退社し，我孫子の実家に戻って静養した。眼の傷も癒えたある日，友人から，新潟・三条町の米北教校が高給（月給25円）で英語教師として迎えたいという話があると，守之助はそれに応じた。

血脇守之助の学生時代に交流のあった友人達

池田　成彬　第14代日本銀行総裁，大蔵大臣，商工大臣，三井合名会社・筆頭常務理事(事実上の三井財閥総帥)
中條精一郎　建築家，国民美術協会の会頭　長女・百合子は後の宮本百合子
森山松之助　建築家，東京歯科大学の前校舎を設計，TDC の校章をデザイン，台湾・台北市の現・台北賓館，監察院などを設計
木下謙次郎　貴族院議員，衆議院議員(当選９回)，関東長官
米山　梅吉　貴族院議員，三井信託銀を創立し社長，日本初のロータリークラブ・東京ロータリークラブ創立
高山　長幸　衆議院議員(６期)，帝国商業銀行会長，東洋拓職総裁

他にも多くの友人がいる。

明治23年１月，21歳の守之助は真冬の雪国新潟の三条に赴任した。米北教校は真宗の僧侶の機関学校で，地元で唯一の中等教育を施す学校であった。教育熱心な地域の人達から，新進気鋭の英語教師守之助は大歓迎を受け，すぐ家庭教師の依頼がきた。越前屋の離れ座敷に下宿した。



昭和６年10月撮影，守之助が三条での下宿先，越前屋の西沢キチを，38年ぶりに訪ねる。この時，二人は同い年で63歳であった。

三条に来て１年半が過ぎた明治24年の初秋の頃，下宿の母屋に開院した三条病院の院長で，米国帰りの医師・田原　利（とおる）と知り合いになり，酒を酌み交わし米国の国情などを熱心に聞くうちに親しい仲となった。

明治25年２月突如，宗教学校にはめずらしい学生ストライキが起きた。原因はもう一人の英語教師（松原　某）が，間違った英語を教えたことであった。校長と相談して守之助が説得すると，一週間続いたストライキは終息した。ところが，こんどは松原　某先生が採点を極度に厳しくしたために，進級，卒業できない子供がかなりの数に上った。守之助の立場はなく，不快の念を抑え切れなかった。この事件は守之助の教員生活に懐疑心を懐かせ，冷静に振り返らせる契機となった。

ある日悶々とする守之助は下宿に帰ると，友人から英字新聞『ニューヨーク・ヘラルド』紙が届いていた。それを拾い読みすると，眼を射たのは米国・歯科医師の広告文であった。「これは！独立して生計を営める職業でないか」歯科医師について知らなかった守之助は，米国で学んできた医師・田原に，その道に進むことを相談した。

「これはよい思い付きだ。日本では見る影もない地位に置かれている稼業だが，米国での歯科医の地位は，我が国と比べ物にならないくらい高い。暗夜のような歯科医界を黎明の彼方に救いだせるのは，君のような高潔の士によって初めてなし得られるのだ」と言って医師・田原は直ちに賛意を示し，激励した。守之助は大いに奮い立った。

明治26年２月守之助は校長に辞表を提出し，少し前に巻町に開業した医師・田原のところに１カ月ほど滞在して，３年余り暮らした新潟を後にした。

東京に戻ると，本郷森川町に寄寓していた親友の中條精一郎の下宿を訪れ，歯科界入りの説明をすると，ちょうどそこに居合わせた中條の友人で高山歯科医学院，院長高山紀斎夫人の弟・森山松之助が，我田引水になるかもしれないと断りながら，高山歯科医学院を推した。また，米国留学中の盟友池田成彬に紹介された歯科医師・伊澤信平も高山歯科医学院を推薦した。守之助は長くつかえていた胸のモヤモヤが晴れ，高山歯科医学院への入学を決意した。

明治26年４月，守之助は芝伊皿子町にあった，当時日本で唯一の歯科医育機関高山歯科医学院に入学した。だが学資が足りず，医師・田原の自発的な毎月６円の送金と借金で賄った。入学して間もなく，院長高山の米国シカゴ・万国歯科医会会議の演説原稿を友人とふたりで英文にした守之助は，日頃から守之助の人柄に感服していた院長高山に懇願され，学生ながら学院運営を行う幹事に就任した。重厚，悠揚迫らぬ態度で接する守之助は，年上の講師（榎本積一，遠山椿吉など）や学生たちとますます親密になり，敬慕された。その年の暮れ帰国した院長高山は，その間の守之助の用務処理，学院運営に驚嘆した。

守之助は歯科医学の習得に精を出し。明治28年７月２年余りで歯科医師の資格試験に合格し，歯科界へのスタートを切った。

明治29年１月，久しぶりに医

師・田原が守之助を訪ねて来た。守之助の懐具合を察した田原は，何をやるにも資金が必要なのだから，全国を回って診療をやるように忠告した。守之助が私がやりたいのは歯科治療ではなく，この学院で歯科医育について十分研究することだと言うと，田原は，それなら学院の夏季休暇中，僕の米国留学中の同窓の友人で会津でやっている医師・渡部　鼎を紹介するから，そこで出張診療をやってみないかと勧めた。会津若松で開業する医師・渡部の会陽医院の向かいの旅館の一室で，出張診療をやった。渡部家の玄関座敷には，いつも頗る風采の上がらぬ青年がいた。その青年こそ野口清作（後の英世）で20歳であった。



野口英世*

野口清作（英世）は明治９年（1876年）11月福島県耶麻郡三ツ和村（現・猪苗代町）に生まれた。１歳の時囲炉裏に落ち，左手に大火傷した。小学校では成績優秀であり，それを知った小林　栄教頭は，自ら学費を援助して猪苗代高等小学校に清作を通わせた。高等小学校でも体操以外の成績は首席であった。明治24年不自由な左手を治すため医師・渡部に手術をしてもらった。手術は成功し，これに感激したことが医師を目指すきっかけとなった。高等小学校を卒業すると，手術をしてくれた渡部の会陽医院で，書生として働き勉学に励んだ。

守之助は野口の身の上と，高い志で医学原書を熱心に読む，その非凡さと根性に驚嘆し，「いつの日か東都遊学の際には立ち寄りなさい」と，軽く励ますつもりで声を掛けた。

11月３日の天長節の祝賀式が終わり，守之助が自室で休息していると，野口清作という青年が面会を求めて来た。話を聞くと，９月に上京して医師開業前期試験に合格したが，金もなく，居場所もないので，学院の俥夫にでも使って欲しいということであった。院長高山に書生として置くことの了承を得ようとしたが，よい返事はもらえなかった。しかたなく，そっと寄宿舎に忍ばせて置くと，やがて，玄関で鐘を鳴らすなど雑務をしながら学僕になった。

ところが間もなく，野口と同い年の石塚三郎という青年が高山歯科医学院への入門を願い出た。野口という重荷を背負い込んだばかりの守之助が，了承などできるはずもなかった。



石塚三郎*

石塚三郎は，明治10年９月新潟県北蒲原郡安田村保田に生まれた。家は貧しかったため，13歳で地元の素封家である簇野家（当主は餘太郎，吉田東伍博士の長兄）に奉公に入った。そこで当主餘太郎から英語，漢詩文などを学び素養を身に付けた。

歯科を志して上京した石塚は，守之助に何度断られても執拗に頼みに通った。その甲斐あって，明治30年４月採用通知を受け，学院の書生として玄関寄り付きの四畳半の部屋で野口と起居を共にし，受付，会計係として働きながら歯科医学を学んだ。野口と同じような生い立ちであったことから，二人は肝胆相照らす仲となり，その思いは生涯消えることはなかった。



野口英世と石塚三郎*



野口英世と石塚三郎（大正４年10月撮影）
岩越鉄道（現 JR 磐越西線）・野沢駅にて*

その後，野口は守之助から毎月15円の援助を受け，済生学舎に学び，明治30年21歳の若さで医師免許を取得した。高山歯科医学院，北里柴三郎の伝染病研究所，横浜検疫所に勤めたのち，明治33年の末，米国に渡りロックフェラー研究所などで黄熱病，梅毒などの研究で多くの成果を上げ，世界的な細菌学者となり帝国学士院から恩賜賞が授与され，何回かノーベル賞候補になった。昭和３年（1928年）11月，黄熱病の研究中アフリカで殉職した。

石塚は歯科医術開業試験に合格すると，高山歯科医学院の講師や幹事を務めた。また昭和３年から２期，歯科医師初の衆議院議員として活躍し，歯科医師法の改正に大いに尽力するなど，守之助をよく助け歯科医会の重鎮となった。野口の死後，野口英世記念会の創設，運営に心を砕き，晩年は同会理事長として親友の偉業の顕彰に懸命な努力をした。因みに，西武鉄道グループの元オーナー堤　義明は，石塚の娘，恒子の子供であり，吉田東伍記念博物館の隣にある瑠璃光院に石塚と恒子は眠っている。また，石塚はアマチュア写真家としても有名で，その時代の貴重な記録写真（ガラス乾板写真）が先程の博物館にあり，この度の講演会で多く紹介された。同時に，我々同窓がよく目にする東京歯科大学の貴重な写真の原板は，この博物館が所有している。

思いがけず英語教師として三条（新潟）に来たことで，幼くして両親と別れた守之助は，兄または父のような存在となる医師・田原と邂逅した。田原は，予想もしなかった歯科医師への道に勇気を与え，経済的援助と様々な助言をし，昭和15年に亡くなるまで守之助のよき理解者であった。また，医師・渡部の所で野口清作と出会うきっかけを作ったのも田原であった。守之助にとって「何処飛躍の地ならざる」の言葉のように，三条が飛躍の地となり，東京歯科大学の血脇守之助が誕生した。

東京に頼る者もいない野口は，会津若松で血脇守之助と出会い，掛けられた一言で運命が変わった。野口にとって，血脇の持っている幅広い人脈と精神的，経済的支援は絶大であった。特に経済的支援は血脇が学校建設と運営に苦慮しているときに多額に及び，我々常人ではとても考えられない援助は敬服に値する。血脇が野口を最後まで支援し続けた義侠心と気骨は，医師・田原をはじめ，明治の時代の人達が国家建設への熱き思いの発露として，才能ある人には援助を惜しまないという気風であったにせよ，血脇守之助の支援がなければ，絶対に医聖野口英世は生まれていない。

漆黒のような歯科界に，開かれた歯科医育の必要性を痛感し，私財を投げ出して歯科医学院を創設し，現在の濫觴となした高山紀斎と，その志を継いで，黎明期の混沌とした歯科医界の錯綜する難問を解決し，学院を専門学校に更に大学へと，地位向上のために希望の光を与えつづけた血脇守之助。それは守之助が長い間に培ってきた政界，財界，医療界などの人脈と，池田成彬と木下謙次郎が血脇守之助の謝恩之碑文に刻んだ「天資温厚姿度広大頗ル大人ノ風アリ（一部省略）又能ク時務ニ通ジ経済ニ明カニシテ経世家ノ素質ニ富ム人」のように，資質と人徳がなければ成し得なかった。

正に，血脇守之助はこの時代のエスタブリッシュメントであったといえよう。



血脇守之助の家族と石塚三郎（明治36年くらい）
左から広瀬武郎，長男・日出男，石塚三郎，血脇守之助
次男・芳雄，夫人　血脇（旧姓・広瀬）ソデ*



野口英世・アメリカへ帰国の日（大正４年11月４日）
佐渡丸船上にて，左から　渡部　鼎，野口英世，血脇守之助，小林　栄，後ろ中央　石塚三郎*

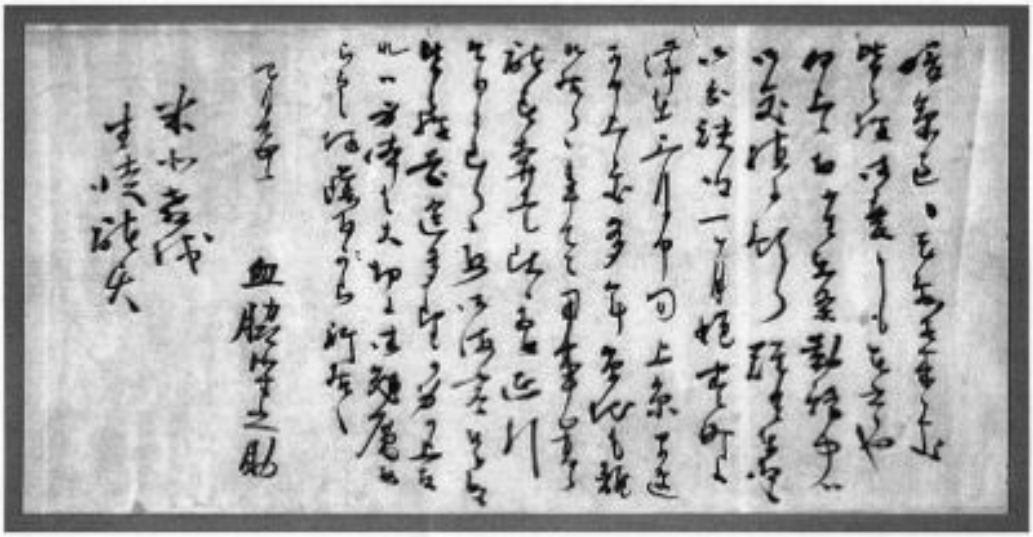
追記

この書簡は，2010年春，発見された守之助・23～24歳頃の直筆の二通の書簡で，吉田東伍記念博物館友の会会員から博物館に寄託されたものである。

これは守之助の三条滞在を示している。

尚，＊の写真は，吉田東伍記念博物館所蔵

書簡1



【血脇守之助→米北教校生徒諸君】
明治二十六年四月二十四日

暖気逐日花散相成候処、皆々様御変りも無之候や伺上候。扨小生在条勤務中ハ御交誼に預り難有奉存候。御分袂後一ヶ月程巻町に滞在三月中旬上京早速可申上候処多年京地も離れ居り候事とて用事繁り諸所奔走仕候為是迄引今日に至り候段御海容被下度候。皆々様前途多望の身の上なれハ身体を大切に御勉励あらるゝ様祈居候。

四月廿四日　血脇守之助

米北教校
生徒諸君

暖気逐日、花散相成候処、皆々様、御変りも之無く候や、伺い上げ候。扨、小生在条勤務中は、御交誼に預かり、有難く存じ奉り候。御分袂後一ヶ月程、巻町に滞在、三月中旬上京、早速申し上ぐべく候処、多年京地も離れ居り候事とて、用事繁なり諸所、奔走仕り候。このため延引、今日に至り候段、御海容下され度候。皆々様、前途多望の身の上なれば、身体を大切に、御勉励あらるゝ様、祈りながら祈り居り候。

四月廿四日　血脇守之助

米北教校
生徒諸君

書簡1　釈文

日を追って暖くなり、花も散る頃となりました。みなさまお変わりございませんでしょうか。

さて、私、三条町に勤務中は親しく交際していただき、ありがたく存じております。お別れしてからのち一カ月ほど、巻町に滞在し、三月中旬に上京。さっそくごあいさつ申し上げるべきでしたが、長年東京を離れていたこともあり、用事が重なり、あちらこちらと奔走しておりました。このためのびのびとなって今日に至ってしまいましたことをお許しいただきたいと思います。

みなさまの前途、将来は望み多い身の上なのですから、御身体を大切にしそうつとめ励まれるよう、かげながらお祈りいたしております。

四月二十四日

血脇守之助

米北教校

生徒諸君

書簡2



【血脇守之助→鳳気至正雄】

年月未詳

昨日は多人数参堂御厄介に預り万々難有存候間瀬の峠を越へ午後九時無事着卷仕候間乍他事御放慮被下度候偖昨日初めて御意を得たる身としてかゝる事御願申上るも嗚呼の至りに候得共云はれなきにも在らねば申上候前三条病院長田原利君は豫て小生の親友に御座候處本年春中より無報酬にて米北教校の学科を御教授被下候ては一方ならぬ利益を得候間君今回当地に於て開業被致候に付き御手數の段恐縮の至りに候得共御序での時を以て御知合の人々に御吹聴（「噂」脱字）仰度名剌十五枚相添へ此段御願申候也

早々頓首

血脇守之助

二十八日

鳳気至正雄殿

書簡2　釈文

昨日は多人数で伺い、ご厄介をおかけいたしました。とてもありがたく思っております。間瀬の峠を越え、午後九時に無事巻に着きました。関係ないことですが、お気づかいなく願います。

さて、昨日、はじめてお考えをうけたまわった身で、このようなことをお願い申し上げるのは、とても愚かなことですが、言わないわけにもまいりませんので、申しあげます。

前三条病院長の田原利氏は、かねてからの私の親友でございます。本年春中より、無報酬で米北教校の学科をご教授くだり、教校も一方ならぬ利益を得ました。同氏が今回当地において開業いたしますので、お手数をおかけして大変恐縮ですが、おついでの時に、お知り合いの人々にお広めいただきたく、名剌一五枚を添え、この事お願い申し上げます。

早々頓首

血脇守之助

二十八日

鳳気至　正雄　殿

会　　務

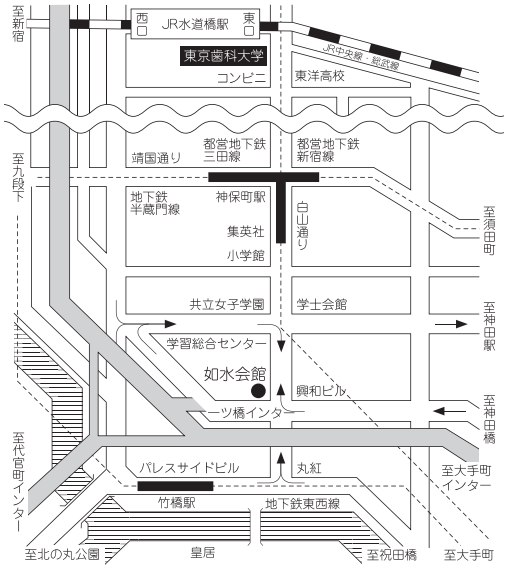
平成26年度東京歯科大学同窓会
評議員会　日程

1．日　時　平成26年11月２日（日）
2．会　場　如水会館　２階　スターホール
　　東京都千代田区一ツ橋２－１－１
　　電話番号　03－3261－1101
3．日　程

区　分	時　　間
評 議 員 会	午前10時00分～午後３時30分
懇　親　会	評議員会終了後

平成26年度 東京歯科大学同窓会評議員会
（午前10時00分～午後３時30分）

1．開 会 の 辞
1．点　　呼
1．会 長 挨 拶
1．来 賓 挨 拶
1．議長，副議長選出
1．議事録署名人指名
1．黙　　祷
1．報　　告
　⑴　平成26年度　会 務 報 告
　⑵　平成26年度　会計現況報告（財産の廃棄処分を含む）
1．東京歯科大学の現況報告
　⑴　東京歯科大学の現況
1．議　　事
　第１号議案　名誉会員の推薦
1．名誉会員推戴式
1．叙勲，褒章受章者顕彰式
1．議　　事（続き）
　第２号議案　平成25年度　経常部収支決算
　第３号議案　平成25年度　特別会計収支決算（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金，同窓会創立120周年記念事業積立金）
　第４号議案　平成25年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支決算
　第５号議案　平成25年度　時局対策費積立金会計収支決算



最寄りの駅からの案内図

　第６号議案　平成25年度　財産目録
　　（監　査　報　告）
　第７号議案　平成27年度　事業計画
　第８号議案　平成27年度　入会金および会費
　第９号議案　平成27年度　経常部収支予算
　第10号議案　平成27年度　共済負担金
　第11号議案　平成27年度　特別会計収支予算（高山・血脇記念同窓会基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金，同窓会創立120周年記念事業積立金）
　第12号議案　平成27年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支予算
　第13号議案　平成27年度　時局対策費積立金会計収支予算
　第14号議案　選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出
1．協　　議
　⑴　評議員選出の経過措置および評議員会のあり方について
　⑵　その他
1．閉 会 の 辞

評議員会の傍聴を希望する会員は，事前に事務局までご連絡ください。

平成26年度　学年代表者会開催

平成26年７月13日（日）東京歯科大学水道橋校舎新館11階第一講義室において，東京歯科大学との共同開催のもと「平成26年度学年代表者会」が開催されました。昭和19年９月卒業（十六会・50期）の山根照人先生を筆頭に，今年の春卒業した平成26年卒業（千鼎会・119期）代表代理の佐藤正敬先生まで，58学年の代表の先生と，同窓会・大学関係者24名の総勢80名が出席され，臼井文規総務担当常任理事の進行のもと，玉井達人同窓会副会長より「この会は同窓会の縦と横を結ぶ絆となる大変重要な会です」という挨拶で開会しました。



玉井副会長



臼井常任理事

開会に先立ち，水野嘉夫新法人理事長より「この学年代表者会は，大学のこと同窓会のことをお互いに知り合う，大変良い機会だと思うので是非有意義な会にしていただきたい」というご挨拶とともに，井出吉信学長からもご挨拶をいただきました。



水野理事長

次に，矢﨑秀昭同窓会長より「学生も都心の大学生活に慣れてきた事と思います。最近の同窓会の一番の課題は，若い先生方との交流ということで，若手ネットワーク委員会が立ち上がり，若手そして女性の先生との交流を進めています。日本歯科医師会でも，研修医の歯科医師会入会制度を設定し，若い先生方の参画をすすめています。



矢﨑会長

同窓会本部の大きな役割としてはアカデミア構想を中心に同窓の先生方の精神的な支柱になる活動を進めていきたいと思っています。来年は同窓会120周年記念式典も企画しておりますので，是非，支部の入会を促進し，平成卒の先生方が中心になって同窓会をもり立てていただきたいと思います。」と挨拶がありました。

以下，報告と協議についてご紹介します。

大学からの報告

（1） 大学の近況について

井出吉信学長より，



井出学長

「今年度は，男性56名，女性72名と初めて女性が多くなり，歯科医師の子弟は72名（56.3%）そのうち，同窓の子弟は20名（15.6%）非同窓は52名（40.6%）。医師の子弟が24名（18.8%）その他子弟が32%となっています。

国家試験の合格率は大変よい結果ではありましたが，他の大学も相当頑張っていますので，油断は禁物ということで学生教育も頑張って行かなくてはならないと考えています。

同窓会，歯科医師会の組織率が下がっているということについては，我が校では研修生全員が歯科医師会に入会いたしますし，エレクティブスタディーにも，同窓会に支援していただいていることを学生に説明をしています。２年後には西棟ができますが，１階には，同窓会と大学との交流が出来る部屋を作ろうと考えています。西棟と新館とを繋げることで，使い易い構造になる予定です。水道

橋病院，千葉病院，市川病院のあり方も検討し，同窓会とも一体となって進めていきたいと思うので，ご協力をお願いしたい」というお話がありました。

⑵　卒後教育

一戸達也副学長より



一戸副学長

文部科学省の会議において，歯学教育において多様な歯科医療のニーズに対応した歯科医師の養成という事が提言されています。

また，各大学の機能，設備に対する機関別認証評価とともに，専門職種の能力を評価するという分野別認証評価がされるようになり，どのような学生が入学するのか？どのような教育をうけた学生が卒業するのか？各大学の特色は？というような評価がはじまっています。

今年２月の国家試験より，出題基準が変更になり，国家試験の出題基準の中にも，多職種連携のできる歯科医師を育てることを主眼に，嚥下に関する内容，より複雑な心電図の読み方，基礎疾患別薬剤の使い方についてなども出題され，開業歯科医師としてだけでなく，訪問診療や病院歯科において遭遇するであろう事象についても対応できる歯科医師を育てることが必要になってきているため，千葉病院では，訪問診療車に乗ったり，市川病院では口腔ケアの実習をしたりと医療現場に参加できる歯科医師を作る様卒前教育，国家試験，卒後教育，生涯研修の広いスパンで歯科医師を育てることが求められています。そこで，卒業後の進路に，臨床系講座の医局員研修講座キャリアパスを明確にする様に指導しています。

文科省，厚労省ともに国家試験合格はひとつの通過点であり，その後どのような歯科医師を育てて行くかということが重要になってきています。

同窓会からの報告

⑴　会務報告

髙橋義一専務理事より

本部からのお願い）



髙橋専務理事

同窓会会員名簿の作成年になっていますので，ご協力をお願いいたします。また，同窓国会議員の任意の後援会を立ち上げましたので是非，東京歯科大学から日本のリーダーを創るべく，応援をお願いいたします。

クラス代表宛に届けている情報ネットをご活用いただけるようお願いいたします。

重点項目について）

執行部役員が改選され，第２期の矢﨑執行部が誕生し，会員の支部加入促進，若手同窓との連携が重点項目となっています。

ほぼ9,000人の会員の支部加入は，平成23年が，70.29％。25年は70％を切っている状況です。会費収入も下がりますが，このまま



東京歯科大学の伝統を創られた諸先輩方



伝統を継承し未来へ飛躍させていく若い先生方

行くと同窓会を支える若い先生が不足してくることが危惧されるため，準会員・新進会員制度，若手ネットワーク，広報ではHP・FBの活用，クラス会開催支援を行なっています。新進会員が考え新進会員が創る「新進会員のつどい」，社会に貢献できる人材を育成する立派な医療人をつくるという「アカデミア構想」そして準会員の若い会員との接点を持つために，同窓会会報を直接渡しながら，同窓会を知っていただく活動を行なう等，新しい同窓会の役割として社会性をみせ「人を創る」同窓会を目指しています。

また，120周年記念事業としては，記念誌の発行，講演会，祝賀会の開催を予定しており，その一環として，明治時代からの卒業アルバムの整理をしてお見せしたいと考えています。

事前質問とその回答）

＊評議員会のあり方および数について

（昭和47年卒・七十七期会
森岡俊介先生のご質問）



森岡先生

回答（髙橋専務理事より）

昨年の評議員会で，評議員の定数について，地域支部の会員数を基準に「一県一評議員」の経過措置がとられ，評議員会に決議・組織の意思決定を委ね，総会の廃止を決定しましたが，情報の共有化としては，情報ネットの活用，HPのメールボックスの活用によりどなたからもご意見を伺えるシステムになっておりますのでご活用をお願いしたいと思います。28年度以降については，決算や会則の決定等の代議員会的な要素を持つ評議員会と地域と本部，大学との意見交換や親睦による団結という全国組織的な要素の都道府県代表者会を目的で分けることで検討しており，さらに学年代表者会とを合わせて，縦と横が繋がる関係を構築するよう，今後ご意見を聞いていこうと考えています。

また，同窓会の公平性，透明性，伝統をもとに，会長・監事選挙制度が制定され，会員数に応じた投票権を採用して，次期会長選挙より実施されます。

＊本部がクラス会に出来る事，クラス会が本部に出来る事は？

クラス会案内や返信を同窓会でしていただけるか？それにより同窓会本部を意識することになると思うが…

（昭和47年卒・七十七期会
森岡俊介先生）

回答（髙橋専務より）

本部がクラス会の為にできることを纏めていただき，ご意見をいただければと思います。

本部がクラス会にお願いすることとしては，クラス会の横の活動をより密接な関係を築いていただき，それを元に支部加入促進，組織力アップに繋がることを期待しています。

クラス会案内については，要望として検討させていただきます。

＊新しい同窓会室の利用について

（昭和52年卒・八十二期会
岡野昌治先生のご質問）



岡野先生

回答（髙橋専務より）

新しく移転した事務室は支部でも使用可能です。希望される場合は，鍵の受け渡しなどご注意頂きたい所がありますので，先ずは事務局にご相談頂いた上でご利用いただきたいと思います。

（2）アカデミア構想

宮地建夫副会長より



宮地副会長

大学で日本一の歯科医学や技術を学び卒業した同窓に対し，医学や技術だけでなく，社会の中で活用していける生涯研修を応援しようという構想で，社会的に広い視点で見ることの出来る歯科医師を作るために，歯科医学的な課題と歯科医療的な課題に別け人材育成を目指しています。

どんな歯科医師を目指すのか？社会に求められている歯科医師とはどんな歯科医師なのか？について，同窓としての経験などを踏まえ多くの若い世代の先生に伝えていくことが同窓会の使命と考えており，水道橋のこの地が歯科界の

アカデミアになるようにと考えております。

協議）

座長：浮地文夫副会長



浮地副会長

(1)　緊急時代診制度

①本部における取組

寺田仁志総務厚生担当常任理事より



寺田常任理事

平成23年６月１日より試験的に実施いたしまして，秋田，神奈川，静岡の３例の要請がありました。結果として，親族での対応，近隣歯科医師会での対応，同級生での対応となり，本部としての実績はありません。問題点としては，保険医登録の問題，患者からのクレームへの対応，医療事故の責任の所在，金銭など契約上の問題，地域での不公平性，社会的情勢の変化（カルテ開示，診療の透明性）という問題があり，実施する場合は，運用規定を検討し策定する必要がある上，迅速な対応が不可能ということで，現在は中止となっております。今後，もう少し地域性，柔軟性，迅速性を考慮した上で再度検討し，地域，支部単位で運営できるような体制を作り，皆様にお示しできるように検討したいと考えております。

②クラス会での取組について

（アンケートに回答いただいたクラス会からの報告）

＊丹野　研先生

（昭和39年卒・十二期会）



丹野先生

年齢があがるとともに仲間も少なくなっており，手を貸すことは無理かもしれないが，何とかしたいという気持ちは全員にある。事例としては，地区において対応をしていただいている。

＊小林　顕先生

（昭和56年卒・水公会）



小林先生

２つのケースを経験し，クラブのOBや大学の講座や同級生で派遣をしたが，いずれも親族の判断で閉院となった。このことから，各ケースについてその地区でコーディネートをする人が必要であり，診療代行だけでなく，様々な問題を解決することが必要となる。

同窓会としては，日頃より，団体保険等の情報の提供，コーディネーターおよび支援者への支援，会員の緊急時に代診に行くことのできる歯科医師のデータベース化をしていただければと考える。

＊川越元久先生

（平成元年卒・平成会）



川越先生

病気入院により，２カ月間，同級生５名くらいで診療代行を行なった。

＊諏訪幸子先生

（平成10年卒・燦和会

内山博人代表代理）



諏訪先生

大学に在籍しており，大学の医局員であれば，期限を区切って代行は可能であると思われる。

＊森岡俊介先生

（昭和47年卒・七十七期会）

実際に診療をする場合，種々の届け出に関する問題，医事処理へ

の対応の問題がある。また，緊急時の対応を検討する場合，家族がどの程度その歯科医院に関わっているかによっても違ってくる。身近な時に身近なところで対応することが本来の姿であり，同窓会としては，自分が，もし，病気になった時にどうするのか…ということを家族で話し合うための資料や，従業員への対応に関する資料を提供することが必要だと思う。

＊まとめ

座長の浮地文夫副会長より，

大学から派遣する場合の派遣料や，代診として診療することに対して，医療事故に対する問題，保険医登録という観点から，現在では，臨機応変に実施することは難しい。その医院の経営事情が解らない場合は，特に問題となる。医事処理に関しては，代診の先生が歯科医師会に入会していない場合には，責任の所在などが難しくなる。

矯正歯科の場合は事前に治療費を受け取っている場合もある等の金銭的な問題もあり，診療所での医事処理の責任の所在，従業員への対応，保健医療機関としての届け出の問題等，更に検討していかなければならないので，今後，更に好ましい制度を目指して検討をしていきたいと思います。

質問および回答）

大岡　洋先生

（平成９年卒・翔仁会）

ニューヨークにある野口先生の別邸など海外での研修システムの構築をご検討いただきたい。若手の先生の興味をひく研修が可能だ



大岡先生

と思うので是非検討していただきたい。

回答（井出学長より）

建物の管理には相当な金額が必要となるので，活用については，検討中です。

西山　潔先生

（昭和57年卒・黎明会）



西山先生

千葉病院，千葉校舎の今後の方向性をお聞きしたい。

回答（井出学長より）

西棟が出来る２年後までは，千葉病院を活用する必要があるが，売買や他病院からの要望，千葉病院を存続させる価値との兼ね合いをあわせ検討しています。

その他）



鳩貝先生

鳩貝尚志先生より

（総務厚生委員会委員長）

９月15日（日）全国ゴルフ大会の開催に是非ご参加いただきたいと思います。

佐々木眞澄渉外担当常任理事より



今回，同窓の国会議員を応援してくださる方のリスト作成を目的に，会費無料，自由参加の後援会をたちあげました。同窓会の担当は，藤原元幸副会長，島村　大議員の後援会会長を大山萬夫同窓会名誉会長，白須賀議員の後援会会長を浅野薫之先生にお願いし同窓会報10月号に申し込み用紙を同封いたしましたので，よろしくお願いします。

最後に，藤原元幸副会長より，

「最近，若い先生方が同窓会に入らないという声も聞かれますが，是非共若い先生方にも大いに参加していただき，東京歯科大学同窓会をもりあげていきたい」との挨拶で閉会となりました。

その後，会場を13階第一実習講義室に移動して懇親会が行なわれました。



藤原副会長

懇親会では，佐藤　亨常任理事の進行のもと，財部正治副会長の開会挨拶，大学より石井拓夫副学長の挨拶，大山萬夫顧問の乾杯，島村　大参議院議員の挨拶が行なわれ，大勢の代表者の先生が参加されました。

あいにく曇りがちのお天気ではありましたが，13階第一実習室には，外バルコニーのとても気持ちのよい空間があり，若手の先生と先輩の先生が一緒になって懇談が行なわれました。

学年代表者会は，久しぶりにお会いした大学の諸先輩と歯科界の情報交換をしたり，縦の繋がりを深めるためのとても大切な会だと思います。今年の懇親会では，昨年より若い先生方の参加が多かった様です。大学の近況，卒後教育・生涯研修の話にもあったように，これからの歯科界は，多種多様なニーズへの対応と他職種との連携といった社会性を求められています。そのような中，同窓であるが故の絆を元にした心の繋がりが，きっと大きな宝になることと思います。同窓会創立120周年を目前に，さらに絆を深め，同窓会はもちろんのこと，歯科界の明るく暖かい未来を心から期待するものです。

（広報委員会　佐々木葉子 記）


佐藤常任理事


財部副会長


大山顧問


石井副学長


島村議員


鳴神顧問


歯科界の伝統そして未来への飛躍を感じさせる懇親会でした。

会務アラカルト

両議員後援会にご参加をお願いします

涉外委員会の東歯同窓国会議員を支える会では多数の同窓の要望に応えて国会議員としてご活躍中の衆議院議員白須賀貴樹先生と参議院議員島村　大先生の後援会を立ち上げ，今回の同窓会報に趣意書と入会申込書を同封いたしました。従来同窓会の後援会ですと評議員会の議案として承認いただき全員参加として会費徴収し政治団体として活動できるような形態をとっていましたが，本執行部では任意加入として会費徴収はなく，また政治団体としない形として進めております。将来無限の可能性をもつ両先生がこれからの日本のリーダーとして活躍し，また国民にとってよりよい歯科医療に導いていただけるよう，長い目をもって全国同窓が応援してゆければとの気持ちであります。選挙区や政党にこだわらず同窓としての心をお二人に向けていただけるようお願いします。さっそく同封の申し込み用紙に記入し，それぞれ所定の送付先にファックスしていただければ幸いです。

次年度にむかって

第４回理事会が８月30日（土）に開催され平成27年度事業計画案と予算案が固まってまいりました。事業計画の中では，同窓会創立120周年記念事業，支部加入対策，準会員や新進会員をはじめとする若手同窓との連携促進，そしてアカデミア構想の実現，涉外活動，そして原点である大学への支援体制の構築と連携などが重点課題として進めてゆくことが決まりました。ここではアカデミア構想について紹介します。

アカデミア構想について

同窓会創立120周年を機にアカデミアプログラムをスタートしようと考えております。大学において日本一のレベルまで資質を高め社会に送り出された同窓が，それぞれが望む日本一の歯科医師像に近づけるよう，また幅広い分野で活躍できるような人材育成を明確な目標として定め，母校での質の高い大学教育を引き継ぎ，卒後同窓を生涯研修事業のためのアカデミアとして応援してゆこうという構想です。アカデミアでは先輩後輩とのつながりをひろげ，学術そして社会保障制度や涉外活動を含め軸足を生涯研修におき，年齢や年代そして地域にとらわれることなく東京歯科が求め続けてきた品格のある歯科医づくり・人づくりを意識的に進めようというものであります。

矢﨑会長がしばしば口にする「誇れる同窓会へ」との言葉に応えられるのがアカデミア構想です。「本会は，会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに，母校の発展に寄与することをもって目的とする」と会則で規定していますが，人材を育成し社会に貢献することも同窓会の目的に逸脱することはないと考えられます。120年前高山紀斎学院長と血脇守之助先生が高輪萬清楼において第一回の院友会を開催し，そこから東京歯科大学同窓会がスタートしました。その会則第一条には「本会は歯科医学上の知識を交換し相互の友誼親睦を篤くして歯科の品位を高かむるにあり」とあり，「学術レベルの向上」，「品位のある歯科医づくり」をめざしたもので，そのようなお二人の精神が日本歯科医師会の誕生そして歯科医師法の制定と当時の歯科を大きくかえた原動力になったと思えます。ではアカデミア構想についてもう少し具体的に紹介しましょう。

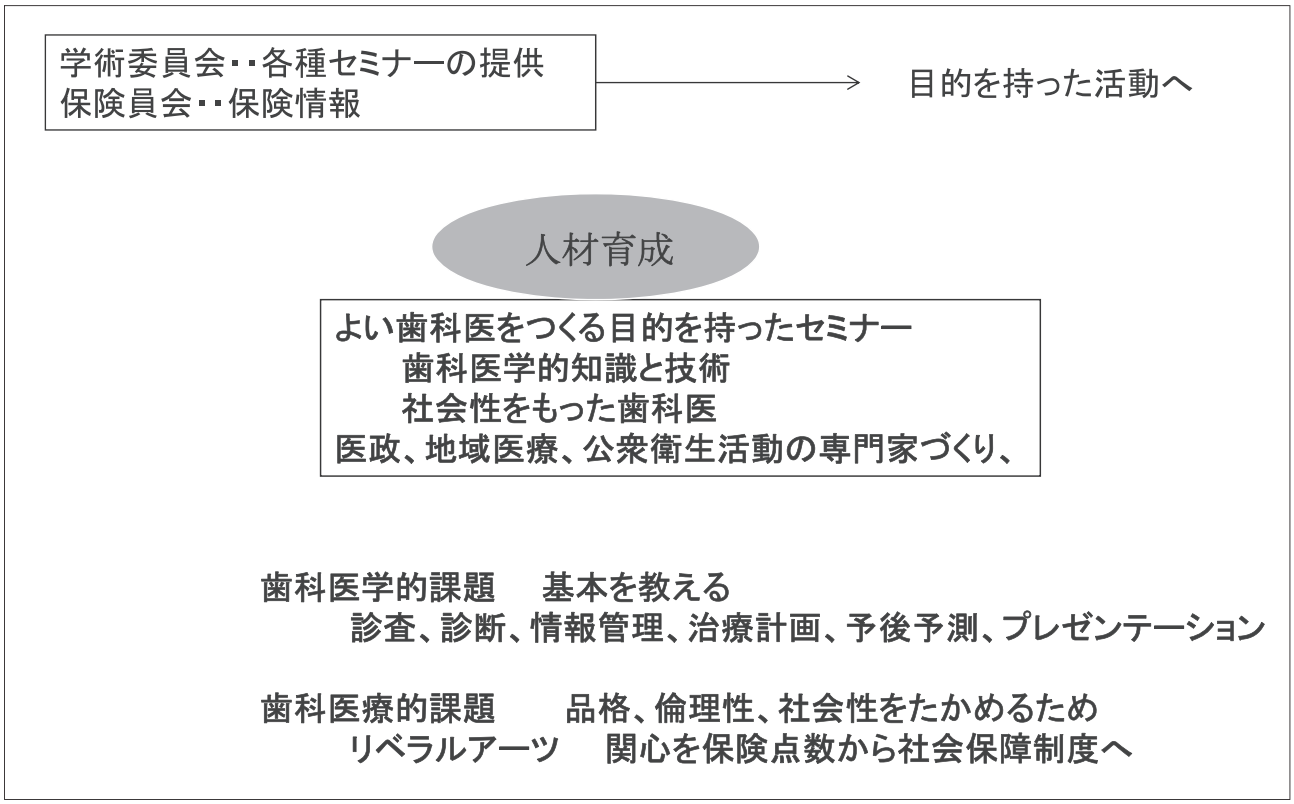
旧来の学術委員会では TDC 卒研セミナーを開催し，保険員会では健康保険情報を提供してきまし

アカデミアの理念

「歯科医師たる前に人間たれ」の建学の精神を基本に，人間味豊かで，社会性のある人材育成めざす総合的な生涯研修の場（アカデミア）をつくり，臨床から地域保健，医事に至るまで国手となるための一貫した理念に基づいて事業を展開する。さらに執行部の事業という枠を超えて，全国の同窓が次代を担う後輩たちへの支援や連携の輪となることを期待している。

た。本年度から事業推進部として社会保障制度研究委員会，若手ネットワーク委員会，卒後研修委員会，医療教養委員会，臨床セミナー委員会になり，アカデミア構想では事業推進部の委員会活動を人材育成といった統一の目的をもった活動を目指すことになります。

ここでの人材育成とは，歯科医学的知識と技術をもち社会性をもったよい歯科医をつくること，そして医政や地域医療，そして公衆衛生の現場の専門家づくりを目的にしています。平成27年からスタートするTDCAアカデミアをまとめてみます。



TDCA（Tokyo Dental College Alumni Association）アカデミア構想

1．120周年を機に新しい同窓会事業の方向性を見直した。

2．歴史と伝統そして実績から人材育成としての生涯研修がふさわしいと考えた。

3．日本一の歯科医づくりをめざす大学教育の連続性を大切に考え，建学の精神に則った歯科医づくりを人材育成の目標とすることとした。

4．人材育成は学術にかぎらず社会保険をふくめた社会保障制度に関する分野についてもすすめ医政や地域の保健医療の各組織の担い手に育つことも期待した。

5．研修は歯科医学的課題と歯科医療的課題とを包括した総合的な視点で捉えることにした。

6．歯科医学的課題では学術的な内容が中心になるが，専門的な学術研修にこだわることなく診査診断，予後の予測，情報収集，治療計画立案や評価，プレゼンテーションといった生涯研修を進めるうえでの基本部分を身につけ，望まれる歯科医師像や夢を自分で実現できる力を付けることを目標とした。

7．歯科医師像や夢は，いろいろな先輩の姿をみることにより創りあげられると考え，同窓会としてはその機会をつくることに力を入れることにした。

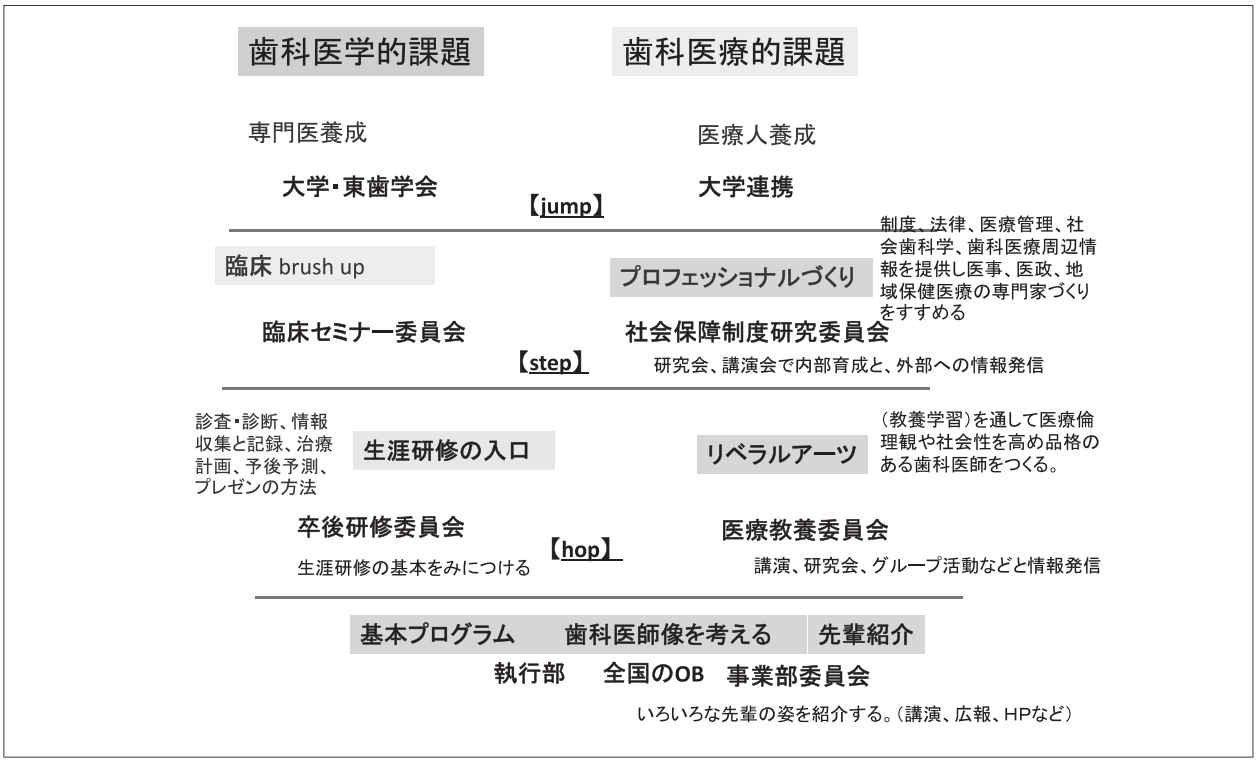
8．歯科医療的課題には倫理，社会性や地域性そして人間性味豊かで，品格などを高めることを目標に，社会保障制度についての研究や情報提供，リベラルアーツなど多彩的にとりいれ広げてゆくこととした。

9．アカデミアとは同窓の生涯研修のための場であり，単に研修の場ということではなく先輩と後輩とのつながりやネットワークなど人と人の交流も含めた場で，同窓会の存在そのものがアカデミアに繋がるものと考える

こととした。

10. プログラムはホップ・ステップ・ジャンプのような継続性をもたせた形式をとり，Jump では母校での生涯研修事業とつながりがもてるように考えた。

11. 人材育成は同窓会の目的の大切な一つとして位置づけようと考えた。



アカデミア構想の具体化にむかって

同窓会創立120周年を機にスタートし，その後年数をかけて構想の実現をはかります。アカデミアプログラムの推進は，すべての事業推進部各委員会がアカデミアに特化して事業を推進し，総務・厚生部，広報部，渉外部などその他の部と連携をとりながらすすめます。初年度については，事業推進部の中でも卒後研修委員会，医療教養委員会，社会保障制度研究委員会での活動を核とし，若手ネットワーク委員会は若手同窓との連携を進めながらアカデミアプログラムへの参加をうながすようアシストすると同時に，同窓の交流の場としてのアカデミアを築いてゆきます。また臨床セミナー員会は，40年の歴史をもつ卒研セミナーの伝統を継承しつつアカデミア構想の中の step 部分のコースを平成28年から本格活動がスタートできるよう準備します。

アカデミアに参加する人には年齢の制限はありません。また，直接参加できない同窓に対しては，情報ツールなど活用しエッセンスを紹介できるようそのシステムを検討していきます。さらにアカデミアは単に勉学にかぎることなく，同窓間の交流事業も大切にします。評議員会が開催される頃には平成27年度のアカデミアプログラムとして皆様に紹介できると思います。アカデミア構想は，今後の歯科大学同窓会のあり方に対する一つの提案になると期待していますが，モデルになるためにも未来に向かっての壮大な夢をつづったこの構想を実現しなければなりません。同窓におかれましてはその意をご理解いただき，長い目でご協力と応援をいただけるようお願い申し上げます。

若手会員との連携
－「新進会員のつどい」ご案内－

「新進会員制度」発足を機に，若い先生方との連携を目的とした「新進会員のつどい」が昨年開催されました。今年度も卒後５年目までの先生方を中心とした「新進会員のつどい」準備会では，11月の開催に向け着々と準備が進んでいますので，ここにご案内いたします。



【準備会メンバー】
和田　　健，荻野　崇真（H22）
黄地　健仁，野末　真司（H23）
石川　宗理，岡嶋　伶奈（H24）
木村　基善，山田　　祥（H25）
田中　亜生，橋口あやこ，
佐藤　正敬（H26）

写真
上段左から：山田，木村，田中，橋口
下段左から：野末，黄地，荻野，和田

昨年多くの方にご参加いただいた「新進会員のつどい」を今年も開催させていただくことになりました。この会に参加される方の多くが卒業５年目までの若い先生方ですので，自分の将来や，日頃の臨床に不安や疑問を抱えているのではないでしょうか。もしこの会がそれらを解決するのに少しでも役立てばうれしく思います。会の後には懇親会もございます。

多くの方々と親睦を深められれば幸いです。たくさんの方の参加をお待ちしております。

準備会代表　和田　健・荻野崇真（H22卒）



講演会　講演要旨　（講演抄録より抜粋）

『「歯科医院開業」～これまでの歩み～』

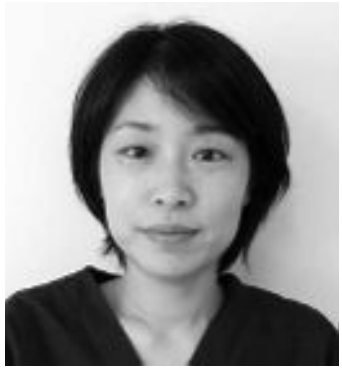


石川歯科クリニック　石川　一麿（平成10年卒）

これからの時代はペリオだ！と志を抱き歯周病学講座に入局，都内開業医勤務を経て，新規開業し６年がたちました。講座では，診療，症例発表，抄読会，学生教育を経験。開業医勤務では地域医療を体感し，勉強会や同窓会学術委員にも所属し研鑽を積みました。

そして開業！それぞれの時代に，様々な人と出会い，学び，得てきたことを皆様にお伝えできればと思います。

『女性歯科医師　子育てと仕事の両立』



都立多摩総合医療センター口腔外科非常勤　小川　志保（平成15年卒）

卒業して間もなく結婚し臨床研修を修了，歯科麻酔学講座に入局しました。その後は妊娠，出産を経て職場復帰し日本歯科麻酔学会認定医取得。現在は主に専門性を活かした（出張鎮静など）仕事をしています。最近では，趣味の時間を楽しむ余裕も出て，充実した毎日を過ごせるようになりました。

まだまだ発展途上ではありますが，無我夢中で過ぎた11年を皆さんと一緒に振り返りながら，少しでも不安や疑問を解消するお手伝いができれば幸いです。

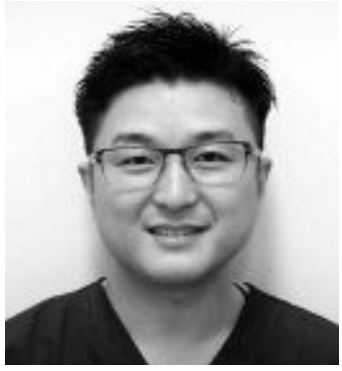
『エクソソームを用いた診断法の開発に向けて』



東京歯科大学口腔インプラント講座　吉田　光孝（平成22年卒）

近年，「体液」を解析する事で，間接的に疾患部を診断する「リキッドバイオプシー（液体生検）」が，侵襲度の低い診断法として注目を集めている。体液中には多くのバイオマーカーが含まれているが，これらの多くが，「エクソソーム」によって運ばれている。われわれは，がん細胞が放出したエクソソームを，他の集団から分離する方法の確立に取り組んでいる。この技術は，エクソソームを用いた，新しい診断・治療法の確立へとつながると考えられる。

『基礎疾患あり！　注意しよう，薬剤投与‼』



東京歯科大学口腔外科学講座　菅原　圭亮（平成16年卒）

超高齢化社会に突入した現代において，有病者が増加し歯科医療も困難な時代を迎えています。高血圧，喘息や腎不全などの基礎疾患，妊婦・授乳中の患者さんには，慎重な薬剤投与が必要です。

今回は，日常臨床で注意を要する疾患に注目し，実際の薬剤投与について「疾患別の抗菌薬・鎮痛薬の適正使用」，「処方箋の書き方」を中心にお話ししたいと思います。

理事会のうごき

第３回理事会

平成26年５月24日（土）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　29名
議長　矢﨑会長

会 長 挨 拶

各地元でお忙しい中，お集まりいただき感謝申し上げる。今年も各支部・連合会にお邪魔しているが，支部未入会の若手会員に対してあらゆる角度から働きかけを進めていることが窺える。支部活動においても平成卒の会員が熱心に動かれている姿も見受けられた。大変心強く思っている。

先日，恒例の六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会が開催された。メインテーマは若手会員，女性会員が日本歯科医師会や同窓会になかなか入会しないことに対する対応であった。各校とも厳しい現状に直面しているようである。わが同窓会でも対応策をさらに検討していきたい。大学では，３病院の研修医を集めて，大久保日歯会長をお招きした研修会が開催された。日歯６種会員の入会を促進し，日歯に関心をもってもらうことが目的である。同時に東歯同窓会に対する内容紹介も行った。

昨日，25年度の監査会が行われた。会費収入が減少してきている中で，今まで以上に同窓会活動を活性化する対策を探っていくつもりであり，協力をお願いする。

２名の同窓会員の国会議員に対して，地域を超えて支援する機運が高まってきている。後援会を立ち上げることを検討していくが，各地域においても両議員に対して連携を進めていただきたい。

11月の評議員会に向けた準備をお願いする。

黙　　祷

目黒支部・貞包剛男氏はじめ10名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

１）平成26年４月25日から平成26年12月17日までの日程を報告。

２）各部報告

⑴　総務・厚生部：①支部長交代について１件報告。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について１件報告。③支部長名簿を配付。④逝去会員について，規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費，共済負担金納入免除願いが３件提出され，受理した旨の報告。⑥平成26年春の叙勲受章者８名報告。⑦総務・厚生委員会報告。⑧ゴルフ大会委員会報告。⑨母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑩情報ネットワーク推進会議報告。⑪会務運営協議会報告。⑫事業連携協議会報告。⑬東日本大震災対策部会報告。⑭同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑮本年度発行予定の会員名簿作成準備の進捗状況報告。⑯南棟６階会議室使用規定報告。

⑵　会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について３件報告。②平成26年度４月末現在現況報告。

⑶　渉外部：①渉外部委員会報告。②六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会報告。

⑷　広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。

⑸　事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦ TDC 卒後研修セミナー2014報告。⑧学術事業交流についての協議会報告。⑨新進会員のつどい準備会報告。

以上の会務報告について，全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事，東海・山田理事，北海道・佐藤理事より報告。

協 議 事 項

⑴ 推薦会員退会願いについて１件承認。
⑵ 平成25年度東京歯科大学同窓会決算書について協議，承認。
⑶ 評議員選出の経過措置および評議員会のあり方と都道府県代表者会の提案について協議，会務運営協議会案を地域支部連合会における支部長会での説明に用いることを承認。継続審議。
⑷ 事業推進部臨床セミナー委員会協力委員の委嘱について協議，承認。
⑸ 大学施設内同窓会使用備品の購入について協議，承認。
⑹ 東歯同窓国会議員に対して，同窓会として任意の後援会立ち上げの提案があり協議，承認。
⑺ 平成27年度事業計画案および予算案を各担当理事が取りまとめて会計担当に提出する提案を承認。事業内容を縮小することなく，経費の１割削減を目指すこととする。
⑻ ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿内容を協議，承認。

第４回理事会

平成26年８月30日（土）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　31名
議長　矢﨑会長

会 長 挨 拶

猛暑，台風，集中豪雨が続く中，被害にあわれた方には心よりお見舞い申し上げる。大学は水道橋に移転して１年を経過するが，順調に推移している。寄付も３月に締め切っており，ご協力いただいた各位に対し，次号の会報でお礼の文書を掲載することとしている。ただ現在の水道橋校舎において診療スペースが手狭であることから，西棟の建設が急がれている。諸般の事情で建設費が高騰しており，更なる協力が必要である。

評議員会まであと２か月となり，来年度の予算案が出そろった。会員の高齢化，若手の支部未入会の増加等の影響で財政状況が厳しくなってきている。各担当は大変苦労されているが，事業内容を縮小することなく，工夫を重ねて効率よく会務を運営していただきたい。今後を考えると，事業に若手をできるだけ取り込んでいくことが必要と考える。

来年秋に120周年記念事業を予定しており，その準備がすでに始まっている。高山・血脇イズムを次世代に是非継承したいと考えるが，アカデミア構想を実践することでその目標を達成していきたい。

同窓２名の国会議員の後援会についても是非，協力をお願いする。

黙　　祷

静岡県支部・内田道彦氏はじめ19名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

１）平成26年７月25日から平成26年12月17日までの日程を報告。
２）各部報告
⑴ 総務・厚生部：①逝去会員について規程により弔慰共済金を支給した旨の報告。②平成26年度会員数調べの報告。③平成26・27年度評議員名簿の報告。④会費，共済負担金納入免除願いが１件提出され受理した旨の報告。⑤総務・厚生委員会報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務運営協議会報告。⑩事業連携協議会（アカデミア構想連絡会）報告。⑪東日本大震災対策部会報告。⑫同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。
⑵ 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について３件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について９件報告。③平成26年度７月末現在現況報告。
⑶ 渉外部：①渉外委員会報告。
⑷ 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。③同窓会報送付時の封入および広告料対応方針報告。
⑸ 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦ TDC 卒後研修セミナー2014報

告。⑧学術事業交流についての協議会報告。⑨新進会員のつどい準備会報告。

以上の会務報告について，全て承認。

各地域選出理事報告

四国・久保田理事，九州・田部理事より報告。

協 議 事 項

⑴ 推薦会員入会願いについて３件承認。

⑵ 評議員選出の経過措置および評議員会のあり方と都道府県代表者会について，細部は会長一任のうえ理事会案として平成27年度評議員会の協議題とすることを承認。

⑶ 支部加入促進費を承認。

⑷ ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿の回答方針を協議，会長および総務部一任とすることを承認。

⑸ アカデミア構想の具体的な内容を協議，承認。この案をもとに事業計画および予算案を作成する。

⑹ 学術講演会講師交通費支給のルールを見直し，平成27年度実施をめざし規定作りを進めることを承認。内容については継続審議。

⑺ 平成26年度評議員会において選出する選挙管理委員の役割，選挙管理委員会の開催等について承認。

⑻ 財産（備品）廃棄処分について処分案を承認。

⑼ 平成27年度入会金・会費の金額案を承認。

⑽ 平成27年度共済負担金の金額案を承認。

⑾ 次年度の理事会，常任理事会の日程を承認。

⑿ 東京歯科大学同窓会平成27年度事業計画（案）を承認。細部の文言については，会長一任。

⒀ 東京歯科大学同窓会平成27年度収支予算（案）を承認。細部の修正については会長一任。

⒁ 東京歯科大学同窓会名誉会員に４名推薦，全会一致で承認。

⒂ 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会日程（案）を承認。

⒃ 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会議案を承認。細部の修正については，会長一任。

⒄ 評議員会協議題を承認。

⒅ 東歯同窓議員の後援会を承認。

⒆ 二校会講演会の参加協力要請 PR を積極的に行うことを承認。





渉　　外

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会

第176回日歯定時代議員会１日目の６月19日(木)の午後６時30分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント３階「千鳥」において東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員４名，日歯代議員16名，都道府県歯会長３名，同窓会役員20名，渉外委員２名，そしてご来賓として母校の水野嘉夫理事長と，井出吉信学長がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，まず，矢﨑秀昭会長より，「全国各支部で同窓が減少傾向にある。日歯も同窓会も未入会が共通の問題となっている。水野新理事長には今後の医科歯科連携の上においても期待したい。母校の国試の合格結果は素晴らしく，この輝きを長続きさせるためにも今後の同窓の母校への協力が重要である。また衆・参両院の同窓の国会議員の後援会が発足することになった，今後，国のため歯科界のためにも活躍出来るように全国の同窓の協力を宜しくお願いしたい。」との挨拶がありました。

つづいてご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。

まず水野嘉夫理事長より，「平成16年より学校法人東京歯科大学の役員に就任している。東京歯科大学の今後の発展のためには，大学と同窓会とが一枚岩になり協力しあうことが非常に重要であるので，法人の常務理事に矢﨑秀昭同窓会長に就任してもらった。今後益々のご協力をお願いしたい。」とのご挨拶がありました。つづいて井出吉信学長より，「金子　譲前理事長は，丁度75歳になり大学移転も無事に済んで後進に道を譲りたいということで勇退された。大学の人事も刷新された。今後西棟を建設する予定だが，西棟の１階部分に同窓が集えるサロンを設計している。このことに対しても，今後，益々の同窓の協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴しました。

つづいて出席者の紹介を行いました。丁度，日歯の大久保満男会長，村上恵一専務理事，村岡宣明常務理事，そして日歯連盟の高木幹正会長と峰　正博理事長がお見えになり，大久保日歯会長より「公的医療保険の堅持と充実に向けて，今後日歯連盟と共に頑張るので協力をお願いしたい。」，また高木日歯連盟会長より「現場の環境改善のためにも，国，都道府県，市町村の行政とも連携をとりながら，今後頑張っていかなければならないので協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴しました。

この後懇談会は，鹿児島県歯科医師会会長の森原久樹日歯代議員の座長のもと進行され，群馬県歯科医師会会長の村山利之日歯代議員より第176回日歯代議員会報告を，日歯連盟副会長で秋田県歯科医師会会長の藤原元幸日歯代議員より日歯連盟報告を頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を髙橋義一専務理事が行いました。

ここで，日歯役員の中島信也先生（昭和59年卒）と，佐藤　徹先生（昭和62年院卒）から，それぞれの会務の現状に関しての紹介とご挨拶を頂きました。

この後，「同窓会各支部及び歯科医師会への入会促進について」という議題で協議を行い，各代議員より貴重なご意見を頂戴致しました。

ここで，日歯役員の日歯常務理事の冨山雅史先生（昭和57年卒）よりご挨拶を頂戴し，そして最後に玉井達人副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「春琴」に移した懇親会では，藤原元幸副会長が開会の挨拶を述べ，鳴神保雄顧問の乾杯の発声で，終始和やかな雰囲気の中進行しました。途中から，同窓で参議院議員の島村　大先生が，同じ神奈川県が選挙区で衆議院議員の坂井　学先生と，山本ともひろ先生を同伴してご来場になり，ご挨拶の後出席者との歓談に加わられました。最後に財部正治副会長の閉会の辞で終了しました。

卒研リポート2014

No. 2　ベーシックセミナー

「初診時に求められる診査・診断のスキル」

～X線写真から始まる歯科診療のベーシック～

平成26年５月18日（日），水道橋校舎本館13階で開催された。

本セミナーは一口腔単位で的確な診査診断をし，予後を予測した治療計画を立案できるようになることを目標に，主として臨床研修医や若手歯科医師のために企画された。

セミナーの初めは，昨年，同様の企画で行われたディスカッションセミナーの受講者２人が登壇し，昨年のセミナーを受講して体得した口腔内写真やX線写真，臨床記録の重要性などについて話された。なかでも「初診時の口腔内写真は患者さんとの信頼関係を築く上で非常に有用」，「記録をとっていくと患者さんの心理やバックグラウンドがより深くわかる」，「過去にさかのぼって資料を採取することはできない」など，鋭い考察も多く語られた。

比較的年齢の近い世代からの教示は，新しい受講者の動機付けとしては非常に効果的であった。

充分モチベーションが上がったところで症例呈示がなされ，小班に分かれてスモールディスカッションが行われた。参加者はみな積極的に発言を繰り返し，あっという間に所定の90分が過ぎた。

昼食の後，各班の代表がディスカッション報告を行ったあと，その症例の担当医が解説を行った。

その後「歯内療法処置診断のポイント」と題し，母校歯科保存学講座主任教授古澤成博先生による講演が行われた。先生は歯内療法における基礎的な口腔内診査法について詳細に説明され，実際のX線写真を供覧しながら，診査の実際，そしていわゆる難症例の診査のポイントを解説された。

次いで「臨床でX線写真を活用するために大切なこと」と題し，元卒研委員で東京都板橋区開業の小林　顕先生の講演が行われた。先生は，よいX線写真，すなわち「診断的に価値の高い写真」を撮るためのワンポイントアドバイスを丁寧に説明された。またデジタルX線診断システムの落とし穴として，デジタルX線写真の利点欠点を話された。そして「私が今まで一番よく撮れたと思うデンタル写真２枚」を持参され，アナログの良さも訴えられた。

その後活発な質疑応答が行われ，充実したセミナーは終了した。（取材・広報部　渡邊宇一）













卒研リポート2014

No. 4　臨床セミナー
「どうして定期検診を受診してくれないの？」
～行動科学を知ろう～

表題を見ただけで受講したくなる興味深い内容で，今日の取材を楽しみにして参加させて頂いた。

講師は杉原直樹先生（東歯衛生学主任教授）高柳篤史先生（埼玉県開業）岡本智恵先生（東京都藤関歯科医院勤務歯科衛生士）３名講師リレー形式であった。最初に杉原講師より「行動科学とは何か」について講義があった。

行動科学とは

人間の行動を包括的にとらえようとする科学的な研究，もしくはその成果を行動科学とする。

なぜ医療に行動科学が必要か

いかに有効な予防法，治療法が発見されても，患者を健康にできなければ意味がない，そこで行動科学を利用することにより

① 患者の行動の変容や維持に関して理論的に考えることができる
② 医療者，チームが共通の認識で話し合うことができる
③ 患者の把握，介入計画の立案，実行，評価が可能になる

患者が健康を維持，回復，増進しようとする保険行動を望ましい行動に導き患者の負担を軽減し動機づけしていく事により患者が行動変容するのかを理解する必要がある

保険行動をステージでとらえる

無関心期→６カ月以内に行動を変える気がない時期
関 心 期→６カ月以内に行動を変える気がある時期
準 備 期→１カ月以内に行動を変える気がある時期
行 動 期→行動を変えて６カ月以内の時期
維 持 期→行動を変えて６カ月以上の時期

患者のやる気感を「自己効力感」といいい，それが良い方向に向かい自信をつける４つの情報源

① 自己の成功体験
② 代理的説得（他人の成功を見せる）
③ 言語的説明（褒める，応援）
④ 生理的情動的状態（良なり嬉しい）

次に「行動科学の臨床応用の実際」の表題で高柳講師が続けた。

歯科診療は有病率が高く生活習慣に密接に関係しているが，致命に至ることも少ないなどの特徴がある，そのため患者の興味を引くには努力が必要で疾患中心医療から患者中心の医療へのシフトが求められる。患者が保険行動がとれないまたは，持続できないのは本人の問題，環境の問題または，指導に問題があるのかなどを追求する。そのためには患者の日常の行動にも目を向け患者のことをよく知る必要がある。

この様に患者を成功に導くために患者がうまくいかない理由を行動科学的に考え日常臨床に応用することにより個々の患者に寄り添った指導ができる。

休憩をはさんで岡本講師より実際の診療での２症例発表していただいた。続けて２症例の解説を高柳講師が行った。無関心期が三年続いた患者を関心期に導き継続するか，情報を整理し行動科学を臨床にどのように応用していくかを分かりやすく説明いただいた。

最後に杉原先生より患者が歯科診療に期待すること，受診のきっかけ等，患者の動向を１万人のウエーブ調査をもとに解説いただいた。この調査はネット（日本歯科医師会・歯科医療に関する一般生活者の意識調査）で是非見て欲しいとの事であった。

患者を理解し予防行動採用プロセスモデルを組み立て，自分の症例で検証してみるよう勧められていた。

予防行動採用プロセスモデル

ステージ１　問題の無認識
ステージ２　問題を無対処
ステージ３　行うことの意思決定
ステージ４　行わない決定
ステージ５　行う決定
ステージ６　実行
ステージ７　維持

更に，このプロセスモデルが完成という訳ではなく発展応用していかなければならない。と締めくくった。



左より岡本講師・杉原講師・高柳講師

（取材・広報部　西村哲雄）

卒研リポート2014

特別企画　インプラントセミナー　ー臨床から基礎へ，基礎から臨床へー
「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～

6月28日（土）29日（日）7月26日（土）27日（日）の4日間にわたり，TDC水道橋新校舎8階にて，インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～が行われました。



座長は口腔インプラント学講座矢島安朝教授，



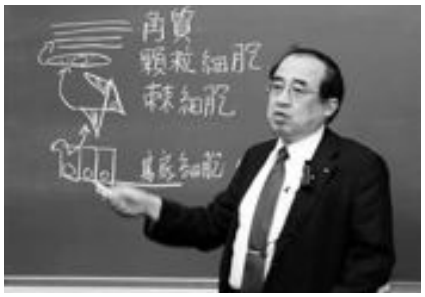
第1日，午前には佐藤先生と武田先生より医療接遇とコミュニケーションの大切さについて講演いただきました。



午後からは，藤関先生と二階堂先生による臨床症例紹介の後，井上先生から病理学見地から解説がありました。

第2日，午前には矢島先生・佐々木先生・福田先生・阿部先生による「インプラント手術時の神経損傷の病態と対応について」

インプラント周囲に非可動粘膜は必要か？
非可動粘膜はあったほうがいいが，インプラント周囲炎のすべてが抑えられるとは限らない，有効性と患者の負担を鑑み術前処置を決定する。



「病理学用語には角化粘膜ってないんだよね！」



ときおり，矢島先生からの鋭い質問が入ります。

午後からは，矢島先生・井上先生・阿部先生より「インプラントと上顎洞の関連性」平田先生より医療訴訟への対応の講演をいただきました。





講師の先生同士もお互いの疑問をぶつけあいます。

もし神経障害を起こしたら？
すぐに抜去しない！専門医にてCTを撮影し，下顎管・神経との関係を確認する。「とりあえず様子見ましょう」はなしです！



受講生の声①
今回は，今まで参加したセミナーとはひと味違う2日間でした。　各テーマに対して，講師の先生方がディスカッションをする事により，深い話になったり，お互い確認を取りあったりと，各分野の横の繋がりから知識の整理ができ，とても有意義でした。残りの2日間も楽しみです。

第３日「ガイデッドサージェリーの確実性を基礎と臨床から検証する　－誤差とエラー，そしてその確実性は？－



ガイデッドサージェリーを行うには確実な術式，もしずれたとしても発見できる知識と対処法が必要である。そしてずれを考慮して安全域をしっかり確保できる顎骨でないとまだ危険である！



サージガイドを使うことによってリスクやヒューマンエラーを減らしたい，術式をシンプルにしたい，自分と患者さんの精神的負担を減らしたい！



コンパクトなパノラマ/CT複合機CBCTは距離計測の精度は高いが焦点からの距離が短いため，撮影領域が大きいほどコーンビーム効果の影響は大きく，画像周辺部での距離計測は避けるほうが賢明！

第４日「インプラント周囲炎のメカニズムを基礎と臨床から検証する　－インプラント周囲炎発症のメカニズムを理解することで最新の対処法を身につける－



天然歯と違い根尖側方向のポケット底がはっきりしないのでインプラントのプロービングはデリケートに！





歯科界における20世紀最大の発見，発明はBrånemarkによるosseointegrationとOsseointegrated implantかも知れない。

Dr.HeoによるFixture Remover Kit（Neobiotech社）は，21世紀に入ってからの最大の発明といえる。

４日間のセミナーの見どころは臨床家と基礎科学者，あるいは臨床家同士の討論で，通常の講演会やメーカー主導のものとは全く違う記憶に残る有意義なセミナーでした。

（取材・広報部　福井雅之・横田東生）

受講生の声②

- 演者の一方的な講演に終わらず，司会の鋭い突っ込みと議論が良かった，熱の入った講演ありがとうございました。
- 外科，ペリオ，補綴，微生物，最後のディスカッションはすごいですね。
- TDCの正しい歯科医療のとらえ方，研究の力，未来性，更には正義感も受け取れました。参加してとても勉強になりました。
- インプラント周囲炎に対してギブアップでしたが，少し光が見えました。
- レベルが高くまだ専門医向きなのかと思った。来年等にまた情報があると嬉しいです。
- 各ステップでズレが生じる事が現実にあるのを考慮して簡単な症例から始めてみようと思った。

平成27年度東京歯科大学入学案内（東京歯科大学入試要項より）

1．入試日程一覧　（全募集人員128名：編入学除く）

入試制度	募集人員	出願期間（期間内必着）	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成26年10月27日〜平成26年11月４日	平成26年11月８日	平成26年11月11日	東京歯科大学水道橋校舎本館
帰国子女・留学生特別選抜	若干名				
編入学試験Ａ	若干名				
学士等特別選抜Ａ	若干名				
一般入試（Ⅰ期）	約50名	平成26年12月17日〜平成27年１月28日	平成27年２月２日	平成27年２月４日	**東京会場**：東京歯科大学水道橋校舎本館 **大阪会場**：TKP新大阪ビジネスセンター **福岡会場**：TKP博多駅前シティセンター
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	13名				
一般入試（Ⅱ期）	約15名	平成27年２月20日〜平成27年３月６日	平成27年３月14日	平成27年３月17日	東京歯科大学水道橋校舎本館
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	５名				
編入学試験Ｂ	若干名				
学士等特別選抜Ｂ	若干名				

※編入学試験Ａ・Ｂは，２年次に編入学

2．出願資格

推薦入学選考（一般公募制）

次の各条件を満たし，かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。
1．平成26年３月高等学校卒業者または平成27年３月高等学校卒業見込の者。
2．人物・性格ともに優れ，健康である者。
3．入学を許可された場合，必ず本大学に入学することを確約できる者。

帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し，入学を許可された場合，日本語での授業を理解できる者。
1．外国において，学校教育における12年の課程を修了した者または平成27年３月31日までに修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2．スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。
3．ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。
4．フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で平成27年３月31日までに18歳に達する者。

編入学試験Ａ・Ｂ，学士等特別選抜Ａ・Ｂ共通

次のいずれかを満たす者とする。
①４年制大学卒業者または平成27年３月卒業見込の者。
②医療技術系短期大学を卒業した者または平成27年３月卒業見込の者。
※医療技術系短期大学とは，看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
③４年制大学に２年以上在学し，所定の単位を取得した者。
※所定の単位は，総単位数65単位以上とし，うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

3．試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制） 帰国子女・ 留学生特別選抜	(1) 小論文 (2) 小テスト〔外国語（英語），数学，理科（物理・化学・生物から１科目選択)〕（出題範囲は一般入試（Ⅰ期）に準ずる） (3) 面　接
一般入試（Ⅰ期） 一般入試（Ⅱ期）	(1) Ⅰ期　学力試験（出題範囲は※１参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から１科目を選択） Ⅱ期　学力試験（出題範囲は※１参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち１科目を選択 (2) 小論文 (3) 面　接
大学入試センター利用試験（Ⅰ期） 大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	(1) 平成27年度大学入試センター試験の受験科目 外国語　「英語（リスニングを除く)」 数　学　「数学Ⅰ・数学Ａ」,「数学Ⅱ・数学Ｂ」の２科目 ※旧教育課程履修者は，旧教育課程による下記の２科目を含めた４科目から２科目選択可 「旧数学Ⅰ・旧数学Ａ」,「旧数学Ⅱ・旧数学Ｂ」 理　科　「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」から２科目 または「物理」,「化学」,「生物」から１科目 ※旧教育課程履修者は，旧教育課程による下記の科目も選択可 「物理Ⅰ」,「化学Ⅰ」,「生物Ⅰ」から１科目 ※理科について，２科目を受験した場合は，高得点の科目を合否判定に使用する。(「物理基礎」,「化学基礎」,「生物基礎」については選択した２科目の点数を１科目の得点として扱う） (2) 小論文 (3) 面　接
編入学試験Ａ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については，数学，物理，化学，生物から１科目選択 （出題は推薦入試に準ずるが，基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（グループ面接・個人面接）
編入学試験Ｂ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜Ａ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については，数学，物理，化学，生物から１科目選択 （出題は推薦入試に準ずるが，基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（個人面接）
学士等特別選抜Ｂ	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科（物理・化学・生物）の基礎知識問題） （中学・高校での履修内容のごく基礎的な内容を出題する） (3) 面　接（個人面接）

※1　一般入試（Ⅰ期，Ⅱ期）学力試験出題範囲
外国語　英語：英語Ⅰ，英語Ⅱ，リーディング，ライティング，およびオーラルコミュニケーションⅠ，Ⅱに共通な事項。ただし，実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。
※数学・理科については，新教育課程による科目と，これに対応する旧教育課程の科目との共通の内容を出題範囲とする。
数　学　数学：新課程【数学Ⅰ（「⑷データの分析」を除く），数学Ⅱ，数学A，数学B（「⑵数列」と「⑶ベクトル」を範囲とする）】
旧課程【数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B（「⑴数列」と「⑵ベクトル」を範囲とする）】
理　科　物理，化学，生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。
・物理：新課程【物理基礎，物理】
旧課程【物理Ⅰ，物理Ⅱ（「⑶物質と原子」の「イ 原子，電子と物質の性質」，「⑷原子と原子核」を除く）】
・化学：新課程【化学基礎，化学】，旧課程【化学Ⅰ，化学Ⅱ】
・生物：新課程【生物基礎，生物】，旧課程【生物Ⅰ，生物Ⅱ（「⑶生物の集団」を除く）】

4．学納金　（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
父兄会費	40,000円
学生会費	17,000円
合計	9,457,000円

―受験科目詳細・入学手続きその他詳細は［入試要項］をご覧下さい―
（入試要項は，下記webサイトから請求可能）
http ://www. tdc. ac. jp/college/applicants/index. html

訂正とお詫び

前6月号会報案内の巻頭グラビアの掲載に誤りがありました。
謹んでお詫び致します。

誤：ふるさと自慢　香川県　小豆島
正：ふるさと自慢　香川県

準会員のページ

現在の学生生活と活動について

歯科医師は人々の健康を守るために，生涯にわたり連携や研修が必要となります。卒業後も共に学び，助け合い，高め合ってゆくために本学の同窓会があります。学生の時から同窓会の活動などについて理解を深めて戴くため，現在，学生の皆さんも準会員として同窓会会員となっています。学生生活や活動についての紹介など，学生さん自身のページとして活用を多いに期待しています。

サ ッ カ ー 部

５年　副主将　稲田潤一郎

東京歯科大学サッカー部は，大学学生部の公式記録の中に昭和30年に蹴球部として登録され，以降約60年間活動を続けています。

OB 名簿には，昭和32年卒業の OB から記載されており，現在，同名簿に登録されている OB は200名を超え，伝統のある部活です 。OB会は昭和36年卒業の佐々木次郎先生を発起人として設立され，同先生が初代の OB 会長に就任されています。

現在の主な活動は，春の関東医歯薬獣リーグ戦，全日本歯科学生総合体育大会への参加と，東京医科歯科大学，大阪歯科大学，日本歯科大学，最近では日本大学松戸歯学部との定期戦を行っています。

東京医科歯科大学と大阪歯科大学との定期戦では，試合後，懇親会を開き，大阪歯科大学との定期戦では OB も参加し，サッカーのことはもちろん学業等のことについて語らい，交流を深めています。

全日本歯科学生総合体育大会では，過去優勝の６回を数え，よい成績を残してきました。近年では平成15年度の優勝を最後に，毎大会優勝候補にあげられるもベスト４にとどまる結果となっており，平成25年度の全日本歯科学生総合体育大会では，第３位という結果





に終わりました。

そして今年は前年より順位を上げ，準優勝という結果となりました。

今年度は，春の関東医歯薬獣リーグ戦では１勝も上げることができず，苦しいチーム状況で，夏の大会では初戦敗退の可能性もありました。

しかしリーグ戦後，毎回，個人の課題やチームの共通意識を確認しチームワークを高め大会に向けて準備をし，大会では，チーム一丸となり挑み準優勝を掴み取ることが出来ました。

また，学友や多くの OB が支援，応援して下さり，学校の繋がりの大きさと大事さを感じた大会になりました。

現在の部員数は23名，先輩たちの培ってきた伝統を基に，今後も文武両道を旨として日々精進していく所存です。

水　泳　部

3年　主将　津谷　尚樹

2014年デンタル優勝

第46回全日本歯科学生総合体育大会水泳部門が８月９・10日に鹿児島県の鴨池公園水泳プールにて行われました。大会期間中に台風が鹿児島県へ上陸する可能性がある？と危惧されておりましたが，大した影響もなく無事に開催されました。

今年の水泳部は総合優勝することができました。昨年の大会で３連覇を逃し，王座奪還の言葉を胸に本当に苦しい練習に耐えてきました。前主将の気合も昨年以上に大きいもので，しっかりと後輩の我々にも伝わり結束力が実を結んだ結果であると私は確信しています。

水泳は個人競技ではありますが，部員同士励まし合い，信じ合い大声援を送った結果，男女ともにベストを更新しポイントを上げることができました。今年は１年生の頑張りも大きかったと思います。中には，大学から水泳部に入部し，経験が少ないのにも関わらず，入賞した１年生もいました。

東京歯科大学の水泳部はかなり以前にも活躍されていましたが，一時期水泳部はなくなったとのことです。その後，昭和47年水泳好きの学生が５，６人集まり水泳同好会が発足しました。千駄ヶ谷のプールで週一回の練習，その後部員が少しずつ増え，部に昇格しました。昭和52年の第10回歯学体で初優勝，昭和56年以降水泳経験者が続々と入部することになりパワーアップしていきます。

そしてパワーアップを加速させたのが，大学の千葉移転です。大学のすぐ横に50メートルの高洲市民プールがあり，昼休み，休講時，放課後と，夏場はかなりきつい練習をこなすことになります。練習の甲斐あって歯学体第14回大会から６連勝，一年ブランクがありますが，第21回大会から18連勝を記録することになります。この間，水泳経験者だけでなく，水泳初心者も多く入部し，大所帯の部になりました。





今年は練習プールが千葉から都内へと移りました。都内にはなかなか50mプールが無いということで，八丁堀にある中央小学校の25mプールという今までと違った環境の中日々の練習に励んできました。そんな中の総合優勝。頑張ってきたことが報われたような気がしました。限られた場所と練習をこなしこの結果を掴み取った水泳部を誇りに思い，王座奪還は本当に嬉しく思います。

今年をはじめとし来年は２連覇を目指し　東京歯科大学水泳部！　名門復活‼　となるように，厳しい練習に励んで参ります。

この努力は歯科医師になった時に糧となり力となり自信になるでしょうし，この思いを先輩とともに後輩に伝えていきたいと思います。

最後に，部長の山本先生をはじめ，監督，OB，OGの方々，関係者の皆様のご支援にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今後も水泳部の応援を宜しくお願い致します。

バレーボール部

2014　第46回全日本歯科学生総合体育大会　バレーボール部門

４年　主務　都田絵梨奈

＜東京歯科大学バレーボール部の歴史＞

東京歯科大学バレーボール部は昭和22年に創部され，近年では平成19，23，25年に男女総合優勝を遂げている。また，総合優勝した年は男子はすべて優勝している。
本年度は男女総合２位。女子は優勝，男子は惜しくも予選で敗退した。
女子の優勝は昭和62年第19回歯学大会以来27年ぶりのこと。

こんにちは。バレーボール部です。

この度，第46回全日本歯科学生総合体育大会で27年ぶりに女子が優勝することが出来ました。

私たち女子バレーボール部は学部の４年生５人，３年生３人，１年生４人，衛生士校の３年生２人（マネージャー１名を含む）の計14人で活動しています。

優勝を手にしたときは，あまりの嬉しさに思わず『ついに…』と口から漏れてしまうほどでした。

私たちは一昨年の大会では３位，去年の大会では２位という成績であり，今年の大会に対する“優勝”への思いは格別なものでした。

去年との一番大きな変化は，去年の夏以降に大学のキャンパスが水道橋へと移ったことでした。水道橋での生活は便利なことも多々ありますが，部活で体育館を使用する私たちにとっては，平日に授業が終わってから体育館のある稲毛の校舎へ足を運ぶことが，体力的にも精神的にもとても厳しく，練習時間も1.5時間と短く慌ただしいスケジュールで，満足に練習ができるのは土曜日のみという状況でした。思えば稲毛駅から稲毛校舎までのバスの車中，みんなで寝るということが定例行事の様でした。限られた時間内でいかに効率よく練習を行うかということで練習方法を見直したり，一本一本に集中したりと時間の大切さをとても感じました。幸いにも私たちのチームは昨年とメンバーが大きく変わることが無く，チームワークは万全。また，今年度は新入生の入部も心強い味方となりました。いつも練習は和気藹々と，メリハリをつけて楽しく行っています。

例年本学バレーボール部がこのような上位の成績を収められるのは，バレーボールにおいて大事な，チーム内の関係性にあると思います。競技自体は男女別に行いますが，私たちは男女間や先輩後輩の壁をあまり感じないほど仲が良く，お互いを鼓舞し，時に刺激し合えるということであると思います。事実，女子は優勝経験のある男子の先輩方の背中をみて，私



たちも優勝したいという思いが強くなっていったことで活気づけられ，今回の様な結果に結ばれたと思っています。

私たちがここまでくることができたのも，今まで東歯のバレーボール部を造り上げてくださったOB・OGはもちろんのこと，勉強や仕事の忙しい合間を縫って私たちの練習の手伝いをしてくださったOB・OG，応援してくれた友達，家族，そして支えてくださった新谷部長のおかげだと思っています。ありがとうございました。

来年は，女子は連覇に向けてそして男女総合優勝を目指して，より一層気を引き締め精進していきたいと思います。

これからも応援よろしくお願いします。





管　弦　楽　部

東京歯科大学管弦楽団　第37回定期演奏会開催

3年　団長　千葉　弘貴

管弦楽部は平成26年7月27日（日），本校千葉校舎講堂で東京歯科大学管弦楽団「第37回定期演奏会」を開催いたしました。水道橋校舎への移転に伴い，昨年で最後の千葉校舎における演奏会になるかと案じられましたが，今年もまた無事に演奏会を行うことができました。演奏会を開催するにあたって，大学からの部活動への深いご理解とご協力を賜りましたこと，心より感謝いたしております。また，長きにわたり当楽団の活動を支援してくださった千葉校舎近隣の皆様には厚く御礼申しあげます。

指揮者・直井大輔さんのタクトの元，前半はエルガーの『愛の挨拶　Op. 12』を，モーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』を，そして後半にはベートーヴェンの『交響曲第1番ハ長調　Op. 21』を演奏いたしました。ベートーヴェン演奏後には，団長・千葉弘貴（3年）が「再び千葉校舎で演奏できた喜び」，そして「千葉校舎での演奏を待ち望んでくださった地域住民の方々へのお礼」をスピーチいたしました。スピーチの後は，アンコール曲のバッハ『G線上のアリア』を弦楽5重奏で演奏いたしまして，終演後も温かい拍手が鳴りやまないなか，演奏会は大盛況のうちに終了いたしました。

たくさんのお客様からいただいたアンケートの中には，千葉での演奏会を心待ちにしてくださった方々のメッセージも多く，「来年以降もまた楽しみにしています！」とのお声かけもいただきました。また，遠方へ足を運ぶことが難しくなられたご高齢の方からのお手紙では，「近所でオーケストラをきけることがとても嬉しい。」と，心温まるお言葉をいただきました。

ホールに鳴り響いた「音」とお客様の「笑顔」の記憶が，また千葉へ感動と感謝を届けたいという“思い”に繋がる演奏会となりました。





今年度の管弦楽部は，秋以降もサロンコンサートや福祉施設での演奏など，定期演奏会の他にも精力的に活動を行う予定です。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



学生の静岡県人会に参加して

東京歯科大学同窓会静岡県支部
専務理事　喜田　真司（S60卒）

本学クラウンブリッジ補綴学講座主任教授　佐藤　亨先生より静岡県人会新入生歓迎会へのご連絡とお誘いを，同窓会静岡県支部松下　茂支部長（S50卒）宛に初めていただき，同窓会静岡県支部として駿東地区の會田貴久先生（H18卒）とともに参加しました。

７月16日水曜日午後７時，水道橋校舎近くで，駅の北側にある東京ドームシティ　ミーツポート３F，ライティングされたガーデンテラスもある景色の大変良好でお洒落なイタリアンレストラン『ENTOROA　DIANA』にて歓迎会は行われました。

OB・教員16名の前に本年入学の新入生10名のうち７名の参加学生が着席し，２年生以上の学生27名が学年ごとにその上座を取り囲むというスタイルで，我々同窓会県支部からの参加者２名を含め，参加者総数52名の大所帯でお店貸し切り大盛況の県人会でした。

本年度は，小笠・掛川地区の藤田雄二先生（S57卒）のご子息である藤田理志君（４年生）が幹事を務め，４年生の学生によるプロデュースのもと開催していました。

私も学生時代は無論，卒業後も教職員としても参加していた県人会ですが，大学を離れてから初めて参加したその会は，当時とは少し異なり，佐藤先生ならびに教職員そして幹事学年生（４年生）のお人柄もあってのことでしょう，和気藹々のなかにもしっかり統制のとれた大変素晴らしい県人会で，とても感動感激しました。

参加者全員の挨拶を聞くと，私の出身高校OB，顔見知りの同窓生のご子息も多く見受けられました。我々も同窓会県支部からの参加ということで，私喜田と會田貴久先生が自己紹介と挨拶をしました。欠席者は数名しかいないなかで開催された県人会ということで，特に，地元静岡県に戻った際には，この県人会同様に皆で楽しく同窓会へ参加しようと話をしました。

この素敵な県人会に参加する皆様と同窓会県支部が密な関係を築くことで，将来の本学同窓会の発展に必ずや繋がることと確信した最高の会でした。毎年一回の開催ということですので，同窓会県支部としてこれから毎年参加したいと思っています。

現役の学生と共有できました楽しい時間，同窓会静岡県支部にお声をお掛けいただいた佐藤　亨先生，幹事の藤田理志君，また私共を派遣していただいた松下　茂県支部長，そして参加されました皆さんの笑顔に，感謝申し上げます。



父兄会だより

父兄会会長就任の挨拶



新会長　荻　原　俊　美

平成26年度，第68代東京歯科大学父兄会会長を拝命することになりました荻原俊美と申します。身に余る重責ではありますが，寺本信三前会長や歴代会長，役員の皆様が築き上げてきた大きな功績を見習い，父兄会の円滑な運営に務めて参ります。

父兄会活動の最大の目的は，在学生が学業に専念できるようサポートしていくことでございます。そのために大学とご父兄との連携を密接に保ちながら，必要な事業を時々の要請に合わせて的確に行っております。

本年４月より，第１学年から第６学年までのすべての学生が水道橋キャンパスで学んでおります。水道橋キャンパスは，すでに見学された先生方も多数いらっしゃるかと存じますが，各施設の様々な設備が有機的に機能するよう良く考えられて設計されております。最大の特徴は学生と教職員の方々との距離が格段に近くになったことではないでしょうか。これにより本学の特徴である「きめ細やかで面倒見の良い指導」が更に充実されたと感じております。同窓の先生方もご子弟の東京歯科大学への進学を積極的にご検討ください。

さて，歯科医師国家試験ですが，本学は全国29歯科大学，歯学部の中で，３年連続合格率総合第一位という素晴しい成績をあげることができております。この結果は井出吉信学長のご指導のもと，東京歯科大学すべての教職員の方々のおかげであり，大変感謝しております。また，同窓会におかれましては，在学中の学生を新たに準会員として迎え入れていただき，学生時代から「専門職」としての生涯研修の必要性を教えていただけることになり，大変ありがたく思っております。父兄会は，東京歯科大学を卒業し，同窓歯科医師となられた方々が歯科界をリードする逸材となれますように，矢﨑秀昭会長をはじめ同窓会の皆様の協力を仰いで参りたいと存じます。

最後になりましたが，同窓会の皆様方のご健勝と，来年創立120周年を迎える同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして父兄会会長就任の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

父兄会会長退任の挨拶



前会長　寺　本　信　三

この度，任期満了に伴い，平成25年度父兄会会長を退任致しました。

在任中は，矢﨑同窓会会長をはじめ，同窓会会員の皆様のご支援，ご指導，ご協力により，無事に任期を全うできましたことを，ここに改めて感謝御礼申し上げます。

平成25年度は，本学が水道橋に原点回帰した記念すべき年でありました。新校舎の竣工式，祝賀会など多くの記念行事が執り行われ，常に日本の歯科医学界をリードしてきた東京歯科大学の歴史に，新たな１ページが刻まれたことを実感した一年間でありました。また，２月に実施された第107回歯科医師国家試験では，本年度も国公私立の頂点，全国一位の成績を残すことが出来ました。これは学生達の日々の努力が実を結んだ結果であり，また教職員の皆様の細部にわたる献身的なご指導，温かいサポートによるものであると強く感じております。

現在119期生は研修医制度に則り，各々の研修機関で日々研修に励んでおります。この時期に学んだ多くの経験が，今後長い間，歯科医師として過ごす時間の大切な基礎となります。どのような時代背景になろうとも，「血脇イズム」を胸に，常に謙虚さを忘れず，社会貢献できる歯科医師に大きく成長できるよう，真に願っております。更なる同窓会の皆様のご指導・ご支援の程，宜しくお願い申し上げます。

併せて，平成26年度の新会長に就任されました荻原俊美会長は，信頼関係が厚く，学識豊かなお人柄であり，父兄会の円滑な運営をされるのにふさわしい方であると存じます。同窓会の皆様には現状をご理解いただき，更なるご支援を賜りますよう切にお願いし，同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ，会長退任の挨拶とさせて頂きます。

追　　悼

石川達也先生を偲んで

細　川　伊　平（昭和44年卒）



平成26年７月２日の朝，御子息の博基先生から父の容態が良くないとの連絡があり，私は午後，入院先の市川病院へ向いましたが先生は，すでに85才の生涯を終えられ，遠くに旅立たれていました。先生のお顔は今にも私に話しかけて下さる様な優しい表情であられました。夕刻，先生のご遺体は大勢の市川病院の教職員のお見送りをうけ病院を後にしました。先生が入院中，何度かお見舞に参りましたが，お元気な頃は，私が帰る時にご挨拶をすると優しそうな笑顔でうなずかれ見送って下さいました。

先生は若き39才の教授の時，昭和44年卒業（福祉



会）の私達の学年主任を担当され当時は大学紛争の最盛りの時代で，本学にも過激な学生がいて，卒業式を妨害，阻止するなどの噂がありましたが，先生の指導力で，無事，卒業式を終え全員，国家試験に合格することが出来ました。

卒業後，私達の福祉会は毎年，クラス会を開催し，現在も続いていますが，先生は奥様とご一緒に，よくご参加下さいました。

私は卒業後，先生の教室に残らせていただきましたが，その頃は，診療姿勢が立位から座位診療へと変わる時代で，先生は先頭にたって，夜遅くまで学生の指導に当っておられました。また，この頃は色々な修復材料が登場し，これらの材料を論文のテーマとし，数多くの論文を発表されました。

また，先生は昭和45年，創立80周年記念事業の一環として企画された血脇守之助傳は，多くの苦難の道を乗り越えられ，10年近くの歳月をかけ昭和54年２月，松宮学長先生の時に刊行されました。

先生は講座の勉強会で著明な先生を招き，時には長期間に亘る講習会を開催し，教室員の知識と技術の向上に努めて下さいました。

また，保存第３講座出身の同門会（ミラークラブ）をつくり，年に１回，夏休みにかけ研修旅行を企画して下さいました。

昭和63年，先生の千葉病院長就任と還暦のお祝をかねて香港旅行を企画し，保坂　誠先生が幹事になり，先生の奥様とお孫様，そしてミラークラブの先生方の家族も参加された香港旅行も，今は良き思い出になりました。

先生が学長職の頃はご多忙で，お会いする機会が少なくなりましたが，私は安田火災診療所で博基先生と一緒に仕事をする時期があり，先生のご様子を，お伺い知ることが出来ました。博基先生は，その後，新宿で開業され，先生と同級生の松本圭司，足代弘文両先生が開業されてましたので，先生が大学をご退任後，矢崎先生は新宿支部の名誉会員としてお招き，総会や忘年会，時には会の旅行にお孫様と一緒にご参加下さいました。

先生が80才を迎える頃，門下生から先生がお元気な時に，ミラークラブを開催してとの声があり，会長の庵原邦彦先生，槇石武美先生が発起人となり，松井恭平，間　滋両先生に補佐をお願いし，平成22年10月17日帝国ホテルにて，石川先生御夫妻をお招きしました。先生は久し振りに門下生とお会し，嬉しそうに談笑されている姿を拝見し，この会を催してあげ良かったと思いました。

先生は，大学の内外を問わず多くの偉業を成し遂げられ，その業績は余りにも大きく一言で云えるものではありません。

先生には，まだまだ，ご指導を頂きたかったですが，これからは先生のお教えを糧として人生を歩んで参りますので，どうか天上よりお守り下さい。

仕事を離れたプライベートの時に，リラックスして飲んだり，食べたり，歌ったりした時の先生の優しく楽しそうな笑顔が目に浮かびます。長い間，本当に有難うございました。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。





支部のうごき

東北地域支部連合会

第51回　東北地域支部連合会役員協議会並びに総会開催

平成26年６月21日(土)午後２時半より秋田キャッスルホテル放光の間に於いて連合会会員57名の出席により，定時総会が開催された。同窓会本部より矢﨑秀昭会長，臼井文規常任理事，椎木一雄地域理事並びに本大学よりオーラルメディシン・口腔外科学講座片倉　朗主任教授を学長代理兼任としてご来賓を頂戴した。さらに自由民主党　島村　大参議院議員並びに白須賀貴樹衆議院議員にも迎接を賜った。

定時総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞で始まり，藤原元幸東北地域支部連合会会長が挨拶に登壇した。次に同窓会本部役員ご挨拶として矢﨑秀昭会長が現在の同窓会体制における総括説明と本学水道橋校舎への詳細なる現状報告を行った。そして本大学内近況報告として，片倉　朗学長代理からは今年も全国の国公立・私立中第１位の国家試験合格率３連覇達成の駿驥報告を拝聴した。さらに水道橋への順調な分散移転が進められ，更なる高度医療と教育・研究の環境整備が成されている事を詳細に報告した。また，臼井文規常任理事からは今後の同窓会本部改革案の要旨並びに東北地域支部連合会改革案が的確に解説された。そして椎木一雄地域理事から今後の連合会運営の抱負説明が為された。

会務報告並びに事業決算・計画案予算案も全会一致で快承認された。定時総会終了後，片倉　朗教授による「歯科医師の目で見つけよう口腔粘膜疾患　全身的病態からの口腔症状と早期口腔がんのとらえ方」の演題で学術講演会が行われ，臨床に直結した基礎的知識と最新研究概要並びに国家試験難問題に対する模範的解釈と詳細丁寧な解説を拝聴した。

記念写真撮影後，太田　晃顧問の祝杯献上によって連合会懇親会が祝宴し，終始懇談の大華艶が舞った。　　（五味明雄　記）





写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



信越地域支部連合会

日時：平成26年７月５日（土）
場所：糸魚川市　ホテル国富翠泉閣

連合会総会

◎開 会 の 辞
　岡田泰幸先生（新潟）
◎議長・副議長選出
　議　長
　佐藤昭雄先生（新潟）
　副議長
　小池平一郎先生（長野）
◎信越地域支部連合会長挨拶
　阿部高夫先生

本日はお忙しい中，矢﨑同窓会会長，髙橋専務理事，金子前理事長並びにご来賓各位，多くの会員の皆様にご出席いただき誠にありがとうございます。私は今年より２年間支部長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。新潟県の先生方には，このように立派な総会を準備していただきまして，誠にありがとうございます。長野県の会員は今回は野を越え山を越えやってきました。今日は充分に楽しんでいきたいと思います。

◎来 賓 挨 拶
　東京歯科大学同窓会会長
　矢﨑秀昭先生

今年も東京歯科大学は国家試験で全国１位を獲得いたしました。この状態を維持できるように同窓会も後押しをしていこうと思います。新血脇記念ホールの寄付金は３月31日をもって締め切りさせていただきました。皆様ご協力どうもありがとうございました。母校から２人の国会議員が衆参１名ずつ出ています。是非ともこの２名を盛りたてていきましょう。来年11月29日（日）に120周年記念式典が行われます。是非皆様のご参加をお待ちしております。

　東京歯科大学前理事長
　金子　譲先生

５月31日をもって退任いたしました。学長７年，理事長を３年を含め56年間東京歯科大学にお世話になりました。東京歯科大学が臨床，研究共に日本一の歯科大学となるよう，皆様よりさらなるご支援をお願いいたします。

７月２日に石川達也元学長がご逝去されました。石川先生のご冥福をお祈り申し上げます。






金子前理事長の挨拶


矢﨑同窓会会長の挨拶


総会の様子

東京歯科大学同窓会専務理事
髙橋義一先生

今年は会員名簿の発行年となっております。同窓会報６月号に同封されている会員調査票を必ずご提出お願いいたします。若い人の支部加入率が低下しています。同窓会の存在を知ってもらうために準会員制度と新進会員制度を昨年より初めました。

◎庶務報告・会計報告

共に承認され，両県のご逝去された会員と故石川達也元学長に黙祷を捧げた。

◎次期開催地

長野県軽井沢で開催予定。

◎閉 会 の 辞

広瀬　秀先生（新潟）

◎記 念 講 演

『「夢と絆」～翻弄された24年間を振り返って～』

講師　新潟産業大学経済学部


校歌斉唱

准教授　蓮池　薫先生

（加茂芳江 記）

新潟県支部総会

連合会総会に引き続き開催

◎開 会 の 辞　岡田泰幸先生

◎議 長 選 出　佐藤昭雄先生

◎支部長挨拶　阿部晴弘先生

本日は糸魚川のさらに奥，長野県境にある秘境の姫川温泉までようこそいらっしゃいました。金子譲先生が５月31日に理事長を退任されました。また，元学長の石川達也先生が７月２日にご逝去されました。享年85歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

私は新潟県支部長を２年間続けていきますので，ご協力の程，お願い申し上げます。

東京歯科大学は４月よりすべての学生が水道橋で学び始めました。また，今回の国試では95％近い歯学部中トップの合格率で大変誇らしく思っております。これからも私学の雄としてさらなる発展を遂げていくことを願っております。皆様，これからも母校を応援して下さい。

◎新潟県支部新理事・新入会員紹介

新理事：

南魚沼市　岡村芳昭先生
（昭和48年卒）

魚沼市　藤本　誠先生
（昭和51年卒）

新入会員：

上越市　大山賢司先生
（平成３年卒）

◎庶 務 報 告　岡田泰幸先生
（平成25年６月29日～
平成26年７月５日）

会員数　126名
（内　優遇会員38名）

新入会員　１名

物故会員

胎内市　野澤　譲先生
（昭和38年卒）

長岡市　山田達雄先生(推)

◎会 計 報 告　片桐利雄先生

平成25年度新潟県支部会計報告

平成26年度新潟県支部現計報告

以上，異議なく承認された。

◎報　　告　岡田泰幸先生

今まで県支部総会は，新潟市の理事が企画運営をしていたが，マンパワー不足のため今のメンバーで行うことが困難になってきている。今後は上中下越の３つの地区で企画運営できるように徐々に移行していきたい。

◎議事・協議

次期は下越地区担当で開催する案が承認された。

◎閉 会 の 辞

副支部長　広瀬　秀先生

（加茂芳江 記）

近畿地域支部連合会

近畿地域支部連合同窓会ゴルフコンペ

平成26年５月18日（日），大阪府堺市の天野山カントリークラブにて近畿連合同窓会のゴルフコンペが開催されました。この日は快晴でしかも暑くもなく，ゴルフには最高のコンディションでした。瓦葺きの大きなクラブハウスとコースから見下ろせる大阪の町，そしてその奥にみえる山々が印象的でした。独特なコースレイアウトや，フェアウェイを左右から包み込むような木々にプレッシャーを感じながらも，同窓会の先生方とはリラックスしながらいつも楽しくプレーできると思えた非常に楽しい一日でした。優勝は滋賀県の龍山政弘先生で，アウト40，イン40のトータル80，HDCP11.0，ネット69でした。ベストグロスは兵庫県の宗本匡由先生で，アウト39，イン39のトータル78でした。競技終了後，懇親会と結果発表，賞品授与が行われました。

順位	氏　名	東	南	GROSS	HDCP	NET	
1	龍山　政弘	40	40	80	11.0	69.0	（滋　賀）
2	宗本　匡由	39	39	78	8.0	70.0	（兵　庫）
3	山本　勇一	45	46	91	20.0	71.0	（大　阪）
4	田中　令子	51	53	104	30.0	74.0	（和歌山）
5	冨山佳寿人	42	42	84	9.0	75.0	（滋　賀）
6	戸村　博臣	43	43	86	10.0	76.0	（和歌山）
7	中村　　忠	43	43	86	8.0	78.0	（滋　賀）
8	田丸　秀夫	54	57	111	32.4	78.6	（大　阪）
9	栗山　雄治	46	49	95	15.0	80.0	（和歌山）
10	髙木　祥広	53	47	100	20.0	80.0	（大　阪）
11	田中　紀夫	54	52	106	20.0	86.0	（和歌山）
12	戸﨑　秀樹	67	64	131	30.0	101.0	（滋　賀）

近畿地区ではこのように年に一度ゴルフコンペを開催しておりますが，今年は11月24日に開催される近畿連合同窓会にあわせ，前日の23日にもゴルフコンペを開催することとなりました。近畿連合同窓会は和歌山県の担当ですが，コースは今のところ，大阪府南部にある大阪ゴルフクラブを予定しております。もし参加していただける先生がいらっしゃいましたら，各支部長や福祉担当理事，或いはゴルフ担当者にご連絡いただければと思います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

今回の結果は上記の通りです。今回も参加していただいた先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

（大阪府支部広報･髙木祥広　記）



四国地域支部連合会



平成26年度　四国地域支部連合同窓会

５月10日(土)，松山全日空ホテルにて四国連合同窓会を開催しました。関谷　栄先生の司会により，兵藤正帛先生の開会の辞，年齢によらず声高らかな校歌斉唱，ご逝去された先生方への黙祷の後，松木建二支部長の挨拶で総会が始まりました。

まず同窓会長，矢﨑秀昭先生よりご挨拶があり，若手支援ネットワークを充実させて同窓会また歯科医師会への入会を支援していきたいとの事でした。次に千葉病院長，井上　孝先生より母校の国家試験での頑張りと今の学生の過密スケジュールの報告があり，最近の国家試験を何問か紹介していただきました。その難しさに皆ざわめき，学生さんにエールを送る思いでした。そして専務理事，髙橋義一先生より同窓会の現状の詳しい説明がありました。ご来賓最後は，連合会長で地元の久保田　晃先生です。昨年香川大会の報告があり，そろそろ引退したいとの思いを語られましたが，さっそく慰留の声があがっていました。

その後協議を終え，来年開催の高知支部長，西川文雄先生の挨拶，山本昌司先生の閉会の辞で総会を終了しました。

総会にひき続き，井上　孝先生による再生医療の現状と今後の問題点についての講演がありました。現在ラットでは歯も再生され，歯根膜も作られていました。2030年頃にはすばらしい再生医療の世界があるようで，ひたすら感心して聞き入ってました。

井上先生，解りやすくユーモアたっぷりの講演ありがとうございました。最後の，くよくよしてると老化が早いとの話，一同肝に銘じました。

そしていよいよ懇親会です。新真美，西岡優子両先生のなんとも和やかな司会でスタートしました。アトラクションとして山本昌司先生率いるジャズバンド演奏があり，ダンディな先生のサックスに会は大いに盛り上がりました。四国の同窓会はとにかくよく飲みます。この日も延々と深夜徘徊です。四国中から参加くださった先生方，本当にお疲れさまでした。来年高知でお会いしましょう。

最後になりましたが，この会の６日前に愛媛支部理事の山田哲美先生が急逝されました。今回も我々の兄貴分として，中心となって準備を進めていた心優しいマラソンランナーでした。残念でなりません。これからは天国から見守ってください。来年は高知ですぜ！　　（宇都宮慎児　記）



写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。

神奈川県支部連合同窓会

８月３日（日）に，本年度の会員家族レクリエーションが行われた。今回は，「夏の涼を求めて」というテーマで，東京都奥多摩地方を巡るバスツアーを企画した。

やや蒸し暑い曇り空の中，36名の参加者を乗せたバスは，横浜を８時半に出発した。出発の際には，島村　大参議院議員が見送りに駆けつけてくださった。忙しい議員活動の中，本会会員としての気配りをしてくださることはありがたい限りである。11時頃には最初の目的地である檜原村「払沢（ほっさわ）の滝」に到着。バスを降りるとすでにひんやりとした空気が漂い，滝まで続くマイナスイオンいっぱいの山道を10分ぐらい歩く。と，そこに「日本の滝100選」にも選ばれている名瀑が姿を現した。古くは「払子の滝」とも呼ばれ，滝の水が落ちるさまが僧侶の払子を垂らしたように見えたのでこの名がついたという。滝のすぐ近くまで近づくことができるので，皆思い思いのポーズで写真に収まっていた。

滝の見学を終えて，すぐ近くにある秋川渓谷のコテージ森林村へ移動。本会では久しぶりの真夏のバーベキューを行った。キンキンに冷えた生ビールで乾杯した後，５テーブルに別れて昼食を楽しんだ。20リットル用意した生ビールがあっという間に空になったのは暑さのせい？お腹が満たされた頃に，すぐ近くの川で子ども達限定の「マスのつかみ取り大会」を挙行！イキが良くて半分ぐらい逃げることがあるといわれていたが，みんな夢中になってつかんでくれたため大漁となり，すぐさまバーベキューの食材として追加されたことはいうまでもない。

本来ならば，昼食後は日原鍾乳洞の見学を行う予定だったが，しばらく前から集中豪雨のため，鍾乳洞に向かう道に土砂崩れが起こり，大型バスが通行できないというハプニングが生じた。そのため，急遽行き先を御岳山に変更。ケーブルカーで山頂駅に到着した後，自由行動とした。食べ過ぎ，飲み過ぎのためか，そこから動かない者もいれば，元気よく頂上の神社を目指す強者もいた。ひんやりとした空気はとても気持ちよく，レンゲショウマを見ながらのミニハイキングはなかなか楽しいものであった。

楽しい思い出を乗せて，バスは圏央道と東名高速が繋がったためスイスイと横浜へ戻り，その後川崎で解散した。　（川越元久 記）







群 馬 県 支 部







平成26年度　群馬県同窓会
総会・学術講演会

平成26年度の群馬県同窓会　総会・学術講演会は，７月13日（土）に高崎駅に隣接されたホテルメトロポリタン高崎でおこなわれた。

例年は温泉地で宿泊をしておこなってきたが，宿泊こみでの温泉地での開催では，女性会員の出席が難しいとの意見があり，交通の便の良いホテルで懇親会をランチの形式で開催した方が出席しやすいのではないかとの引田会長の提案で，今年は午前中に講演会と総会，そしてランチに合わせた懇親会の形式で開催した。

講演会は公開講座として他大学の先生の参加も得て開催した。講師は同窓会常任理事であり女性歯科医師の会で，ご活躍されている高野博子先生をお呼びし，テーマを「地域医療を続けられる幸せ」と題して，葛飾区で先生が実際に行われている地域に根付いた歯科保健活動についてお話いただいた。私たちも群馬県という地方の地域医療を支えている者として非常に興味深いお話であり，今後の活動の参考とし住民の健康保持という目標のもと，より良い地域医療活動へと繋げていきたいと思う。

また総会に先立ち，高野先生より若手ネットワークの活動を主に同窓会本部の活動と動向について説明がされた。議事としては，H25年度の事業報告ならびに一般会計収支決算等の議決後，群馬県においても会員の高齢化に伴う福祉共済部門の取り扱いについて議論が交わされた。総会後に行われた懇親会は，女性会員が多かったせいか，いつにも増して和やかな雰囲気の中で行われ，森下監事の指揮のもと校歌斉唱をもって終了した。　（片野勝司 記）



埼 玉 県 支 部

平成26年度総会

平成26年７月13日（日），ブリランテ武蔵野において26年度埼玉県支部学術講演，総会，懇親会が開催されました。

学術講演は東京歯科大学歯科社会保障学担当教授　上條英之先生に“これからの歯科医療サービスの展望と課題「歯科診療報酬改定を含む最近の歯科関連施策の動きと基金（新たな財政支援制度）の内容について」”というテーマで，歯科界のみならず医科や介護を含めた社会保障の現状と今後についてご講演いただきました。質疑応答でも時間を超過するほど活発な意見交換がされました。

総会に移り，まずは物故会員に黙祷を捧げました。来賓の同窓会常任理事小林慶太先生に同窓会の活動について，今回はご臨席叶わなかった井出学長の代行として田﨑雅和教授からは入試，国家試験の状況についてご説明いただきました。国家試験合格率の全国一位，最近の入試偏差値の高さと既卒者の合格率の高さに会員からは感嘆の声が上がっておりました。また，埼玉県歯科医師会副会長の小杉国武先生にもご挨拶をいただきました。同窓会の未入会対策にも引き続き力を入れていくことも確認されました。続いて野上宏一議長，田原邦昭副議長の下，議事は滞りなく進行し４議案すべてが賛成多数で承認され，総会を無事終了いたしました。

隣接する会場に移動し懇親会は行われました。埼玉県歯科医師会常任理事の齋藤秀子先生にご挨拶と県での活動についてのご報告を頂戴した後に，成田賢二先生の乾杯ご発声にてのどを潤した後，歓談に移り和やかな時間を過ごしました。同窓会員の親睦を図り結束を強めるよい機会として，ゴルフ会や大学対抗ソフトボール大会の開催のアナウンスもありました。

美味しいお酒とすばらしい料理を満喫し年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが，時はあっという間に過ぎ，大和田一彦先生指揮によって校歌を斉唱し盛況のうちにお開きとなりました。　（小杉憲吾 記）



同級生





写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



横浜南部支部

夏の会員・家族・従業員レクリエーション開催

平成26年８月23日（土）午後６時30分より，横浜市金沢区のすし処「かねへい」において，毎夏恒例の会員・家族・従業員レクリエーションが開催された。

昨年のレクリエーションは金沢区の歴史散策を行ったが，今年は金沢区主催の花火大会を見物した。お寿司屋さんの２階で海の幸を堪能しながら夏の夜空に打ちあがる花火を眺めようという贅沢な趣向である。

この花火大会は横浜市内でも有数の花火大会で，大勢の見物客が訪れる。見物に最適な潮干狩りやバーベキューで有名な海の公園エリア一帯は厳しい交通規制が敷かれ，アクセスのシーサイドラインは臨時便が大幅に増便される。





会は浅川　仁専務理事の司会で開会，鈴木信治支部長の挨拶の後，ご来賓の神奈川県支部連合同窓会会長杉山紀子先生にご挨拶をいただき，本会玉井達人相談役による乾杯のご発声で開宴した。



地元柴漁港で上がった新鮮な魚介類を材料に，お刺身，天ぷら，塩焼きと料理は進み，一方浅川専務のご子息の中学受験見事合格の嬉しいお知らせなども披露され，まさに和気藹々の雰囲気で会は進行した。そしていよいよ待望の花火が始まった。



大小様々色とりどりの大輪が咲き誇る中，キャラクターの顔を模した新作の花火なども楽しめ，轟音とともに打ち上がる美しい花火を存分に楽しんだ。



最後の花火がうち上がる頃ちょうど会もお開きとなり，恒例の記念写真を撮影して散会した。

（横浜南部支部広報・
渡邊宇一　記）

横浜鶴見支部

８月30日（土）午後６時より17名参加のもと，関内「イサベラ」において会員・家族レクリエーションが開催された。

横浜に居ながらにして世界の料理を食す第９弾となる今回は「スペイン料理」老舗スペイン料理店を貸し切って大いに盛り上がった。

定刻となり，佐藤秀夫会長の挨拶に続き，吉田礎久先生の乾杯で開宴した。もちろん飲み放題。乾杯とともに「瓶ビール追加お願いします」の声が各テーブルから聞こえてくる。喉が潤ったところで，「オードブル」（スペイン生ハム・タコのピリピリソース和え・小イワシのマリネ・スペインチョリソ）がテーブルに。どれもお酒に合うものばかりで早くも「サングリア頼んでから，お次はワインだね」

次に「小海老のアヒージョ」が運ばれる。オリーブオイルとニンニクで煮込まれた小海老を殻ごと楽しみ，パンを熱々の旨味凝縮のオイルに浸み込ませて食べるとこれまた美味。「白ワイン」が飛ぶように追加された。参加最年少の小学６年生は「大人がみんな飲み放題のメニューを上から順番に頼んでいるから，僕はソフトドリンク完全制覇だ」とにこやかな笑顔。程なくして見事に完全制覇達成。「お腹がタップんタップん」のコメントに一同大爆笑。

フワフワな「スペインオムレツ」の食感と味わいを楽しんでから，今回どうしてもコースメニューに組み入れたかった「牛ミノ柔らか煮」が登場。ミノのとろけるような柔らかさと特製デミグラスソースとの相性抜群。これにはやっぱり「赤ワイン」とお店のワイングラスが足りなくなる勢い。

途中，毎年恒例の「会員近況報告」が行われ，各々が近況を語り合った。

〆は名物「パエリヤ」じっくり旨味エキスを吸った黄色のサフランライスとカラフルな野菜，魚介類，肉などの具材の色合いは目でも楽しめ，もちろんお味も最高。宴もたけなわとなり，まだまだ飲み足りないが，ここは紳士の集まり。終宴時間定刻の午後８時。森田正純先生の閉会の辞を以ってお開きとなった。

（宇佐美貴弘 記）










川　崎　支　部

平成26年　学術講演会開催

平成26年６月14日（土），川崎市中原歯科保健センターにおいて，本学臨床検査病理学講座主任教授の井上　孝千葉病院長を招き，「検査病理からみた歯科医療の矛盾」の題で恒例の学術講演会が行われた。

講演に先立ち大学の近況報告がされ，水道橋移転に当たり，千葉病院の今後の在り方などの説明や，国家試験合格率１位を維持していくための方策など学生教育の話が合った。現在の国家試験が10問紹介されたが，我々のころと比べて数段難しくなっており，子弟が大学に通われている会員は子供のことを案じていたようである。

講演は歯科医療を点（時点）線（加齢）面（老化）で捉えていく考え方が紹介された。加齢を考慮し歯科医療を考えていくことは難しいが，年齢・人に応じた歯科医療を考えなければならない時代がきているようである。再生医療の話では，ラットでは成功しているが，ヒトではまだまだ時間がかかるようである。

講演後会場を移し，古賀克隆支部長の挨拶後歓談となり，終始和やかな雰囲気でお互いの親睦を深めあった。　　（紺野義之 記）





静　岡　県　支　部

平成26年度　臨時総会・保険説明会・懇親会が平成26年７月６日（日）にホテルアソシア静岡で開催されました。当日は臨時総会に先立ち，平成26年４月から新しく就任した支部長以下理事による役員・地区幹事長会が執り行われました。新支部長に就任された松下茂先生（昭和50年卒）ならび役員および地区幹事長の紹介が行われ，今期の活動方針を決定しました。引き続き行われた臨時総会では，役員会での決定事項が全員一致で採択されました。今執行部での目玉事業として，平成５年以降が手つかずになっていた「東京歯科大学同窓会　静岡県支部　沿革史」を編纂・出版することが決まりました。また，静岡県の若手の同窓会員よる症例発表会といった新しい試みを平成27年春に行う予定です。保険説明会では，静岡県歯科医師会理事の鳥居一也先生



松下　茂支部長



荒川安雄先生

（昭和58年卒）に社保支払基金の立場から，日野原　博先生（昭和50年卒）からは国保連合会の考え方について解説を行っていただき，大変有意義なものとなりました。終了後は会場を変え，懇親会を開催しました。懇親会には静岡県歯科医師会会長　柳川忠廣先生のご臨席を賜り，松下支部長のご挨拶で始まりました。荒川安雄先生（昭和34年卒）に乾杯のご発声をいただいた後は，各学年，各テーブルで楽しく会話の花が咲いていました。最後は前支部長の荻原英生先生（昭和48年卒）の音頭の元，全員で校歌を斉唱しました。次回は平成26年12月14日に総会と学術講演，懇親会で再会することを約束し，お開きとなりました。　（辻　吉純 記）



荻原前支部長を囲んで



校歌斉唱

愛 知 県 支 部

平成26年度若手勉強会（第３回）・医療保険研修会（共催）

平成26年５月11日（日），愛知県歯科医師会館において若手勉強会と医療保険研修会が同時開催された。まず最初に若手会員による症例検討会が行われた。参加した若い先生方が同窓会に興味を持ち入会することを目的の一つにしているが，お陰さまで，好評で新規会員の入会につながっている。現在同窓会本部でも若手会員の入会が最優先課題となっているが，今後もこの事業を継続していく予定である。

さらに，今回は愛知県歯科医師会医療保険担当常務理事である大平　誠先生をお招きし，請求上の注意点や改正の重要項目について，時にユーモアを交え，大平流のわかりやすく有意義な講演を戴いた。次年度も引き続きご指導を戴きたいとの声が多かった。

今回の若手勉強会は「毎日の診療Ⅲ」と題し，これまでの２回と同じく若手で活躍する３名の先生によりご自分の専門をふまえた発表が行われた。トップバッターとして平成２年卒業，豊田市開業の鈴木裕仁先生から「一開業医によるライフコースを見据えた取り組み」と題し，先人から学んだ多くのことを生かしつつ，地域保険との関係を大切にした歯科医師のライフコースを考慮した取り組みについて発表された。次に同じく平成２年卒業，清洲市開業の小関健司先生より，「愛知県同窓会へ入った後に出会った，ある先生との10年」と題し，スカンジナビアの考えやインプラントについてのありかたを学ぶきっかけとして，ある先生との出会いが自らの人生にとって道標となったことなどを話された。因みにある先生とは昨年他界された前岡一夫先生（昭和55年卒・一宮）のことであった。最後に平成９年卒，常滑市開業の井上敬介先生より「予防歯科の実践と実態」と題し，現在，言葉のみが先攻していると思われる予防歯科について，大規模にしかもシステマティックにこれを取り入れている実際の臨床と，将来の問題点などについて語られた。どの先生も大学を卒業し地元愛知でこれまで日々勉学に取り組んでいる姿が大いに伺われ，先輩後輩ともにとてもよい刺激となった。医療保





懇親会風景

険研修会では，改正直後のこともあり，大平先生のわかりやすい現場に即した解説には，いつもながらに，みな食い入るように話を聞き，とても勉強になり明日からの診療時に生かせる有意義なものとなった。

最後に毎回会員皆がとても楽しみにしている懇親会が，会場をアパホテル錦に移し行われた。最近ではSNSなどの進歩により，人とのつながりがより便利になってきたなか，やはり人対ひとの杯を交わしながらの交流は欠かせないものであると確信でき，笑顔でみな溢れるよい懇親会で幕を閉じた。　　（井上敬介 記）

平成26年度学術講演会

平成26年７月13日（日），愛知県歯科医師会館にて平成26年度東京歯科大学愛知県同窓会学術講演会が開催された。出席者は40名を超え，そのうち他大学より５名の先生にも参加いただき有意義な学術講演会となった。

我が国では高齢化に伴い悪性新生物を始め循環器系の疾患など，全身疾患を有した患者さんが増加しており，私どもの日常の歯科診療においても，様々な注意が必要となってきている。そこで今回は，昨年朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野教授として赴任された，昭和59年卒業の櫻井　学先生に，「歯科治療中の全身管理－保有する全身疾患を考慮した歯科診療－」をテーマとした学術講演会をお願いした。講師の櫻井学先生は昭和59年に東京歯科大学を卒業した後，同大学院歯学研究科（歯科麻酔学専攻）から歯科麻酔学講座の講師，准教授を経て平成25年４月に朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野の教授に就任された。講演では近年超高齢化が進んでいる中，臨床の現場においても複数の基礎疾患を保有する患者が増えてきており，さらに歯周外科手術，インプラント手術など比較的侵襲の大きな外科的手術も広く行われ，精神的にもストレスが多く与える内容が増えてきているため，基礎疾患を保有する患者に対して，その全身疾患やその評価，またその歯科治療中の管理法や，起こりうる偶発症の種類と診断治療法について学ぶことができた。歯科医師会では8020運動の提唱の効果もあり，歯科を受診する機会も増加しており，基礎疾患を有する患者もそうでない患者も歯科を受診する機会が増加してきているため，基礎疾患に対する変化にいち早く気づけるのも歯科医師であり，さらにはそれらの基礎疾患の兆候にいち早く気づいて対応することができる役割も歯科医師に求められる時代になってきているように感じた。このことは，地域社会の中での歯科の役割の重要さをさらに感じることとなった。


講演風景



講師の先生と

最後に恒例となっている懇親会を，アパホテル錦の会場に移し行われた。今年に入り未入会で若手の先生も同窓会に興味を持ち参加するようになって来ているなか，今回も平成19年卒の小林　充先生が参加し，様々な情報交換がなされ，有意義な懇親会となった。

（井上敬介 記）

クラス会だより

クラス会開催日程

い　づ　み　会（昭和23年卒）	と　き	平成26年11月20日（木）～21日（金）
	ところ	熱海石亭
踏　　志　　会（昭和41年卒）	と　き	平成26年11月15日（土）～16日（日）
	ところ	名古屋マリオットアソシアホテル（JR 名古屋駅内）

八　紫　会　　昭和35年卒

世話人会報告

平成26年６月20日，有楽町ニュー東京で八紫会の世話人と旧幹事のメンバーの拡大世話人会的な会合を開きました。出席者は８名で議題は　１．学年代表者（昨年から始まり八紫会では菊池世話人代表が出席）の決定　２．同窓会報の「クラス会だより」の活用　３．FAX 通信の活用　について話し合われた。

１．の学年代表者については，旧臘菊池代表逝去のため空白となっていたが，７月13日（日）に母校で，学年代表者会が開催され出欠を明らかにしなければならず，代表者の指名が急がれるので，討議の結果，櫻井善忠に決定した。

２．会からの全員へのお知らせについては，平成24年７月の世話人会の決定事項の通り，同窓会報の「クラス会だより」に掲載する。

３．会員の慶弔等の連絡については，FAX 通信を活用する。

以上が決まり，新規の世話人は，櫻井代表より，次の各氏が指名されております。

○櫻井・橋詰・春原・長井・渡辺（典）・小宮・宮下（達）・大門・腰原・森川の諸君。

（櫻井善忠 記）





2014 年２月９日の「菊池　豊先生を忍ぶ会」の一コマ

六　喜　会

昭和33年卒

又会

昭和27（1925）年４月，市川の東歯予科入学。当時はＡＢＣの３クラスに分けられていて，Ａクラスは英語教授の山本又雄先生が担任でした。昭和33年３月，水道橋の学部４年卒業時に予科で過ごした２年間を記念して「又会」を立ち上げたのでした。

六喜会が高齢化で幹事の受け手がいない等で卒後50周年総会で解散となりましたが，同窓会としては「六喜会」の名称は残っております。

又会は平成14年から毎年５月中旬頃に２泊３日の旅行をしています。山本先生ご夫妻始め大半のクラスメートが鬼籍に入ったり，体調を崩されたりで最近は参加者が10～11名と固定化しています。

今年は地元幹事を古田島君で新潟・中越地方の食好し，酒好し，景色好しの旅行が５月16日午後，長岡駅集合で始まりました。先ずは山本五十六記念館見学。「やって見せ，説いて聞かせてやらせてみ，讃めてやらねば人は動かぬ」の山本語録。人心を掌握していたようです。創業460年の老舗・吉乃川酒造見学，試飲。早速お買物モードにスイッチオン。ホテルニューオータニ長岡で一年振り再会で乾杯，宿泊。明けて２日目，県立歴史博物館で新潟縄文文化と雪とくらしを，出雲崎良寛記念館で良寛の生涯と作品を，田中角栄記念館で新潟が生んだ偉大なる政治家をそれぞれ見学し勉強。丁度疲れた所で小千谷名物へぎそばで越後そばを堪能し，小千谷錦鯉の里で泳ぐ宝石錦鯉を鑑賞して目の保養。越後ゆきくら館で雪蔵の中を肌で体感し，玉川酒造で試飲。六日町温泉の豪農の館を思わせる旅館・龍言に宿泊。３日目最終日，トミオカホワイト美術館を見学。雪国に生まれ「白」に執心し，自ら開発して「東洋の白」と海外で評された富岡惣一郎画伯の独特の白と黒の油彩画の大作を鑑賞。曇り空の３日間，やっと霊峰八海山が雲の切れ目から見え南魚沼の山あいの新緑が陽に映えて目に眩しい。八海山の麓で地ビールを酌み交わし，来年の幹事を白石さんに決めて一任。浦佐駅で，来年またそれなりの顔を見せ合うということで「さようなら」。

参加者

今泉　功君，岩松健雄君夫妻，小川陽市君夫妻，片岡良子さん（故・片岡保夫君夫人），古田島耕三君，坂登輝夫君夫妻，白石（山下）雅子さん，佐藤貞彦

（佐藤貞彦 記）





十 二 期 会

昭和39年卒

－摩周の女神が微笑んだ－

梅雨のない北海道が，このところの異常気象で，６月中旬に35℃を超す暑さが記録されたり，下旬には，ぐずついた日が続いている。





1964年３月卒業十二期会は今年50年の節目の大会を北海道在住の向山英彦，前田高直両君のお世話で釧路を中心とした道東観光となった。

2014年６月20日(金)「ヤァー」「オゥー しばらく」との声がとび交い，24名（夫人３名）が釧路プリンスホテルに集い，前夜祭となった。

明けて21日(土)霧の街 釧路はその名の通り，すっぽりと濃霧に包まれた朝を迎えた。市街地を10分もバスで走ると，そこは広大な釧路湿原国立公園の真っ只中，小高い丘の湿原展望台に立つ。霧も晴れて，見渡すかぎりの広野は，雨に洗われた緑が一段と眩しい。鶴居村の原野では，幼鳥を連れた丹頂の親子を望観する。何とも微笑ましい光景で，冬に餌付けが十分されているので，春になっても北に帰らぬ丹頂も多いと聞く。弟子屈の道の駅で小休止。美幌峠に向かう。峠は霧と風と雨の中にあり，視界不良。屈斜路湖畔のホテルにて昼食。午後は硫黄の臭いが鼻をつく川湯温泉，盛んに噴気を上げる硫黄山を経由して摩周湖へ。美幌峠から直線距離でわずか30km たらず。今日は布施　明の名曲「霧の摩周湖」になると諦めていたら，摩周の女神が突然微笑んでくれて，神秘の湖面に浮かぶ中の島や摩周岳の景観を十二分に堪能する。



大会では，まず大学が水道橋に戻って，本格的に大学としての機構が稼働を始め，その成果が表れていること。また，学長から理事長へと長年要職の重責を担ってこられた同期の金子　譲先生が，５月末日をもって勇退されたことが，丹野会長，片倉恵男君より報告があり，次年度大会を同窓会創立120周年記念式典に合わせて，東京又は東京圏で開催することとし，また，本会の今後の在り方については，次大会に於いて協議すること，本年度の会費については，従来通り徴収することを申し合わせ，懇親会に移り，乾杯は遠来熊本の鈴木勝志君の音頭で再会を祝った。

最終22日(日)ラムサール条約によって保護された「水鳥と水棲生物の楽園」のビューポイント細岡展望台へと急ぐ。この展望台からは湿原の中をうねるように流れる釧路川の様子を一望し，釧路たんちょう空港にて，次大会東京での再会を期して解散した。

（牟田紀一 記）

福　祉　会

昭和44年卒

2014年（平成26年）５月24日，福山市鞆の浦「鷗風亭」で74期生「福祉会」のクラス会を行った。43名出席し賑やかに開催された。

右の45回続いたクラス会の歴史を見て，開始した時期は定かではないが，子離れをしたころから女性同級生同士の事前の小旅行が始まった。主人が参加し，奥様方が参加し，人数が増えて今年は総勢18名の「女子会旅行」となった。松山空港に集合し，松山市内観光そして，道後温泉老舗「ふなや」で前夜祭を賑やかに行った。

翌日はしまなみ海道を通り福山に向かった。多島美を堪能し，来島海峡ではダイナミックな急流体験に感激し，大山祇神社の大きな楠に囲まれた厳粛さに感動し，昼食は美しい多々羅大橋を眺めながら，豪華な「まはた」料理の昼食を堪能し，平山郁夫美術館，耕三寺を見学し会場に向かった。

福山鞆ノ浦「鷗風亭」では県内の青木君，上田君が受付を担当，大谷君は福山駅で出迎え，宿のシャトルバスに案内し，会場に同行した。集合時間に全員集まり，記念写真を撮ったつもりが，２名の撮り残しを出す椿事の後，物故者に黙とうを捧げ，賑やかな総会が開始され，歓迎の辞の後，浮地同窓会副会長が克明な資料で，同窓会の現状や，大学の様子，新キャンパスを中心に説明。クラス代表の甫田君が療養中のため，小坂君が，クラス主任の石川名誉教授のご様子を説明。前開催地の千葉君からお礼の言葉の後，懇親会に移り，約２時間，話が尽きることなく盛り上がり，来年度は東京開催で上の歴史表のさらなる継続を誓った。　（髙木勇藏 記）

74期「福祉会」開催の歴史

回	主催	開催地	開催場所	開催日時	メモ
1	広島	広島	広島県庁	昭和45年2月28日	
2	静岡	湯ヶ島温泉	落合楼	昭和46年9月	
3					
4	三重	伊勢志摩	第三賀島荘	昭和48年7月21日	
5	山梨	甲府	石和温泉	昭和49年春	
6	長野	軽井沢	星野旅館	昭和50年夏	
7	静岡	伊東	伊東温泉伊藤園	昭和51年4月17日	
8	福島	飯塚	飯坂温泉伊勢屋	昭和52年7月16日	
9	東京	日比谷	帝国ホテル	昭和53年9月16日	
10	札幌	札幌	札幌全日空ホテル	昭和54年8月18日	
11	京都	京都	京都グランドホテル	昭和55年8月22日	
12	新潟	新潟	新潟イタリア軒	昭和56年 月日	東映映画村
13	宮崎	宮崎	宮崎観光ホテル	昭和57年8月7日	
14	千葉	千葉	千葉グランドホテル	昭和58年8月4日	
15	広島	広島	広島全日空ホテル	昭和59年11月10日	
16	東京	高輪	高輪プリンスホテル	昭和60年11月16日	
17	愛知	犬山	名鉄犬山ホテル	昭和61年11月15日	大根君教授就任祝い
18	仙台	仙台	江陽グランドホテル	昭和62年7月25日	
19	函館	湯ノ川温泉	さかえ旅館	昭和63年7月30日	村瀬君教授就任祝い
20	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成1年6月17日	卒後20周年
21	大阪	大阪	ニューオータニ大阪	平成2年5月4日	大阪花博
22	岡山	岡山	岡山東急ホテル	平成3年7月27日	
23	栃木	那須温泉	山楽	平成4年7月25日	石川先生副学長就任
臨時	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成5年1月30日	石川先生副学長就任祝賀会
24	千葉	市川	市川グランドホテル	平成5年10月30日	
25	福岡	福岡	ソラリア西鉄ホテル	平成6年10月9日	
26	東京	品川	品川パシフィックホテル	平成7年8月26日	石川先生学長就任祝賀会
27	旭川	旭川	旭川グランドホテル	平成8年7月27日	
28	島根	松江	皆美館	平成9年10月25日	
29	長野	白骨温泉	斎藤旅館	平成10年9月26日	
30	東京	お台場	ホテルメリディアン	平成11年8月28日	卒後30周年
31	静岡	大仁	大仁ホテル	平成12年10月8日	
32	岩手	盛岡	つなぎ温泉 大観	平成13年9月15日	
33	和歌山	南紀	ロイアルパインズホテル	平成14年9月14日	ボルトヨーロッパ
34	岐阜	長良川	岐阜グランドホテル	平成15年9月14日	鵜舟
35	東京	六本木	六本木ヒルズ	平成16年10月10日	還暦祝い
36	札幌	札幌	札幌全日空ホテル	平成17年7月17日	
37	熊本	熊本	熊本ホテルキャッスル	平成18年11月4日	
38	三重	長島温泉	ガーデンホテルオリーブ	平成19年11月10日	
39	神奈川	横浜	ローズホテル	平成20年11月15日	横浜中華街
40	中四国	淡路・鳴門・高松	全日空ホテル高松	平成21年10月31日	卒後40周年・バスツアー
41	東京	東京	KKRホテル東京	平成22年5月22日	創立120周年記念
42	京都	京都	京都ブライトンホテル	平成23年5月14日	葵祭
43	函館	湯ノ川温泉	若松	平成24年7月21日	シンポジューム
44	東北	仙台	仙台ウェスティンホテル	平成25年5月18日	
45	広島	福山市鞆の浦	鷗風亭	平成26年5月24日	古希のお祝い



新　葉　会

昭和63年卒

平成26年６月14日（土），15日（日），長野県上田市別所温泉にて新葉会クラス会が開催されました。昨年の「稲毛さよならツアー」クラス会の翌年の開催でしたが，久しぶりに東京・千葉以外での開催となりました。

今回は，首都圏からもアクセスの容易なところ，また出身者も多い長野県ということが昨年のクラス会で決まり，幹事は上田市在住の，下村定資君，下村仁実君，中島洋子君にお願いしました。

総会が17時30分から始まるため，時間前に温泉に，観光にと楽しみつつ現地集合となりました。

総会では，簡単な会務報告，同窓会報告の後，山本　仁君による大学報告，橋本正紀君による保険講習会が行われました。

会場を別に移し，懇親会となりました。幹事の計らいで，大きな宴会場が用意され，その日は泊まりということもあり，のんびりと，楽しい時間となりました。懇親会後は温泉を楽しみ，その後は下村君の部屋で，２次会となりましたが，時間を忘れ，学生時代の話，子供の話，これからの医療の話などを語り合っておりました。

２日目は朝食後，解散ということになり，所用ですぐに帰宅するグループ，ワールドカップのサッカーをロビーで観戦するグループ，観光するグループに分かれることになりました。

観光組は幹事の引率で，国宝安楽寺八角三重の塔の見学や，前山寺を参拝しました。昼食後，上田城址公園を訪れ，上田駅で解散となりました。

すばらしく練られた計画に，本当に楽しい会となりました。幹事の下村ご夫妻ならびに中島洋子君に厚く御礼申し上げます。

次回は同窓会創立120周年にあわせてのクラス会，または平成28年のクラス会を検討しております。そしてメインは平成30年の卒後30年記念クラス会です。今回，運悪く参加できなかったり，チョット東京に出るのが億劫になっている新葉会の会員の皆さん。次回お目にかかれることを楽しみにしております。

（寺田仁志 記）







写真が同窓会ホームページ≪http : //www. tdc-alumni. jp≫に掲載されています。



OB 会・グループ・サークルだより

演劇部 OB 会　レジェンドの語らい

昭和23（1948）年11月13日，日本の敗戦後の世情が落ち着くのにはまだ程遠い頃，演劇部第１回公演が都民文化館で上演された，と記録にあります。出し物は山本有三作「盲目の弟」，チェーホフ作「熊」。東歯に入学して演劇部に関わった卒業生は平成21（2009）年で170名位と推定されますが，その何方にも多少の違いがあるにしても高校生の頃から演劇に興味を持ち，古典的名著・スタニフラスキーの「俳優修業」を読み齧り東歯演劇部でその情熱を傾注したと想像するに難くありません。

閑話休題

OB 会は平成26年４月20日，ニコライ堂を眼下に景観が広がる銀座アスターお茶の水賓館で，宮下先生，川又先生両幹事のお世話で開催され正午から会長・井上先生の挨拶で始められました。６回目の今回は参加者12名と決して多くはありませんが，たまたま11名は年代が割と近く，もうお一人はだんトツに若い法歯学講座准教授・花岡先生が参加されました。

花岡先生から母校のことなどを伺うことが出来ました。

同窓そして同好の集いであれば和気藹々で，思い出話，昔話に花を咲かせました。この盛り上がった時の流れの速さの中にも，もう少し多くの参加者を望み，OB 会年１回の開催，そして演劇部現役の公演を観劇したい等々の提言もありました。

次回 OB 会で集う時までお大事に，でお開きとなりました。

出席者

井上　藤夫　先生（S31）
小林　則夫　先生（S31）
落合　雅雄　先生（S32）
大國　　勉　先生（S32）
坂登　輝夫　先生（S33）
　　令夫人
白石　雅子　先生（S33）
（山下）
延島　三男　先生（S34）
宮下　達也　先生（S35）
川又　正義　先生（S36）
花岡　洋一　先生（S56）
佐藤　貞彦　　（S33）

小林先生から資料のご提供を戴きました。

（昭和33年卒　佐藤貞彦 記）



山岳部 OB 会　杖痕クラブ総会報告

新緑の眩しい季節から紫陽花の色づくこの季節に，今年も箱根強羅温泉・清峰閣照本にて，平成25年度定期総会と還暦祝賀会を，総勢39名の出席にて開催しました。北は福島より加藤喜代次先生，南は熊本より福嶋修治先生ご夫妻が集合。総会では，すべての議案が可決後，加藤喜代次先生（昭40年卒）から口腔を通して，安心，安全の健康治療教室があり，部員の他，ご家族，学生も受講。皆様からご好評を頂きました。その後，祝賀会へ。平成18年より，前部長野間先生より引き継ぎ，部長を務めて下さった柴原先生へ還暦祝として，本多先生より真紅のウィンドジャケットが贈られ，さらに福嶋先生ご夫人よりお手製のTシャツのプレゼントがありました。大山萬夫先生の乾杯に始まり，年齢差60才の祝賀会を開催。



山岳部の現役学生と笑顔の柴原教授

８名の学生諸君からも自己紹介や，近況報告がありました。二次会では30年前のスキー合宿への車中ビデオに全員驚愕。前竹内会長，伊丹先生，佐々木先生たちから懐かしい話が聞けました。また朝波雄二先生による，昨年夏の学生時代に合宿をした北アルプス穂高山行報告で盛り上がりました。特に穂高岳の雪渓や岩肌を見ると，こみ上げてくるものがあります。来年は，岡村先生，三浦先生のお祝いを楽しみに閉幕。

（昭和53年卒　茂木元介 記）



山岳部 OB 杖痕クラブ総会・柴原孝彦君（昭和54年卒）還暦祝

庶　務　日　誌

７月

1)　理事会

７月23日(水)　第４回常任理事会

2)　委員会

７月１日(火)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№５臨床セミナー打合せ）
１日(火)　事業推進部新進会員のつどい準備会
２日(水)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会
３日(木)　総務・厚生部ゴルフ大会委員会
４日(金)　事業推進部卒後研修委員会
９日(水)　事業推進部臨床セミナー委員会
（2015プログラム委員会）
10日(木)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№４臨床セミナー最終予演会）
11日(金)　広報部広報委員会
14日(月)　会務運営協議会
14日(月)　事業推進部新進会員のつどい準備会小委員会
14日(月)　事業推進部臨床セミナー委員会
（2015プログラム委員会）
15日(火)　事業推進部社会保障制度研究委員会
16日(水)　事業推進部医療教養委員会
22日(火)　事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
29日(火)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会　祝賀会小委員会
29日(火)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№６臨床セミナー打合せ）
30日(水)　総務・厚生部ゴルフ大会運営実行委員会

3)　出張

７月２日(水)　丸の内支部総会
学術講演会　講師・西山典宏氏（日本大学松戸歯学部生体材料学講座教授）
５日(土)　信越地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長，髙橋専務理事，阿部理事出席
学術講演会　講師・蓮池　薫氏
（新潟産業大学経済学部准教授）
５日(土)　新潟県支部総会　　矢﨑会長出席
６日(日)　千葉県支部学術講演会
講師・中川種昭氏（慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教授）
９日(水)　渋谷支部総会　　矢﨑会長出席
学術講演会　講師・井出吉信学長（母校）
13日(日)　群馬県支部総会　髙野常任理事出席
13日(日)　埼玉県支部総会　小林常任理事出席
学術講演会　講師・上條英之教授（母校）
13日(日)　愛知県支部学術講演会
講師・櫻井　学氏（朝日大学歯学部総合医科学講座麻酔学分野教授）
25日(金)　学校法人東京歯科大学新執行部と同窓会役員との懇談会
30日(水)　練馬支部学術講演会
講師・齊藤　力教授（母校）

4)　事業

７月13日(日)　学年代表者会
26日(土)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー特別企画　インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
27日(日)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー特別企画　インプラントセミナー　－臨床から基礎へ，基礎から臨床へ－「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
27日(日)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー№４臨床セミナー「どうして定期健診を受診してくれないの？」

８月

1)　理事会

８月30日(土)　第４回理事会

2)　委員会

８月１日(金)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№５臨床セミナー打合せ）
４日(月)　アカデミア事業連絡会
５日(火)　事業推進部卒後研修委員会
８日(金)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会　式典・講演会小委員会
11日(月)　予算検討会
19日(火)　事業推進部医療教養委員会
20日(水)　広報部広報委員会
22日(金)　事業推進部臨床セミナー委員会
（2015プログラム委員会）
25日(月)　会務運営協議会
26日(火)　事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
26日(火)　渉外部渉外委員会
28日(木)　事業推進部新進会員のつどい準備会
31日(日)　事業推進部卒後研修委員会，医療教養委員会，臨床セミナー委員会　第１回全体委員会

3)　出張

８月23日(土)　北海道地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長，髙橋専務理事，佐藤理事出席
31日(日)　東京歯科大学元学長・名誉教授
石川達也先生大学葬
矢﨑会長，他役員参列

９月

1)　理事会

９月20日(土)　第５回理事会

2)　委員会

９月２日(火)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№６臨床実技セミナー打合せ）
４日(木)　事業推進部社会保障制度研究委員会
５日(金)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№５臨床セミナー最終予演会）
５日(金)　学術事業交流についての協議会
10日(水)　広報部広報委員会
11日(木)　同窓会創立120周年記念誌打合せ
12日(金)　同窓会創立120周年記念事業実行委員会　全体委員会
16日(火)　会務運営協議会
22日(月)　事業推進部臨床セミナー委員会
（№６臨床セミナー最終予演会）
29日(月)　事業推進部臨床セミナー委員会
（研究委員会Ｂ）
29日(月)　総務・厚生部総務厚生委員会
30日(火)　事業推進部アカデミア生涯研修企画会議

3)　出張

９月７日(日)　関東地域支部連合会総会・支部長会
矢﨑会長，髙橋専務理事，高原理事出席
７日(日)　東海地域支部連合会総会・支部長会
浮地副会長，臼井常任理事，山田理事出席
学術講演会　講師・浅田英夫氏（日本天文学会会員）
13日(土)　北海道医療大学歯学部同窓会創立30周年記念式典・記念祝賀会
矢﨑会長出席
27日(土)　長野県連合会総会
髙橋専務理事出席
学術講演会　講師・小宮山彌太郎氏（東京都開業）
27日(土)　北海道地域支部連合会　学術講演会
講師・矢島安朝教授（母校）

4)　事業

９月15日(月・祝)　同窓会主催全国ゴルフ大会
（おおむらさきゴルフ倶楽部）
21日(日)　TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー№５臨床セミナー「困った…！　義歯の悩み解消します」
23日(火・祝)　第１回二校会講演会

10月

1） 委員会

10月１日(水) アカデミア事業連絡会
３日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
６日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会
（研究委員会 B）
10日(金) 広報部広報委員会
27日(月) 会務運営協議会
28日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画会議
28日(火) 事業推進部新進会員のつどい準備会

2） 出張

10月４日(土) 北陸地域支部連合会支部長会
髙橋専務理事，伊藤理事出席
19日(日) 東北地域支部連合会支部長会
髙橋専務理事，椎木理事出席
23日(木) 東京地域支部連合会支部長会
矢﨑会長，早速理事出席
25日(土) 北多摩支部学術講演会
講師・齋藤　淳教授（母校）

3） 事業

10月12日(日) TDC 卒後研修セミナー2014　卒研セミナー№６臨床実技セミナー「MTM 新時代」

東京歯科大学同窓会：東京歯科大学水道橋校舎
南棟６階



JR 水道橋駅東口徒歩５分。
ヒグチ薬局の先を右に曲がり，旧鶴屋ビルの６階です。

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

（敬称略・届出順）

●昭 36 卒	桑名泰彦	(77歳)	東京都目黒区	26. 6.16
●昭 39 卒	川村　勇	(74歳)	北海道札幌市	26. 6. 6
●昭 37 卒	中井一仁	(78歳)	北海道札幌市	26. 6.17
●医学校 卒	古内　正			昭和16.2.17
●大 8 卒	中井通雄			昭和33.12.28
●昭 39 卒	横田　惇	(76歳)	東京都練馬区	26. 7. 1
●昭 30 卒	石川達也	(85歳)	東京都新宿区	26. 7. 2
●昭 24 卒	長束長雄	(85歳)	新潟県長岡市	26. 7. 7
●昭 25 卒	荒木　雅	(87歳)	北海道余市郡	26. 7.13
●昭 24 卒	松田　昭	(85歳)	福井県大野市	26. 7.14
●昭 33 卒	菅波　要	(81歳)	福島県いわき市	26. 7.15
●昭 48 卒	鈴木康生	(66歳)	福島県郡山市	26. 4. 1
●昭 33 卒	内田道彦	(84歳)	静岡県浜松市	26. 7. 4
●昭 41 卒	橋本高明	(72歳)	福岡県北九州市	26. 7.21
●平 2 卒	大森英世	(53歳)	石川県鳳珠郡	26. 7.22
●昭 20.9 卒	鶴岡清一	(88歳)	東京都荒川区	24. 4.25
●昭16.12 卒	大橋二郎	(93歳)	愛知県南設楽郡	26. 7.22
●昭 50 卒	今井眞理子	(63歳)	長野県小諸市	26. 7.26
●昭 27 卒	神山　登	(87歳)	栃木県宇都宮市	26. 7.30
●昭 33 卒	渡辺晋一郎	(82歳)	埼玉県越谷市	26. 7.31
●昭 23 卒	鈴木　裕	(88歳)	静岡県静岡市	26. 7.23
●昭 34 卒	池田　漠	(79歳)	千葉県印旛郡	26. 7.26
●昭 18.9 卒	二階堂鋼輝	(97歳)	東京都足立区	26. 7.27
●昭 22 卒	貴島　亨	(89歳)	三重県桑名市	26. 7.22
●昭 56 卒	落合和久	(59歳)	三重県四日市市	26. 7.29
●昭 43 卒	星野幸一	(70歳)	新潟県長岡市	26. 8. 4
●昭 17.9 卒	小早川武夫	(99歳)	長野県長野市	26. 8. 4
●昭 11 卒	河瀬　隆	(101歳)	東京都世田谷区	26. 7.31
●昭 25 卒	内田安博	(85歳)	富山県富山市	26. 8.13
●昭 22 卒	上島正嗣	(91歳)	東京都港区	26. 7.31
●昭 53 卒	尾崎佳孝	(61歳)	愛知県田原市	26. 8.22
●昭 27 卒	糸山　修	(89歳)	長崎県佐世保市	26. 8.27
●昭 46 卒	山口眞澄	(68歳)	長崎県諫早市	26. 8.28
●昭 27 卒	滝沢　稔	(83歳)	東京都世田谷区	26. 8.27
●昭 30 卒	髙砂昌行	(83歳)	埼玉県春日部市	26. 8.19
●昭 34 卒	大友暢子	(79歳)	東京都目黒区	26. 6.21

◆投 稿 規 定

※平成26年度より，偶数月発行から年間４回（２，６，10，12月）の発行になりました。

(1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは，発行前月の10日までとし，原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし，便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は１行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを，大きいサイズ（２Ｌなど）で集合写真のみでなく，スナップなども添えて下さい。

(3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし，紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので，ご了承下さい。なお，掲載については委員会にご一任いただきます。

(4) 写真等の返却
写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真の場合は，その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投 稿 字 数

投稿欄	内容	文字数，備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想，詩，短歌，時評など	１編1,700字程度（１ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや，取り止めのない随筆はご遠慮いただき，出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		１ページ1,700字程度（１ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当，会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当，数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚，同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ
http : //tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し，同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部　　支部
卒業年数（どれか１つ）	（昭和・平成・西暦）＿＿＿＿＿＿ 年卒 ／ ＿＿＿＿＿＿ 期卒		
住所（自宅・勤務先）	〒		
電話番号（自宅・連絡先）	－　　－	FAX 番号	－　　－
投稿先 □に✓印チェック	同窓会会報　□カラーグラビア　□追悼　□支部のうごき □ふるさと自慢　□すいどうばし　□いなげ □クラス会だより　□OB，グループ・サークル		
貼付写真枚数	枚		
その他ご希望	（例　写真の順番・重要度など）		

◆へんしゅうこうき

★とうとう，僕の順番（編集後記）が来てしまった！

３年前，学生時代に世話になった先輩から電話があり，

先輩「同窓会本部のホームページの仕事手伝ってもらえないかな」

自分「文章書くの苦手なんですよねー」

先「WEB の企画・運営の仕事だから」

自「・・・・・・」

先「原稿書いたりしないから大丈夫！」

自「じ，じゃあ，やってみます。よろしくお願いします」

初めての委員会にて

委員長「今年度から広報委員会（会報）と情報部（ホームページ班）は合併してお互い協力して会報とホームページを作っていきます！よろしくお願いします」

自「取材とかあるんですか？」

委「全員交代で行ってもらいます」

自「えーーーーーーー」

そんな経緯で同窓会広報委員になりましたが，委員の先生と馬があいどうにか今まで続いています。

★同窓会創立120周年も近づいてきました。広報委員会でも120周年記念号を企画しています。メインテーマも「医はこれ済生ひとへに仁なり　伝統そして未来への飛躍」に決まり，過去の同窓会報のスキャンや記念座談会の準備をしております。今号でも，阿部晴弘先生の血脇先生と東京歯科大学との関連についての寄稿文が掲載されています。

★広報委員会の中では主に Facebook を担当しています。皆様に有用な情報をいち早く伝えられるよう日々更新しております。Facebook を利用されている方はぜひアクセスして「いいね！」してください。

また利用されていない方はこれを機会に始めてみたらいかがでしょうか？

「東京歯科大学同窓会広報部」の facebook ページ

https : //www.facebook.com/TDCalumni

（横田東生　記）

広報部広報委員会

委員長　臼田　準
副委員長　福井　雅之
山口　雅史
委員　古澤　成博
奥野　圭子
佐々木葉子
皆川　雅彦
渡邊　宇一
島田　篤
西村　哲雄
横田　東生

広報部担当理事　小池　修

平成26年10月20日　印刷
平成26年10月25日　発行
東京歯科大学同窓会会報　第397号
同窓会ホームページアドレス
http://www.tdc-alumni.jp

発行人　小池　修
編集人　臼田　準
東京歯科大学同窓会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町2－9－18
電　話（03）5275－1761
ＦＡＸ（03）3264－4859
印刷所　一世印刷株式会社
〒161-8558　東京都新宿区下落合2－6－22
電　話（03）3952－5651（代）